# 令和3(2021)年度 中部環境パートナーシップオフィス運営業務 年間報告書

# 2022年3月

中部環境パートナーシップオフィス (運営受託:一般社団法人環境創造研究センター)

# 令和3(2021)年度 中部環境パートナーシップオフィス運営業務 年間報告書

# 目 次

業務	概要 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
1	業務実施計画の作成及び公表 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
	(1) 第6期の事業目標・事業計画・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
	(2) 令和3年度業務実施計画······	
	(3) 第6期事業計画及び業務実施計画の公表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
2	ESD/EPO 運営委員会の設置・開催 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	· 23
3	基本業務・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
	(1) 情報の収集・蓄積・発信に関する業務・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
	(2) 相談対応及び対話の体制の構築に関する業務・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
	(3) 施設の維持・管理・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
4	協働取組の促進のための業務 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
	(1) 地域循環共生圏づくりフォーラムの開催・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
	(2) 協働コーディネーターとの連携による実践的取組【北陸地域】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
	(3) 協働コーディネーターとの連携による実践的取組【信州地域】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
	(4) 活動主体へのフィードバック (活動見える化プログラムの活用)	
	(5) ローカル SDGs/地域循環共生圏のためのグループワーキング・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
5	中部地方 ESD 活動支援センター運営業務 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
	(1) 中部 ESD センターの運営・推進(ワークブック作成) · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	
	(2) ESD 活動支援(第 6 期 ESD 推進計画の策定)····································	
	(3) ESD/SDGs 推進ネットワーク地域フォーラムの開催・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
	(4) 全国センターとの連携、地域 ESD 拠点登録支援等 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	
	(5) ジオパーク等の活用(ESD ダイアログの開催)····································	
	(6) 域内外の多様な主体の連携促進、交流機会の提供・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
	(7) 教育現場の実態把握と連携強化・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
6	地域循環共生圏の創造に資するための推進業務・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
	(1) 地域プラットフォームの環境整備支援等業務・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
	(2) 地域循環共生圏プラットフォーム意見交換会等業務・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	100
	(3) 環境省、GEOC 主催会議等への参加・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	107
	(4) 支援チーム派遣の団体の活動の情報共有・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
	(5) 森川里海推進ネットワーク形成会合の開催····································	
	(6) 地域循環共生圏パートナーシップ基盤強化事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
_	(7) 地域循環共生圏の担い手(団体等) との関係構築	120
7	ESD/EPO の行事を通じた行動変容の把握・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	123
	(1) 代表的な行事後の行動変容の把握・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
_	(2) 地域循環共生圏及びローカル SDGs 実践状況等の評価 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	126
8	関係主体との連携及び協働に関する業務・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	131
	(1) 中部地方環境事務所との情報共有及び意見交換・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
•	(2) 全国ネットワークの活用及び連携の確保・強化・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	138
9	外部資金を活用した事業 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	141
10	今後に向けて ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	147

# 業務概要

# (ア) 業務の目的

持続可能な社会を構築する上で、国民、民間団体等が行う環境保全活動並びにその促進のための環境保全の意欲の増進及び環境教育が重要であることに加え、これらの取組を効果的に進める上で協働取組が重要となる。

「環境教育等による環境保全の取組の促進に関する法律」(以下「環境教育等促進法」という。) 第19条において、「国は、国民、民間団体等が行う環境保全等を効果的に推進するため、情報提供や助言、交流機会の提供等を行う拠点としての機能を担う体制の整備に努めること」とされており、同法第7条で定める国の方針(以下「促進法基本方針」という。)により、環境省においては、協働取組を構築・促進するための中核的な担い手として「環境パートナーシップオフィス(以下「EPO」という。)」を全国に設置し、事業を実施しているところである。

本業務は、EPO 中部が環境教育等促進法の規定する国の役割を果たすため、また中部 ESD 活動支援センター(以下「中部 ESD センター」という。)が国内実施計画等を踏まえた役割を果たすため、全国の EPO と地球環境パートナーシッププラザ(以下「GEOC」という。)のネットワーク(以下「EPO ネットワーク」という。)を活用するとともに、中部地方の事情を踏まえて各種事業等を企画し、それを実施することにより、市民、NPO/NGO、行政、企業等、社会を構成する様々な主体による協働・連携の取組を広げ、効果的・効率的に環境保全活動、多種多様な環境施策への協力及び ESD 活動等を活性化させることを目的に実施した。

また、「第5次環境基本計画」(平成30年4月閣議決定)において、今後の環境政策は経済社会システム、ライフスタイル、技術などあらゆる観点からイノベーションの創出や、経済・社会的な課題の同時解決を実現し、将来に渡って質の高い生活をもたらす「新たな成長」につなげていくこととしている。その中で、地域の活力を最大限に発揮する「地域循環共生圏」の考え方を新たに提唱し、各地域が自立・分散型の社会を形成しつつ、地域の特性に応じて資源を補完し支え合う取組を推進し、持続可能な地域づくりを通じて、環境で地方を元気にしていくとともに、持続可能な社会を構築するための創造に取り組むことにも留意し、本業務を実施した。

# (イ) 業務の内容

中部環境パートナーシップオフィスには、主に以下の役割が期待されている。

- ① 持続可能な社会の実現に向けた地域の協働取組モデルの創出・支援
- ② 持続可能な社会の構築に向けた ESD の推進
- ③ 地域における中間支援機能の強化
- ④ 環境教育促進法の普及・促進
- ⑤ 情報の提供、相談対応等

# (ウ) 実施業務

- (1)業務実施計画の作成・公表
  - ①第6期の事業目標・事業計画の作成
  - ②令和3年度の実務実施計画の作成
  - ③定量的な達成目標の設定
- (2) ESD/EPO 運営会議の設置・開催
  - 運営委員の選定
  - ・委員委嘱手続、連絡調整、会場手配・設営、当日の進行、議事録作成、事務手続き
  - ・会議の設置・運営(2回)

### (3) 基本業務

- ア. 情報の収集・蓄積・発信に関する業務
  - ①ホームページの更新及び維持管理(月2回程度)
  - ②メールマガジンの作成及び発行(月1回程度)
  - ③リーフレットの作成及び配布 (A4フルカラー)
  - ④地域ニーズの把握
- イ. 相談対応及び対話の体制の構築に関する業務
  - ①照会·相談対応
  - ②対話の体制の構築
  - ③定例報告
- ウ. 施設の維持・管理
- (4) 協働取組の促進のための業務
  - ア. 協働コーディネーターと連携した地域循環共生圏づくりフォーラムの開催
  - イ.協働コーディネーターとの連携による実践的取組(北陸2回、信州2回程度)
  - ウ. 活動主体へのフィードバック
    - ・「活動見える化プログラム」の活用(事前ヒアリング)(北陸1事例、信州1事例)
  - エ. ローカル SDGs/地域循環共生圏のためのグループワーキング (1回)
- (5) 中部地方 ESD 活動支援センター運営業務
  - ア. 中部 ESD センターの運営・推進
    - ・ESD 情報ツールパッケージ「(仮) 中部版 ESD ワークブック〜学生・社会人のための地域社会 SDGs 実践」(プロトタイプ版) の作成
  - イ. ESD 活動支援
    - ・第6期「中部地域 ESD 推進計画(仮称)」の策定
  - ウ. ESD/SDGs 推進ネットワーク地域フォーラム(学生サミット)の開催(1回)
  - エ. 全国 ESD センターとの連携、地域 ESD 拠点登録支援等
    - ①全国 ESD センター及び地方 ESD 活動支援センターとの連携
      - ・全国 ESD センター企画運営委員会 (2回程度)
      - ·全国、地方連絡会(2回程度)
      - ・ESD 推進ネットワーク全国 ESD フォーラム (1回)
    - ②地域 ESD 拠点登録支援等
  - オ. ジオパーク等の活用(1回)
  - カ. 域内外の多様な主体の連携促進、交流の機会の提供
    - ①活動計画の作成
    - ②交流者の参加募集
    - ③学び合いの実施(2回程度)
    - ④実践活動(1回程度)
    - ⑤全国フォーラムへの活動結果報告
  - キ. SDGs へ向けた ESD 推進のための教育現場の実態把握と連携強化
    - ①専門家への包括的ヒアリング(1回/1名)
    - ②教育部局、教育委員会、現場の教員等を対象としてヒアリング(2回程度)
- (6) 地域循環共生圏の創造に資するための推進業務(地域循環共生圏の形成支援)
  - ア. 地域プラットフォームの環境整備支援等業務
    - ・採択団体(2団体程度)への環境整備プロセスにかかる支援
    - ・過年度登録・採択団体への情報提供
    - ・年度当初に新規採択団体へのヒアリング(ヒアリング結果、支援計画等の GEOC 提出)

- イ. 地域循環共生圏プラットフォーム意見交換会等業務
  - ・採択団体(2団体程度)による環境整備推進のための意見交換会(2回程度)の支援・運営
  - ・開催結果の取りまとめと GEOCC への報告
- ウ. 環境省、GEOC が主催する会議等への参加
  - ・環境省が主催する成果報告会(1回)※
  - ・GEOC が主催する情報交換会(1回)※
  - · 中間報告会 (3回) ※
  - · 作業部会 (2回)
  - · 共有会 (3回)
  - ・ブロック別共有会(1回)
  - ※印の会議等での採択団体の資料作成支援、意見交換の補佐
- エ. 支援チーム派遣の団体の活動の情報共有
  - ・支援チーム派遣団体(1団体)の進捗状況把握と制度設計への助言
- オ. 森川里海推進ネットワーク形成会合の開催
  - ①情報交換会の実施(2回程度)
  - ②令和2年度実施「資金調達のための SDGs 共感ストーリー」ワークショップのプログラム整理 (1事例)
- カ. 地域循環共生圏パートナーシップ基盤強化事業
  - ①情報交換会の開催(4回程度/※うち1回は長野県飯山市を題材に開催)
  - ②GEOC が開催する事業検討会議への参加(2回程度)
  - ③GEOC が開催する情報交換会への参加(2回程度)
- キ.地域循環共生圏に通じる担い手(団体等)への情報提供、関係構築(2団体程度)
- (7) ESD/EPO の行事を通じた行動の変容の把握
  - ①行動変容の把握:簡易ヒアリングによる今年度の成果(行動の変容)の把握と成果のとりまとめ(6事例程度)
  - ②地域循環共生圏及びローカル SDGs の実践状況等の評価:評価メニュー、プログラム等の情報 収集と試行的な実施(2事例程度)
- (8) 関係主体との連携及び協働に関する業務
  - ア. 中部地方環境事務所との情報共有及び意見交換
    - ①定期的な打合せ(月1回程度)、日々の業務について月次報告
    - ②外部評価委員への出席(1回程度)と必要な資料作成等
    - ③白書を読む会への企画協力(1回)
    - ④全国ユース環境活動発表大会(中部大会、1回程度)への参画、審査委員の選定・報告
    - ⑤EPO 中部行事(※希望する行事がある場合)の記者発表対応
  - イ. 全国の地方 EPO・GEOC・ESD 活動支援センター(全国・地方)のネットワーク活用と連携
    - ・GEOC 主催の全国 EPO 連絡会議に参加(2回)
    - ・その他開催会合等への必要に応じた参加
- (9) 外部資金を活用した事業
- (10) 成果物の提出
  - ・四半期報告書の作成・提出
  - ・地域ニーズの把握:次年度行事ニーズ及び新規連携の可能性の取りまとめと提出
  - ・年間報告書、及び概要版の作成・提出
  - 支援チーム派遣団体(1団体)の進捗状況把握と制度設計への助言

# (エ) 業務の実施概要(2022年3月18日時点)

仕村	鎌書業務項目		業務内容	実施・開催等の	D進行状況 ※集計等は	3月22日に実施
1	業務実施 計画作	1-1	第6期の事業目標・事業計画の作成・公表	作成済み	→第1回運営委員会に 諮問	ウェブサイト掲載
•	成・公表	1-2	令和3年度の業務実施計画の作成・公表	作成済み	→第1回運営委員会に 諮問	ウェブサイト掲載
2	運営会議	ESD/EPO運営委員会の開催・運営【2回】		第1回:6/16実施 議事録公開	第2回:2/28 議事録公開	
		3-1	HP(EPO、ESD)の更新維持管理	適宜実施	アクセス数(PV数):EPO:	31,647件/ESD:13,357件
		3-2	メールマガジンの作成・発行	毎月1回以上発行		
3	基本業務	3-3	リーフレットの作成・配布	~10月まで第5期リーフ レットの在庫540部活用	11月に第6期リーフレット 完成、300部印刷	イベント等で300部を配布 活用
	<b>本</b> 中未协	3-4	照会・相談対応、対話の体制の構築	適宜実施	相談対応:52件/電話·メ 講師招聘:42件/業務打	
		3-5	定例報告	月次報告書の提出	来館利用件数:94件/来	館者数:147人
		3-6	施設の維持・管理	適宜実施	事業実施日数:計252日	
		4-1	協働コーディネーターと連携したフォーラム開催【1回(3時間)】	越前市・三田村氏と連携し	して11/20地域循環共生圏	フォーラム開催
1	協働取組の促進のための業務	4-2	協働コーディネーターとの連携による実践的な取組【北陸2回・信州2回(各2時間)】	北陸:中嶌氏と連携して 勉強会①9/11、②12/17	信州:山室氏と連携して フォーラム①7/13、②2/25	
4		4-3	活動主体へのフィードバック(活動の見える化プログラムの活用)【北陸1、信州1事例】	北陸:4-1の取組で作成	信州:4-2の取組で作成、活用	
		4-4	ローカルSDGs/地域循環共生圏グループワー キング【1回(3時間)/愛知県内】	地域循環共生圏セミナー	を1/19にオンライン開催	
		5-1	ESDワークブックの作成	5-7専門家WGで検討	→プロトタイプ版を作成	
		5-2	ESD活動支援:第6期ESD推進計画の策定	作成済み	→第1回運営委員会に諮	問して完成
		5-3	ESD/SDGs推進ネットワーク地域フォーラムの開催【1回(半日)/愛知県内】	2/19にSDGs学生サミット	として開催	
	中部地方	5-4	全国ESDセンター運営会議【2回】、連絡会【2回】、全国フォーラム【1回】等に出席・参加	企画運営会議:①6/22、 ②2/17	連絡会:①5/27、②1/26	全国フォーラム:12/11
5	ESD活動 支援セン ター運営	5-5	地域ESD拠点登録支援	適宜実施		
	業務	5-6	ジオパーク等活用(ESDダイアログの開催) 【1回(2時間)】	11/13-14に立山黒部ジオ 一日目:富山市内で座学、	パークで開催 二日目:黒部ジオ教育等ヨ	見地見学
		5-7-1	交流機会提供 ①活動計画の作成、②交流者 の参加募集 ⑤全国フォーラム結果報告	活動計画を作成	参加募集広報を展開	12/11全国フォーラムで 実施内容を報告
		5-7-2	交流機会提供 ③勉強会·意見交換会【2回(各 1時間)】 ④実践活動【1回(2時間)】	学び合いの場①を8/26 にオンライン開催	学び合いの場②を9/16 にオンライン開催	実践セミナーを10/30に 富山県射水市で開催
		5-8	教育現場の実態把握と連携強化:①専門家【1 名(2時間)】②教育関係者【2回(各2時間)】	①中部大准教授・古澤氏 にヒアリング	②山田東中学校の教師 にヒアリング	②楠西小学校の教師に ヒアリング

仕様	書業務項目		業務内容	実施•開催等0	D進行状況 ※集計等は	3月22日に実施
		6-1	プラットフォーム支援:採択団体、登録団体、過 年度採択団体への支援、ヒアリングの実施	PF七尾:4/19にヒアリン グを実施	PF郡上:4/20に事務局 打合せを実施	
		6-2	プラットフォーム意見交換会の支援【2団体×1回(3時間)】、とりまとめ報告	PF七尾:9/29に意見交 換会を実施	PF郡上:11/10に意見交 換会を実施	
		6-3-1	環境省・GEOC主催会合への参加:成果報告会 【1回】、情報交換会【1回】、中間報告会【3回】	情報交換会6/1-2に出席	中間報告会①12/3、② 12/6、③12/7に参加	成果報告会3/8に出席
		6-3-2	環境省・GEOC主催会合への参加:作業部会【2回】、共有会【3回】、ブロック別共有会【1回】	作業部会①9/10、② 12/8に出席	共有会①5/12、②12/8、 ③3/9に出席	ブロック別共有会9/9に 出席
6	地域循環 共生圏の	6-4	支援チーム派遣団体の情報共有	適宜実施		
ŭ	創造推進 業務	6-5-1	森里川海推進ネットワーク形成会合情報交換 会【2回(2時間)】	白山手取川ジオパーク&E 3/3に第2回を開催	白山ユネスコエコパーク情	報交換会を3/2に第1回、
		6-5-2	「資金調達のためのSDGs共感ストーリー」づくり WSプログラムの整理(1事例)	実施したWSをもとにプロ グラム整理	→EPOウェブサイトに公開	]
		6-6	地域循環共生圏パートナーシップ基盤強化情 報交換会【4回(各2時間)、飯山市で6月迄】	①飯山会合6/26、②郡上	会合1/27、③小浜会合2/4	4、④七尾会合2/23開催
		6-7	GEOC事業主催会合への参加:検討会議[2回]、情報交換会[2回]	検討会議①9/22、②2/8 に出席	情報交換会①11/30.、② 1/26に出席	
		6-8	担い手主体の把握・ネットワーク形成	PF事業応募予定の4-1越	前の取組団体を2/3にヒア	リング
7	行動変容	7–1	行動変容の把握:行事参加者へのヒアリング(3 月中旬までに)【6事例】	①6-6飯山会合、②4-1越 ム、⑤5-7-2実践セミナー	前フォーラム、③4-2小浜\ 、⑥5-6ESDダイアログの問	_
,	の把握	7-2	SDGs実践状況等の評価【試行2事例】	珠洲市、豊田市、岐阜市( 活用	の事例を作成し、5−3ESDネ	ベットワークフォーラムで
		8-1	事務所担当官と業務の責任者とで定期的な打 合せ・報告、資料作成対応	  月1回以上の定例打合せ 	を計14回実施	
		8-2	外部評価委員会への出席【1回】、資料作成対 応	業務報告資料、自己評価シートを作成・記入	2/14外部評価委員会にオ 務の説明、質疑対応等を	
8	関係主体 との連携 及び協働	8-3	白書を読む会の企画協力、広報協力、運営サポート	7/20開催の白書を読む会 に協力	:において、なごや環境大学	学による企画・広報・運営
J	に関する業務	8-4	全国ユース中部大会に参画【1回】、審査委員の 選定	中部大会YouTube動画 の公開時に広報協力	審査委員に堺氏を推薦	
		8-5	記者発表等報道対応	5-6ESDダイアログ、5-7-2 側の関係者に依頼	2実践セミナーで地元メディ	アへのリリース等を地域
		8-6	GEOC主催の全国EPO連絡会議【2回】、その他 関連会議等への参加・協力	連絡会①6/28-29に出席	連絡会②1/11に出席	
9	業務実施に	こおける	旅費及び謝金等の支払い業務	適宜実施		
		10-1	グリーン・ギフト・地球元気プロジェクト(イベント 開催支援)	福井:①7/31、②8/28代 替活動実施	愛知:元気の森「手作り 生きもの図鑑」完成(代 替事業)	三重:「森林の紙芝居」完成(代替事業)
10	外部資金 を活用し た事業	10-2	地球環境基金	説明会を10/26に開催	応募団体情報提供協力	
		10-3	愛知県コーディネート業務 【相談業務:10件/コーディネート業務:10件】	相談業務:10件実施	コーディネート業務:7件	実施
		1	地域ニーズの把握 2/15までに報告	協働コーディネーターへの 整理したものを中部地方野	D書面ヒアリング、参加者で 環境事務所へ提出	マンケートの回収結果等を 
	仕様書	2	環境省情報セキュリティポリシーの遵守及び情報セキュリティ体制等の届出	4/1提出済み		
	;= 1% G	3	情報セキュリティ対策の報告、オフセット印刷又はデジタル印刷の工程における環境配慮チェックリスト、資材確認票	年間報告書の納品時に提	出	

# 1 業務実施計画の作成及び公表

# (1) 第6期の事業目標・事業計画

# 1. 第6期達成目標

アフター・コロナ、地域循環共生圏づくり・SDGs活用が進みつつある中部エリアにおいて

新フェーズに対応し、地域が必要とする協働・ESD・SDGs の実装・実践のための支援と、 誰も取り残されないターゲット設定、EPO機能強化の関係構築に取り組みます。

# 2. 方針

슦

3

年

度

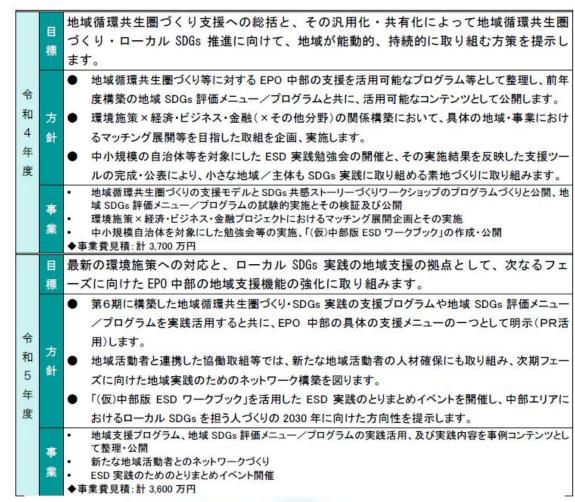
方 和

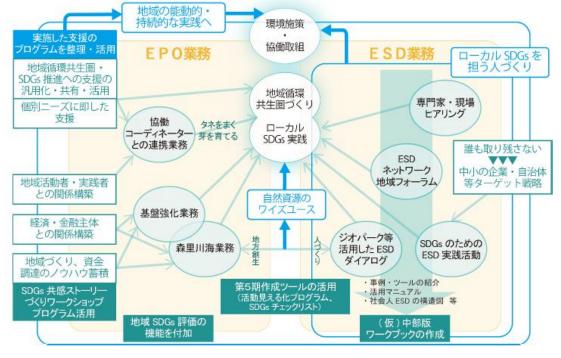
- (1) 地域循環共生圏づくりや SDGs 推進の支援にあたり、細やかな個別対応と、他の取組支援等への汎 用化を行います。
  - ① 【個別対応】地域/取組が必要とする支援を細やかに汲み上げると共に、これまでの協働取組 への支援の経験やツールを活用するなどして、事例ごとに個別に対応した支援を展開します。
  - ② 【汎用化】EPO中部が展開してきた支援内容の整理を行い、地域循環共生圏づくりや SDGs 推進 のためのプログラム化とその実装・実践に取り組みます。
- (2) SDGs 推進・活用の取組において今後重要となる「目標設定」と「評価」について、第5期の作成ツール (活動見える化プログラム、SDGs チェックリスト等)や、外部団体による SDGs 指標ツール等を活 用するなどして、独自の地域 SDGs 評価 (SDGs の取組の現状等を評価する) 機能の構築に取り組み ます。
- (3) 上の(1)(2)の支援や多様なステークホルダーの巻き込みにおいて、第5期の運営会議等での指摘事 項や抽出された課題等に留意し、次の EPO 機能の強化に取り組みます。
  - イ)資金調達に関わる主体(特に金融機関や経済団体等)との関係構築
  - ロ)地域実践者である EPO 中部・協働コーディネーターとの関係強化と新たなネットワークづくり
  - ハ)取り残されがちと指摘される中小の事業者・自治体等をターゲット設定した支援のあり方検討

# 3. 3か年度(2021年度~2023年度)の目標、方針、事業

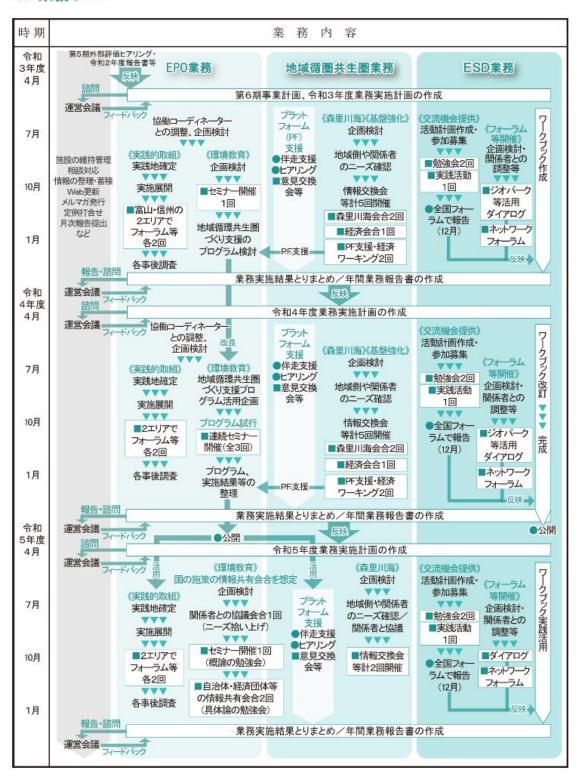
第5期に EPO 中部/中部地方 ESD 活動支援センターが作成したツール・コンテンツの拡 Ħ 充と共に、地域循環共生圏づくり・SDGs 推進への支援システム(体制・仕掛け)を充 実させます。

- 活動見える化プログラム、SDGs チェックリスト等のツールを活用した、地域に対する EPO 中部の 支援機能に、SDGs の実践状況等を「評価」する新たな機能の付加に取り組みます。
- 地域循環共生圏づくりや自然資源のワイズユース等で実施する「資金調達のための SDGs 共感ス トーリー」づくりワークショップ(令和2年度実施)をプログラム化し、地域づくりにおける資金調達へ の認識・関心を喚起する支援のあり方を検討、整備します。
- 環境施策×経済・ビジネス・金融(×必要に応じてその他分野)における関係構築を図り、地域循 環共生圏づくりにおいて重要となる地域金融、地域ビジネスネットワークづくりに取り組みます。
- SDGs に取り組むことの難しい中小企業等を対象に、ESD 実践支援の場の設営(勉強会等開催) と支援ツール「(仮)中部版 ESD ワークブック」を作成し、SDGs に取り組みやすくなる機会創出を図 ります。
- 地域 SDGs 評価による支援方法の検討と構築
- 資金調達のための SDGs 共感ストーリーづくりワークショップの独自モデル/プログラムづくり
- 事 経済団体・金融機関等の環境施策に関連した意向把握のための会合開催、及び関心の高いテーマを対象 にした情報共有会合等を試行的に実施
  - 中小企業対象の勉強会等の開催、支援ツール「(仮)中部版 ESD ワークブック」プロトタイプ版の作成
  - ◆事業費見積:計 3,773 万円





# 4. 業務フロー



# 5. 主な取組の3か年実施展開案

### 方針(1)

地域循環共生圏づくりや SDGs 推進の支援における個別対応と、他の取組支援等への汎用化

- ① 【個別対応】地域/取組が必要とする支援を細やかに汲み上げると共に、これまでの協働取組への支援の経験やツールを活用するなどして、事例ごとに個別に対応した支援を展開します。
- ② 【汎用化】EPO 中部が展開してきた支援内容の整理を行い、地域循環共生圏づくりや SDGs 推進のためのプログラム化とその実装・実践に取り組みます。

### 【概要】

- 地域循環共生圏づくりやSDGs推進に取り組む地域への支援にあたり、地域それぞれの課題、 進め方等に応じ、個別に支援内容・方法を組み立てる必要があります。そのため、地域のニー ズや地域課題などを適切に把握し、支援対象の地域・主体それぞれに応じた支援を展開します (「個別対応」として3カ年度を通して実践します)。
- また、実施した支援内容や事例については、「活動見える化プログラム」等を用いて適宜整理 してモデル化などを行い、中部エリア全体の地域循環共生圏づくりやSDGs 推進の底上げを図 るために必要となる仕掛けについて分析、検討します。
- その個別対応モデルから EPO 中部/中部地方 ESD 活動支援センターとしての地域支援の実績をプログラム等として整理し、具体の個別支援に至る前段階にある地域においても活用できるものにし、中部エリアの地域循環共生圏づくりや SDGs 推進に取り組む地域が活用・参考にするためのコンテンツとして公開します。

### 【「汎用化」の進め方】

### 令和3年度 支援内容の整理(プログラム化)

- 令和3年度は、前期までに EPO 中部が実施してきた同時解決事業や地域循環共生圏 PF 事業等における地域支援の内容を整理するとともに、令和3年度の地域循環共生圏 PF 事業支援や主催イベント等で実施したワークショップ/ワーキングのプログラムを整理します。
- 特に、令和2年度に実施した森里川海ネットワーク形成会合業務で実施の自然資源のワイズユースにおける「資金調達のためのSDGs 共感ストーリー」づくりワークショップについて、地域側のニーズがあった場合には令和3年度も実施し、そのワーキング内容等を整理し、プログラムの構築を目指します。

### 令和4年度 プログラムの試行・検証・改善

- 前年度までの地域循環共生圏づくり等に対する EPO 中部の支援実績と共に、その中で実施したワーキングのプログラム等 (SDGs 共感ストーリーづくりワークショップのプログラム等)
   を、EPO 中部による支援メニュー化します。
- また、令和4年度の業務やイベント等で、連携する地域、協働コーディネーター等に EPO 中部支援実績、或いは EPO 中部独自の支援メニューとして提示し、地域側にニーズがあればそのプログラムを取り入れたワーキングを実施し、併せてプログラムに対する検証も行い、必要な改善も図ります。

### 令和5年度 プログラムの実装と公開

- 令和5年度は、第6期に構築したプログラムやツール等を地域づくり支援に関わる業務、イベント等で実践活用します。
- また、プログラムやツールは、地域循環共生圏づくりやSDGs実践に取り組む地域にとっての 参考情報・活用コンテンツとして公開します。
- 実践活用した内容も、プログラムの活用事例、或いは支援事例として併せて公開し、EPO中 部の実績等をPRするコンテンツとしての活用も図ります。

# 方針(2)

# 独自の地域 SDGs 評価 (SDGs の取組の現状等を評価する) 機能の構築 【概要】

- 第5期に作成した「SDGs チェックリスト」については、SDGs 実践に取り掛かりはじめたばかりの主体から活用したいとの問合せが複数あり、好評を得ている。
- 同時に、既に積極的に SDGs の実践を進めている主体からは、SDGs についての基本的な理解や 17 ゴールとの紐づけの次ステップとして、SDGs の取組状況への評価、目標設定に取り組むための方法等に対するニーズが聞かれるようになっている。
- また、令和2年度に実施した ESD ネットワーク地域フォーラムで活用した「SDGs 状況評価 データ自治体レーダーチャート」(中部大学国際 GIS センター)など、様々な組織から SDGs 指標ツール/プログラム等が発行されている。
- 地域にによる SDGs 実践の進化や深掘りに資する支援として、既存の SDGs 関連ツール/プログラム等を整理し、「SDGs チェックリスト」に続いて中部エリアの自治体、企業等が活用可能な「地域 SDGs 評価」メニュー、或いは情報提供について検討する。

### 【業務の進め方】

### 令和3年度 「地域 SDGs 評価」のあり方検討

第5期に作成した活動見える化プログラム、SDGs チェックリスト等のツールに加え、地域循環共生圏づくりやSDGs 実践に取り組む地域の取組状況等の「評価」が可能となる既存の仕組みを整理するなどして、「地域 SDGs 評価」の支援方法の構築を目指した検討を行います。

# 令和4年度 「地域 SDGs 評価」の試験的な実施・検証

- 前年度の検討結果をもとに、「地域 SDGs 評価」のメニュー/プログラムを構築し、活用可能なコンテンツ(或いは情報提供素材)として公開します。
- 同時に、「地域 SDGs 評価」メニュー/プログラムを SDGs に関わる地域支援業務・イベント や相談対応などでニーズのあった案件において、試験的の導入し、検証等を行います。

## 令和5年度 支援内容の整理(プログラム化)

 前年度に続いて、業務や相談対応等において「地域SDGs評価」メニュー/プログラムを実践 活用し、メニュー/プログラムと実践事例を EPO 中部の具体の支援メニューの一つとして明示(PR活用)します。

# 方針(3)

### 地域支援や多様なステークホルダーの巻き込みにおける EPO 機能の強化

- イ) 資金調達に関わる主体 (特に金融機関や経済団体等) との関係構築
- □) 地域実践者である EPO 中部・協働コーディネーターとの関係強化と新たなネットワークづくり
- **ハ)**取り残されがちと指摘される中小の事業者・自治体等をターゲット設定した支援のあり方検討 【概要】

# 資金調達に関わる主体(特に金融機関や経済団体等)との関係構築

- 地域循環共生圏関連事業(地域循環共生圏パートナーシップ基盤強化事業等)において、経済・ビジネス・金融関係機関との関係構築を重視した地域 ビジネスネットワークづくりに取り組みます。
- 済団体等)との 関係構築 ・また、地域と経済・ビジネス・金融関係機関とのマッチングにつながる具体 の事例創出を目指します。

# 地域実践者で ある EPO 中 部・協働コーディネーターとの 関係強化と新

- 第5期に引き続き、第6期でも協働コーディネーターと連携した地域実践の 業務・イベントを展開します。
- ィネーターとの • 加えて、これまでに連携・協力のあったその他の地域実践者・地域活動者を

### たなネットワー クづくり

含めた新たな地域展開のためのネットワーク形成を図り、将来の環境施策の動向、社会情勢に適応しつつ、中部エリアの各々の地域性にもできるだけ寄り添った業務・イベント展開を可能とする EPO 中部のシステム (体制・仕組み) の確保を目指します。

# 取り残されが ちと指摘されが 中 市 の 当 体 中 を した 支 した 検討

- 第5期運営会議委員等の学識者・専門家等から、SDGs 推進において、地場産品製造事業者や商店街等を含めた中小企業や小規模自治体の支援が重要になるとの指摘があったことをうけて、第6期では、中小企業・小規模自治体等の組織・団体を主なターゲットにした SDGs/ESD の実践支援を展開します。
- 具体的には、勉強会等の場の設営とともに、その実施結果や活用ツール、参加者の声等を盛り込んだ支援ツールを作成します。

### 【業務の進め方】

# イ) 資金調達に関わる主体 (特に金融機関や経済団体等) との関係構築

# 令和3年度

- 地域循環共生圏関連事業(地域循環共生圏パートナーシップ基盤強化事業等)においては、経済団体・金融機関等の環境施策に対する意向の把握を目的とした接触機会(会合等)を積極的に設けます。
- また、経済団体・金融機関等の意向及び、令和3年度の注目テーマとなる環境施策の動向等を踏まえつつ、環境施策×経済・ビジネス・金融(×その他分野)による情報共有の場、環境施策への理解促進の場などを設営します。

# 令和4年度

前年度の環境施策×経済・ビジネス・金融(×その他分野)の関係構築状況を鑑みつつ、継続しての関係構築、もしくは次ステップとして、具体の地域・事業におけるマッチング等に対するニーズの抽出を図り、EPO 中部として可能な取組を企画し、実施します。

### 令和5年度

令和4年度までに関係構築に取り組んだ経済団体・金融機関等とのつながりを活かし、地域循環共生圏づくりにおける地域環境ビジネス支援などを展開します。

# ロ)地域実践者である EPO 中部・協働コーディネーターとの関係強化と新たなネットワークづくり

# 令和3年度

● 第5期に続き、第6期においても協働コーディネーターと連携した地域循環共生圏 づくり、SDGs実践のための取組を展開します。

協働コーディネーターには EPO 業務を活用してもらうと同時に、EPO 中部が地域のニーズに即した業務・イベント展開の協力者・実践者として活躍してもらい、相互協力関係の強化を図ります。

# 令和4年度

 地域ニーズに即した業務・イベント展開において、協働コーディネーターとの協力 による業務展開と共に、これまでに実施した業務の中で連携・協力を得た(協働コーディネーター以外の)地域実践者との関係構築・強化を目指した地域実践業務を 実施します。

# 令和5年度

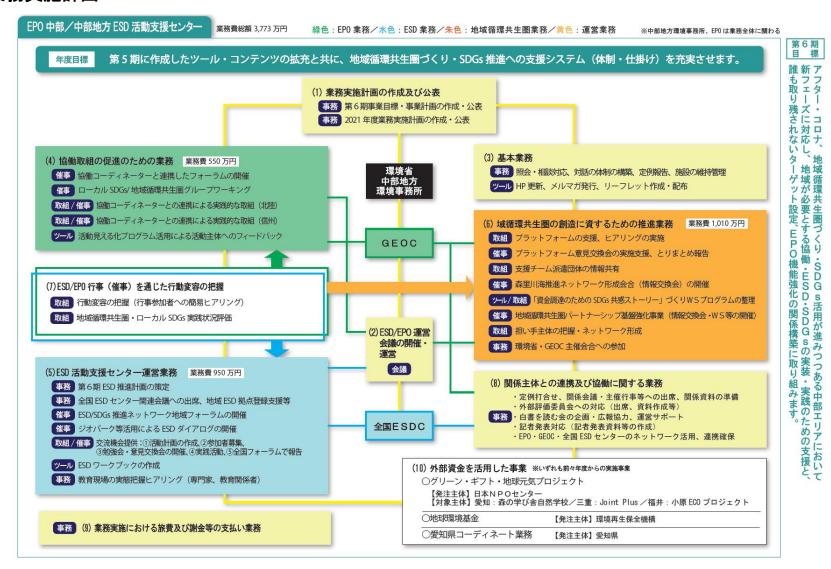
 地域実践者と連携した協働取組等において、従来の協働コーディネーターとの連携 に加えて、新たな地域活動者との連携も積極的に確保し、次期フェーズに向けた地 域実践において、EPO 中部が中部のどの(遠方)エリアとも、その地域の情勢、 ニーズに適応した展開を可能とするためのネットワークを構築します。

令和3年度	<ul> <li>小さな地域/主体も SDGs 実践に取り組める素地づくりとして、中小企業や小規模自治体等を主対象に想定した、SDGs/ESD 実践支援の場を設営(勉強会等開催)ます。</li> <li>実践支援にあわせて、そこでの活用ツールとして「(仮)中部版 ESD ワークブック」(プロトタイプ版)等を作成するなどして、参加者(企業・自治体等)が SDGs に取り組みやすくなる仕掛けづくりにも取り組みます。</li> </ul>
令和4年度	<ul> <li>前年度に続き、中小企業や小規模自治体等を主対象に想定した実践勉強会等を実施します。</li> <li>また、実践勉強会等の2カ年度の実施結果をとりまとめた支援ツール「(仮)中部版ESD ワークブック」の完成版を作成し、勉強会等に参加できなかった団体も活用できるよう公開します。</li> </ul>
令和5年度	<ul> <li>「(仮)中部版 ESD ワークブック」を広く活用してもらうことと、ESD 実践勉強会の総括として、《取りまとめイベント》を開催します。</li> <li>《取りまとめイベント》では、参加者と共に、中部のローカル SDGs を担う人づくりのあり方についてディスカッション(共有)します。</li> </ul>

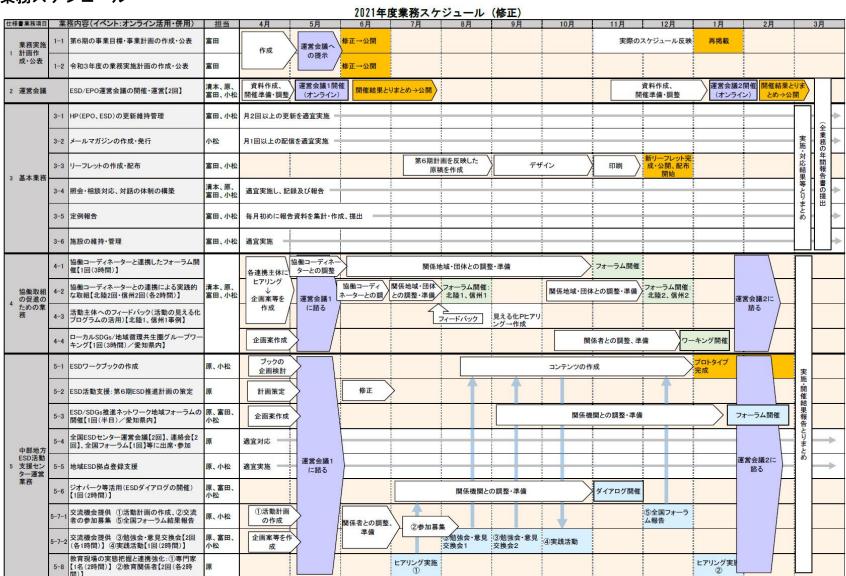
# (2) 令和3年度業務実施計画

# ア 作成した業務実施計画

(ア) 業務概要



# (イ) 業務スケジュール



### 2021年度業務スケジュール (修正) 世様書業務項目 業務内容(イベント:オンライン活用・併用) 担当 6月 7月 8月 9月 10月 11月 5月 12月 1月 2月 各PFにヒアリング 中間次年度展開の プラットフォーム支援:採択団体、登録団体、 とりまとめ 成里 6-1 富田 各団体のサポート計画(スケジュール・意向等)に応じて適宜支援 過年度採択団体への支援、ヒアリングの実施 実施 報告 報告 事務局打合せ 報告 PF2団体それぞれで プラットフォーム意見交換会の支援【2団体× 実施方法等についてPFと調整 6-2 1回(3時間)】、とりまとめ報告 とりまとめ・報告 意見交換会開催 環境省・GEOC主催会合への参加:成果報告 清本、富田 適宜参加 6-3-1 会【1回】、情報交換会【1回】、中間報告会【3 6-3-2 環境省・GEOC主催会合への参加:作業部会 【2回】、共有会【3回】、ブロック別共有会【1回】 清本、富田 適宜参加 6-4 支援チーム派遣団体の情報共有 地域循環 適宜実施 共生圏の 創造推進 6-5-1 森里川海推進ネットワーク形成会合情報交換 会【2回(2時間)】 関係主体への 関係団体との 作情報交換会 富田 運営会議2 ヒアリング 協議·調整 1.2 運営会議1に に報告 計画案等を諮 「資金調達のためのSDGs共感ストーリー」づく 6-5-2 りWSプログラムの整理 プログラム整理 完成·公開 3 関係主体への企画案 地域循環共生圏パートナーシップ基盤強化情 関係機関等との調整、準備 準備 飯山市開催 準備 234開催 報交換会【4回(各2時間)、飯山市で6月迄】 ヒアリング / 作成 / 6-7 GEOC事業主催会合への参加:検討会議【2 回】、情報交換会【2回】 清本、富田 適宜参加 清本、原, ヒアリング実施〉結果とりまとめ 6-8 担い手主体の把握・ネットワーク形成【2団体】 対象団体検討 富田 行動変容の把握: 行事参加者へのヒアリング 清本、原、 業務の連携・協力者6団体へのヒアリング、 (3月中旬までに)【6事例】 結果とりまとめ 行動変容 の把握 運営会議1/こ SDGs等の実践状況等の評価方 運営会議21之 計画案作成 相談対応等あった団体2ケースでの試行実施 結果とりまとめ 7-2 SDGs実践状況等の評価【試行2事例】 諮る 法整理 諮る 事務所担当官と業務の責任者とで定期的な 8-1 争務がピコロース 打合せ・報告、資料作成対応 適宜実施(月1回以上の打合せ) 8-2 外部評価委員会への出席【1回】、資料作成対 清本、原、 外部評価委員 資料作成 会出席 8-3 白書を読む会の企画協力、広報協力、運営サポート 名古屋市との調整、名古屋市側のスケジュー 白書を読む会開 関係主体 協力事項確認 / ル等に応じて適宜実施 / 催 との連携 及び協働 8-4 全国ユース中部大会に参画【1回】、審査委員 清本 に関する ユース中部大会 審査委員の推薦 オンライン視聴 8-5 記者発表等報道対応 適宜実施 8-6 GEOC主催の全国EPO連絡会議【2回】、その 他関連会議等への参加・協力 清本、富田 適宜参加 9 業務実施における旅費及び謝金等の支払い業務 小松、小栗 適宜実施 10-1 グリーン・ギフト・地球元気プロジェクト(イベント開催支援) 清本、小栗 日本NPOセンターの枠組みに則り適宜実施 外部資金 関係機関等との調整、準備 対説明会開催 10 を活用し 10-2 地球環境基金 清本、小松 環境再生保全機構の枠組みに則り適宜実施 た事業 愛知県コーディネート業務 清本、服部 愛知県(環境局環境活動推進課)の仕様書に則り適宜実施 10-3 【相談業務:10件/コーディネー業務:10件】

# (ウ) 定量的な達成目標(インプット・アウトプット)の設定

EPO中部令和3年度事業アウトプット目標等一覧

			100		インブット(仕)	<b>様書、計画書</b> )		アウトプット(指標)		アウ		
泰書業務項目		業務内容	担当	外部関係者とその役割	催事、情報発信	調査、研究、作成、支援	コンテンツ等、情報の発 信、記録	設備・システム・知見など	参加者(数)、対象者 (数)など	アウトカム指標(アウトプット評価 に加え)		備考
業務実施	1-1	第6期の事業目標・事業計画の作成・公 表	富田	・外部有臓者:必要に 応じて助言		<ul><li>・第6期事業の達成目標及び業務計画の作成</li><li>・アウトブット、アウトカム目標、指標の検討</li></ul>	・第6期業務実施計画書 ・第6期アウトプット、アウト カム目標			・担当官、運営委員会等関係者によるEPO中部ESDC計画としての第6 期全体の十分な認知 ・第6期全体評価の基本方針ににつ いての担当官、運営委員等の理	<ul><li>事業全体についてアウトプット、ア</li></ul>	
計画作 成·公表	1-2	2 令和3年度の業務実施計画の作成・公表	富田	・外部有議者:必要に 応じて助言		・令和3年度の業務実施計画の作成 ・アウトブット、アウトカム目標、指標の検 計	・令和3年度業務実施計画 書 ・令和3年度アウトブット・ア ウトカム目標一覧表			る当年度EPO中部ESDC計画として の内容の十分な認知 ・各指標による評価の実施と説明に	・令和3年度業務遂行計画として事業推進の内容が見える化される。 ・それぞれの業務についてアウト ブット、アウトカムの評価が可能となる。	
運営会議		ESD/EPO運営会議の開催・運営【2回】	清本、原、富田、小松	・外部有護者:運営 委員として議論参 加、助言	-ESD/EPO中部運営会議(2回オンライン開催)	- 9名程度の運営委員(6~3級相当)で 構成 ・年1回以上、委員の情報(役職、所属) に変更がないか確認 ・運営委員に業務参画を促すための進 掛せな消費を適宜提供	·会議資料、議事録		-各回7名以上の参加	有用な意見(議事録) ・業務に運営委員の積極的な参画	・運営委員より有用な意見をいただ くとともに業務に積極的な参画を得 で効果的な活動を展開に寄与す る。	
3 基本業務	3-1	HP(EPO、ESD)の更新維持管理	富田、小松	·専門業者:相談(外注)		-HPの更新	・HPのページ更新(月2回 以上)		・ページビュー数(昨年 度同水準以上)	・更新されたHPに対するご意見(運 営会議委員ご意見など)	・HPによるEPO、ESDCの認知の拡 大と好感度の向上	
	3-2	2 メールマガジンの作成・発行	小松			・メールマガジンの作成・発行	・メールマガジン(月1回以 上)		·発行部数(昨年度同水 準以上)	・発行数の維持、コンテンツに対す るご意見(運営会議委員ご意見な ど)	・HPによるEPO、ESDCの認知の拡 大と好感度の向上、掲載情報利用 の拡大	
	3-3	3 リーフレットの作成・配布	富田、小松	・デザイン・印刷:外 注		・リーフレットの作成・配布(印刷必要部数)	・リーフレット(必用に応じて 情報更新A4フルカラー必 要部数)		·配布数(昨年度同水準 以上)	<ul><li>配布部数の増加、リーフレットに対するご意見(運営会議委員ご意見など)</li></ul>	の認知の拡大と好感度の向上	
	3-4	4 照会・相談対応、対話の体制の構築	清本、原、富田、小松	・外部の様々な活動 団体:活動等参加先		・相談・照会対応と助言、実施内容の記録・各種協議会や地域活動等への参加と情報収集。マッチング支援や助言	<ul><li>・照会・相談の記録簿</li><li>・協議会、地域活動、支援等の参加記録や取材記事</li><li>・講師派遣の記録</li></ul>		·紹介·相談件数 ·資料取集数、記録件 数、記事件数 ·講師等派遣回数	積 ・記録件数、記事件数の増加 ・講師派遣件数の増加	・紹介・相談による環境保全活動等への貢献 ・関連する情報の集積、連携・協働 体制の構築、ノウハウの蓄積の推 ・事務所担当官の状況把握と理解	
	3-5	定例報告	富田、小松			<ul><li>業務日報等の関連文書の作成と報告</li></ul>	<ul><li>業務日報等の文書</li></ul>			<ul><li>事務所担当官の状況把握と理解</li></ul>	による全体業務の円滑な運営	
	3-6	6 施設の維持・管理	富田、小松			·施設の維持·管理		<ul><li>良好な職場・業務空間</li></ul>		に対する感想	<ul><li>・円滑な活動を支える職場・業務環境の維持</li></ul>	
協働取組の促進のための業	4-1	は働コーディネーターと連携したフォーラム開催【1回(3時間)】	清本、原、富田、小松	ター、地域関係者と の連携			・開催記録		・参加者30名程度	見や感想(ヒヤリング、アンケート)	<ul><li>・参加した関係者の意識向上、認知 の拡大、知見の増加</li></ul>	
	4-2	協働コーディネーターとの連携による実 2 践的な取組【北陸2回・信州2回(各2時間)】	清本、原、富田、小松	の連携	・実践的取組(オンライン、4回程度(北 陸2回程度、信州2回程度)、各2時間程 度、30名程度)		-開催記録		・参加者30名程度、学 識者1名参加 ・中間支援団体等との 連携協働実績	見や感想(ヒヤリング、アンケート)	・参加した関係者の意識向上、認知 の拡大、知見の増加	
務	4-3	活動主体へのフィードバック(活動の見える る化プログラムの活用)【北陸1、信州1事例】	清本、原、 富田、小松	協働コーディネー ター、地域関係者と の連携		<ul><li>・活動内容のヒヤリングと活動見える化プログラム分析</li></ul>	・分析チャート(2事例)		1	<ul><li>・分析対象主体や関係者の感想、</li><li>意見</li></ul>	・分析対象主体の取組構造とSDGs 貢献の意義の認識の向上	
	4-4	4 ローカルSDGs/地域循環共生圏グループワーキング【1回(3時間)/愛知県内】	清本、原、 富田、小松	事業者等	-グループワーキング(オンライン併設、 1回、3時間程度、愛知県内会議室20名 程度、講師1名(大学教授級))		- 開催記録		職者1名参加	見や感想(ヒヤリング、アンケート)	・参加した関係者の意識向上、認知 の拡大、知見の増加	
	100-	1 ESDワークブックの作成	原、小松	・有識者によるWG	- 有識者によるWGディスカッション	-ワークブック作成のための調査、情報 収集 -「(仮)中部版ESDワークブック~学生・ 社会人のための地域社会SDGs実践」 (プロトタイプ版)の作成	・ワークブックVr.1のコンテ ンツ		・ワーキンググループ会 合3回 ・参加者、有議者と実務 者計3人	・ワークブックVr.1活用試行実績とご 意見	・ワークブックVr.1の試行活用による 社会ESDの促進	
	5-2	2 ESD活動支援:第6期ESD推進計画の策 定	原	·運営会議委員		・第6期「中部地域ESD推進計画(仮 称)」の策定		·第6期中部地域ESD推進 計画				
	5-3	ESD/SDGs推進ネットワーク地域フォーラムの開催【1回(半日)/愛知県内】	原、富田、小松	·中部地方大学研究 室、地方自治体、企 業等	・ESD/SDGs推進ネットワーク地域フォー ラム中部学生サミット【1回(半日)/愛知 県内・オンライン】	活動分析へのSDGsチェックリストの概念 活用	・開催記録		・フォーラム参加20名程 度 ・講師(大学教授級、1 名程度想定、現地参	・参加者の意識等(アンケート)、ご 意見や感想(ヒヤリング、アンケー ト)	・参加した関係者の意識向上、認知 の拡大、知見の増加	
中部地方	5-4	全国ESDセンター運営会議【2回】、連絡 会【2回】、全国フォーラム【1回】等に出席・参加	原	・全国ESD活動支援 センター、地域ESD 活動支援センター		・会議出席・参加による情報収集と整理 (企順運営委員会(オンライン、2回程 度、各半日)、全国・地方連絡会(オン ライン、2回程度、各半日)、ESD推進 ネットワーク全国フォーラム(オンライン、		・参加による記録等の情報 共有		反映させるべき知見の整理結果	・ESDの全国センター動向の把握	
ESD活動	5-5	地域ESD拠点登録支援	原、小松	·地域ESD拠点関係 者		<ul><li>地域ESD拠点情報交流、ESD拠点登録</li><li>支援</li></ul>			·ESD拠点登録数	ヤリング)	・中部地方のESDネットワークの拡充	
支援センター運営業務	5-6	ジオパーク等活用(ESDダイアログの開 6 催) 【1回(2時間)】	原、富田、小松	省地域資源 ・専門家等のゲスト: 講演、話題提供、講	・「自然資産を活かした地域・人づくり ESDダイアログ」の開催【1回】半日程度		・ダイアログ開催記録		授級)		・参加した関係者の意識向上、認知 の拡大、知見の増加	
	5-7-	交流機会提供 ①活動計画の作成、② ・1 交流者の参加募集 ⑤全国フォーラム紀 果報告	原、小松	・全国ESD活動支援 センター、地域ESD 活動支援センター、 地域ESD拠点	111	<ul> <li>・活動計画の作成</li> <li>・交流者の参加募集(全国センターの ネットワークで調整)</li> <li>・全国フォーラム結果報告(全国センターのネットワークで調整)</li> </ul>	<ul> <li>活動計画書</li> <li>活動報告書(全国フォーラム報告書)</li> </ul>		回(各1時間)]のべ20名 ・実践活動[1回(2時 間)]20名		有による「ローカルSDGsのための ESDの社会実装」への貢献	
	5-7-	交流機会提供 ③勉強会·意見交換会[2 回(各1時間)] ④実践活動[1回(2時間)]	原、富田、小松	同上	·勉強会·意見交換会【2回(各1時間)】 ·実践活動【1回(2時間)】	同上	_		・勉強会・意見交換会【2 回(各1時間)】のべ20名 ・実践活動【1回(2時間)】20名		同上	
	5-8	教育現場の実態把握と連携強化:①専 3 門家[1名(2時間)] ②教育関係者[2回 (各2時間)]	原	<ul> <li>SDGs、ESDIC詳しい専門家</li> <li>SDGs意思のある教育部局、教育委員会、現場の教員</li> </ul>		・専門家への包括的ヒアリング(オンライ ン、2時間程度、1回、大学教授級1名想 定) ・教育関係者へのヒアリング(オンライ ン、2時間程度、2回程度)			2000	・有意義な知見の入手	・ESD,SDGs専門領域との連携強化 ・ESD,SDGsの教育現場との連携強化	

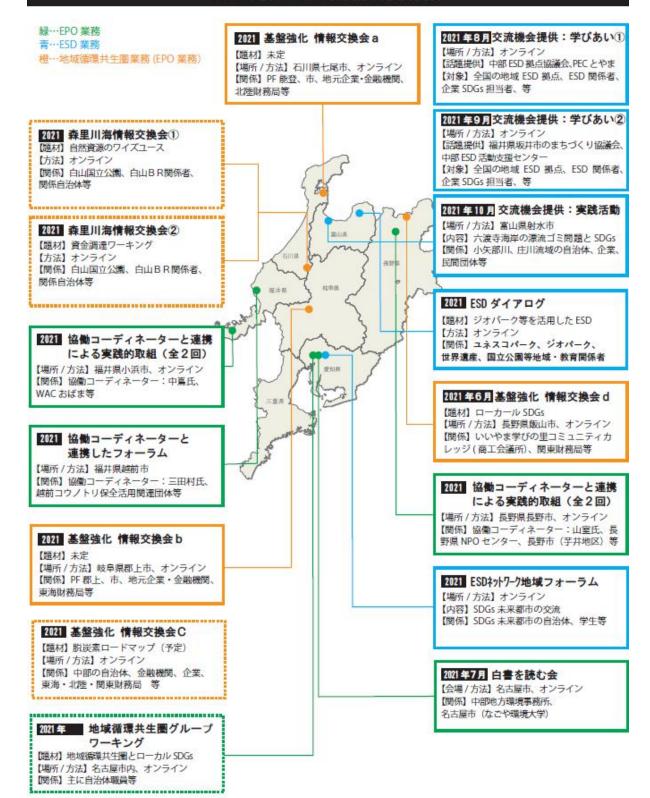
### EPO中部令和3年度事業アウトプット目標等一覧

		22.2			インブット(仕)	<b>※書、計画書</b> )		アウトプット(指標)			-カム	
書業務項目		業務内容	担当	外部関係者とその役割	催事、情報発信	調査、研究、作成、支援	コンテンツ等、情報の発信、記録	設備・システム・知見など	参加者(数)、対象者(数)など	アウトカム指標(アウトブット評価に加え)	アウトカム(予想される成果)	備考
	6-1	ブラットフォーム支援: 採択団体、登録団体、登録団体、登録団体、必要保証を 体、適年度採択団体への支援、ヒアリン グの実施		·採択団体、登録団体、過年度採択団体、過年度採択団体、取組関係者、 GEOC		・理算整備プロセス支援でご供料度、各 2回程度到地でありたての、機管の ・事業計画を支売ーケルルグーの指示 ・事業計画を支売ーケルルグーの ・の一を発展したが単立度に関係 ・の一を発展したが必動力。 人材育高の支援、金保護を関いかであり ・の一を通視の支援、事業を が表現のプロセス支援 ・変量の対象を ・変量の経代の体 ・変量の ・変 ・変 ・変 ・変 ・変 ・変 ・変 ・変 ・変 ・変	・伴走支援の記録 ・(新規採択)団体の事業目 標及び年間計画等ヒアリン	伴走等支援についての知		・担当官、専門家等の関係者のご	・地域指揮共生圏の取組に対する 適切な件走支援方法とその効果に ついての知見の蓄積	
		ブラットフォーム意見交換会の支援【2団 体×1回(3時間)】、とりまとめ報告	清本、原、富田	·採択団体、登録団体、通年度採択団体、取組関係者、 GEOC	・各活動(採択)団体が行う環境整備を 推進するための意見交換会(オンライ ン、2団体程度、各1回、3時間程度、30 人程度)の後方支援、当日運営(進行、 議事録の作成等、Web会議の場合の機	・開催結果を取りまとめとGEOCへの報告	·意見交換会等開催記録			・参加者の意識、ご意見や感想(ア ンケート、ヒヤリング)	<ul><li>・地域循環共生圏の取組理解の深化、出口戦略への意識化</li></ul>	
地域循環 共生圏の 創造推進	6-3-1	環境省・GEOC主催会合への参加:成果 報告会【1回】、情報交換会【1回】、中間 報告会【3回】	清本、富田	·採択団体、登録団体、過年度採択団体、過年度採択団体、取組関係者、本省、GEOC		・環境省主催地域循環共生圏支援報告 会等出席(オンライン、1回、2日、3月) ・GEOO主催情報交換会(オンライン、1 回、2日、5月)、中間報告会(オンライン、2回程度、1回あたり3時間程度) ・加勝任会での活動(採択)団体の資料作成等支援と意見交換補佐		<ul><li>・参加による情報共有</li><li>・資料作成等支援と意見交換補佐</li></ul>		・関係者のご意見	・採択団体との情報共有によるネットワーク形成	
業務	6-3-2	環境省・GEOC主催会合への参加: 作業 部会[2回]、共有会[3回]、ブロック別共 有会[1回]	清本、富田	·採択団体、登録団体、過年度採択団体、取組関係者、本省、GEOC		・GEOC主催作業部会(オンライン、2回程度、1回当たり3時間程度)、共有会 (オンライン、3回、1回あたり3時間程度) 度)、ブロック別共有会(オンライン、地域 ブロック毎に年に1回程度)参加		・参加による情報共有		・関係者のご意見	・採択団体との情報共有によるネットワーク形成	
	6-4		清本、原、 富田	・支援チーム、派遣 対象団体(2団体)		<ul><li>・支援チーム派遣(2団体)進捗状況把握</li><li>・全国事務局請負者の求めに応じた制度設計に対する助言</li></ul>	<ul><li>・進捗状況把握の記録</li><li>・助言の記録</li></ul>		1 1 11111	-対象団体情報	・採択団体との情報共有によるネットワーク形成	
		森里川海推進ネットワーク形成会合情報 交換会【2回(2時間)】	富田	・地域の一次産業・ 三次産業、さらに地 域の自治体、企業、 金融機関	・森川里海推進ネットワーク形成会合 (情報交換会)の実施(オンライン、2回 程度、2時間程度、30名程度、講師(大 学准教授級、1名想定)		・森川里海推進ネットワーク 形成会合記録		·参加者30名程度(各回) 講師(大学准教授級、1 名想定、各回)	・参加者の意識、ご意見や感想(ア ンケート、ヒヤリング)	・森里川海運動の促進のための地 城自然資源のワイズユース重要性 の共有、ネットワークの形成	
	6-5-2	「資金調達のためのSDGs共感ストー リー」づくりWSプログラムの整理	原、富田			「資金調達のためのSDGs共感ストー リー」づくりワークショッププログラム整理		「資金調達のためのSDGs 共感ストーリー」づくりワー クショッププログラム		・参加者の意識、ご意見や感想(ア ンケート、ヒヤリング)	・「共感」を重視したワークショップ知 見	
	6-6	地域循環共生圏バートナーシップ基盤強 化情報交換会【4回(各2時間)、飯山市で 6月迄】	富田	企業及び地域金融 や経済団体	・情報交換会の開催(オンライン、4回程度、2時間程度、30名程度、講師(大学 准教授級、1名想定)				·参加者30名程度(各回)、講師(大学准教授級、1名想定、各回)	・参加者の意識、ご意見や感想(ア ンケート、ヒヤリング)	・地域循環共生圏の創造促進のための情報の共有、ネットワークの形成	
	0.7	GEOC事業主催会合への参加:検討会議 【2回】、情報交換会【2回】	清本、富田	•GEOC		・事業検討会議に参加(オンライン、2回 程度、3時間程度)		・参加による情報共有(オン ライン、2回程度、3時間程 度)		・関係者のご意見	・関係者との情報共有によるネット ワーク形成	
	6-8		清本、原、富田	·6-1から6-7の関係 者		・地域循環共生圏に通じる担い手(団体等)について、把握し地域循環共生圏に 関する情報を提供するほか、関係性を 構築する(2団体程度)			・地域循環共生圏に通 じる担い手団体関係性 構築(2団体程度)	<ul><li>・地域循環共生圏に通じる担い手団体の意見や感想</li></ul>	<ul><li>・地域循環共生圏に通じる担い手団体の地循圏構築意識の向上</li></ul>	
行動変容	7-1	行動変容の把握:行事参加者へのヒアリング(3月中旬までに)[6事例]	清本、原、富田	・4から6の関係者		・行動変容のためのコアメンバーに対する簡易的ヒアリング(電話、メール等)	<ul><li>・行動変容のためのコアメンバーに対する簡易的ヒアリング結果</li></ul>		・行動変容のためのコ アメンバーに対する簡 易的ヒアリング(6事例程	・ヒヤリング結果の分析と解釈	<ul><li>・地域循環共生圏構築行動など持続可能社会に貢献する行動変容</li></ul>	
の把握	7-2	SDGs実践状況等の評価【試行2事例】	原	・関係する専門家等		・地域SDGs評価メニュー、プログラム等の情報収集と活用	・地域SDGs評価メニュー、 プログラム等の情報収集結	・地域SDGs評価メニュー、 プログラム等の活用実践		・地域SDGs評価メニュー、プログラム等の活用効果測定	・地域SDGs評価メニュー、プログラ ム等の活用効果	
			清本、原、 富田、小松		・定期的打合せ(月1回以上)	<ul><li>月次報告書の作成</li></ul>	·月次報告書			・関係者の意見	・中部地方環境事務所との協働に よる円滑な運営	
関係主体	0_2	外部評価委員会への出席[1回]、資料作 成対応				<ul><li>・中部地方環境事務所開催会議への出席、資料作成対応</li></ul>	·対応資料			-関係者の意見	・中部地方環境事務所との協働に よる円滑な運営 ・EPO中部ESDCに対する適正な評	
Lancin ter		白書を読む会の企画協力、広報協力、運営サポート	清本、原、富田、小松			・白書を読む会の企画運営サポート	・企画運営サポート記録			・関係者の意見	・中部地方環境事務所との協働による円滑な運営	
		国サバート 全国ユース中部大会に参画【1回】、審査 委員の選定	清本			・全国ユース大会への参画、審査委員選定	<ul><li>・全国ユース大会参画、審査委員選定記録</li></ul>		・審査委員選定	-関係者の意見	・中部地方環境事務所との協働に よる円滑な運営	
		記者発表等報道対応	富田		1 11 11 11 11 11 11	・プレスリリース資料の作成、実施(必用に応じて)	・プレスリリース資料(必用 に応じて)		・プレスリリース(必用に 応じて)	・関係者の意見	・EPO中部の認知度の向上	
100.000.000.00	8-6	GEOC主催の全国EPO連絡会議【2回】、 その他関連会議等への参加・協力	清本、富田	·GEOC:全国EPO連 絡会議開催	・GEOC主催の全国EPO連絡会議【2 回】、その他関連会議等への参加・協力			・全国情勢の情報		・関係者の意見	・GEOC事業への協力	
	おける	診療及び謝金等の支払い業務	小松		・適正な支払い		・支払い記録			<ul><li>・会計部署の承認</li></ul>	・適正支出の明確化	
外部資金	10-1	ベント開催支援)	清本			,						
で活用し	10-2	地球環境基金	清本、小松				I	l .	1			

# (エ) イベント開催における連携地域と開催方法等の一覧

● 業務実施計画書の作成にあたり、次図の通り、実施予定イベントの企画検討を行い、連携 する地域・組織、及び開催方法について想定・整理を行った。

# EPO 中部/中部地方 ESD 活動支援センター 2021 年度イベント展開案の検討資料



# (3) 第6期事業計画及び業務実施計画の公表

- 作成した第6期事業計画及び業務実施計画については、EPO 中部ウェブサイトに掲載、公開した。
- また、中部地方 ESD 活動支援センターウェブサイトについても、EPO 中部ウェブサイトへ 直リンク方式で掲載した。

# 【EPO 中部ウェブサイト】



# 【中部地方 ESD 活動支援センターウェブサイト】



# 2 ESD/EPO 運営委員会の設置・開催

# (1) 委員の選定

- 第5期まで「EPO 中部運営会議」「中部地方 ESD 活動支援センター企画運営会議」として それぞれ開催していた会議を、第6期では「ESD/EPO運営委員会」として開催した。
- 運営委員の選定にあたっては、専門分野や拠点エリア等のバランスを鑑みつつ、中部地方 環境事務所と協議のうえ、次の9名を委員に選定した。

No	分野等	地域	氏名	所属先	役職
1	学識者/ESD	東海	伊藤 恭彦	名古屋市立大学	副学長
2	学識者/学校教育	北陸	加藤 隆弘	金沢大学大学院教職実践研究科	准教授
3	学識者/地域整備計画	東海	加藤義人	岐阜大学工学部	客員教授
4	協働コーディネーター	北陸	堺 勇人	一般社団法人環境市民プラットフォームとやま(PECとやま)	常務理事/ 事務局長
5	企業/福祉	東海	杉浦 真理子	株式会社アクト	代表取締役
6	NPO/地域づくり	東海	田辺 友也	認定NPO法人まちづくりスポット	専務理事
7	自治体	東海	濵田 一多朗	尾鷲市政策調整課	課長補佐兼 企画調整係長
8	企業/環境学習	北陸	水上 聡子	アルマス・バイオコスモス研究所	代表
9	学識者/自然生態系	信州	水谷 瑞希	信州大学教育学部 附属志賀自然教育研究施設	助教

# (2) 会議の実施

# ア 第1回会議

# (ア) 開催概要

# 1)日時

● 2021年6月16日(水)13:00~16:00

### 2開催方法

オンライン会議

# ③出席者

● 運営委員: 9名全員出席

中部地方環境事務所:曽山課長、溝手係長、佐藤主査事務局:福井理事長、清本事務局長、原、富田、小松

# 4議事次第

- 1. ご挨拶 環境省中部地方環境事務所
- 2. 本委員会設置要領の確認
- 3. 第6期事業計画と令和3 (2021) 年度業務実施計画について
- 4. ESD 業務について

- (1) ESD 業務事務局案(資料4)の説明
- (2) 意見交換
- 5. EPO 業務について
  - (1) EPO 業務事務局案(資料5)の説明
  - (2) 意見交換
- 6. その他/第2回委員会の日時調整等
- 7. 閉会

# 5会議資料

資料1:ESD/EPO運営委員会設置要領(案)

資料2-1:第6期業務全体の事業計画

資料2-2:ESD 推進計画

資料3:令和3(2021)年度業務実施計画

資料4:ESD業務事務局説明資料資料5:EPO業務事務局説明資料

参考資料1:6/26 開催飯山ミーティング・イベント開催案内チラシ

参考資料2:第2期 ESD 国内実施計画(概要資料)



# イ 会議の実施結果の公開

- 今年度(令和3年度)の運営委員会設置に伴い、EPO 中部ウェブサイト「ESD/EPO 運営委員会」ページに委員名簿の掲載、及び規約の更新を行った。
- 第1回運営委員会終了後に、会議の議事概要を作成し、各委員に確認した上で、EPO 中部ウェブサイトに公開した。(中部地方ESD活動支援センターウェブサイトにもEPO中部ウェブサイトの該当ページへの直リンク見出しを設定した。)

# 【EPO 中部ウェブサイト】

# ESD/EPO運営委員会

### 運営委員会の設置

EPO中部は、多様なステークホルダー及び有職者で構成される運営委員会を年2回開催し、ESD/EPO業務についての検討、協議、評価を行っています。

また、運営委員が提案する協働取組や、各地域で実施すべき協働取組を、EPO中部の機能を使って実施するスキームとなっています。

※第5期までは「EPO中部運営会議」「中部地方ESD活動支援センター企画運営会議」をそれぞれ設置していました。

# 2021年度(令和3年度)ESD/EPO運営委員(氏名五十音順、敬称略)

- 伊藤 恭彦(名古屋市立大学 副学長) 【委員長】
- 加藤 隆弘(金沢大学大学院教職実践研究科 准教授)
- 加藤 義人(岐阜大学工学部 客員教授)
- 堺 勇人 (一般社団法人環境市民プラットフォームとやま 常務理事/事務局長)
- 杉浦 真理子 (株式会社アクト 代表取締役)
- 田辺 友也 (認定NPO法人まちづくりスポット 専務理事)
- 濵田 一多朗(尾鷲市政策調整課 課長補佐兼企画調整係長)
- 水上 聡子 (アルマス・バイオコスモス研究所 代表)
- 水谷 瑞希(信州大学教育学部附属志賀自然教育研究施設 助教)

### 規約

\chi 2021年度(令和3年度)ESD/EPO運営委員会設置要領

第5期(2020年度/令和2年度)以前の規約

### 議事録

【2021 (令和3) 年度】

▼ 2021年度(令和3年度)第1回ESD/EPO運営委員会議事録

第5期(2020年度/令和2年度)以前に実施した会議の議事録

# ウ第2回会議

# (ア) 開催概要

# 1日時

● 2022年2月28日(月)13:30~16:30

# 2開催方法

オンライン会議

# 3出席者

● 運営委員:8名出席(1名都合により欠席)

● 中部地方環境事務所:曾山課長、溝手係長、佐藤主査

● 事務局:福井理事長、清本事務局長、原、富田、小松

# 4 議事次第

1. ご挨拶 環境省中部地方環境事務所

- 2. 今年度実施した EPO 業務と次年度展開について
  - (1) 事務局による EPO 業務の報告(資料2)
  - (2) 意見交換
- 3. 今年度実施した ESD 業務と次年度展開について
  - (1) 事務局による ESD 業務の報告(資料3)
  - (2) 意見交換
- 4. 閉会

### 5会議資料

資料1:令和3年度仕様書上業務の実施状況表

資料 2: 今年度の EPO 業務の実施報告資料 資料 3: 今年度の ESD 業務の実施報告資料

参考資料: EPO 中部/中部 ESDC の紹介パンフレット (三つ折りリーフレット)



# エ 会議の実施結果の公開

● 作成した第2回運営委員会の議事概要を各委員に確認した上で、EPO 中部ウェブサイトに 公開した。(中部地方 ESD 活動支援センターウェブサイトにも EPO 中部ウェブサイトの該 当ページへの直リンク用見出し記事を掲載した。)

# 【EPO 中部ウェブサイト】

### 議事録

【2021(令和3)年度】

🐒 2021年度(令和3年度) 第2回ESD/EPO運営委員会議事録

№ 2021年度(令和3年度)第1回ESD/EPO運営委員会議事録

第5期(2020年度/令和2年度)以前に実施した会議の議事録

### 【中部地方 ESD 活動支援センターウェブサイト】

# センター概要・ESD/EPO運営委員会



2022.03.14 ESD/EPO運営委員会

# 2021年度第2回ESD/EPO運営委員会を開催

2021年度第2回目のESD/EPO運営委員会を2月28日に開催し、その議事 概要を公開しています。



2021.07.27 ESD/EPO運営委員会

# 2021年度第1回ESD/EPO運営委員会を開催

今年度から当センターの企画運営会議の名称が「ESD/EPO運営委員会」となり、EPO合同の会議となりました。 その第1回運営委員会を6月16日に開催しました。

# (3) 運営委員との業務における連携(主催イベントへの登壇等)

● 今年度開催した主催イベントでは、下記の通り、運営委員に登壇等していただき、連携・協力を得た。

【中部地方 ESD 活動支援センター主催イベント一覧】※EPO 中部主催イベントでの該当なし

青字:運営委員の連携・協力を得て実施した事項

	区分	開催日	エリア	設営	参加/接続	内容案
<i>t</i> =:	然資産を活かし 地域・人 づくり )ダイアログ	11月13日~ 14日	立山黒部 ジオパー ク(富山県 富山市等)	ハイブリッド	37人 8件 エクスカーショ ン13人	<ul> <li>中部のジオパークをテーマに「自然資源を活用したESD」ダイアログを立山黒部ジオパーク協会の協力を得て開催。</li> <li>ジオパーク4エリアの団体、水谷委員が登壇。</li> <li>2日目は立山黒部ジオパーク内の「教育」関連プログラム4箇所を見学。</li> </ul>
ネ	)/SDGs 推 進 ットワーク地域 <del>ラ</del> ム	2月19日	中部	<del>なう</del> ん	115件	<ul><li>● 昨年度に続く、SDGs学生サミットとして開催。</li><li>● 8大学の学生が取組発表。</li><li>● 伊藤委員が登壇、堺委員、水上委員がファシリテーター登壇。</li></ul>
	SDCs社会教育 <b>学びあいの場</b> ①	8月26日	中部	<del>なう</del> ん	65件	● 「SDGs社会の「担い手」とは」をテーマに開催。 ● 佐藤真久氏(東京都市大学大学院環境情報学研究科教授)、水 上委員が登壇。セッションに古澤氏(中部大学国際ESD・SDGsセン ター准教授)、堺委員も登壇。
D/SDGs推進の	SDCs社会教育 <b>学びあいの場</b> ②	9月16日	中部	オンライン	38件	<ul><li>「「担い手」育成のためのESDとは」をテーマに開催。</li><li>古澤氏、堺委員が登壇。セッションに水上委員も登壇。</li></ul>
ための交流機	実践セミナー	10月30日	六渡寺 海岸 (富山県 射水市)	午前:現地 午後:オン ライン	24人 23件	<ul> <li>「海岸プラごみ清掃から流域のローカルSDGsの担い手づくりへ」をテーマに、午前: 六渡寺海岸視察&amp;ごみ拾い体験、午後セミナー&amp;ワークショップを開催。</li> <li>学びあい①②登壇者(堺委員、水上委員)、六渡寺自治会などが登壇。</li> </ul>
会提供	SDGs 社会教育研究ワーキ ング	①7月6日 ②9月30日 ③12月16日	_	①オンライ ン ②福井市 ③PO中部	8人	<ul><li>専門家ワーキングとして実施。メンバー: 古澤氏、水上委員、堺委員、原。</li><li>SDGs社会教育・実践セミナーでの実施事項、中部版ESDワークブックについて検討。</li></ul>

※人:参加人数、件:接続数での把握

# 3 基本業務

# (1) 情報の収集・蓄積・発信に関する業務

# ア ホームページの更新及び維持管理

# (ア) 更新・維持管理状況

● EPO 中部及び中部地方 ESD 活動支援センターの各ウェブサイトについて、下表の通り、記事の投稿・掲載・更新を行った。

# 【EPO 中部(http://www.epo-chubu.jp)更新実施表】

[Lio 中間 (Ittp://www.tho thand.jp/ 文初天地致]										
	更新回	更新コンテンツ								
月	数・計	EPO 中部の	皆さんのお	スタッフのあ	EPO 中部と	EPO 中部が	お役立ち	その他(メル		
	双二口	お知らせ	知らせ	れこれ	は	お手伝い	ツール	マガ掲載等)		
4月	57	2	53	1	0	0	0	1		
5月	35	2	31	1	0	0	0	1		
6月	47	3	41	1	1	0	0	1		
7月	37	3	31	1	1	0	0	1		
8月	22	0	20	1	0	0	0	1		
9月	20	3	15	1	0	0	0	1		
10 月	26	6	17	1	0	1	0	1		
11 月	40	4	33	1	1	0	0	1		
12 月	33	5	23	1	0	1	2	1		
1月	29	1	26	1	0	0	0	1		
2月	28	4	22	1	0	0	0	1		
3 月	27	0	23	0	1	1	1	1		
計	401	33	335	11	4	3	3	12		

# 【中部地方 ESD 活動支援センター(http://chubu.esdcenter.jp)更新実施表】

【十日P-E/) LOD / L 到 文 IX L フ ア (ITTP・// Unaba. Usacontor. ] P/ 文 初 天 NE 弘 /										
	更新回	更新コンテンツ								
月	数・計	センター概 要	事業報告	イベント& ニュース	取材レポート	コンテンツ紹 介	中部の地域 ESD 拠点	その他		
4月	18	0	0	15	1	0	2	0		
5月	26	0	1	20	0	1	4	0		
6月	23	1	0	21	1	0	0	0		
7月	23	1	0	16	0	1	4	1		
8月	12	0	0	9	0	0	3	0		
9月	11	0	0	11	0	0	0	0		
10 月	9	0	2	4	1	0	2	0		
11 月	28	1	3	15	2	1	5	1		
12 月	14	0	0	10	0	1	2	1		
1月	18	0	0	12	0	1	5	0		
2月	8	0	0	6	0	1	1	0		
3 月	16	1	0	12	0	2	1	0		
計	206	4	6	151	5	8	29	3		

<sup>※</sup> いずれも「3月」の数値は3月22日時点で集計を行った。

# (イ) ウェブサイトのアクセス数

# 【下表の各項目について】

- 訪問者数:サイトに1回以上アクセスを行ったユーザー/閲覧した人の数(一人が2回 アクセスした場合は一人として集計)
- 訪問件数:訪問者がサイトにアクセスをした回数(一人が2回アクセスした場合は2件として集計)
- ページビュー数:閲覧されたサイト内のページの総数
- ページビュー数の平均:ここでは訪問者1人あたりが閲覧したページビュー数を算定

# 【EPO 中部ウェブサイト】

※ 2020 年度に実施した EPO 中部ウェブサイトのリニューアルの際に、アクセス数の照会元を Google アナリティクスに移行した。(従来の照会元であるサーバー会社によるアクセスレポートが特殊なシステムでページビュー数を集計していたため、一般的なページビュー数を把握できる Google アナリティクス参照に変更した。)

照会元	>	KGoogle ア	ナリティクス	<u> </u>	※サーバー会社のアクセスレポート						
		2021	年度		ページビュー数:過去の推移						
	訪問者数 (ユニーク数) (単位:人)	訪問件数 (単位:件)	ページ ビュー数	平均 (ページ/人)	2021 年度	2020 年度	2019 年度	2018 年度	2017 年度		
4 月	446	717	3, 310	7. 42	24, 015	66, 930	59, 319	19, 311	32, 869		
5月	588	858	2, 965	5. 04	16, 148	56, 664	30, 280	18, 382	37, 951		
6 月	625	888	3, 574	5. 72	21, 314	61, 297	29, 150	20, 060	27, 827		
7月	594	877	2, 579	4. 34	29, 566	594	877	2, 579	4. 34		
8月	639	919	2, 203	3. 45	25, 428	639	919	2, 203	3. 45		
9月	418	681	1, 923	4. 60	24, 902	418	681	1, 923	4. 60		
10 月	775	1, 331	4, 015	5. 18	34, 750	42, 768	75, 127	16, 176	24, 051		
11 月	526	860	2, 791	5. 31	48, 487	38, 630	102, 551	16, 289	18, 034		
12 月	521	810	2, 271	4. 36	45, 615	35, 352	182, 209	31, 808	23, 287		
1月	461	704	2, 132	4. 62	65, 535	23, 878	107, 374	39, 694	31, 568		
2月	599	951	2, 800	4. 67	65, 552	14, 677	61, 384	21, 378	35, 860		
3 月	264	401	1, 084	4. 11	52, 061	21, 593	67, 883	44, 972	23, 308		
計	6, 456	9, 997	31, 647	4. 90	453, 373	501, 670	860, 157	279, 316	335, 028		

# 【中部地方 ESD 活動支援センターウェブサイト】

照会元	※Google アナリティクス									
		2021	年度		ページビュー数:過去の推移					
	訪問者数 (ユニーク数) (単位:人)	訪問件数 (単位:件)	ページ ビュー数	平均 (ページ/人)	2020 年度	2019 年度	2018 年度	2017 年度		
4 月	254	393	1, 115	4. 39	1, 165	618	595	未開設		
5 月	325	476	1, 368	4. 21	648	828	857	未開設		
6 月	361	510	1, 324	3. 67	1, 620	955	1, 301	未開設		
7月	358	501	1, 272	3. 55	1, 164	832	795	684		
8月	313	393	811	2. 59	827	1, 111	1, 144	298		
9月	306	399	872	2. 85	797	1, 232	818	295		
10 月	552	712	1, 463	2. 65	1, 179	1, 192	904	366		
11 月	406	541	1, 240	3. 05	950	1, 064	1, 085	325		
12 月	393	574	1, 302	3. 31	1, 420	1, 139	879	287		
1月	343	485	1, 052	3. 07	1, 183	841	841	362		
2 月	327	455	1, 025	3. 13	1, 080	1, 181	641	1, 343		
3 月	146	225	513	3. 51	1, 099	1, 258	752	897		
計	4, 084	5, 664	13, 357	3. 33	13, 132	12, 251	10, 612	4, 857		

※ いずれも「2021 年度 3 月」の数値は 3 月 22 日時点で集計を行った。(過去年度の「3 月」は 3 月末時点の集計結果。)

# イ メールマガジンの作成及び発行

- 毎月第2火曜日に、メールマガジンを次の通り、発行した。
- 発行済みメールマガジンのバックナンバーは、EPO 中部ウェブサイトに掲載しており、閲覧が可能である。(https://www.epo-chubu.jp/mail-magazine)

					掲載記事数						
月	号	発行日	発行部数	記事数・計	冒頭部	イベント 関連	ツール・コン テンツ	助成金• 表彰等	その他		
4 月	142 号	4/13	747 部	28	0	10	5	11	2		
5月	143 号	5/11	740 部	25	0	6	5	14	0		
6 月	144 号	6/8	739 部	26	3	11	0	10	2		
7月	145 号	7/13	737 部	30	2	12	1	15	0		
8月	146 号	8/10	739 部	25	1	12	2	10	0		
9月	147 号	9/14	740 部	27	1	9	2	15	0		
10 月	148 号	10/12	740 部	23	4	10	0	9	0		
11 月	149 号	11/9	740 部	26	2	16	0	8	0		
12 月	150 号	12/14	742 部	25	2	12	1	10	0		
1月	151 号	1/11	740 部	19	2	11	1	3	2		
2月	152 号	2/8	740 部	27	3	15	2	7	0		
3月	153 号	3/8	740 部	14	0	6	3	5	0		
	i	計		295	20	130	22	117	6		

<sup>※ 「</sup>冒頭部」の記事は、中部地方環境事務所及び EPO 中部の主催イベント等お知らせ記事となっている。

# ウ リーフレットの作成及び配布

- 2021 年 6 月末時点で EPO 中部/中部地方 ESD 活動支援センターのリーフレットが残部 510 部あり (第1四半期時点での残部 540 部)、今期 3 カ月の間に約 30 部を配布した。
- 第6期版の新規リーフレット原稿(A4三つ折りリーフレット)を 11 月に作成・発行し、 300 部を印刷してイベント等で配布した。

### 【作成した新リーフレット原稿】



# EPO;環境パートナーシップオフィスとは

協働取組を構築・促進する中核的な担い手として、環境教育等促進法に基づき、環境省が全国に設置した施設・組織です。

### EPO中部は

中部7県(富山県、石川県、福井県、長野 県、愛知県、岐阜県、三重県)において、 地域の皆さんが取り組む協働による地 域循環共生圏づくりやローカルSDGs 実践を支援しています。



### 中部地方ESD活動支援センターは

中部エリアにおけるESD活動の推進・ 支援を担っており、「地域ESD活動推 進拠点(地域ESD拠点)」の登録団体 の皆さんと連携してESDの支援・推 進に取り組んでいます。



# ESDとは

Education for Sustainable Development (持続可能な開発のための教育) SDGs達成や人づくり・地域づくり・ネットワーク づくりのための教育です。



# SDGs達成に向けて

EPO中部と中部地方ESD活動支援センターは、2030年のSDGs達成を目指し、中部エリアの地域活動者の皆さんや自治体などの支援に取り組んでまいります。



SUSTAINABLE GOALS

### アクセス

名古屋市営地下鉄・桜通線「丸の内」駅の5番出口から徒歩3分



住所: 〒460-0003 名古屋市中区錦2-4-3 錦パークビル4F

開館日:月曜日〜金曜日 9:30~17:30 閉館日:土・日曜、祝日、お盆・年末年始の休業あり

※イベント等でスタッフが出払う場合がございます。ご来館の際にはあらかじめ、Webサイト等で開館日をご確認願います。



PO中部 環境省 中部環境バートナーシッフォフィス

TEL:052-218-8605 FAX:052-218-8606

Email: info@epo-chubu.jp Web: http://www.epo-chubu.jp



# **(5)**

# 中部地方ESD活動支援センター

Education for Sustainable Development

TEL: 052-218-9073 FAX: 052-218-8606 Email: office@chubuesdcenter.jp Web: http://chubu.esdcenter.jp



Facebookページ:@EPOchubu

メルマガ:「そらいろ通信」〜EPO-Chubuメールマガジン〜 …毎月第2火曜日配信

2021.11 発行

# EPO ESD

環境省中部環境 パートナーシップオフィス (EPO中部)

> 中部地方ESD 活動支援センター





環境省 中部地方環境事務所

# EPO中部/中部地方ESD 活動支援センターの 第6期 (2021年度~2023年度) の目標

アフター・コロナ、地域循環共生圏づくり・SDGs活用が 進みつつある中部エリアにおいて —

新フェーズに対応し、地域が必要とする協働・ESD・SDGsの 実装・実践のための支援と、誰も取り残されないターゲット 設定、EPO機能強化の関係構築に取り組みます。

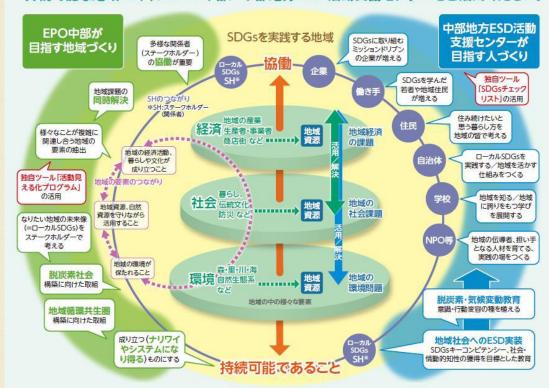
- 方計 地域循環共生圏づくりやSDGs推進の支援にあたり、細やか な個別対応と、他の取組支援等への汎用化を行います。
- ●【個別対応】必要な支援を細やかに汲み上げ、EPO中部独自ツール を活用して、個別の事例に対応した支援を展開します。
- ●【汎用化】これまでの支援内容を整理し、地域循環共生圏とSDGs 推進のためのプログラム化とその実装・実践に取り組みます。
- 方計 SDGs推進・活用で今後重要となる「目標設定」と「評価」について、EPO中部独自ツールや外部団体のSDGs指標ツールを活用するなどして、地域SDGs評価機能の構築に取り組みます。
- 方針 方針1・2の支援や多様なステークホルダーの巻き込みにおい て、次の3つのEPO機能強化に取り組みます。
- ●資金調達に関わる主体(特に金融機関や経済団体等)との関係構築●地域実践者であるEPO中部・協働コーディネーターとの関係強化と新たなネットワークづくり
- ●取り残されがちと指摘される中小の事業者・自治体等をターゲット 設定した支援のあり方検討

#### EPO中部独自ツール



第6期にも新たな独自ツールを構築・公開します。

#### 持続可能な地域づくりにEPO中部/中部地方ESD活動支援センターをご活用ください。



# こんな時はEPOへ

SDGs、地域循環共生圏、協働、ESD、環境教育、人づくり、人材育成などの相談・照会、情報収集、広報協力を行っています。お気軽にご連絡、ご来館ください。

#### ◆相談したい、紹介してほしい

環境、ESD(教育)、SDGs(ローカルSDGs)、地域循環共生圏 づくりなどに関わる相談・照会を受け付けています。

#### ◆情報が知りたい、収集したい

施設内の配架コーナーに多種多様な資料があります。自由に お持ち帰りください。

#### ◆ミーティング・スペースが利用できます

施設内のフリースペースをミーティングや資料閲覧にご利用いただけます。(※ご利用の重複を避けるため、事前に連絡願います。)

#### ◆広報したい、PRしてほしい

ウェブサイトやメルマガなどで、イベントや募集告知、助成金情報などの情報発信を行っています。皆さんが広報したい情報やチラシなども随時、受け付けています。

# (2) 相談対応及び対話の体制の構築に関する業務

# ア 照会・相談対応

- EPO 中部もしくは中部地方 ESD 活動支援センターへの相談に対し、面談打合せや資料・情報収集、マッチング作業、連絡・調整などの対応を行った照会・相談の案件数は、次表の通りである。
- 照会・相談のあった内容、月別件数等については、中部地方環境事務所の所定のフォーマットで毎月報告の提出を行った。
- なお、11月の第2週(8日~12日)には、相談対応からの発展で、なごや環境大学主催の「NISHIKI2 SDGs WEEKs」に企画参加することになり、EPO施設内で SDGs 資料の特設コーナー設置や SDGs ミニ・ワークショップを開催し、計18件(人)の来館があった(来館件数のうちの「その他利用」に分類)。
- ※ いずれも「3月」は3月22日時点で集計を行った。

【照会・相談・打合せ対応件数】 ※123の詳細を次頁以降に整理。

			ア	照会•相談対	対応			イ 対話の	本制の構築
区分	事例件数※1	延べ件数照会・相談対応等の	数※2	2年談・照会、資料配架依頼等	会議利用	収集含む)	等)延べ件数※2等)延べ件数※2	地域活動への招聘	( <b>イ)</b> その他打合せや 地域主体との意見交
4月	10	17	6	4	1	1	11	2	3
5月	4	15	5	2	1	2	10	1	8
6月	4	19	6	1	3	2	13	3	10
7月	2	14	7	2	2	3	7	5	14
8月	4	19	5	1	3	1	14	3	3
9月	6	17	3	0	1	2	14	4	3
10月	5	16	8	3	2	3	8	4	8
11月	2	37	25	0	2	23	12	7	7
12月	3	19	8	1	3	4	11	5	9
1月	7	33	10	0	5	5	23	5	6
2月	5	22	6	3	3	0	16	2	10
3月	0	14	5	0	4	1	9	1	3
計	52	242	94	17 の(スの間の)	30	47	148	<b>42</b>	84

<sup>※1)</sup> 事例件数:最初の連絡から対応終了までの(その間の連絡・打合せ等を含めた)案件ごとにカウントした数となっている。 ※2) 延べ件数:同じ案件・用件での来館、メール・電話等であっても、個別に回数をカウントした数となっている。

#### ①相談に対し(広報協力以外の)支援対応等を行った案件

● 相談に対し、EPO/ESD センターが何らかの支援対応等を行った案件数は下記の通りである。

## 【相談件数の合計、相談方法別件数】

	相談件数・		相談	方法					
	計	電話	メール	来所	その他				
4月	10	5	1	3	1				
5月	4	1	1	1	1				
6 月	4	0	2	1	1				
7月	2	0	1	0	1				

	相談件数・	相談方法				
	計	電話	メール	来所	その他	
8月	4	2	0	1	1	
9月	6	2	0	0	4	
10 月	5	3	1	1	0	
11 月	2	0	2	0	0	
12 月	3	0	1	1	1	
1月	7	5	2	0	0	
2月	5	2	2	1	0	
3 月	0	0	0	0	0	
計	52	20	13	9	10	

# 【相談主体別の相談件数】

						相談主体	の分類					
	学校•教 育機関	大学関係	自治体	その他行 政機関	企業	業界団体 等	NPO• NGO	協同組合	メディア	その他事 業主体	独立行政 法人等	その他
4月	1	1	2	0	1	1	1	1	0	2	0	0
5月	0	1	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0
6月	1	1	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0
7月	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8月	1	0	1	0	1	0	0	0	0	1	0	0
9月	2	0	0	0	2	0	2	0	0	0	0	0
10 月	0	1	3	0	1	0	0	0	0	0	0	0
11 月	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
12 月	0	0	0	1	1	0	1	0	0	0	0	0
1月	1	1	0	1	1	0	2	0	0	1	0	0
2月	1	0	2	0	0	0	1	0	0	1	0	0
3月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	7	6	12	3	7	2	7	1	1	6	0	0

# 【相談に対しEPOが行った支援内容の件数】

K IHW	に入りしてのが引うた文版的各の什数								
				EPO I	よる支援内	容分類			
	SDGs の概 説・事例紹介 等	講師等人材紹介	教材・ツール の紹介・提供 等		その他情報 の提供	ESD・授業等 教育関係の 個別対応	イベント・会 合ほか事業 の企画運営	後援等名義 使用	その他
4 月	1	5	0	0	1	0	3	0	0
5月	0	2	0	0	0	0	1	1	0
6 月	0	1	2	0	1	0	0	0	0
7月	0	0	0	0	0	1	1	0	0
8月	0	0	0	0	2	2	0	0	0
9月	0	4	0	0	1	1	0	0	0
10 月	0	1	1	0	2	0	0	0	1
11 月	0	0	0	0	0	1	0	0	1
12 月	1	1	0	0	0	0	0	0	1
1月	1	1	1	0	0	1	2	0	1
2月	0	4	0	1	0	0	0	0	0
3 月	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	3	19	4	1	7	6	7	1	4

# 【具体の相談内容と EPO による対応内容】

No.	受付日	相談者区分	相談内容	対応内容	事後報告
1	4月1日		・名古屋市事業「SDGs達成の担い手づくり推進事業」の募集があり、学校活動の企画内容について相談したい。	・4/1 に面談しアイデア出しと助言を実施。 ・4/2 に企画書案をメールにて受取、提案を当方より返信。専門家を紹介。 ・4/6 先方より提案を入れた申請内容について情報共有返信あり。	
2	4月2日	企業	・SDGs の登録等はどのように したら行うことができるのか知 りたい。	・4/2 電話で相談があり、SDGs のロゴを用いた事業活動を検討しており、ロゴ使用のために登録が必要であれば登録したい、またその申請先を知りたいとのことであった。登録制度等は自治体が取り組みはじめていること、国等の表彰制度があることなどを紹介した。民間の団体による登録も行われているが、公共性・公認性の有無等は定かではないことをお伝えした。また、国連の SDGs ロゴ公開サイトについて紹介し、営利目的でなければロゴは自由に使用できること、但し、使用規定は必ず確認いただくようお伝えした。・会社の取組の方向性がもう少し具体的になった際には、EPO(ESD センター)に相談したいとのことであった。	
3	4月4日	大学関係	・中津川加子母での植林活動 による学生の学修について企 画内容を相談したい。	・4/4 所内で打合せし、9 月の活動企画内容について助言、講師を紹介。関連資料を講師に送付要請。 ・4/6 打合せに基づき企画メモを作成し先方へ送付。	
4	4月6日	NPO•NGO	・6 月と 7 月に計画している教 員向け干潟体験プログラムで SDGs の話題提供したいので 相談したい。	・4/6 電話にて話題提供者派遣も視野に協力できることを回答。 ・4/7 所内で打合せ。6/5 と 7/27 に職員を派遣。	・コロナの影響で 6/5 は 中止
5	4月7日	その他事業 主体	・名古屋市内の学童保育向け の教育派遣プログラムを紹介 してほしい	・愛知県温暖化防止センターがもっている子供向け○×クイズを行うプログラムを紹介できる。 ・スケジュール調整が必要で、今年度の計画によっては費用がかからない可能性がある。 ・愛知県センターに連絡し情報共有するので今後動きがあればセンターから連絡が行くようにする。	
6	4月9日	自治体	・愛知県ユネスコスクール支援 会議に職員を派遣してほしい。	・4/9ESD 責任者の派遣を承諾。第 1 回 6/8 午後を予定。	
7	4月9日	自治体	・ユネスコスクールなど学校現場に派遣できるような出前授業プログラムを持っている企業団体を教えてほしい。	・4/9 企業であればエネルギー事業者や水処理事業者が出前教室プログラムがあると紹介。 ・その他、愛知県地球温暖化防止活動推進センター、愛知県環境活動推進課所管の環境学習コーディネート事業などの実績に関係団体の記録のあることを情報提供	
8	4月19日	その他事業 主体	・北海道 ESDC の気候変動教育企画コアメンバーに参加してほしい。	・4/19 参加を了承。論点と全体目的の考え方について補足提案をメール送付。	・コアメンバーとして以 後の北海道 ESDC 勉強 会に参加

No.	受付日	相談者区分	相談内容	対応内容	事後報告
9	4月21日	協同組合	・勉強会イベントで共生圏への 支援事例を話してほしい。	・4/21 に本省職員を通して、オンライン開催の勉強会において、中部地方環境事務所の概説後に、EPO による取組支援の事例紹介をしてほしいとの依頼電話があった。 ・4/22 主催者から詳細、及び依頼状をメールで送付いただき、開催日決定についても連絡いただき、7/28(水)開催となった。 ・7/5 に事前打合せを実施し、ワーキング等も EPO ファシリで実施することになった。タイムスケジュール、オンラインホワイトボードなどを EPO で準備する。 ・7/28 学習会に、中部地方環境事務所担当官、EPO スタッフが登壇。	の展望のヒントが得ら
10	4月21日		の整理をする人材を紹介して ほしい	・4/21 に来所。福井県で取り組んでいる再エネ地域づくり関係の補助金が取れた場合、議論整理のファシリテーターを派遣してもらえないかとの依頼。申請が通り話が具体的になったら再度連絡してもらうこととする。	・その後連絡なし
11	5月13日		・あいち環境塾修了生のステップアップ講座の SDGs 地域循環共生圏のセッションを一つ担当してほしい。	<ul> <li>・5/13 に 6/19 午後 2 時間担当枠を了承。後日事務局から連絡があるとのこと。</li> <li>・5/18 事務局よりメールにて依頼あり。了承返信。</li> <li>・6/19 講師派遣。</li> </ul>	
12	5月14日	自治体	・SDGs イベントの後援名義使 用依頼。	・5/14 毎年開催、及び毎年後援している SDGs イベントについて、今年度も後援依頼があり、企画書等を送付いただいた。 ・後日、後援申請の連絡、完成チラシの送付などがあり、EPO・ESDC のウェブサイトで広報協力を行った。	・6/9 キックオフイベント が開催され、EPO も参 加した。
13	5月19日	自治体	・岐阜県の環境学習ポータルサイトの開設に関わる事業者選定プロポーザルの審査員をEPOに依頼したい。	・5/19 に電話で依頼があり、プロポーザル審査員の引き受けが可能であると回答した。現時点では計画段階となっているため、具体的なことを決定した段階で、EPO へ改めて連絡いただくことになった。 ・電話と郵便で正式依頼あり。職員が委員として対応を受諾。 ・8/2 に担当者が来所、内容説明を受ける。 ・8/6 審査会開催。	
14	5月26日	その他行政 機関	・気候変動適応関連事業のセミ調査にユース世代の参加を促したい。	・5/26 に来館いただき、セミ調査事業の詳細を伺ったうえで、各県の温暖化防止活動センターなど関連組織の連携協力を得ること、SNS の活用などを提案した。	
15	6月3日	大学関係	・SDGs チェックリストについて 教えてほしい	・第 5 期の中部地方 ESD 活動支援センター成果として、パッケージであることを説明。 ・これまでのワークショップ活動について紹介。取りまとめた研究成果について紹介。 ・その他のツールとしてガイドシートについても紹介。	
16	6月3日	その他事業 主体	・SDGs チェックリストのワーク シートを使わせてほしい	・公開しているのでお使いくださいと回答。URLを添付。	
17	6月15日		(他の地方センターも)	・背景を含め ESD の現状を解説、メール返信。	
18	6月24日	学校·教育機 関	・SDGsに関わる授業を行って ほしい	・対応を了承、7 月 28 日に訪問打合せ。 ・開催内容と開催日調整、1 月 20 日午前で 2 クラス 2 時限で実施。	

No.	受付日	相談者区分	相談内容	対応内容	事後報告
19	7月1日	自治体	・SDGsまちづくりプロジェクト の説明と連携相談をしたい	・7/14 来訪、意見交換を実施。錦二丁目 SDGsWeek(11/6~19)への参加の打診があり通常業務の中で協力することを回答。 ・8/27 にメールにて参加企画の申込書が届き、内部で企画内容について検討。 ・9/15 に中部地方環境事務所に企画内容、コロナ対策等を確認のうえ、2つの企画参加を申し込んだ。	
20	7月16日	自治体	・岡崎商工会議所で会員向け の SDGs 講座は可能か	<ul> <li>・対応を了承。</li> <li>・7/29 訪問打合せ、3 部会でそれぞれニーズに応じた WS を含むプログラムを実施する。</li> <li>・8/4 建設部会 9 月 13 日 PM 確定</li> <li>・8/5 工業部会 10 月 20 日 PM 確定</li> <li>・コロナ対応もあり日程変更、工業部会と建設部会合同で、10/20 座学、11/1WS で実施</li> </ul>	
21	8月2日		・岐阜県で地域循環共生圏を取り組む補助等を考えているが、国の施策はどのようなものか。	・地域循環共生圏 PF 事業について説明。中部地方環境事務所の環境保全課が窓口になっているので相談することを推奨。必要があれば取り次ぐことも、直接の問い合わせも相談に乗ってくれると情報提供。岐阜県側で今後検討対応。	
22	8月16日	学校·教育機 関	・SDGsに関わる授業を行って ほしい	・対応を了承、10月 20日にオンラインで実施。	
23	8月24日	企業			
24	8月26日	主体	・ゼロカーボンナビゲーター養成講座の実施に当たって 4 回目にナッジの活用について講師をお願いしたい。	<ul><li>・ナッジに詳しい職員が対応する旨返答。</li><li>・1/25 にオンラインで実施。</li></ul>	
25	9月8日	企業		・CO2 算定は省エネ法で経産省が示している計算フォーマットが最もフォーマルと回答。 ・支援するには経産省の省エネ支援メニューの活用を助言。実際にプラットフォーム事業に携わる機関の担当者を紹介。	
26	9月9日	企業	・新城で行う親子向け環境保全講話の講師をお願いしたい。	・10/23 と11/7 の対応を了承	・コロナ対応でツアー中止
27	9月10日	NPO•NGO	・小牧市で行う省エネセミナー に話題提供をしてほしい	・11/17 の対応を了承、講師を派遣	
28	9月13日	NPO•NGO	・愛知県地球温暖化防止活動推進員セミナーのファシリテーターサポートをお願いできないか。	・9/14 のセミナーに推進員に登録している職員派遣を了承	

No.	受付日	相談者区分	相談内容	対応内容	事後報告
29	9月15日	学校·教育機 関	・工業高校のキャリア授業で事業所訪問ができないためオンラインで SDGs 授業をお願いできないか。	・高校生以外に教員、教育委員会スタッフも視聴。	・実施時の動画記録について受領
30	9月22日	学校·教育機 関	・オンライン講座終了後、大学との SDGs に関する交流マッチングは可能かとの相談。	・中部大学に事務局のある RCE 中部を通じて相談してみる旨返答。 ・中部大学、担当教官に相談、結果、アウトリーチイベントとサステナ政策塾をメールで紹介した。	・先方よりサステナ政策 塾参加希望あり、事務 局から連絡するように 大学側に依頼。
31	10月5日	自治体	・日進市で取組を考えているエコ通勤についてソフトやシステムの補助金等はないか	<ul><li>・10/11 に日進市役所で面談、10/12 環境省中部地方環境事務所と情報共有。</li><li>・普及啓発の補助金が有効かとアドバイス。経験豊富な専門家を紹介。</li></ul>	
32	10月13日	自治体	・北名古屋市のごみ処理について意見交換アドバイスお願いしたい。	・法改正対応やごみ袋有料化について意見交換。日進市の事例を紹介。	
33	10月13日	企業	・生物多様性の親子講座を社 に隣接する雑木林で実施する 予定であるが、効果的なやり 方を相談したい。	<ul><li>・10/18 に来所、面談。</li><li>・子ども相手の実例を紹介</li><li>・森と子ども関係の資料、ガイドシートを提供、企画について助言。</li></ul>	
34	10月25日	自治体	市町村の環境学習担当者についての研修会に講師を派遣 してほしい。	・10/26EPO 来所打合せ。 ・1/21 学びを行動につなぐサポートブックを用いて講座と交流 WS を実施。	
35	10月26日	大学関係	・昨年度実施したダイアログの 内容を元に ESD 学会に投稿し たいがよろしいか。公式資料を 送ってほしい。		
36	11月4日	業界団体等	・12 月 4 日開催北陸ユネスコスクール交流会ウェブ開催にあたり環境省 EPO 中部 ESDCとしてご挨拶願えないか	・対応を了承、担当責任者が挨拶予定 ・当日挨拶を実施。交流会に参加。	12/13 お礼と報告の文 書メール配信あり。
37	11月30日	大学関係	・前回の意見交換後、中小企業の SDGs 取組普及方法の検討を続けている。もう一度訪問し意見交換したい。	・対応を了承、12/14、21 で日程を調整 ・12/14 来所 ・企業の SDGs 取組について、調査事例、学生による協働事例について情報提供あり ・当方から商工会議所ワークショップ事例など提供 ・2/19 学生サミットへの参加を検討いただく	・2/19 学生サミット参加 決定
38	12月1日	NPO•NGO	・愛知県地球温暖化防止活動 推進員交流会 WS のファシリ テーターサポートをお願いでき ないか。	・1/28 の交流会に推進員に登録している職員派遣を了承	

No.	受付日	相談者区分	相談内容	対応内容	事後報告
39	12月3日	企業	ントや取組などをすすめる	・担当者不在のため、改めて日程調整、12/13 オンライン面談で対応。 ・12/13 オンライン面談、岐阜県を中心に企業の SDGs 取組ネットワークを来年から構築する。EPO 中部 ESDC となにかできるか。 ・情報提供、企画の相談、講師派遣など対応可能。 ・学習やセミナーなど人づくりを行うのであれば地域 ESD 拠点登録が公的枠組みとして有効とアドバイス。登録検討いただくとのこと。	
40	12月13日	その他行政 機関	づくり、PF 郡上についての勉強会を予定しているため、概説等してほしい。	<ul> <li>・12/13 メールで依頼があり、詳細が決まった際に、日程調整等の連絡をいただくことになった。</li> <li>・1/31 メールで 2/下旬~3/上旬でオンライン1時間の勉強会を調整。</li> <li>・2/10 メールで 3/1 に実施決定の連絡をいただいた。</li> <li>・3/1 に中部地方環境事務所、EPOで地域循環共生圏について計1時間のレクチャーを行った。</li> </ul>	・終了後に御礼メールと感想・質問のメールをいただき、質問への回答を返信した。
41	1月5日	NPO•NGO	・1/28 開催の脱炭素フォーラムで WS をお願いできないか	・企画とファシリテーション実施を了承	
42	1月11日	その他事業 主体	・こども向け SDGs 啓発資料に ついて知りたい。	・1/11 に電話による照会があり、1/18 にメールにより、こども向け SDGs 啓発資料等に関するウェブサイト URL(環境省、国連広報センター、ユニセフ、社団法人、民間企業、リンク集的なまとめサイト等)及び、中部地方 ESD 活動支援センター作成の資料(野外体験ガイドシート、SDGs チェックリスト)をご案内した。	
43	1月17日	学校·教育機 関	・9 月に実施したオンライン SDGs セミナーワークショップを 生徒と NPO メンバーの参加で 実施してもらえないか。	・対応を了承。日程を調整。2 月 18 日を提案。NPO と調整の上メールで返信をもらう予定。 ・1/24 メール返信 2 月 18 日(金)13:00~14:10 で実施。 ・2/9 メール調整時間を 11:00~12:10 に変更	
44	1月24日	NPO•NGO	・公益財団法人全国子ども会連合会が 2022/10/29(土)30(日)に長野市で予定している「全国子ども会育成中央会議・研究大会」の開催に係り助言が欲しいので対応してもらえないか	・対応を了解。 ・2/23 北海道子ども会育成連合会の担当者からメール連絡あり。	
45	1月26日	大学関係	・中小企業の SDGs 取組普及 方法について再度訪問し意見 交換したい。	・対応を了承、2/15 来訪で調整。 ・1/31 別件でオンライン打合せ時に追加の依頼。2/15 午後来訪、SDGs や関連分野の研究紹介をしてほしいとのこと。対応を準備する。 ・来訪時にローカル SDGs 普及の取組を中心に紹介。意見交換を行った。	
46	1月27日	企業		・事例紹介などの意見交換の機会を 2 月 17 日 13:00~来訪予定で設定。 ・当日担当者 4 人が来訪。事業者の SDGs 取組について普及を図る上での様々な問題について意見 交換。ESD 拠点登録も紹介。今後とも情報交換をしていくこととする。	

No.	受付日	相談者区分	相談内容	対応内容	事後報告
47	1月29日	その他行政 機関		・オンライン面談では、研修事業の内容の説明を受けるとともに、仕様や業者選定方法について助言を求められる。	
48	2月2日	NPO∙NGO	・団体の 10 周年に向けて新しい取組をはじめたいため、活動エリアの2級河川の護岸工	・2/2 に来館して相談をうける。専門家、事例についてすぐに提供できる情報はないが、もう少し詳しいことが決まった段階で、最後来館、相談いただけることになった。	
49	2月4日	学校•教育機 関	・岐阜県関市小学校校から ESD の研修会講師を紹介いた だけないか	・専門家を紹介。当該小学校担当に連絡。	
50	2月8日	自治体	・7 月上旬に開催する愛知県環境管理推進員を対象とした研修会の講師を紹介いただきたい。テーマは環境マネジメントシステム構築で得られる効果、環境管理推進員が興味を持ってもらえそうなもの、SDGなどを検討している(テーマは確定しているわけではない)。	・2/8 に電話による照会有り。同日、環境マネジメントシステム構築及び SDGs 関連における候補者を各 1 名挙げ、より具体的なテーマが決まればその分野でご紹介できる旨回答した。	
51	2月9日	その他事業主体		・2/9にメールで問い合わせがあり、地域循環共生圏づくりの支援や事例であれば紹介できる旨を返信したところ、3 月初中旬での会合開催を調整することになった。・事務局からメールで 3/16 開催の連絡あり。中部地方環境事務所と登壇。	
52	2月16日	自治体	・来年度事業のプロポーザルで選考委員をお願いしたい。	・2/21 に来訪の上詳細を説明を受けることで調整。 ・当日来訪、2 件のプロポーザル案件(SDGs まちづくり、木材循環普及啓発)について選考委員依頼内 容について説明を受ける。依頼を受諾。	

# ②来館による相談・照会、資料配架依頼等

月	件数	相談・問合せ内容
4月	4件	・大学から学生の学修についての企画内容相談 ・NPO から干潟関連事業についての相談 ・公益財団法人から SDGs 事業についての相談 ・再エネ導入に関する人材紹介の相談
5 月	2 件	・大学から学生の学修についての企画内容相談 ・環境省事業への参加促進についての相談
6 月	1件	・SDGs チェックリストについて説明・相談
7月	2件	・ESD に関する相談 ・自治体と事業企画について打合せ
8月	1件	・県による環境学習ポータルサイトの開設に関わる事業者選定審査委員についての打合せ
9月	0件	_
10 月	3 件	・自治体とごみ処理に関する意見交換 ・企業から生物多様性の出前講座に関する相談 ・自治体から環境学習事業に関する説明会開催に関する相談
11 月	0 件	_
12 月	1件	・大学と企業用 SDGs 資料の企画に関する相談
1月	0件	_
2月	3 件	・NPO から河川環境保全活動の事例・専門家についての紹介相談と SDGs に関わる情報交換・金融機関から SDGs 取組普及の連携に関する相談・自治体からプロポーザル案件の選考委員依頼に関する相談
3 月	0 件	_
計	17 件	

# ③メール・電話による相談、問合せ、広報依頼等

<u> </u>		501~6010次、四日に、四秋以後寺
月	件数	相談・問合せ内容
		・企業から SDGs の認証・登録制度について問合せの電話
		・一般の方からレジ袋・マイバッグ等の有料化に対する意見等の電話
		・一般の方から地球温暖化に関する会合のご案内  「我などごね」といる。から、CDC。 独独会議僚についての場合は語の電話
		・稲永ビジターセンターから SDGs 勉強会講師についての照会依頼の電話 ・一般の方から運送会社の騒音について対応を求める電話
4月	11 件	・市民講座で使用する SDGs 資料の提供依頼の電話
4 /1	11 1+	・自治体からユネスコスクールに関する電話
		・一般の方から自治体の環境問題について問合せの電話
		・一般の方がら自治体の環境问題について同古せの電話・一般の方から浄化槽に関わる法令改正について問合せの電話
		・生協生活クラブの行事で共生圏(PF事業の支援)について話してほしいとの電話依頼
		・GW 中の EPO の開館日についての問合せの電話
		・PFからの今後の展開の報告・相談
		・ツールの広報依頼のメール
		・6/26 飯山ミーティングについての問合せ電話
		・SDGs イベントの後援依頼のメール・電話
		・自治体からプロポーザル(環境学習関連)の審査員依頼について相談の電話
5月	10 件	・気候変動イベントに関するユースへの呼びかけについての相談メール
		・SDGs チェックリストの話をうかがいたい(訪問希望)の電話/メール
		・自治体後援のイベント広報協力について確認の電話
		・協働コーディネーターから情報交換の依頼メール
		・ESD 拠点団体から事業広報の依頼メール
		・NPO から事業広報依頼のメール
		・公益財団法人からメルマガへの記事掲載依頼のメール
		・公益財団法人からメルマガ掲載記事修正依頼のメール
6月	13 件	・NPO から助成事業についてメルマガ掲載依頼のメール
0 73	13 1	・GEOC から助成金についての広報協力依頼メール
		・NPO から事業開催日程について相談のメール
		・環境に関する軽犯罪に対する意見の電話
		・中学校における ESD の現状について問合せのメール

月	件数	相談・問合せ内容
		・自治体から事業広報協力依頼のメール
		・NPO からイベント広報協力依頼のメール
		・企業から訪問希望の電話  ・大学教員から環境施策の情報提供依頼等のメール
		・八子教員から環境他来の情報提供依頼寺のメール  ・NPO から募集情報について広報依頼のメール
		・自然学校から講座募集について広報依頼のメール
		・NPOからイベント広報協力依頼についてのメール
		・一般社団法人から地域循環共生圏 PF 事業について問合せの電話
7月	7件	・ESD コンソーシアム団体から協議会委員の委嘱依頼
		・公益財団法人から助成事業広報協力についての依頼メール
		・運営委員から ESD ダイアログについての問合せ電話
		・大学教授(元環境省職員)から 7/13 開催・地域循環共生圏勉強会について問合せの電話
		・企業による助成金プログラムの広報協力メール
		・ESD 拠点からワークショップ案内のメール  ・勉強会で使用する SDGs の配布用資料 50 部の提供依頼の電話
		・惣独会で使用する SDGS の配布用負料 30 部の提供依頼の電品  ・EPO ミーティングスペース使用申込の電話
		・セミナーの広報協力依頼のメール
8月	14 件	・EPO ウェブサイトのリニューアルについての問合せ電話
		・なごや環境デーの開催方法変更についての連絡
		・主催イベント申込について問合せの電話
		・地域 ESD 拠点登録についての問合せメール
		・企業からグリーン調達について問合せ・相談の電話
		・主催イベント申込について問合せの電話(4件)
		・主催イベント申込について問合せの電話(3 件) ・イベント広報協力依頼についてのメール
		・イベント広報励力依頼についてのメール  ・社会福祉法人から助成金説明会告知依頼のメール
		・公益財団法人から助成金募集の広報依頼のメール
		・企業から SDGs の取組に関して問合せの電話
0 -	1 A I#	・基盤強化:飯山ミーティング登壇者からのフォーラムの広報協力依頼メール
9月	14 件	・自治体から連携している高校への SDGs に関する授業依頼について問合せの電話
		・高校から授業依頼についての電話
		・高校から SDGs 講義の日程変更依頼の電話
		・高校からウェブ授業の進行等についての電話
		・NPO から事業の参加募集について広報依頼のメール ・本省計画課から PF 意見交換会についての問合せの電話
		・自治体から後援名義依頼のメール
		- 日本体がも後援行義は残びが、ル - 公益社団法人から催事の広報依頼のメール
		・環境基金説明会の申込方法に関する問合せの電話
10 月	8 件	・環境基金説明会の申込に関する問合せの電話(2件)
		・公益財団法人から催事のメルマガ掲載依頼のメール
		・自治体から環境学習事業に関する説明会講師紹介について相談の電話
		・公益財団法人から主催フォーラムの広報協力の依頼メール
		・NPO から事業告知協力依頼のメール
		・公益財団法人から掲載画像差替依頼のメール  ・大学から催事の広報協力について問合せの電話
		・大学から惟事の仏報協力について問合せの電話  ・アスベストに関する相談について問合せの電話
		・アスペストに関する相談について同古せの電話  ・高校から SDGs に関する出前講座について相談の電話
	40	・大学から催事の広報協力依頼のメール
11 月	12 件	・自治体から催事の広報協力依頼の電話
		・主催イベント参加申込について問合せの電話
		・自治体からイベント広報協力についての問合せの電話
		・中部地方環境事務所から中部の適応事例についての問合せ
		・大学研究者から SDGs 資料の企画・作成に関する相談(訪問希望)のメール
		・大学生からの ESD ネットワークフォーラムへの参加表明連絡
		・企業同士の収益事業についてのマッチングの相談の電話 ・コロナワクチンに関する問合せの電話
		・コロアワクチンに関する向台せの電話  ・企業から SDGs・脱炭素を進めるためのパートナーシップ構築について相談の電話
12 月	11 件	・企業から 3003・抗灰紫を進めるためのパードナーフック構業に りいて相談の電品  ・企業から相談(面談)日程調整のメール
		- 企業から相談、自機調整のプログライン - 企業から再エネに関する情報交換のための訪問についてのメール
		・錦 SDGs WEEKS の企画協力者アンケートの回答依頼メール

月	件数	相談・問合せ内容
		・大学及び団体から SDGs チェックリストについての情報提供依頼のメール
		・信越自然環境事務所から広報協力依頼のメール
		・地域 ESD 拠点から広報協力(チラシ差し替え)の依頼メール
		・ERCA から活動団体調査イベントの広報協力依頼の電話
		・信越自然環境事務所から広報協力依頼(原稿提供)のメール
		・独立行政法人から事業広報協力のメール
		・自治体から環境省事業(グッドライフアワード)に関する問合せの電話
		・自治体から研修会について確認の電話
		・公益財団法人から事業の後援名義依頼の電話
		・学校から出前授業について問合せの電話
		・NPO 法人から子ども向け SDGs の啓発資料について問合せの電話
		・環境財団からインターンシップ受入れについての電話
		・財団から後援名義申請についての説明の電話
		・環境財団からインターンシップ制度についての確認の電話
1月	23 件	・高校から SDGs の講演に関する日程相談の電話
' '	23 1+	・自治体から EPO 主催セミナーについて問合せの電話
		・自治体から EPO 主催セミナーについて問合せの電話(3 件)
		・公益財団法人からイベント広報協力依頼のメール
		・協働コーディネーターから打合せ日程変更についての電話・メール
		・一般の方からゴミについて問合せの電話
		・環境省事業に関する問合せの電話・メール(2 件)
		·SDGs 広報資料に関する意見交換と相談についてのメール
		・企業から SDGs 関連における連携・協力について相談の電話
		・再生可能エネルギーのオンライン研修の相談についてのメール
		・行政機関から地域循環共生圏の勉強会について相談のメール
		・自治体から ESD フォーラムの広報掲載の可否について電話で問合せ
		・一般の方から不法投棄について問合せの電話
		・企業から開催イベント・施設について問合せの電話
		・大学から市民講座用資料の送付要望についてのメール
		・公益財団法人から環境講座の講師依頼についてのメール
		・全国センターから ESD 講師派遣依頼についてのメール
		・商工会議所から地域循環共生圏プラットフォーム事業について問合せの電話
2月	16 件	・自治体から研修会の講師紹介について問合せの電話
- /,		・ゼロカーボン協議会から登壇依頼のメール
		・ゼロカーボン協議会から登壇の日程調整のメール
		・財務事務所から勉強会登壇の日程決定の連絡メール
		・財務局から催事登壇者調整についての電話
		・自治体から SDGs 関連事業(プロポーザル)の評価について相談の電話
		・企業から助成金情報について広報協力依頼のメール
		・一般社団法人から ESD プログラムへの協力に関する相談のメール
		・一般社団法人から ESD 関連催事の企画等に関する相談のメール
		・自治体から事業者選定委員への招聘についての電話連絡
		・本省から PF 事業についての問合せ電話
		・自治体から事業評価委員の就任に関するメール
	0.44	・ユネスコエコパークからイベント記事についての問合せ電話・メール
3 月	9件	・独立行政法人からシンポジウムの広報協力依頼の電話・メール
		・脱炭素勉強会の資料提供の依頼メール
		・自治体から登録内容確認についてのメール
		・自治体からプロポ審査依頼についての電話
		・イベントの広報協力依頼方法についての問合せ電話
計	148 件	

# イ 対話の体制の構築

# (ア) 会議・セミナー等地域活動への招聘

- EPO 中部/中部地方 ESD 活動支援センターが自治体・団体等から招聘された会議等は次表の通りである。
- 会議出席のほか、講師としての登壇など、関係主体の依頼に対し適宜対応した

	県区分	開催日	依頼主体等	依頼事業の名称	招聘内容	謝金
1	愛知	4月13日	「なごや環境デー」実行委員会	「なごや環境デー」実行委員会	委員	あり
2	愛知	4月15日	(協)豊田市鉄工会	第172回経営研究会 地道に実践! 社内の省エネ活動のすすめ	講師	あり
3	愛知	5月26日	大府市石ヶ瀬会館	SDGs時代の私たちの暮らし方~様々なことにSDGsは繋がっている~	講師	あり
4	愛知	6月8日	愛知県教育委員会	ユネスコスクール支援会議	委員	あり
5	北海道	6月9日	北海道 ESD 活動支援センター	気候教育プロジェクト意見交換	プロジェクトメン バー	なし
6	愛知	6月19日	愛知県環境局資源循環推進課	あいち環境塾修了生のステップアップ講 座	講師	あり
7	石川	7月16日	石川県ユネスコ協会	北陸 ESD 推進連絡協議会	委員	なし
8	愛知	7月27日	藤前干潟ふれあい事業実行委員 会	藤前干潟教員向けプログラム	講師	あり
9	長野	7月28日	ぐるっと長野地域協議会	ぐるっと長野地域協議会学習会	講師、WS の企 画・進行	なし
10	北海道	7月30日	北海道 ESD 活動支援センター	気候教育プロジェクト意見交換	プロジェクトメン バー	なし
11	愛知	7月30日	中部 ESD 拠点協議会(RCE 中部)	第 14 回中部 ESD拠点協議会総会(書面会議)	会員	なし
12	愛知	8月3日	愛知県地球温暖化防止活動推進 センター	令和 3 年度第 1 回愛知県地球温暖化 防止活動連絡調整会議	参加メンバー	なし
13	岐阜	8月6日	岐阜県環境生活部環境企画課	「岐阜県環境学習ポータルサイト構築及 び運用ならびに保守等委託業務」プロポーザル評価会議	会議の構成員	あり
14	長野	8月28日	信州 ESD コンソーシアム	【ご案内】信州 ESD コンソーシアム 令和3年度通常総会	会員	なし
15	愛知	9月1日	東海学園大学	集中講義「ともいきの森から SDGs を考える」	講師	あり
16	愛知	9月14日	愛知県温暖化防止活動推進セン ター	愛知県地球温暖化防止活動推進員セミ ナー	ファシリテーター 支援	なし
17	三重	9月21日	桑名工業高校	SDGs オンライン講座	講師	なし
18	三重	9月22日	桑名工業高校	SDGs オンライン講座	講師	なし
19	愛知	10月14日	名古屋市立山田東中学校	教職員向け SDGsセミナー	講師	あり
20	石川	10月18日	石川県ユネスコ協会	第2回北陸 ESD 推進連絡協議会(オンライン)	委員	なし
21	愛知	10月20日	日進市立東小学校 4 年	SDGs 授業	講師	なし
22	愛知	10月20日	岡崎商工会議所工業建設部会合 同	工業部会建設部会合同 10 月例会パート1	講師	あり
23	愛知	11月1日	岡崎商工会議所工業建設部会合 同	工業部会建設部会合同 10 月例会パート2	講師	あり
24	愛知	11月8日	なごや環境大学	NISHIKI2 SDGs WEEKs (SDGs 特設コーナー案内、SDGs チェックリスト活用ミニ・ワークショップ)	企画参加	なし
25	愛知	11月2日	名古屋市立山田東中学校	中学生向け SDGsワークショップ	講師	あり
26	愛知	11月11日	名古屋市立山田東中学校	中学生向け SDGsワークショップ	講師	あり
27	愛知	11月17日	愛知県地球温暖化防止活動推進 センター、小牧市 環境対策課・ 商工振興課	事業所向け省エネセミナー・SDGs時代 の事業所における気候危機対策	話題提供、個別 相談対応	あり

	県区分	開催日	依頼主体等	依頼事業の名称	招聘内容	謝金
28	石川	11月17日	のと共栄信用金庫(ななお SDGs コンソーシアム)	能登 SDGs 市民大学	講師	なし
29	愛知	11月30日	名古屋市立上野小学校トワイライ トスクール	子ども省エネ教室	講師	あり
30	石川	12月4日	北陸 ESD 推進コンソーシアム	北陸ユネスコスクール交流会	来賓挨拶、参加	なし
31	愛知	12月7日	名古屋市立山田東中学校	中学生向け SDGsワークショップ	講師	あり
32	愛知	12月14日	名古屋市立上野小学校トワイライ トスクール	子ども省エネ教室	講師	あり
33	愛知	12月17日	愛知県教育委員会	ユネスコスクール支援会議	委員	あり
34	長野	12月19日	日本環境教育学会中部支部	日本環境教育学会中部支部	活動発表	なし
35	愛知	1月20日	名古屋市立楠西小学校	SDGs子ども教室	講師	あり
36	愛知	1月21日	愛知県環境活動推進課	環境学習等行動計画普及定着事業 市 町村向け研修	講師	あり
37	石川	1月24日	北陸 ESD 推進コンソーシアム	第3回北陸 ESD 推進連絡協議会	会議メンバー	なし
38	長野	1月25日	長野県地球温暖化防止活動推進 センター	ゼロカーボンナビゲーター養成講座【伝 え方】ナッジの活用	講師	あり
39	愛知	1月28日	愛知県地球温暖化防止活動推進 センター	気候危機対策交流フォーラム	ファシリテーター	あり
40	愛知	2月11日	中部 ESD 拠点協議会	中部 ESD 拠点「SDGs フォーラム 2022」	活動発表	なし
41	三重	2月18日	桑名工業高校	SDGsオンライン講座	講師	あり
42	岐阜	3月1日	岐阜財務事務所	GIFU-MOF会(岐阜財務事務所若手 勉強会)	講師	なし

# (イ) そのほか打合せや地域主体との意見交換会等の実施

● セミナー・フォーラム等の主催行事を実施する際には、関係自治体や関係団体等を訪問し、 意見交換・情報交換等を行った。

	県区分	実施日	打合せ主体(担当組織・部署)	同席者等	方法	実施内容
1	中部	4月15日	白山自然保護官事務所、信越自 然環境事務所	中部地方環境事務所 環境対策課	オンライン	・森里川海業務の今年度実施 エリアについての相談 ・EPO 主催イベント等への協 力依頼
2	岐阜	4月20日	郡上市地域循環共生圏協議会	中部地方環境事務所、 郡上市、アールエ北陸	オンライン	第1回事務局打合せ
3	三重	4月20日	伊勢志摩国立公園管理事務所	中部地方環境事務所 環境対策課	オンライン	・EPO 主催イベントへの協力 依頼
4	中部	5月6日	SDGs 社会教育(社会 ESD)研究会	_	オンライン	<ul><li>・ESDC 分科会 WB 顔合わせ</li></ul>
5	岐阜	5月17日	白川郷まるごと体験協議会(トヨ タ白川郷自然學校)	_	面談	・森里川海業務の実施意向に ついて打合せ
6	福井	5月20日	ローカルSDクリエーション	_	面談	・地域循環共生圏イベント開催の可能性打診
7	富山	5月20日	(一社)立山黒部ジオパーク協会	_	面談	・ESD ダイアログホスト受け入れ打診
8	福井	5月21日	勝山市ジオパークまちづくり課	_	面談	・ESD ダイアログ連携参加打 診
9	福井	5月21日	勝山市教育委員会事務局	_	面談	・地域 ESD拠点登録御礼
10	石川	5月21日	白山市ジオパーク・エコパーク推 進課	_	面談	・ESD ダイアログ連携参加打 診
11	石川	5月21日	白山市ジオパーク・エコパーク推 進課	_	面談	・森里川海業務ニーズ聞取 り、連携打診
12	岐阜	6月7日	郡上市地域循環共生圏協議会	アールエ北陸	面談	PF 事業の今後の進め方等に ついて打合せ

	県区分	実施日	打合せ主体(担当組織・部署)	同席者等	方法	実施内容
13	_	6月9日	北海道 ESDC	_	オンライン	・北海道 ESDC 分科会打合せ 参加
14	愛知	6月9日	なごや環境大学 (SDGs まちづくりプロジェクト in 錦二丁目キックオフセミナー事 務局)	_	オンライン	・後援した SDGs まちづくりプロジェクト in 錦二丁目キックオフセミナーに参加
15	中部		環境教育学会中部支部	_	オンライン	・オンライン総会、交流会参加
16	富山		(一社)立山黒部ジオパーク協会	_	面談	・ESD ダイアログホスト打合せ
17	富山	6月17日	PEC とやま	_	面談	・ESDC 分科会打ち合わせ
18	石川	6月18日	のと共栄信用金庫	本省金融室、中部地方 環境事務所環境対策 課	面談	PF 事業の今後の進め方等に ついて打合せ
19	-	6月21日	(一社)日本ファンドレイジング協 会	_	面談	・協働コーディネーター、中部の PF 事業、地域循環共生圏づくりの動向等について情報交換
20	長野	6月26日	長野財務事務所、いいやまコ ミュニティカレッジ、里山ウェルネ ス研究会	_	オンライン	・飯山における SDGs の連携・協力の可能性について打合せ
21	長野	6月30日	小布施スマートテロワール	パシフィックコンサルタンツ、環境省本省計画 課、中部地方環境事務 所環境対策課	オンライン	<ul><li>事業化支援キックオフミー ティング、オブザーバー参加</li></ul>
22	愛知	7月3日	名古屋市立山田東中学校		面談	・SDGs達成の担い手づくり推 進事業の運営について相談
23	長野	7月5日	生活クラブ事業連合生活協同組 合連合会	環境計画課、中部地 方環境事務所	オンライン	・7/28 ぐるっと長野勉強会の 事前打合せ
24	福井	7月7日	WAC おばま		面談	・協働コーディネーター事業 の計画等、第 1 回 WS9 月 13 日 18:30~
25	石川	7月9日	白山市ジオパーク・エコパーク 推進課	_	面談	・森里川海業務会合について の打合せ
26	長野	7月10日	長野 NPO センター		オンライン	・7 月 13 日開催のオンラインフォーラム事前打合せ
27	愛知	7月12日	RCE 中部		その他	・第 2 回サステナ政策塾オブ ザーバー参加
28	愛知	7月14日	名古屋市環境企画課	_	面談	·錦二丁目 SDGsWeek への EPO 参画について打合せ
29	岐阜	7月14日	岐阜財務事務所	中部地方環境事務所	面談	・PF 事業についての情報交換
30		7月14日	北海道 ESDC		オンライン	·第1回気候変動教育勉強 会参加
31	愛知	7月20日	名古屋市立山田東中学校		面談	・SDGs達成の担い手づくり推 進事業プロジェクト計画調整 打合せ
32	岐阜	7月26日	郡上市地域循環共生圏協議会	アールエ北陸、郡上市 企画財政課、中部地 方環境事務所	面談	DMO による取組状況等の情報共有、PF 事業の今後の進め方について確認
33	_	7月26日	北海道 ESDC		オンライン	·第2回気候変動教育勉強 会参加
34	愛知	7月28日	名古屋市立楠西小学校		面談	・SDGs 出前授業の打合せ(1 月 20 日)
35	愛知	7月29日	岡崎商工会議所		面談	・SDGs 講座の開催につい て、打合せ
36	岐阜	8月2日	岐阜県環境企画課		面談	・環境学習ポータルサイトの 開設に関わる事業者選定審 査について打合せ
37	福井	8月5日	SD クリエーション/EPO 中部・ 協働コーディネーター		面談	協働コーディネーター連携 フォーラム業務について打合 せ

	県区分	実施日	打合せ主体(担当組織・部署)	同席者等	方法	実施内容
38	長野	8月25日	小布施スマートテロワール	パシフィックコンサルタンツ、環境省本省計画課、中部地方環境事務所環境対策課	オンライン	・PF 事業の事業化支援打合 せ
39	石川	9月21日	のと共栄信用金庫	本省金融室、中部地 方環境事務所環境対 策課	オンライン	・PF 意見交換会についての 打合せ
40	石川	9月29日	のと共栄信用金庫	のと SDGs コンソーシ アム	現地出席	・PF 意見交換会の運営・出 席
41	富山	9月30日	PEC とやま	SDGs 社会教育研究 ワーキング委員	その他	・SDGs 社会教育~10/30 実 践セミナーの現地機材リハ (六渡寺海岸)
42	富山	10月1日	(一社)立山黒部ジオパーク協 会		面談	・11/13-14ESD ダイアログの 打合せ
43	愛知	10月5日	日進市立東小学校	環境創造研究センター	面談	・10/20SDGs 出前教室打合 せ
44	福井	10月8日	越前市産業環境部		面談	・11/20 共生圏フォーラムの 後援依頼の打合せ
45	福井	10月8日	越前市エコビレッジ交流セン ター、さかのくち活性化協議会	合同会社ローカル SD	面談	・11/20 共生圏フォーラムの 登壇の打合せ
46	福井	10月8日	エコ・グリーンツーリズム水の里 しらやま	クリエーション(EPO 中 部・協働コーディネー	面談	・11/20 共生圏フォーラムの 登壇の打合せ
47	福井	10月8日	福井県安全環境部	ター)	面談	・11/20 共生圏フォーラムの 後援依頼の打合せ
48	石川	10月16日	のと共栄信用金庫		現地出席	・ななお SDGs コンソーシアム の設立式への出席
49	岐阜	10月19日	郡上市地域循環共生圏協議会/ 郡上市アウトドア事業者協議会		オンライン	・11/10 意見交換会について の打合せ
50	福井	11月2日	福井県里山里湖海研究所	合同会社ローカル SD クリエーション(EPO 中 部・協働コーディネー ター)	面談	・11/20 共生圏フォーラムの 登壇の打合せ
51	石川	11月2日	白山市ジオパーク・エコパーク 推進課		面談	・3/2-3 森里川海会合の企画 打合せ
52	岐阜	11月6日	郡上市地域循環共生圏協議会		現地見学	<ul><li>・郡上市アウトドアウィークへの PF 郡上の出展の様子を見学</li></ul>
53	岐阜	11月10日	郡上市地域循環共生圏協議会/ 郡上市アウトドア事業者協議会		現地出席	・PF 意見交換会の運営・出 席
54	福井	11月25日	WAC おばま、小浜市(未来創造課、環境衛生課、商工観光課)、 小浜商工会議所		面談	・基盤強化会合についての打合せ
55	_	11月26日	GEOC		面談	・PF 事業についての情報交換
56	中部	11月26日	中部カンファレンス		オンライン	・中部カンファレンスを聴講
57	岐阜	12月1日	郡上市地域循環共生圏協議会		オンライン	・PS 基盤強化会合、今後の PF 事業についての打合せ
58	岐阜	12月13日	三承工業		オンライン	・SDGs 取組の意見交換
59	_	12月14日	専修大学商学部		面談	・SDGs 取組の意見交換
60	愛知	12月15日	豊田市未来都市推進課		現地面談	・学生サミット自治体 SDGs 取組発表依頼
61	-	12月16日	(一社)日本ファンドレイジング協 会		面談	・EPO 中部・協働コーディネー ターとの情報交換
62	北陸	12月21日	北陸財務局	中部地方環境事務所	オンライン	・PS 基盤強化の北陸3会合 についての説明と登壇依頼 の打合せ
63	岐阜	12月22日	岐阜市未来創造研究室		現地面談	・学生サミット自治体 SDGs 取組発表依頼

	県区分	実施日	打合せ主体(担当組織・部署)	同席者等	方法	実施内容
64	石川	12月24日	ななお SDGs スイッチ	中部地方環境事務所	オンライン	・PF 事業についての今後の 展開についての情報共有打 合せ
65	愛知	12月27日	豊田市未来都市推進課		現地面談	・学生サミット自治体 SDGs 取組発表打合せ
66	石川	1月6日	珠洲市		面談	・学生サミット自治体 SDGs 取組発表打合せ
67	愛知	1月20日	名古屋市立大学三浦研学生 G		オンライン	・学生サミット学生グループ事前打合せ
68	岐阜	1月22日	岐阜大学環境サークル G- amet		オンライン	・学生サミット学生グループ事前打合せ
69	長野	1月27日	松本大学田開研学生G		オンライン	・学生サミット学生グループ事前打合せ
70	愛知	1月31日	中京大学草薙研学生G		オンライン	・学生サミット学生グループ事前打合せ
71	1	1月31日	専修大学岩男研、大崎研学生G		オンライン	・学生サミット学生グループ事前打合せ
72	石川	2月1日	金沢星稜大学新研学生G		オンライン	・学生サミット学生グループ事前打合せ
73	石川	2月2日	JAICA 北陸		オンライン	・再エネ講座開催企画の相談 打合せ
74	愛知	2月3日	中部大学エコマネーチーム		オンライン	・学生サミット学生グループ事前打合せ
75	愛知	2月7日	日本福祉大学学生 G		オンライン	・学生サミット学生グループ事前打合せ
76	1	2月15日	専修大学岩尾、大崎研		面談	・ローカル SDGs 普及に向けた EPO 中部 ESDC の取組、 研究紹介と意見交換
77	重	2月17日	百五銀行ソリューション営業部コ ンサルティング課		面談	・取引先の事業所の SDGs 取 組の普及についての意見交 換
78	愛知	2月21日	名古屋市環境政策課		面談	・次年度名古屋市事業プロポ 評価委員依頼
79	長野	2月21日	長野 NPO センター		オンライン	・ワークショップ開催打ち合わせ
80	愛知	2月22日	名古屋市立山田東中学校		面談	・SDGs達成の担い手づくり推 進事業プロジェクト計画報告 意見交換
81	長野	2月22日	長野 NPO センター		オンライン	・ワークショップ開催打ち合わせ
82	長野	3月1日	北海道子ども会育成連合会		オンライン	・全国子ども会育成中央会議・研究大会分科会企画について意見交換アドバイス
83	富山	3月4日	立山黒部ジオパーク協会		オンライン	・ダイアログ開催後の行動変 容についてのヒヤリング
84	愛知	3月8日	中部大学共同利用共同研究所		オンライン	・学生サミット事例に基づく研究発表

# ウ 定例報告

● 前項の対話の構築等に関わる EPO 中部が関わる審議会・委員会・検討会・会議等(他の団体が主体のもの)への出席状況や相談対応状況のほか、EPO 施設の運営・利用状況については、毎月、所定の書式で中部地方環境事務所へ提出、報告を行った。

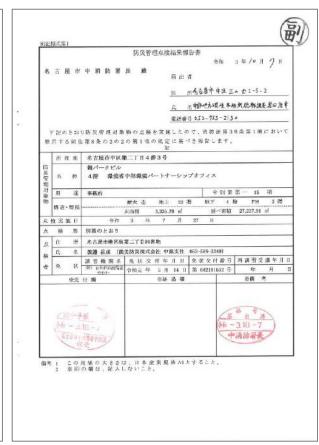
# (3) 施設の維持・管理

# ア オフィスの防火・防災管理及び解錠・施錠管理

- 防火・防災管理については、法規定に則り、2018 年度に常勤スタッフが「防火・防災管理者」講習を受講した上で消防計画書等を作成の上、管轄消防署への届出を行った。
- 防火・防災に関わる身のまわりのチェックを定期的(週2回程度)に実施しているほか、 7月27日にはビル内一斉の防火・防災検査が実施され、ビル管理会社を通して、中部地方 環境事務所による記名済みの検査結果書類を9月3日付で消防署へ提出した。
- いずれの関係書類等も「防火管理台帳」による保管を行っており、また、各種届出等関係 書類は、中部地方環境事務所へも提示・確認を行った。

## 【提出した防火・防災検査報告書】





# イ 施設・設備の維持管理

● 当施設の今期の来館件数とメール・電話による問合せ件数の合計は次の通りであった。

# 【施設の運用状況・使用状況等】

	業務実施 日数·計	開館日数・	来館者数•計(人)		来館件	来館件数•計		メール・電話による問合せ件数(件)		スタッフ体制・計	
	(日)	計(日)		日平均		日平均		日平均		日平均	
	(1)			(人/日)		(人/日)		(件/日)		(人/日)	
4月	21	21	15	0. 7	6	0. 3	11	0. 5	65	3. 1	
5月	18	18	7	0. 4	5	0. 3	10	0. 6	66	3. 7	
6 月	24	22	10	0. 5	6	0. 3	13	0. 6	76	3. 2	
7月	23	21	10	0. 5	7	0. 3	8	0. 4	77	3. 3	
8月	19	17	9	0. 5	5	0. 3	14	0.8	54	2. 8	
9月	22	20	4	0. 2	3	0. 2	14	0. 7	69	3. 1	
10 月	23	21	15	0. 7	8	0. 4	8	0. 4	71	3. 1	
11 月	23	20	28	1.4	25	1. 3	12	0. 6	68	3. 0	
12 月	23	18	14	0.8	8	0.4	11	0.6	69	3. 0	
1月	21	19	14	0. 7	10	0. 5	23	1. 2	62	3. 0	
2月	21	18	14	0.8	6	0.3	16	0. 9	79	3.8	
3 月	14	14	7	0. 5	5	0.4	9	0.6	48	3. 4	
計	252	229	147	0. 6	94	0.4	149	0. 7	804	3. 5	

<sup>※「3</sup>月」は3月22日時点で集計を行った数値。

# (参考) 前年度・2020年度の実績

	業務実施日	開館日数・	開館日数・		来館件数・計		メール・電話による問合せ件数(件)		スタッフ体制・計	
	数•計(日)	計(日)		日平均		日平均		日平均		日平均
				(人/日)		(人/日)		(件/日)		(人/日)
4 月	22	21	4	0. 2	3	0. 1	18	0. 9	63	2. 6
5月	18	18	6	0. 3	2	0. 1	16	0. 9	61	2. 5
6月	22	22	15	0. 7	10	0. 5	23	1.0	72	2. 0
7月	22	21	16	0.8	10	0. 5	28	1. 3	61	2. 2
8月	21	17	16	0. 9	5	0. 3	12	0.8	55	2. 0
9月	24	20	23	1. 2	10	0. 5	25	1. 3	67	2. 4
10 月	23	23	21	0. 9	13	0. 6	11	0. 5	72	2. 0
11月	26	20	16	0.8	6	0. 3	13	0. 7	84	2. 2
12 月	23	19	12	0. 6	6	0.3	11	0. 6	85	2. 5
1月	19	19	16	0.8	9	0. 5	8	0. 4	81	3. 1
2月	21	18	14	0.8	6	0. 3	18	1. 0	68	3. 1
3 月	23	23	15	0. 7	9	0. 4	11	0. 5	66	2. 9
計	264	241	174	0. 7	89	0. 4	194	0.8	835	3. 5

# ウ オフィスの運営

● オフィスの運営及び業務実施に必要な機材・消耗品等を揃え、その使用料の支払、EPO 中部及び中部地方 ESD センターの HP・メールアドレス・固定 IP の維持管理費用の支払等、維持管理に必要な事務を適宜実施した。

# 4 協働取組の促進のための業務

# (1) 地域循環共生圏づくりフォーラムの開催

## 1)日時

● 2021年 11月20日(土)13:30~16:30

## ②主催等

● 主催:環境省中部環境パートナーシップオフィス

● 後援:福井県、越前市、しらやま振興会、坂口地 区うららの町づくり振興会、越前市エコビレッジ 交流センター

● 協力:合同会社ローカル SD クリエーション



## 3開催場所

● 越前市エコビレッジ交流センター 大ホール

#### 4参加者

● 23名(登壇者5、事務局3含む)

#### ⑤プログラム

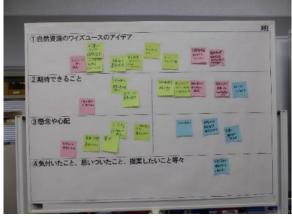
- ○あいさつ/地域循環共生圏について 環境省中部地方環境事務所環境対策課 溝手 康人 氏
- ○「フナを食べながら三方五湖の自然再生を考える」 福井県里山里湖海研究所 研究員 樋口 潤一 氏
- ○取組紹介

エコ・グリーンツーリズム水の里しらやま 橋本 弥登志 氏 さかのくち活性化協議会 野村 みゆき 氏 合同会社ローカル SD クリエーション 三田村 佳政 氏

- ○「森里川海ワイズユースから越前エリアの地域循環共生圏を考えてみる!」 フアシリテーター: EPO 中部
- ○講評

福井県里山里海湖研究所 研究員 樋口 潤一 氏 合同会社ローカル SD クリエーション 三田村 佳政 氏





越前の森里川海で取り組む地域循環共生圏フォーラム

# 里山里海資源の収益化と地域循環の創出を目指して

主催:環境省中部環境パートナーシップオフィス(EPO中部)

後援:福井県、越前市、しらやま振興会、坂口地区うららの町づくり振興会、越前市エコビレッジ交流センター協力:合同会社ローカルSDクリエーション

日時: 2021年11月20日(土)13:30~16:30 会場: 越前市エコビレッジ交流センター 大ホール

福井県越前市場合町25-25-2 《Web》http://www.ecovilg.jp 《Google マップ》https://goo.gl/maps/w02sr13LfyW7M0fu9

参加申込方法 参加無料/要·事前申込

申込フォーム https://forms.gle/hF8PHrfHBvxzsyAT9 =

EXール info@epo-chubu.jp

①氏名(フリガナ)、②連絡先(メールアドレスか電話番号)、③ご所属先 を記載して、「件名:1120フォーラム」で11月17日(水)までに送信願います。

【お願い】新型コロナウイルス感染拡大防止にご協力願います。本フォーラムの参加者数は会場定員の半分以下とし、参加者は原則、 越前市とその周辺市町の在住者・通動者、及び活動団体の方のみとさせていただきます。また、事前の参加申込と、ご来場時のマスク 着用が必須となります。開催日当日、発熱のある方や体調の悪い方は来場をお控えください(その場合の不参加のご連絡は不要です)。

WEB epo-chubu.jp

@EPOchubu

#### プログラム

であいさつ「地域循環共生圏について」

環境省中部地方環境事務所

基調講演「フナを食べながら三方五湖の自然再生を考える」

講師: 福井県里山里海湖研究所 研究員 樋口潤一 氏

取組紹介① エコ・グリーンツーリズム水の里しらやま 橋本弥登志 氏

取組紹介② さかのくち活性化協議会 野村みゆき 氏

取組紹介③ 合同会社ローカルSDクリエーション 三田村佳政 氏

ディスカッション「森里川海ワイズユースから越前エリアの地域循環共生圏を考えてみる!」





# (2) 協働コーディネーターとの連携による実践的取組【北陸地域】

# ア 多様な主体との協働

## (ア) 地域循環共生圏と地域の担い手づくり

#### ①経緯と現状課題

# ■昨年度の EPO 中部との連携取組

小浜市では昨年度 EPO 中部との共催で「食のまちづくり」をテーマに地域循環共生圏への理解を深めるワークショップとフォーラムを開催してきた。事業を進め地域の実情を探っていく中で、人口減少化の厳しい現実における地域での「人口減少社会に適応していく地域づくり」という選択肢を見出すことができた。

## ■今事業で重視した地域課題

小浜市では平成 14 年に施行された「食のまちづくり条例」を受けて市民主体の地域づくりに長らく取り組んできたが、ボランティアとしての活動の限界もあってやや停滞気味にある中で、活動拠点や財政的基盤づくりのために公民館のコミュニティセンター化を進めた地域づくりの活性化を目指している。その運用母体として想定されている「まちづくり協議会」が全ての地区に設置され、今後コミュニティセンター化に向けて取組を進めていくこととしているが、地域での理解や展開が難しく停滞している現状にある。

#### ②取組の内容

#### ■地域循環共生圏を意識したまちづくりの啓発

まちづくり協議会を対象として、地域の統合や広範囲に地域づくりを考え新たな魅力(コンテンツ)をつくっていくコミュニティセンター化事業に地域循環共生圏の観点を取り入れたワークショップやオンライン講座を開き、地域循環共生圏への理解促進とコミュニティセンター化推進を図った。

# イ ワークショップ及びオンライン講座の実施

## (ア) 小浜市地域循環共生圏ワークショップ及びオンライン講座

## (1)身近な実例から学ぶ、これからの地域ブランド

# ■ 第1回ワークショップの実施

2021 年 9 月 11 日 (土) に実施し、計 14 名の参加があった。会場は、小浜市にとって貴重な文化的価値がありながらも、これまで放置され無活用であった北前船の商船別邸を、官民協働により地域のコミュニスペースやカフェとして再生させた GOSHOEN (護松園) で行った。小浜市では近年 GOSHOEN のように、地域に根差した歴史文化的資源を活用した官民協働や事業者連携による取組が目立ちつつあり、ゲストスピーカーとして下仲隆浩氏(小浜市文化交流課)、御子柴北斗氏(㈱まちづくり小浜)、松本啓典氏(㈱マツ勘/GOSHOENプロジェクト主導)を迎えて小浜市で起こっている新たな取組の数々を行政や民間それぞれの立場から紹介していただき、ワークショップでは参加者とともに地域にある資源や課題を地域コンテンツとして共有し、保全・活用や事業性の収支で分類するマッピング形式を用いて、地域の持続可能性について意見交換を行った。

#### ■ワークショップの感想

小浜市は「文化財の宝庫」と呼ばれるほど深い歴史文化を持ち、多くの文化財を擁する自治体であるため、これまで"保全"姿勢であった文化財分野に対し、全国に先駆けて文化財の"活用"を地域計画として強く打ち出している。(下仲氏)小浜市としてはこの"多くの

文化財"が地域にとっての特色や強味になる一方で、その"多すぎる文化財"が財政的な圧 追を招いている一面もある。今後、人口減少や財源の縮小が懸念される時代においては「活 用しなければ守れない」という切実な実情もあり、持続可能性を考える上で、小浜市にとっては特に身近に感じられる題材であった。そのような中で、市内の松永地区の国宝寺院と地 区内の事業者を結び付けた体験ツアープログラムの開発(御子柴氏)や民間企業主導の GOSHOEN(松本氏)はそれを体現した取組であると言える。特に GOSHOEN においては始まったばかりとはいえ、企業的観点から言えば事業単体としては営業赤字が想定されているが、他の利益事業から補填して持続させる意志を示されており、経済的価値より社会的価値の高さを見込んで企業価値を向上させるような CSR の姿勢が見て取れ、地域にこのような企業が出てきたことは大変希望に思えた。

「これからの地域ブランド」としたのは、小浜市としてこれまでの地域ブランドというものの捉え方が過去の一村一品運動の如く"コンテンツ (商品)"中心につくられていたと感じていたからである。しかし、SDGs のように"関係性や持続性"が重視される時代においてはブランドの作り方も変化が求められていると思われる。紹介されたような小浜市で起こっている新たな取組の数々は共通してそこに言及されていたことから、確実に変化の兆しはあり、地域のまちづくりに関わる層と共有できたことは意義深いと思えた。

## ③実践地域から学ぶ、地域循環共生圏の進め方

#### ■オンライン講座の実施

2021年10月20日(水)と11月1日(月)の2回に分けて実施し、延べ20名の参加があった。今講座では実際に環境省の地域循環共生圏プラットフォーム事業に採択された中部地方の地域から学んだ。1回目は長野県小布施町の実例「北信スマートテロワール〜農業を核とした自立(自律)分散型農村による共(競)創ネットワーク〜」/講師:勝亦達夫氏(信州大学キャリア教育・サポートセンター講師)、2回目に石川県七尾市の実例「SDGs 推進企業が生まれる街"ななお"」/講師:入口翔氏(七尾商工会議所 SDGs プロジェクト推進室室長/のと共栄信用金庫ふるさと創生部次長)をオンラインで招いて取組紹介を聴講し、意見交換を行った。

#### ■オンライン講座の感想

どちらも環境省の地域循環共生圏プラットフォーム事業に採択されている地域のため、両地域の具体的な取組内容については感想からは割愛させていただくが、共通として地域循環共生圏を進めていく上で重要に感じたポイントとしては"取組を支える専門的な中間機能の役割を持った組織(もしくは人材)の必要性"にあると思えた。小布施町では北信スマートテロワールが、七尾市では能登共栄信用金庫や商工会議所がその中間機能を担って専門性を磨く組織として動いているが、その必要性が認められた時、誰(どこ)がその価値を保証するのかが次の課題として見えているようであった。翻って小浜市の場合、当法人は中間支援を担ってはいるが保証のないボランティア組織であり、今取組の対象としているまちづくり協議会も性質的には中間組織に当たると思われるが特に専門性もない一般市民の集まりである。事実、今講座を聴講した高齢の参加者たちからは率直に「話が難しくて(複雑で)よく分からない」という反応が見られた。比較的若い世代は理解を示していたが、実際に若手参加者からも意見があったように、地域の中で発言力や権限を持っているのはその「よく分からない」と言われるような高齢の方々である。ある意味では、その現実的なギャップと他の地域と比較することで小浜市の現状レベルを測ることができた良い機会であったとも思える。

# 4)まちづくり協議会担い手育成研修会(ワークショップ)

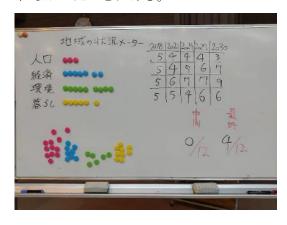
#### ■第2回ワークショップの実施

2021年12月17日(金)に実施し、40名以上の参加があった。これまでのワークショップやオンライン講座ではコロナ渦やオンライン環境不足なども影響して参加が少なかったこともあり、小浜市が元々予定されていたまちづくり協議会の研修会と抱き合わせ、小浜市と共同主催の形で開催した。二部制で、第一部は内山秀樹氏(仁愛女子短期大学生活科学学科教授)講師による「地域循環のまちづくりについて」の講演、第二部は楳原秀典氏(NPO法人エコプラザさばえ)をファシリテーターに迎えて SDGs カードゲーム(地方創生版)を用いたワークショップを行った。

#### ■ワークショップの感想

個人的にSDGsカードゲームは過去に二度体験したことがあり、SDGsや地域循環共生圏のように複雑な概念を体感的に理解する上では、カードゲーム以上のツールと出会ったことがないというくらい効果的な手法に思っていた。しかし、SDGsへの理解が未だ示されていない小浜市では、カードゲームの機会を単独で設けても人が集まらないことは明白であったため見送っていたが、小浜市と共同主催の研修会の中で行えるのは絶好の機会であった。カードゲームの肝はSDGs 同様、地域の環境・社会・経済の状況がパラメーター化されていることにある(地方創生版では人口のパラメーターも)。プレイヤーたちが地域で様々な分野の事業を進めていくと関係性のあるパラメーターが変動する仕組みで、最終的にはそのパラメーターをバランス良く伸ばしていくことが持続可能な地域をつくることになる。プレイヤーの行動が地域にどのような効果や影響を及ぼしているかがパラメーターによって視覚化されているため、当事者意識を持って関係性の把握や理解が進む。そして最終目標(持続可能な地域)を達成するにはプレイヤー同士の協力(協働)が必要になる。

参加者もルールを理解するのに最初は戸惑いが見られたが、ゲームが進むにつれて白熱し活発化した会場の光景が見られ、参加者の口々から「現実と同じだ」という言葉が何度も聞けたことから、SDGs 及び地域循環共生圏の理解については一定の効果が見込まれたと思われる。反省点としては、スケジュールの時間的制約から"振り返り"の時間が十分に取れなかったことにある。





# ウ 情報共有

## (ア) 今取組を終えての感想

#### ①小浜市のこれから

#### ■ 今後の展開について

今後の展開は未定である。昨年度の EPO 中部との協働事業では、小浜市で地域循環共生圏への理解を進め、環境省の地域循環共生圏プラットフォーム事業に申請する運びがあったが、当初テーマにしていた小浜市の「食のまちづくり」を、それに深く関わる行政部局から消極的な姿勢を示されてしまったことから、協働事業でも後半は路線変更を加え、プラットフォーム事業でも小浜市としての主軸を抜きとった申請書を作ることを余儀なくされた経緯があり、不採択の結果は当然の帰結だと受け取っている。そのため、現在当法人から地域循環共生圏に関わる事業に申請する予定はない。今取組も貴重な機会を与えていただき、新たに様々な気づきを得ることができたが、単発に終わってしまう可能性が高いことは残念に思う。

今取組で対象としたまちづくり協議会の状態を見れば引き続きフォローアップは必要であると考えられるが、"取組を支える専門的な中間機能の役割を持った組織"として保証されているのは、小浜市の場合は現状では行政に当たるため、行政の動きに応じて必要があれば協力していきたい。

# (3) 協働コーディネーターとの連携による実践的取組【信州地域】

# (ア) 信州における協働取組の促進のための業務

長野県は平成30年6月から「SDGs 未来都市」として、SDGs の達成に向けた主な取組をまとめた計画を策定、実行している。学びと自治の力による「自立・分散型社会の形成」を掲げ、ステークホルダーが主体的に学び、協働しながら地域の課題解決に取り組み、多様な地域の個性を活かす自立・分散型社会をめざしている。

これまでに、全国に先駆けて SDGS 推進企業登録制度や信州環境カレッジを立ち上げるなど SDGS に向けアクションする主体の育成等に取り組んできている。今後は一層、その主体がパートナーシップを組んで、具体的な地域づくりのプロジェクトを県下各地で促進していく必要がある。

上記の長野県における背景を踏まえて、以下の事業を実施した。なお、本事業との併催により信州環境カレッジ(長野県環境保全協会主催)との協働による連続講座「地域循環共生圏コーディネーター育成講座」を開催し、協働取組の促進に向けて相乗効果を狙った。

- (イ) フォーラム又はワークショップの実施・活動主体へのフィードバック
  - ①「ローカルSDGsスタートアップフォーラム 地域循環共生圏ってなんだ?!」 2021 年7月 13 日 (火) 13:00~15:30(オンライン)





参加者:54名(講師・スタッフ含)(後日動画再生回数46回)

講演:「地域循環共生圏とは」

環境省中部環境事務所環境対策課長 曽山信雄氏

話題提供:「信州 SDGs の推進」

長野県企画振興部総合政策課 矢島晋平氏

事例発表:「先輩」から聞く ~地域循環共生圏事例から小布施町を中心とした北信地

域北信スマートテロワール~

一般社団法人スマート・テロワール協会 勝亦達夫氏

プレゼンテーション:「こうなったらいいなぁ芋井地区」

NPO 法人長野県NPOセンター 山室秀俊

「見える化プログラム」解説

環境省中部環境パートナーシップオフィス 原理史氏

ワークショップ:「持続可能な"ジモト"づくりをはばむものはなにか?」

問1 みなさんが循環共生圏づくりを具体的にすすめようとしている 地域とそこでやりたい活動はなんですか?

問2 今後数十年を考えたとき、1 の地域で持続可能性にマイナスの要因となるものはなんですか? その理由はなんですか



## 【所感】

スタートアップということで、行政、民間(市民活動団体、企業等)、自治組織など多様な主から多くの参加者があった。全国的な地域循環共生圏づくりの目的、事業進捗、事例等について、また長野県におけるローカル SDG s に向けて包括的な取組みなどが共有され、ワークショップでは、自分の地域での課題と結びつけることにより、参加者それぞれが、今後の地域づくりに生かされる学びや気づきを得る大きなきっかけとなった。今後の各論的な講座への期待の声も多く寄せられた。

また、事例発表の中で触れられた災害と農業を結び付けた活動(一般財団法人日本笑顔プロジェクト "nouvo"には注目度も高かったことから、その後の連続講座の講師として登壇してもらった。

②「ローカル SDGs テイクオフセミナー ~持続可能なジモトづくりを目指して~ 2022 年 2 月 25 日(金)13:30~16:30 リアル会場 長野市もんぜんぷら座・安曇野市役所 オンライン併用



参加者:30名(講師・スタッフ含)

講 師:中部大学中部学術高等研究所 原 理史氏

内 容:

今後、地元で地域循環共生圏づくりをすすめるコーディネーターとして活動するため に、自分の取組と協働する関係先等を整理し、今後の取組につなげる。

第一部 あなたの行う地域づくりとは? (60分)

自分の活動が目指すビジョン、内容、協働相手、期待される効果、実施上の課題を整理し、参加者同士共有して、共通の目標や協働の可能性を考えた。

第二部 あなたの地域づくりはローカルSDGs? (60分)

自分の活動がローカル SDG s の実現にどのように関わっているかを見える化し、取組の効果や阻害要因を検討した。グループワークは参加者が地元の地域毎にわかれ、互いの活動の協働の可能性等を探った。

第三部 SDGs 行動変容を促すコミュニケーションとは? (30分)

今後一般の方に意識向上と行動変容を促していくため、人間の特性の理解 やコミュニケーション手法を、「ナッジ」の概念を題材に学んだ。

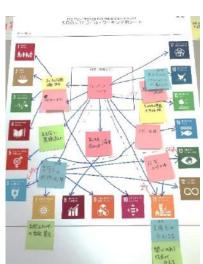
#### 【所感】

新型コロナウィルス感染症第6波のため、まん延防止等重点措置が取られる中ではあったが、リアル会場を2会場設けた。少人数で濃いコミュニケーションをおこない、長野会場・安曇野会場とも熱の入ったワークショップとなった。安曇野会場では二拠点居住の参加者と安曇野市市民活動サポートセンタースタッフや他の参加者が新たなつながりを得ることとなった。オンラインでも佐久地域は圏域の参加者のみでブレイクアウトセッションを組み、オンライン上でのワークショップとなった。ネット上で共有可能なジャムボードなどを駆使して少人数でできるだけリアルに近い状況を作ることができた。また、終了後に参加できなかった人が内容を聞きたいと佐久市市民活動サポートセンターに来訪するなど、スタッフが対応、録画も共有することができた。

講師から提供されたワークシートなどは今後も地域で使用可能とのことで、ローカルSDGsを学ぶ上で有効な手法を身に着けることができた。



ワークに熱が入り立ち上がえ長野会場の様子



# (ウ) 事後調査の実施

スタートアップセミナーで、プレゼンテーションの題材となった長野市芋井地区からも地域活性化推進員が参加、連続講座もほぼ皆勤で参加した。見える化プログラムの「こうなったらいいなぁ芋井地区」の実現を視野に、地区住民自治協議会の事業として地域の若手と地域外の人たちで作る「いもいリビングらぼ」の取り組みの中心メンバーとして活動を始めた。

## (エ) 情報共有

すべての講座終了後、EPO 中部との情報共有の機会を設けた。特に、事後調査の実施により見える化プログラムのプレゼンテーション後の芋井地区の動きについて共有。また、「地域人勧共生圏コーディネーター育成講座参加者の声や圏域での団体間の関係づくりの可能性についても共有した。

# イ 参考:地域循環共生圏コーディネーター育成講座(全7回)

(信州環境カレッジとの協働による連続講座)

①7月25日(日) 「SDGs と地域交通」

リアル会場 長野市鬼無里支所・オンライン併用 参加者:45名(講師・スタッフ含む) 後日動画視聴数:21

【事例発表 1 】「再生可能エネルギーで観光地を元気に〜低速電気バス EMU〜」

一般社団法人でんき宇奈月 専務理事兼事務局長 町野美香 氏

【事例発表2】「アプリ活用への挑戦~山古志クローバーバス~」

NPO 法人中越防災フロンティア 事務局長 田中康雄 氏

【事例発表3】「再生可能エネルギー活用で鬼無里の地域づくり」

NPO 法人まめってえ鬼無里 事務局長 吉田廣子 氏

【ワーク&グループディスカッション】「ジモトの交通、10年後はどうしたい?」

## ②9月3日(金) 「SDGs とゼロカーボン」

オンライン 参加者: 45 名(講師・スタッフ含む) 後日動画視聴数:11

【話題提供】「長野県のゼロ・カーボンへの取り組み」

長野県環境部環境政策課 主杳 高橋晴彦 氏

【事例発表1】「地域住民主導の小水力発電を絡ませた地域づくり」

NPO 法人地域再生機構 副理事長 野村典博 氏

【事例発表 2】「したいことを持ち寄り多様な取り組みを無理せずつづけるコミュニティづくり」

藤野電力 設計・施工・開発部門プロジェクトリーダー 鈴木俊太郎 氏

【ワーク&グループディスカッション】

「ジモトで再生可能エネルギーの活用は可能か?」

## ③9月22日(水)「SDGs と循環型社会」

オンライン 参加者:34名(講師・スタッフ含む) 後日動画視聴数:20

【事例発表1】「地域とともに歩むいまどきの資源リサイクル業の展開」

直富商事(株)管理本部コンプライアンス室 主任 小川和美 氏

【事例発表2】「間伐材利用の菌床えのき栽培で循環型農業」

(株) 丸金 営業部 部長 松木淳一 氏

【ワーク&グループディスカッション】「循環型社会を地域で実現させるためには?」

#### ④10月22日(金)「SDGs と福祉・災害支援」

オンライン 参加者:29名(講師・スタッフ含む) 後日動画視聴数:14

【事例発表1】「地域の団体との連携で間伐材を活用する事業」

社会福祉法人 花工房福祉会炭房ゆるくら 所長 今井広樹 氏

【事例発表2】「平時を楽しみ有事に備える「nuovo」の取り組み」 一般財団法人 日本笑顔プロジェクト 代表 林映寿 氏

【ワーク&グループディスカッション】

「持続可能な地域をつくるため、多様な人たちとどのように協働していきますか?」

#### ⑤11月25日(木)「SDGs と働き方改革」

オンライン 参加者:24名(講師・スタッフ含む) 後日動画視聴数:12

【事例発表1】「コミュニティから地域の担い手を作り出す」 特定非営利活動法人こまちぷらす 大塚朋子 氏

#### 【事例発表2】

「地域内外から集まった人たちが多様な働き方で地域に貢献するコミュニティづくり」 株式会社ふろしきや 代表取締役 田村英彦 氏

【ワーク&グループディスカッション】

「地域の課題解決につながる事業を多様な人たちと多様な働き方で作り出すには、 どんな方法があるでしょう?」

## ⑥12月10日(金) 「SDGs と食品ロス」

オンライン 参加者:24名(講師・スタッフ含む) 後日動画視聴数:10

【事例発表1】「おいしいを耕そう~農家で廃棄される野菜を「乾燥野菜」に」

株式会社 Ggrow OYAOYA 代表 小島怜 氏

【事例発表2】「捨てられていたこだわりのパンの耳を地ビールに」 Anglo Japanese Brewing Company 合同会社 代表 リヴシー・絵美子 氏

#### (7) 1月28日(金) 「SDGs と関係人口」

オンライン 参加者 27名(講師・スタッフ含む) 後日動画視聴数:15

#### 【事例発表1】

「なぜ、今、関係人口か? 県内の事例から見えることを中心に関係人口の今を知る」 KAYAKURA 代表 伊藤将人 氏

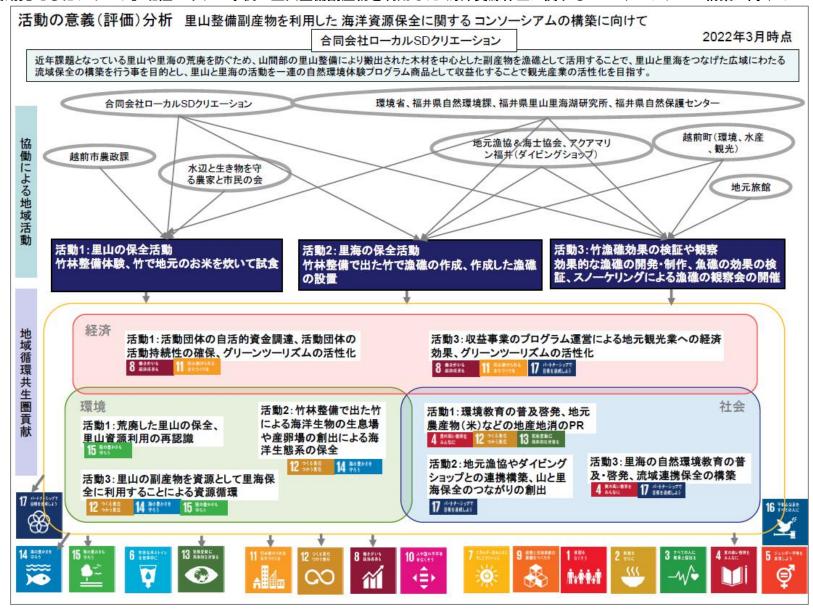
【事例発表 2】「結果としての」関係人口 ~「幸雲南塾」の事例を中心に~ NPO 法人おっちラボ 代表理事 小俣健三郎 氏

※動画視聴数は2022年3月1日現在

# (4) 活動主体へのフィードバック (活動見える化プログラムの活用)

- 前項の「地域循環共生圏づくりフォーラム」及び「協働コーディネーターとの連携による 実践的取組【信州地域】」において、地域循環共生圏づくりや SDGs への貢献を可視化する 地域支援として「活動見える化プログラム」の事例チャート作成を行った。
- 【信州地域】の「活動見える化プログラム」チャート図については、7月 13 日開催スタートアップフォーラムにおいて、取組の現状分析を解説するなどして活用した。

#### 【作成した活動見える化チャート】北陸エリアの事例:里山整備副産物を利用した 海洋資源保全に関する コンソーシアムの構築に向けて



#### 9

# 【作成した活動見える化チャート】信州エリアの事例:長野市中山間地域(芋井地区)の住民自治コミュニティによる地域循環共生圏モデルを目指して

チャ 芋井 、中 <sup>4</sup>	一ト2地区に	10/13分析系 は長野市街地西部に位置する人口約2, 廃校、高齢者の移動・買い物問題の発	5 000人の中山間地。住民自治協 生、耕作放棄地や荒廃森林など	B区)の住民自治コミュニティ 井地区住民自治協議会・長野! 議会は住民主体の自治組織として地域の 洋利用資源の増、観光施設の飯綱高原ス ると認識し、長野県NPOセンター主催の小	県NPOセン 特性を生かした キー場閉鎖、	ター まちづくりをために設け 土砂災害などへの一層	置され、市と協定を結びの備えなど課題が山	び、さまざまな事業 1積。既存の担い手		
			公募住民				公募住民(若者・女性)、住民自治協議会役員			
	地域 コア SH	芋井地区里山整備利用推進協議会	自主防災組織	しいいづな学園、山の駅運営団体、飯綱高原観光協会、体験コンテン ツ提供団体、ホテル・ベンション等観光事業者		包括ケア協議会、PTA		公务证氏(右有"3	《注》、住民日/日國	MXXX
		長野市役所芋井支所					長野市役所	听芋井支所		
協	14	バイオマスエネ事業者、エネルギー関係コンサル、 地域金融機関				社会福祉協議会、交通事業者、Maas推進企業、カー		- IIHOE		
働	地域	P.專 並 酰 (使)		環境省国立公園担当		シェアリング企業				€.
	外 SH	長野県環境部	長野県災害時支援ネットワーク	長野県産業労働部						
による	SH		長野県危機管理部							
S Z		長野市環境政策課	長野市危機管理課			長野市交	通対策課	長野市	地域活動支援課	
や地	_	動1:再生エネルギーの創出・活用	₩	*			₩		*	
域活動	の遊活オテ的ギ	仕組みづくり 休地活用の太陽光発電、豊富な水資源 用の小水力発電、星山資源活用のバイ マス発電といった多様なエネルギーシス ムを地域主導で導入し、環境保全と持続 成長を同時に遠成する再生可能エネル 座業を割出することで、エネルギー自 と稼げる圏域経済の構築を目指す。	活動2: 災害に強い地域づくり 東日本台風等の経験知、災害支援のネットワークを活用した防災・減災の取り組みと再生可能エネルギーを活用した防災拠点を 信を行うことにより、中山間地のモデルとなる災害に強いレジリエントな地域を目指す。	活動3:自然資源のワイズユースによるづくり 対高戸陽連山国立公園の麓エリアとして、自 観光産業をベースに、長年培われた体験コ 展させたワーケーション等の地域資源活用コ し、全国的にも有数な拠点地域を目指す。ま リースクール、自然体験や文化伝統を継ず。 動、地域コミュニティが多様に協働を を対象とした「探究的な学び」の先進的なフィ	然資源と既存の ・テンツを更に発 ・「ログラムを創出 た、自然保育、 ・「るNPO・市民活 より、市内県外	づくり  住民運営による共助  ティシステム等の導  の新しい交通の確保  子ども・若者や高齢者  保障するとともに、観	型のグリーンモビリ し、することで、地域内 を行う。車を持たない 皆の移動を優先的に げ、やワーケーション と次交通として活用す	活動5:中山間域 ティによる地域 住民自治組織人材、 ープンにつなら ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	香環共生圏 間支援組織の□ 企業・関係機関 りせることで、地 創造に資する専 自治により住民 する。隣接する!	1ーディネー 、地域をオ 地域を射 ・東が創出さ が参加協働 地区や長野
地域循環		経済活動1:地域主導のエネルギー産業 関連の雇用増加。域外に流失して いたエネルギー関連支出の減少。 8 ************************************								
	7 777	活動1:再生可能工法 能エネルギーのメリス 能エネルギーの用したがり 地産地消の実 用したがり 現による地域がが進み、地 の温室効果がが進み、地 スの削減。 まないに寄与 まないにありまする。 まないにありまする。 まないにありまする。	は 1 コット 活動 4: グリーンスローモビ シスローモビ リティーや電 気自動車のカーシェアシス テムの導入に よる環境保 おる 1 大き 1 大	活動1:地域 外の再生可能エネルギー事業者、コンサルタント、行政担当部署等の多様なステークホルダーの連携。 17 ************************************	間ある はかかい はかかい はかかい はかり はいかい はいかい はいかい はいかい	がますすが、かったいは、かったいは、かったいは、かったがのでは、かったが、かったが、かったいは、かったいは、かったいは、かったが、かったが、かったが、かったが、かったが、かったが、かったが、かったが	動4:車中心生活 らの転換、こどもだけ、こどもできる。 一般のでは、ことをできる。 一般のでは、一般のでは、 一を 一を 一を 一を 一を 一を 一を 一を 一を 一を 一を 一を 一を		に若者や女性 に可能な地域でジ の多様なニー 民主体の自治 人取り残される 続可能なコミ	確しがヨズ運な
14 <sup>№</sup> 0		15 manufet 6 manuacery 13	AAAAAA 11 202004 1	2 character 8 salacter 10 Avenuers	7 1144-1144	9 87 CS P R C P R	2 with (15)	3 tetoak	4 ROAIVER®	5 ====================================

# (5) ローカル SDGs/地域循環共生圏のためのグループワーキング

## 1)日時

● 2022 年 1 月 19 日 (水) 13:30~16:30

#### ②主催

● 環境省中部環境パートナー シップオフィス (EPO 中部)



## 3開催方法

• オンライン

## 4参加者

● 40名(事務局3、登壇・関係者3含む)

## ⑤プログラム

#### ○第一部

- ・あいさつ/地域循環共生圏とローカル SDGs について 環境省中部地方環境事務所環境対策課主査 佐藤 堅太 氏
- ・「SDGs を地域づくりに生かすーマトリックスからの脱却をめざして」 日本福祉大学 国際福祉開発学部 教授 千頭 聡 氏
- 質疑応答
- 情報提供「ローカル SDGs と同時解決」 EPO 中部

#### ○第二部

・「ローカル SDGs に取り組むうえでの"課題感"抽出・共有ディスカッション」 フアシリテーター: EPO 中部

課題に感じていること

取り組むメリットとは

今必要なこと(取組・支援・情報ニーズなど)

講評

日本福祉大学 国際福祉開発学部 教授 千頭 聡 氏



## 6開催案内チラシ

環境省中部環境パートナーシップオフィス(EPO中部)主催 地域循環共生圏セミナー in 中部

# 地域循環共生圏づくりと地域課題の同時解決から カルSDGsを考える

2022年1月19日(水)13:30~16:30 オンライン開催

参加申込方法 参加無料/事前申込制

申込フォーム https://forms.gle/9re2PruQKWWguKFJA ⇒ ※開催日の前日、申込された方へzoomの参加URL等を メールでお送りします。







# プログラム

第1部 講演・情報提供 参加方法: zoom ※申込フォームから第1部のみの参加申込も可能になっています。

- ■はじめに(ご挨拶) 「地域循環共生圏について」 環境省中部地方環境事務所環境対策課主査 佐藤 堅太 氏
- ■基調講演「SDGsを地域づくりに生かすーマトリックスからの脱却をめざして」 日本福祉大学特任教授 千頭 聡 氏
- ■情報提供「ローカルSDGsと同時解決(環境省の関連事業の事例紹介など)」 中部環境パートナーシップオフィス (EPO中部)

#### 第2部 オンライン・ワークショップ

参加方法: zoomとオンライン・ホワイトボード「Googleジャムボード」(定員15名・先着順)

※第2部へのご参加は、当日にzoom参加される際の使用端末(PC等)で、「Googleジャムボード」を操作できることが 参加条件となります。(Webや参加申込フォームに記載のテストURLで、操作できるか否かをお試しいただけます。) ※第1部の参加者は、そのままzoomでワークショップの様子を傍聴いただくこともできます。

# ■ワーキングのテーマ

「ローカルSDGsに取り組むうえでの "課題感"の共有ディスカッション」 ファシリテーター: EPO中部

■講評《基調講演講師》千頭 聡 氏(日本福祉大学特任教授)



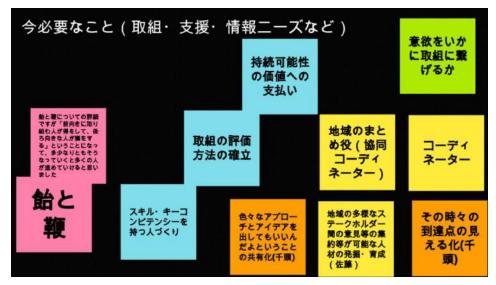


### ⑦使用したオンラインホワイトボード

テーマ: ローカル SDGs に取り組むうえでの"課題感"抽出・共有







# 5 中部地方 ESD 活動支援センター運営業務

### (1) 中部 ESD センターの運営・推進(ワークブック作成)

- 本章「(6)域内外の多様な主体の連携促進、交流機会の提供」の実施内容をもとに、 「(仮) 中部版 ESD ワークブック~学生・社会人のための地域社会 SDGs 実践」(プロトタ イプ版)として、『現場から学ぶ!SDGs 人材育成ワークブック』を作成した。
- ワークブックの構成・内容等については、後述の SDGs 社会教育研究ワーキングにおいて 検討を行った。



### 現場から学ぶ!SDGs人材育成ワークブック 目次

### はじめに

- 1. ローカルSDGs実現のための人づくり「SDGs社会教育」が必
- 2. 「SDGs社会教育」の学習目標~どんな人になってほしいか
- 3. 実践方法を考える~中部地方の実例から①
- 4. 実践体制をどのように構築するか~中部地方の実例から②
- 5. 実践効果をどう考えるか

### 1. 「SDGs社会教育」が必要なわけ

2021年5月に策定された「持続可能な開発のための教育(ESD)」に関する実施計画(第2期ESD国 内実施計画)では「ESD for 2030」の理念を踏まえ、ESDがSDGs達成への貢献に資するという考え方

行文能の目的では、1200 fb 2000 かほると言った。230 3003 in かり間に関すること・プラスパが初めて開催化されました。 実際に計画の中では、「第1章総論、2・本計画の位置づけと実施体制において」、「我が国のSDG Sに関する方針を踏まえつ、、持続可能な社会の創り手の育成を効果的に推進することが求められる」

れています。 「第2章具体的取組、1.優先行動分野における各ステークホルダーの取組」では、「(5)優先 分野5・地域レベルでの活動の促進」として「地域において は 様々なステークホルダーが連携し また「非2早具体的限制」1、億先行動分野における各人テークバルターの取組」では、「(5)億先 行動分野5:地域レベルでの記動の促進」として「地域においては様々なステークボルターが連携しながら、身近な課題を解決するため行動変容を促し、ESDを通じて地域づくりを推進していくことが 求められる」とされ。ESD によるローカル、SDGs の推進が明待されています。 すなわち、地域における持続可能な社会づくりのためには、ESD = 人材育成が必要とされ、地域づくり につながるとされているのです。この人材育成には学校教育はちちろんですが、社会人やその予備軍で あるユースのSDG教育が欠かせません。そうした意味で「SDGs社会教育」は重要な課題なのです。

備考:「SDGs社会教育」の意味 社会教育」とは、学校教育法(昭和二十二年法律第二十六号)に基合、学校の教育課 程として行われる教育活動を除き、主として青少年及び成人に対して行われる組織的な教育活動(体育及びレクリエーシ ヨンの活動を含む、)をいう」と定義されています。本書ではこれを踏まえ、社会教育法が目的とする「国及い地方公共 団体の任務」の名を支援し、ローカルSDGを違成に育る。企業研修/生涯学習/地域づくりなどの現場で実施される。 社会におけるESDを示す用語として使います。





### 2. 「SDGs社会教育」の学習目標~どんな人になってほしいか

持続可能な社会を担う人材の育成を行うにあたっては、どんな人材が必要かを考える必要があります。つ

すりESDにおける子習目標が必要となります。 まりESDにおける子習目標が必要となります。 学習目標については、文部科学省やユネスコなどいくつか示しているものがあります。本書では広石、佐 藤の著書を参考に、ユネスコが示す8-2のキーコンピテンシーと、 Durajappah, Anantha (2019) の示 す社会・情動的別性(Social and Emotional Intelligence: SEI)を重要視し、以下の能力や資質をもつ ことが重要と考えました。

# ユネスコ サステナビリティ市民として獲得すべき8つの キーコンビテンシー ②システム思考コンピテンシー ③別報的コンピテンシー ④方略的コンピテンシー ⑤が略のコンピテンシー ⑤のリティカル(批判的) 思考コンピテンシー ⑦自己認識コンピテンシー ⑧統合された問題解決コンピテンシー

# 社会・情動的知性 (Social and Emotional Intelligence : SEI) ■ マインドフルネス (mind-fullness) 今起きている全体をありのままに受け容れる

- 今起きている全体をありのままに受け容れる 共態(empthy) 自分と他者の文脈も踏まえた感情を共有する 奇り添い(compassion) 困難な人と共に開腹に向き合う 批判的閉いかけ(critical inquiry) 検証しながらやり取りを深める。

持続可能な社会づくりを構成する「6つの視

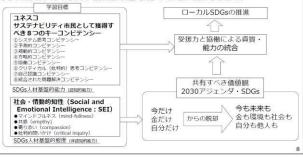
点」を軸にして、教員・生徒が持続可能な社 会づくりに関わる課題を見出します。

持続可能な社会づくりのための

課題解決に必要な「7つの能力・態度」を身につけさせます。

### 2. 「SDGs社会教育」の学習目標~どんな人になってほしいか

ユネスコが示す8つのキーコンピテンシーは重要な学習目標ですが、それをすべて個人が備えることはかなり難しいとも言えます。そこで重要になるのは「受扱力」と「協働」です。専門的能力はもちろん様々なキーコンピテンシーに長けた多様な主体が協働することでローカルSDGs地域うくりに大きな力を発揮することができます。その際、地域、企業・団体での「協働」取相には整盤となるマインドが必要です。ここではSDGsマインドと呼び、社会情動的知性(SEI)がその根幹を成すと考えます。



### 「SDGs社会教育」の学習目標~どんな人になってほしいか:参考2-1 文部科学省: ESDで目指すこと

文部科学省ではESDで目指すこととして、次のような要素を挙げています。

### (1) 持続可能な社会づくりに必要な6つの概念の理解を通した課題認識

持続可能な社会づくりの構成概念

- 持続可能な任金づくりの構成概念 1. 多様性 (いろいろある) 2. 相互性 (関わりあっている) 3. 有限性 (限りがある) 4. 公平性 (一人一人大切に) 5. 連携性 (力合わせて)

- 6. 責任制 (責任を持って) 国立教育政策研究所 2012

### (2) 持続可能な社会づくりのための課題解決に必要な7つの力と態度

ESDの視点に立った学習指導で重視する能力・態度

1. 批判的に考える力

- 1. 批刊的に考えるカ
   2. 未来像を予測して計画を立てるカ
   3. 多面的・総合的に考えるカ
   4. コミュニケーションを行うカ
   5. 他者と協力するカ

 1. 他有と助力する力
 6. つながりを尊重する態度
 7. 進んで参加する態度 https://www.mext.go.jp/unesco/004/1339970.htm (2021年5月17日閲覧

### 2. 「SDGs社会教育」の学習目標~どんな人になってほしいか:参考2-2 持続可能な開発目標のための教育 - 学習目標 - ユネスコ (2020年9月)

ユネスコではサステナビリティ市民として獲得すべき8つのキーコンピテンシー (特定の文脈の中で複雑な要求に対応することができる力)を持続可能な開発を推進するのに重要であるとしています。

③システム里考コンピテンシー 関係を認識し理解する能力。複雑なシステムを分析する能力。システムが異なる領域と異なる範囲に、どのように組み込まれているかを考える能力。不確実性に対処する能力。 及まれているかを考える能力。不確実性に対処する能力。 2予制的コンピテンシー 複数の何果(何能な特殊、同能性のある特殊、および望ましい特果)を理解し評価する能力。自分自身の特果のビジョンを創造する能力。予防原則を適用する能力。介勢の結果を享得する能力、リスクと変化に対処する能力。 3.規範のコンピテンシー 自分自身の行動や困能にある規範と価値観を理解し省際する能力。利益相反とトレードオフならびに不確実な知識と矛盾がある中で、サステナビリティの価値、原則、目的、および目標について話し合う能力。 4.方轄的コンピテンシー 地元地域レベルレモれを越太たレベルでサステナビリティをさらに高める革新的な行動を、共同で開発し実践する能力。 を始めコンピテンシー

⑤協働コンビテンシ

3位権ロンビデンシー 他者から学ぶ流力、他者のニーズ、視点、および行動を理解し尊重する能力(共感(empathy))。他者を理解し、他 者になた適わせ、他者の感情に敏感である能力(共感的リーダーシップ(empathic leadership))。グループ内の対 立に対域する能力、協議的かった地震の問題解決を促進する能力。

立に対処する能力、協働的かつ参加型の問題解決を促進する能力。 各グリティカル (独拝的) 思考コンビテンシー 規範、 撰行、および意見を問うことができる能力、自分自身の価値観、認識、および行動を省察する能力。 サステナビ リティに関する対法の中で、自分自身の立場を明確にする能力。 ②自己課国コンピアンシー 地元コミュニティや(グローバル) 社会での自分自身の役割を省察する能力。自分自身の行動を継続的に評価し、さら に動機付ける意力、自分自身の感情や欲求に対処する能力。 承載合された問題解末コンピテンシー 上記のコンピテンシー 本語らしながら、さまざまな問題解決の仲組みを複雑なサステナビリティの問題に適用し、持続 可能な開発を促進する実行可能で包摂的かつ公平な解決の選択肢を創り出す包括的能力。

### 「SDGs社会教育」の学習目標~どんな人になってほしいか:参考2-3 「社会・情動的知性(Social and Emotional Intelligence : SEI)

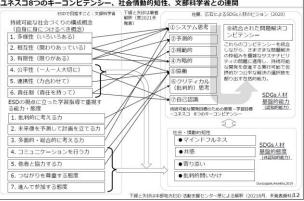
広石、佐藤によれば、バラダイムシフトを進める上では、非認知的な「社会・情勤的知性(Social and Emotional Intelligence: SEI)」が重要だとしています。 Duralgopal/Ananha\_2019、解2:広石・佐藤「SDSA.khからソーシャル・プロジェクトの担い手へ」第6章(2020年12月)

持続可能性社会へのパラダイム

シフトを進めるために必要な、
論理的思考や物事の進め方の限 界を自覚し、感情や関係性など で代表される人間特性から見た 一見非合理的な知性。(表面的 成果で測定しにくい非認知的な 特性・能力)

- ●マインドフルネス (mind-fullness) 今起きている全体をありのままに受け容れる
- 自分と他者の文脈も踏まえた感情を共有する
- ●寄り添い (compassion) 困難な人と共に問題に向き合う
- ●批判的問いかけ (critical inquiry) 検証しながらやり取りを深める。

### 2. 「SDGs社会教育」の学習目標~どんな人になってほしいか:参考2-4 ユネスコ8つのキーコンピテンシー、社会情動的知性、文部科学省との連関



### 3. 実践方法を考える~中部地方の実例から①

SDGs社会教育の実践方法を考えるために、中部地方の実践実例を整理し、その特徴について検討しました。実践事例としてSDGs社会教育研究会WGのメンバーの報告から3つの事例を取り上げました。

福井県坂井市大関地区まちづくり協議会の取組

| 国力: (東京のパドルア)に呼んにより、ステン・(加速などの水が) 版井中のまちづく (陶議会23歳所の)コミニティセンター (公民館) を拠点に、まち路、地域団体、地域住民、学校、事事所等が協働し、まちづくりを展開する事業の一環として実施、大関地区のまちづくりの立台として、ワークショップ (開助)け合いのまちづくり98) で、「まちづくりブラン」を常定、ブランを元に課題解決型フィールドワーク・ワークショップ (事例:ごみ採練!ワークショップ) を実施。

SDGsトークカフェ
TELISTRE プラットフォームとやまの取組
TELISTRE プラットフォームとやまの取組

米教寺SDGs OTERA cafeと連動し、完全オンライン1回を含むリアル・ハイブリッドのトークカフェを6回開催。 「どんな適山だったら達もが生きやすくなるだろう?」をデーマに、生きつらさを感じている人に日々接する実教 者をグストに誰かが触だきるカンェアルなト・クとの一クショップから成る清無を開催。

中部ESD拠点協議会(国連大学認定ESD地域拠点(RCE))の取組

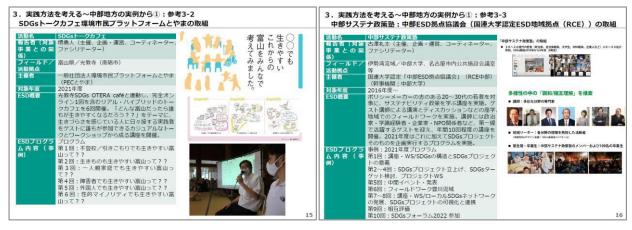
ポリシーメンカーの志のある20~30代の若者を対象に、サステナビリティ改革を学ぶ遺跡を実施、ゲスト講師に よる講演とディスカッションなどの原学、地域でのフィールドワークを実施、講師には政治等、学識経験者・企業 等、NPの関係者など、第一様で活躍するグストを迎え、年間10回程度の講座を開催。2021年度はこれに加えて SDGsプロジェクトそのものを企画実行するプログラムを実施。

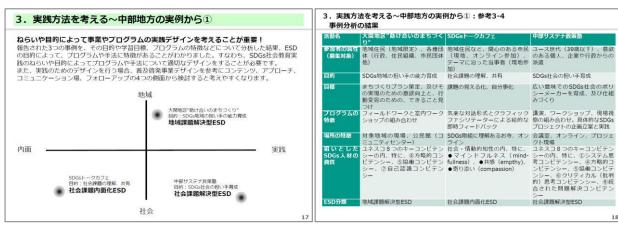
### 3. 実践方法を考える~中部地方の実例から①:参考3-1

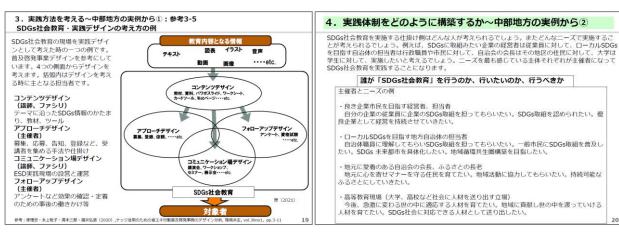
大関地区"助け合いのまちづくり":福井県坂井市大関地区まちづくり協議会の取組

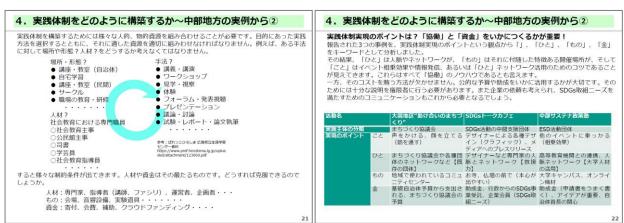


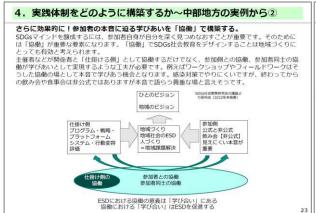
70











### 5. 実践効果をどう考えるか

SDGs社会教育の実践がどのような効果をもたらしたのか。それを把握することは事業の改善のためにも、対象者へのさらなる働きかけのためにも重要です。前途した学習目標に対する資質の向上について少なくとも自己評価のアンケート調査することが望まれます。また行動室容への動機づけが行われたかも大切な効果です。そこでユネスコ島のホーコンドデンシー、社会・情動的知性(SEI)に加え、内発的動機づけの三つの欲求が削激されたかどうかを合わせたアンケート項目を試作しました。海岸ゴミのワークショップの「学びあいプロジェクト実践セミナー」で試用した結果を以下に示しますので参考にしてください。

ユネスコ
サステナビリティ市民として獲得すべき8つの
キーコンビデンシー
①システム思考コンビデンシー
②・矛剤のコンビテンシー
③ 邦範のコンビテンシー
③ 防範のコンビデンシー
⑤ 広働コンビデンシー
⑤ 広崎コンビデンシー 

社会・情動的知性 (Social and Emotional Intelligence: SEI)

●マインドフルネス (mind-fullness) 今起きている全体をありのままに受け容れる ●共感 (empthy) 自分と他者の文脈も踏まえた感情を共有する

●寄り添い (compassion) 困難な人と共に問題に向き合う

批判的問いかけ (critical inquiry) 検証しながらやり取りを深める。

### 自己決定理論による動機づけの欲求

自律性:自分の意志で自分の行動を選択したい 有能感:自分の能力を発揮したい 関係性:人々と関係を持ちたい

5. 実践効果をどう考えるか:参考5-1 アンケート項目の例 佐藤、広石によるSDGs人材ビジョン 社会情動 内発的動 海ごみ問題の解決には・・・・ 機づけ 2) 起こり得る様々な未来の姿を予測して取り組むことが大切 予測 自律性 3) 自分はどのように行動したらよいか判断できることが大切。 規範的 自律性 4) 戦略的・計画的な方策を練ることが大切。 有能性 5) 他者の立場や意見を尊重し、協力して進めることが大切。 協働的 関係性 批判的思 6) 別の考え方や方法がないか問いかけてみることが大切。 白律性 いかけ 7) 自分は何ができるか、「役割」を考えることが大切。 有能性 統合的問 8) 関連する様々な課題を整理し、統合的な方法を考えることが大切。 有能性 マインドフルネス 9) 考える時に、自分の感覚や気持ちを意識することが大切。 自律性

### 5. 実践効果をどう考えるか:参考5-2 実践セミナーにおけるアンケートの試用とその結果 実践セミナー「海岸プラごみ清掃から流域のローカルSDGsの担い手づくりへ」 2021年10月30日(土)11:00~16:30 現地視察とセミナーWS オンラインハイブリッド開催 〈午前: 現地視察〉11:00~六渡寺海岸(富山県射水市)にて視察体験(オンライン中継) 集合:10:45 活動: 徒歩で六渡寺海岸へ、視察、ごみ拾い体験 昼食休憩 実践セミナーのアンケート結果 (午後:ワークショップ>13:30~ はじめに 本セミナーの内容について説明 インブット プラスチックの功罪、海ごみからのSDGsと NOTE (1077) ループワークショップ 波寺海岸のプラごみ問題、どのようにつながっ いる? b) mgozmemasami, Malta maledani ## 6-2-69788. 1984 - る? クショップ結果発表と討論 ディネーター 原 理史 中部地方ESDC 作力を 総会的間 有数的 無常力 の存在 サインド フルラス 実践活動の学びを持続可能な社会に活かす地球市 民 佐藤真久:東京都市大教授 6) #16WIL BOOMFORMSERN FOLLOWS

### (2) ESD 活動支援(第6期 ESD 推進計画の策定)

中部地域の「第6期 ESD 推進計画」を策定し、第1回 ESD/EPO 運営委員会に諮問して委員 からの意見等をうかがったうえで確定とした。

### 第6期ESD推進計画の策定

### 第2期ESD国内実施計画を受け策定

- ①持続可能な開発のための教育に関する関係省庁連絡会議(2021年4月): 我が国にお ける「持続可能な開発のための教育(ESD)」に関する実施計画(第2期ESD国内 実施計画) (案)
- ②一般社団法人環境創造研究センター(2021年3月):第6期EPO中部運営企画提案内容 (令和3年度中部環境パートナーシップオフィス運営業務企画書)
- ③中部地方 ESD 活動支援センター企画運営会議(2020年2月): <参考資料2>中部地 方ESD活動支援センターの活動方針についての検討(事務局整理案)



### 中部地方ESD活動支援センター 第6期ESD推進計画(章立てと策定方針案)

- ・計画の位置づけ
  - 第2期ESD国内実施計画に基づき中部ESDC第6期ESD推進活動方針を示す。
- 課題認識
  - 地方センターに期待される4機能に対する課題抽出を行う。
- 資料②で提案した第6期の重点を示す。
- 推進のための戦略
  - 資料②で示した計画提案と今年度の仕様書を踏まえ第6期の戦略を整理する。

### 中部地方ESD活動支援センター 第6期ESD推進計画(素案)-1

### 1. 計画の位置づけ

第2期ESD国内実施計画が策定されることを受け、中部地方ESD活動支援センターの第6期(2021年度~2023年度)のESD活動推進の方針と戦略を示す。本計画に基づき各年度において運営委員会の助言のもと、特にEPO中部が担う地域循環共生圏構築(ローカルSDGs推進)のための人づくりを支援するという観点で、中部地方におけるESD活動を推進する。

### 2. 課題認識 中部地方ESD活動支援センターに期待される4機能に対する実績と課題

### ①情報共有機能

- ・ESD推進ネットワーク、学術界、地球温暖化防止活動推進センターなど様々な関係者を通じた情報共有を実施してきた。全国センターと連携し、各地方センターや地域ESD拠点の他、多様なESD関係者と連携した情報共有を強化するとともに、ESDによる人材育成の重要性を普及啓発することが必要。
- ②ESD活動に関する各種相談対応や連携促進等の支援機能
- ・活動プラットフォームとして情報発信、ツール提供、相談対応の実績を積んできている。SDGs チェックリストなどESDツールやメソッド、地域ESD拠点等を通じた人材や手法等、ネットワーク資 産を活かし、より地域循環共牛圏構築のニーズに沿った支援を行うことが必要。
- ③ネットワークの形成及び学びあいの促進機能
- ・大学生や高校生等のユースの学びあい、自然資産を活かしたESD交流の場などを設定してきた。これらを活かし、より高度な学びあいと社会レベルの実情に沿った広範囲なネットワークの交流の場を拡充することが必要。
- ④人材育成機能
- ・①~③の他、各種講演やワークショップに積極的に人材を派遣やマッチングするなど、人材育成に貢献する支援活動に取組んできた。これらに加えESDやローカルSDGsなどの専門家との連携をさらに深め、人材育成の枠組みと手法事例を中部地方視点で整理し発信することが必要。

### 中部地方ESD活動支援センター 第6期ESD推進計画(素案)-2

3. 活動の重点 「ローカルSDGsためのESDの社会実装」に向けて

中部ESDCは環境省EPO中部に付置されているという立ち位置から、教育機関内のフォーマル教育に対する外部からの支援はもちろん、課外学習や生涯学習等のESD推進も重視する。また指導要領の改訂により今後ESDが進展する小中学校だけでなく、それ以上の社会人(特に取り残される可能性がある中小企業)や大学生、高校生などユース世代のローカルSDGs実践の即戦力として期待される対象のESD推進を支援する。

### 4. 活動推進のための戦略

- ■中小企業のSDGs取組ためのESD促進
- ・第5期で作成したSDGsチェックリストを中核としたWSパッケージも活用し、社会人ESDの展開を支援する。また協働コーディネーター等によるSDGs普及促進取組や金融機関との連携によるSDGs教育の展開を支援する。
- ■高等教育(大学、高校)と自治体・企業のSDGs取組におけるESD交流の推進
- ・企業や自治体などの実社会のSDGs取組を踏まえた大学生や高校生との交流空間をESDの場として設置し、ユース世代のためのESDネットワークを構築、展開する。
- ■自然資産を活かした学校教育と連携した地域づくりの促進
- ・ユネスコエコパークのESDダイアログの実績を基盤に、ESDを通じた国立公園、ジオパーク、世界遺産などの自然資本を活用した地域づくり連携の支援を促進する。
- ■「(仮称)中部版ESDワークブック~学生・社会人のための地域社会SDGs実践」の作成
- ・取組の成果は、汎用性を持たせたコンテンツとして活用できるように分析するとともに、ツール化、パッケージ化し、「ESDワークブック」として公開、活用することを目指す。
- ・ワークブックには「持続可能な開発目標のための教育 学習目標 」の8つのキーコンピテンシー (複雑なニーズに応じる能力)の獲得、向上を促す内容を盛り込み、中部地方の事例に基づく様々な 場面に対応するパッケージツールとなるよう検討を進める。

\_

### (3) ESD/SDGs 推進ネットワーク地域フォーラムの開催

### 1)日時

● 2022年 2月19日(土) 10:00~16:30

### ②主催

● 中部地方 ESD 活動支援センター

# TARRESTAND TO THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF

### 3開催方法

● オンライン/YouTube によるライブ配信+録画公開

### 4参加者

● 115 名(登壇者・大学生: 52 名、YouTube 視聴 59 名<sup>※</sup>、事務局 4 名) ※2022 年 2 月 25 日時点

### ⑤プログラム

○あいさつ

環境省 中部地方環境事務所

中部 ESD/EPO 運営会議座長 名古屋市立大学 伊藤先生

○趣旨・プログラム説明

中部地方 ESD 活動支援センター 原 理史 氏

- ○第一部:話題提供「地域と若者、SDGs へのアプローチ」
  - ・ 名古屋市立大学 三浦 哲司ゼミグループ
  - 岐阜大学 環境サークル G-amet
  - 松本大学 田開 寛太郎先生ゼミグループ
  - ・ 中京大学 草薙 健太先生ゼミグループ
  - ・ 金沢星稜大学 新広昭先生ゼミグループ
  - ・ 中部大学 伊藤 佳世先生ゼミ ESD エコマネーチーム
  - ・ 日本福祉大学 千頭 聡先生ゼミグループ
  - ・ 専修大学 岩尾 詠一郎先生・大崎 恒次先生ゼミグループ〈招待〉
- ○第二部:取組紹介「SDGs 未来都市の施策と取組について」
  - · 岐阜市 企画部未来創造研究室 杉本 昭一 氏·玉木 宏明 氏
  - ・ 珠洲市 能登 SDGs ラボ 高 真由美 氏
  - · 豊田市 未来都市推進課 前田 有紀 氏·松井 大河 氏
  - 参考インプット: SDGs 未来都市の見える化 SDGs 指標と取組の可視化
- ○第三部:ディスカッション「ローカル SDGs 達成のためにすべきこと、できること!」
  - コメント
  - ・ 学生ディスカッション 自己紹介とこれまでの報告を聞いての感想 地域での SDGs の取組みで大切だと思うこと 今後 SDGs の取組みでやっていきたいこと
  - ・ 議論の共有、全体ディスカッション
- ○総括コメント

中部大学教授、中部高等学術研究所所長、国際 GIS センター長 福井 弘道 氏 中部地方ESD/SDGs推進ネットワーク地域フォーラム

# SDGs学生サミット

2022年 2 月19日 (土) 開催



### 開催概要



| 2022年2月19日(土) | 10:00~16:30



オンライン開催



YouTubeライブ配信をご自由に ご視聴いただけます。(申込不要) 視聴URLは後日WEBに掲載します。



ハブとなる中部大学中部高等学術研究所 デジタルアースルーム

主催▶中部地方ESD活動支援センター(環境省EPO中部) 協力▶中部大学中部高等学術研究所、国際GISセンター問題複合体を対象とするデジタルアース共同利用・共同研究拠点

# プログラム(調整中)

第1部 話題提供(10:00~)地域と若者、SDGsへのアプローチ …SDGsの取組・活動を行っている学生グループが「若者にとってのローカルSDGsを テーマに発表を行います。

第2部 取組紹介(13:00~)SDGs未来都市の施策と取組について …SDGs未来都市に選定されている中部地方の自治体担当者などから施策や取組をご紹介 いただきます。

第3部 ディスカッション(14:40~) ローカルSDGs達成のためにすべきこと、できること!

進行 原 理史(中部地方ESD活動支援センター)

総括 伊藤 恭彦氏 (ESD/EPO運営委員会 座長)



### (4) 全国センターとの連携、地域 ESD 拠点登録支援等

### ア 全国 ESD センターとの連携

### (ア) 会議等への出席

● 全国 ESD センター主催会議等への出席、資料提供などを下記の通り行った。

区分	回/開催日	対応状況
企画運営	第1回 6月22日	<ul><li>◆ オンライン会議を傍聴。</li></ul>
委員会	第 2 回 2月 17 日	<ul><li>オンライン会議を傍聴。</li></ul>
全国·地方 連絡会	第 1 回 5 月 27 日 第 2 回 1 月 26 日	<ul> <li>オンライン会議に出席。</li> <li>国内計画、地域 ESD 拠点アンケート等について協議。</li> <li>2021 年度 ESD 業務、分科会活動業務企画案資料を作成のうえ提出。</li> <li>オンライン会議に出席。</li> <li>ESD 推進ネットワークの今後の方向性等について協議。</li> <li>2021 年度 ESD 業務、分科会活動業務企画案資料を作成のうえ提出。</li> </ul>
全国 フォーラム	12 月 11 日 (オンライン)	• 分科会にて、学び合い①②、実践セミナーの取組結果等を発表したほか、 ファシリテーターとして登壇。
その他	9月27日	全国センター及び地方センターによるオンライン会議に出席。     全国フォーラム(関係方法 目的 プログラム等) 識者ヒアリング センター事
ての他	10月7日	<ul><li>◆ 全国フォーラム(開催方法、目的、プログラム等)、識者ヒアリング、センター事 例集について協議。</li></ul>

### (イ) 後援申請対応

● 中部地方 ESD 活動支援センターの後援名義使用について、下記のイベント事務局から全国 センターに申請があり、全国センターからの照会に対する確認等を行った。

<b>+=</b> + <b>&gt; /</b> +	Z-11 D	申請行事			
申請主体	承認日	名称	開催日	場所/方法	
一般社団法人日本若者 協議会 ※	5月10日	日本版気候若者会議	2021年5月23日~8月1日	オンライン	
名古屋市環境局環境企 画課	5月17日	なごや環境大学 SDGs 未来創造クラブ まちづくりプロジェクト	2021年6月1日~2022年3月31日	名古屋市内	
三菱アジア子ども絵日記フェスタ実行委員会 ※	5月21日	三菱アジア子ども絵日記フェスタ 2021-2022	2021年3月1日~2023年2月28日	全国各地	
東北地方 ESD 活動支援 センター ※	8月5日	東北 ESD/SDGs フォーラム 2021 みちのく SDGs in あおもり 〜人づくりから広がる SDGs のカ〜	2021年10月17日	オンライン	
信州 ESD コンソーシアム	11月4日	信州 ESD コンソーシアム 成果発表&交流会	2022年2月5日	オンライン	
北陸ESD推進コンソーシ アム	11月12日	2021 年度北陸ユネスコスクール 実践交流会	2021年12月4日	オンライン	
北陸ESD推進コンソーシ アム	11月12日	2021 年度 石川県 SDGs·ESD 児童生 徒学習活動交流会	2022年1月22日	オンライン	
北陸 ESD 推進コンソー シアム	1月13日	2021 年度北陸 ESD 推進コンソーシア ム成果報告会	2022年2月6日	オンライン	

※:全ての地方センターに後援申請があった催事

# イ 地域 ESD 拠点登録支援等

### (ア) 拠点登録申請の支援

● 今年度、中部エリアにおいて、新たな地域 ESD 拠点登録の申請は発生しなかった(2022年3月現在、18団体が登録)。

### (イ) 地域 ESD 拠点登録団体への支援

● 拠点登録済み団体が主催するイベント等について、中部地方 ESD 活動支援センターウェブ サイト等で下記の通り、広報協力を行った。

### 【中部地方 ESD 活動支援センターウェブサイトに掲載した登録団体への広報協力記事】







### (5) ジオパーク等の活用(ESDダイアログの開催)

### 1日時

● 2021年 11月13日(土)13:30~16:40

● 2021年 11月14日(日)8:30~14:40

### ②主催等

● 主催:中部地方 ESD 活動支援センター

共催:一般社団法人立山黒部ジオパーク協会



### ③開催場所·方法

- 一日目・ESD ダイアログ:リアル[会場]大山研修センター、[オンライン]YouTube ライブ 配信及び後日公開
- 二日目・エクスカーション:立山黒部ジオパーク内4カ所

### 4参加者

- 一日目・ESD ダイアログ: 45 名 (会場参加 37 名、YouTube 視聴 8 名)
- 二日目・エクスカーション:13 名

### ⑤プログラム

【一日目: ESD ダイアログ】

○あいさつ

一般社団法人立山黒根ジオパーク協会 今堀 喜一 氏環境省 中部地方環境事務所 佐藤 堅太氏

○第一部:自然資本とは何か。問われる ESD 活用への展開「エコパーク、ジオパーク、国立公園とは?」環境省 中部山岳国立公園立山管理事務所 西田 樹生 氏「自然資本を活用した ESD 活動とは?」 信州大学教育学部 助教授 水谷 瑞希 氏 ○第二部:中部地方のジオパークによる ESD 活用事例の紹介

「副読本『なめりかわのジオパーク』~大地・川・海歴史がおりなす自然と文化」 一般社団法人立山黒部ジオパーク協会 今堀 喜一 氏

滑川氏教育委員会 教育長 伊東 眞 氏

「ジオパーク遠足と学習支援」

白山手取川ジオパーク推進協議会 新田 竜之介 氏

白山手取川ジオパーク学習支援員 脇坂 弘明 氏

「恐竜渓谷ふくい勝山ジオパークにおける教育活動」

恐竜渓谷ふくい勝山ジオパーク推進協議会 町 澄秋 氏

「南アルプスジオパークを活用した地域を考える教育」

南アルプス (中央構造線エリア) ジオパーク協議会 小澤 恵理 氏

○第三部:自然資本のESD活用のあり方 パネルディスカッション「自然公園等におけるESD活用について」

○閉会のあいさつ

一般社団法人環境創造研究センター 福井 弘道 氏

【二日目:エクスカーション】立山黒部ジオパークの現地体験と解説

魚津水族館 (魚津市)

黒部市吉田科学館(黒部市)

下立地区大理石露頭 (ジオサイト)

宇奈月麦酒館(黒部市)

### 魚津水族館(魚津市)「うおづ水辺の調査隊」





黒部市吉田科学館(黒部市)「くろベ水の少年団」





下立地区大理石露頭(ジオサイト)





### 6開催案内チラシ





### ESDダイアログ

日時:11月13日(土) 13:30~16:40 会場:大山研修センター (富山県富山市東黒牧140-1)

YouTubeライブ配信、及び後日公開予定あり ※申込不要:EPO中部のHPで公開 https://www.epo-chubu.jp

### プログラム(1日目)

ご挨拶 ■ 一般社団法人立山黒部ジオパーク協会

■ 環境省 中部地方環境事務所

### 第1部 自然資本とは何か。今問われるESD活用への展開

「エコパーク、ジオパーク、国立公園とは?」

■ 西田 樹生氏(環境省中部山岳国立公園立山管理官事務所)

「自然資本を活用したESD活動とは?」

■ 水谷 瑞希氏(信州大学教育学部)

### 第2部 中部地方のジオパークによるESD活用事例の紹介

- 立山黒部ジオパーク 恐竜渓谷ふくい勝山ジオパーク
- 白山手取川ジオパーク 南アルプス(中央構造線エリア)ジオパーク

### 第3部 自然資本のESD活用

「自然公園等におけるESDの展開について」

# 2日目

### エクスカーション 立山黒部ジオパークの現地体験と解説

日時:11月14日(日)8:30~14:40 場所:立山黒部ジオパーク

【集合】大山研修センター

【解散】富山駅経由・大山研修センター

※2日目の行程(バスで移動)は裏面を参照ください。※宿泊の手配が可能です(宿泊費は自己負担)。宿泊施設については裏面を参照ください。



### ■参加申込方法■

下のQRコードの参加申込フォームからお申し込みください。 ⇒中部地方ESD活動支援セ

⇒中部地方ESD活動支援セ ンター/EPO中部のHPにも リンクあり



# 立山黒部ジオパークESDダイアログ2021



### ESDダイアログ

日時:11月13日(土)13:30~16:40

会場:大山研修センター

プログラム YouTubeライブ配信、及び後日公開予定あり

■ 一般社団法人立山黒部ジオパーク協会

■環境省中部地方環境事務所

### 第1部:講演

自然資本とは何か。今問われるESD活用への展開

「エコパーク、ジオパーク、国立公園とは?」 ■ 西田 樹生氏(環境省中部山岳国立公園 立山管理官事務所)

「自然資本を活用したESD活動とは?」

■ 水谷瑞希氏 (信州大学教育学部)

### 第2部:話題提供

中部地方のジオパークによるESD活用事例の紹介

「副読本『なめりかわのジオパーク』~大地・川・海 歴史がおりなす自然と文化~」

- 今堀 喜一氏(一般社団法人立山黒部ジオパーク協会)
- 伊東 眞氏 (滑川市教育委員会 教育長)

「ジオパーク遠足と学習支援員」

- 新田 竜之介氏(白山手取川ジオパーク推進協議会)
- 脇坂 弘明氏(白山手取川ジオパーク 学習支援員)

「恐竜渓谷ふくい勝山ジオパークにおける教育活動」

■ 町 澄秋氏(恐竜渓谷ふくい勝山ジオパーク推進協議会)

「南アルプスジオパークを活用した地域を考える教育」 ■ 小澤 恵理氏(南アルプス(中央構造線エリア)ジオパーク協議会)

### 第3部:パネルディスカッション

自然資本のFSD活用

「自然公園等におけるESDの展開について」 パネリスト:登壇者、ジオパーク関係者など 進行:中部地方ESD活動支援センター

2日日

### エクスカーション 立山黒部ジオパークの現地体験と解説

日時:11月14日(日)8:30~14:40 場所:立山黒部ジオパーク

立山黒部ジオパークを活かした教育や保全活動などESDの 実践例を体感します。

行程

★バスで移動(自家用車等の利用も可)

### 大山研修センター【集合】

角津水族館(角津市)

「うおづ水辺の調査隊」について(解説)

黒部市吉田科学館(黒部市)

「くろべ水の少年団」について(解説)

下立地区大理石露頭(ジオサイト)(解説)

宇奈月麦酒館(黒部市)

【各自で昼食】

富山駅経由

大山研修センター【解散】

2日目エクスカーション、または、宿泊手配を申し込んだ方 へは、後日、詳細なご案内資料を送付いたします。

### 会場/宿泊施設:大山研修センター

〒930-1262 富山市東黒牧140-1

https://www.intec.co.jp/company/training\_center/

- 〇富山LCより車で15分 〇上滝駅より車で10分 〇富山駅より車で35分 〇富山空港より車で15分

### 事務局による宿泊手配について

宿泊施設:大山研修センター 一泊二食付一人部屋:8,110円(税込)

※キャンセル料:2日前より2,280円

●宿泊申込者・2日目参加者の方へは、開催日1週間前 に開催案内を送付します。届かない場合は、恐れ入り ますが事務局まで連絡願います。

参加申込をした後で宿泊キャンセル、不参加となった場合には、必ず事務局へ連絡してください。

●事務局による手配は予約のみとなります。チェックイン・チェックアウト、宿泊費の支払等は各自で現地にて行っていただきます。

### 問合せ先(主催事務局)

本催事についての問合せは、会場ではなく、下記の主催事 務局へお願いいたします。なお、電話による参加申込は受 け付けておりません。

中部地方ESD活動支援センター(環境省EPO中部)

TEL: 052-218-8605



### (6) 域内外の多様な主体の連携促進、交流機会の提供

### ア 活動計画の作成

● SDGs 社会教育研究会ワーキング、及び学び合い(全2回)、実践活動(全1回)の開催についての「活動計画」を作成し、その内容については、第1回 ESD/EP0 運営委員会への諮問と、SDGs 社会教育研究会ワーキングでの協議を行ったうえで確定とした。

中部地方 ESD 活動支援センター 分科会活動計画 210611

【テーマ】ローカル SDGs のための ESD の社会実装~SDGs 社会教育を考える

### 【分科会活動・公開イベント】

●SDGs 社会教育~学びあいの場の開催(2回、オンライン)

勉強会、意見交換会となる学びあいの場を設営、開催(基調講演、話題提供、ディスカッション) 話題提供者は専門家コアメンバー、中部地方 ESD 活動支援センターを想定

●実践活動(1回、現場・オンラインのハイブリッド) 学びあいを踏まえた現場とオンライン併用の SDGs 社会教育〜実践セミナーの開催 PEC とやまの実績とネットワークを生かして、富山市に六渡寺海岸(富山県射水市)で実施

●全国 ESD フォーラムへの参加、報告(1回、現場での開催想定/全国センター主催)

### <登壇者>

### 基調講演

佐藤真久 東京都市大学環境学部教授 ESD 活動支援企画運営委員会委員

学びあいの場①基調講演

テーマ案:ローカル SDGs の担い手に求められる能力とは、SDGs 社会教育の必要性

実践セミナー総括コメント

テーマ案: 実践活動の学びを持続可能な社会に活かす地球市民

古澤礼太\*\* 中部大学国際 ESD/SDGs センター准教授 中部 ESD 拠点協議会事務局長:地域 ESD 拠点 学びあいの場②基調講演

テーマ案:ローカル SDGs の担い手を育成する、SDGs 社会教育実践の現場から

### 話題提供

水上聡子\*\* EPO 中部運営委員アルマス・バイオコスモス研究所代表

堺 勇人\*\* EPO 中部運営委員一般社団法人 環境市民プラットフォームとやま(PEC とやま)事務局長 :地域 ESD 拠点

### コーディネーター

原 理史\*\* 中部地方 ESD 活動支援センター 中部大学国際 ESD/SDGs センター研究員

### 【研究ワーキング】(\*\*は研究会コアメンバー、オブザーバー:中部地方環境事務所)

リアルとオンラインで3回開催する。SDGs 社会教育の体系化を検討するとともに、中部地方のローカルSDGs を担う人材育成に役立つESD 情報ツールパッケージとして、「(仮)中部版ESD ワークブック~学生・社会人のための地域社会SDGs 実践」(プロトタイプ版)を作成する予定。分科会活動の成果を反映する。

### 【全体スケジュール】注:網掛けは公開イベント

イベント・研究会	期日	開催形式	内容(案)
SDGs 社会教育研究ワーキング①	7/6 午後	リアル開催(福井市):非公開	SDGs 社会教育体系とワークブックの構成、学びあいの場・実践活動開催計画
SDGs 社会教育~学びあいの場①	8/26 夜	オンライン:公開	基調講演(佐藤先生)・話題提供(水上さん)・ディ スカッション
SDGs 社会教育~学びあいの場②	9/16 夜	オンライン:公開	基調講演(古澤先生)・話題提供(堺さん)・ディス カッション
SDGs 社会教育研究ワーキング②	9/30 午 前	オンライン他:非公開	学びあいの場開催評価、実例整理、ワークブック コンテンツ
SDGs 社会教育~実践セミナー	10/30	リアル開催: 六渡寺海岸(富 山県射水市):公開	午前: 現地視察 午後: ワークショップ、ディスカッション、総括コメント(佐藤先生)
全国 ESD フォーラムにて報告	12/10 ~ 12/11	(リアル開催予定:公開)	
SDGs 社会教育研究ワーキング③	12/後半	オンライン他:非公開	全国フォーラム振り返り、ワークブックへの反映

SDGs 社会教育〜学びあいの場、実践セミナー 実施計画(案)

「ローカル SDGs のための ESD の社会実装」を目指す活動として中部地方地域内外の ESD 関係者に交流と 学び合いの機会を提供する。活動は、環境省、文科省、ESD 全国センターが共催する ESD 全国フォーラムに分 科会活動として実施する。

対象: 全国の地域 ESD 拠点、ESD 関係者、企業 SDGs 担当者、SDGs 活動のユースや研究室、等

申込:環境省 EPO 中部内、中部地方 ESD 活動支援センター、参加無料(定員 100 名)

方法:オンライン開催を基本とし、実践活動では現地開催とのハイブリッドとする

主催:環境省 EPO 中部・中部地方 ESD 活動支援センター

連携:中部地方 ESDC による広報の他、全国センター、各地方センターと同時広報

【8/26】SDGs 社会教育~学びあいの場(1)SDGs 社会の「担い手」とは

2021 年 8 月 26 日 (木) 18:00~19:30(計 90 分)オンライン開催 <プログラム>

はじめに(10分)

基調講演「仮)ローカル SDGs の担い手に求められる能力とは、SDGs 社会教育の必要性」(30分)

佐藤真久 東京都市大学環境学部教授 ESD 活動支援企画運営委員会委員

話題提供「仮)求められる担い手:福井県坂井市のまちづくり協議会の取組から考える」(20分)

水上聡子 アルマス・バイオコスモス研究所代表

休憩(5分)

パネルディスカッション・フロアディスカッション(20分)

原 理史 中部地方 ESD 活動支援センター 中部大学国際 ESD/SDGs センター研究員 とりまとめと総括(5分)

【9/16】SDGs 社会教育~学びあいの場②「担い手」育成ための ESD とは

2021年8月26日(木)18:00~19:30(計90分)オンライン開催

<プログラム>

はじめに(10分)

基調講演「仮)ローカル SDGs の担い手を育成する、SDGs 社会教育実践の現場から」(30分)

古澤礼太 中部大学国際 ESD/SDGs センター准教授 中部 ESD 拠点協議会事務局長

話題提供「仮)担い手を増やすために〜環境市民プラットフォームとやまの取組」(20分) 堺 勇人 EPO 中部運営委員一般社団法人 環境市民プラットフォームとやま事務局長

堺 男人 EPO 中部連貫委員一般任団伝人 環境市民ノフットノオームとやよ事務局長 休憩(5分)

パネルディスカッション・フロアディスカッション(20分)

原 理史 中部地方 ESD 活動支援センター 中部大学国際 ESD/SDGs センター研究員 とりまとめと総括(5分)

【10/30】SDGs 社会教育~実践セミナー「海岸プラごみ清掃から流域のローカル SDGs の担い手づくりへ」

2021年10月30日(土)11:00~16:30 現地視察とセミナーWS、オンラインハイブリッド開催

<午前:現地視察>11:00~六渡寺海岸(富山県射水市)にて視察、体験(現地参加者のみ)

集合:10:45 集合場所:射水市庄西コミュニティセンター

活動:徒歩で六渡寺海岸へ、視察、ごみ拾い体験(雨天の場合はコミュニティセンターで状況紹介) 昼食休憩(各自で弁当準備)

<午後:ワークショップ>13:30~ オンライン併用

はじめに 本セミナーの内容について説明(10分)

インプット1 プラスチックの功罪、SDGs への影響を考える(10分)

インプット2 現地視察の振り返り、海岸のごみ清掃活動についての紹介(20分)

インプット3 六渡寺海岸への流出域(流域)とゴミに関する市民意識(30分)

休憩(10分)

グループワークショップ 六渡寺海岸のプラごみ問題、市民にどのように呼びかける?(40分)

ワークショップ結果発表と討論(30分)

コーディネーター 原 理史 中部地方 ESDC、中部大学国際 ESD/SDGs センター研究員

総括コメント 実践活動の学びを持続可能な社会に活かす地球市民(20分)

コメンテーター 佐藤真久 東京都市大学環境学部教授

### イ SDGs 社会教育研究ワーキング

- ESD・SDGs 社会教育に関わる専門家3名による「SDGs 社会教育研究ワーキング」を設置し、「学び合いの場」「実践活動」の実施方法・内容についての検討を行った。
- 研究会では、「学び合いの場」「実践活動」の実施結果の検証と共に、「中部版 ESD ワークブック~学生・社会人のための地域社会 SDGs 実践」(プロトタイプ版) についての検討も行った。

### (ア) 第1回ワーキングの実施

### 1)日時

● 2021年7月6日(火)13:30~16:30

### 2開催場所

● ホテル京福(福井県福井市)

### 3出席者

● 6名



氏 名	所 属
古澤 礼太	中部大学国際 ESD/SDGs センター准教授、中部 ESD 拠点協議会事務局長
水上 聡子	EPO 中部運営委員、アルマス・バイオコスモス研究所代表
堺 勇人	EPO 中部運営委員、一般社団法人環境市民プラットフォームとやま(PEC とやま)
	事務局長
原 理史	中部地方 ESD 活動支援センター、中部大学国際 ESD/SDGs センター研究員
佐藤 堅太	環境省中部地方環境事務所環境対策課主査
清本 三郎	中部地方環境パートナーシップオフィス 統括

### 4協議項目

- ○自己紹介
- ○趣旨説明
- 1. 自己紹介と参加者 ESD 活動内容の共有
- 2. 研究会ワーキングの議論

### (イ) 第2回ワーキングの実施

### 1)日時

● 2021年9月30日(木)13:30~16:30

### 2開催場所

● 庄西コミュニティセンター(富山県射水市)



### ③出席者

### ● 6名

氏 名	所属	
古澤 礼太	中部大学国際 ESD/SDGs センター准教授、中部 ESD 拠点協議会事務局長	
水上 聡子	EPO 中部運営委員、アルマス・バイオコスモス研究所代表	
堺 勇人	EPO 中部運営委員、一般社団法人環境市民プラットフォームとやま(PEC とやま)	
	事務局長	
原 理史	中部地方 ESD 活動支援センター、中部大学国際 ESD/SDGs センター研究員	
清本 三郎	中部地方環境パートナーシップオフィス 統括	

### ※オンライン出席

佐藤 堅太 環境省中部地方環境事務所環境対策課主査

### 4協議項目

- 1. イベント「学びあい①②」の振り返り
- 2. ワークブックの議論
- 3. 実践セミナーの計画

### (ウ) 第3回ワーキングの実施

### 1日時

● 2021年 12月16日(木)13:30~16:30

### 2開催場所

● EPO 中部

### ③出席者

6名

● 専門家メンバー(敬称略)



氏 名	所 属
古澤 礼太	中部大学国際 ESD/SDGs センター准教授、中部 ESD 拠点協議会事務局長
水上 聡子	EPO 中部運営委員、アルマス・バイオコスモス研究所代表
堺 勇人	EPO 中部運営委員、一般社団法人環境市民プラットフォームとやま(PEC とやま)
	事務局長
原 理史	中部地方 ESD 活動支援センター、中部大学国際 ESD/SDGs センター研究員
佐藤 堅太	環境省中部地方環境事務所環境対策課主査
清本 三郎	中部地方環境パートナーシップオフィス 統括

### 4協議項目

- ○令和3年度活動の成果の検討
  - 第1回研究ワーキング
  - ・ オンラインセミナー:学びあい1と2
  - 第2回研究ワーキング
  - 実戦セミナーの開催と分析
- ○全国フォーラム第3分科会の議論を受けて
- ○ワークブックの議論
- ○今後の方向性、次年度に向けて

### ウ 交流者の参加募集

### ①スケジュールの作成

● 学び合い(全2回)、実践活動(全1回)のスケジュールを作成し、参加者の一般公募を 7月より開始した。

### SDGs社会教育研究会 スケジュール ~5月頃 6-10月頃 11月頃 12月~1月頃 12月頃 学びあいの ワークブック 全国ESD 社会ESD 準備 場の開催と フォーラム (12月10、11日) プロトタイプ 実践活動 研究会

- リサーチ
- ・ワーキングブック のあらすじ
- · 「学びあいの場」 の開催計画
- に参加を呼びかけ
- ング(7/8)社会ESD 体系とワークブック の構成、実践活動 開催計画
- ·「学びあいの場」の 開催(2回:8/26、 9/16)
- ・第2回研究ワーキ ング:学びあいの場 開催評価、実例整 理、ワークブックコ ンテンツ(9/30)

- (10/30)
- ・社会ESD体系の ・「学びあいの場」へ・**学びあいを踏まえた・全国フォーラムへ** ・ワークブック内容 の関係機関・地域 現場とオンライン併 の参加、発表 用の社会ESD実践 (12/11オンライン) · プロトタイプの公 ・第1回研究ワーキ セミナーの開催・全国フォーラム振 り返り、ワークブッ
  - クへの反映 ・第3回研究ワーキ ング:全国フォーラ ム振り返り、ワーク

(12/16)

ブックへの反映

- とりまとめ
- のとりまとめ

4

### ②開催案内チラシ

開催案内チラシを作成し、EPO 中部及び中部地方 ESD 活動支援センターのウェブサイトで 広報を展開した。また、「ESD for 2030 学び合いプロジェクト」として、全国センター、 地方センターと連携して広報を展開した。



### 開催日程

### 学び合いの場①

SDGs社会の「担い手」とは

2021年8月26日(木) 18:00~19:30/オンライン

# 学び合いの場②

「担い手」育成のためのESDとは

2021年9月16日(木)

18:00~19:30/オンライン

# 実践セミナー

「海岸プラごみ清掃から流域の ローカルSDGsの担い手づくりへ」

2021年10月30日(土)

11:00~16:30/現地参加またはライブ配信視時

地域や企業などでローカルSDGsを推進するためには、その担い手が必要です。すでに活躍している社会人、これから社会に出る学生、こうした方々が豊かなSDGs教育(ESD\*)の機会を持つことが求められます。そこで、社会教育の面からSDGsの教育を考える「学び合いの場」と「実践セミナー」を開催します。

高等教育の先生方、職場教育の担当の方、生涯学習の企画担当の方、もちろん一般で興味のある方も。ぜひご参加ください。参加費無料!

\*ESD = Education for Sustainable Development

### 申込方法

- ▷ 参加申込フォームからお申し込みください。
- ▷ 8/26,9/16のzoomの参加URLは、 開催前日にお送りします。
- ▷ 定員を超過した場合は先着順とし、 落選者へのみ連絡いたします。



▲申込フォーム

### 問合せ

中部地方ESD活動支援センター(環境省 EPO中部) TEL:052-218-8605



### 「ESD for 2030 学び合いプロジェクト」について

全国8カ所の地方ESDセンターによりプロジェクトを展開します。 詳細は ESD活動支援センター https://esdcenter.jp/ のwebページをご覧ください!



中部地方 ESD 活動支援センター

Education for Sustainable Development

詳細は裏面へ

### エ 学び合いの実施

### (ア) 学び合いの場①の開催

### 1)日時

● 2021年 8月26日(木)18:00~19:30

### 2開催場所

● オンライン

### 3参加者者

● 65名(事務局 4、登壇・関係者 5 含む)

### ④プログラム

○はじめに

### 環境省 中部地方環境事務所 佐藤 堅太

- ○ローカル SDG s の担い手に求められる資質・能力、知性とは -持続可能な社会に向けて、好循環を生み出す人のあり方、学び方、働き方-東京都市大学大学院 環境情報学研究科教授 佐藤 真久 氏
- ○求められる担い手 福井県坂井市のまちづくりの取組から考える アルマス・バイオコスモス研究所 水上 聡子 氏
- ○パネルディスカッション・フロアディスカッション 進行 原 理史(中部地方 ESD 活動支援センター)

### (イ) 学び合いの場②の開催

### 1)日時

● 2021年9月16日(木)18:00~19:30

### 2開催場所

● オンライン

### ③出席者

● 38 名 (事務局 4、登壇・関係者 4 含む)

### 4プログラム

- ○基調講演「ローカル SDGs の担い手を育成す
- る、SDGs 社会教育実践の現場から」

古澤礼太(中部大学国際 ESD・SDGs センター 准教授)

- ○話題提供「担い手を増やすために~環境市民プラットフォームとやまの取組」 堺 勇人(一般社団法人環境市民プラットフォームとやま(PECとやま)事務局長)
- ○パネルディスカッション&フロアディスカッション 進行 原 理史 (中部地方 ESD 活動支援センター)





### オ 実践活動(実践セミナー)の開催

### 1)日時

● 2021年 10月30日(土)11:00~16:30

### 2開催場所

● 午前の部:六渡寺海岸(射水市庄西コミュニテイーセンター集合)

● 午後の部: IFE マテリアル株式会社ふれあい体育館

※ 午前午後とも YouTube でライブ配信

### ③参加者

● 会場 23 名 (事務局 4、登壇・関係者 4 含む)、オンライン 45 名 計 68 名

### 4プログラム

○午前の部:六渡寺海岸視察&ごみ拾い体験

○午後の部:セミナー&ワークショップ

あいさつ

### 環境省 中部地方環境事務所 佐藤 堅太氏

「プラスチックの功罪、海ごみからの SDGs と市民意識」

富山県立大学名誉教授 楠井 隆史 氏

「現地視察の振り返り、海岸のごみ清掃活動について」

六渡自治会顧問 境 信誓 氏

「六渡寺海岸のプラごみから SDGs を考える」

フアシリテーター:アルマス・バイオコスモス研究所代表 水上 聡子 氏

コーディネーター: 中部地方 ESD 活動支援センター 原 理史 氏

「実践活動の学びを持続可能な社会に活かす地球市民」

東京都市大学大学院環境情報学研究科教授 佐藤 真久 氏

### ⑤午前の部:六渡寺海岸視察&ごみ拾い体験の様子



### ⑥午後の部:セミナー&ワークショップの様子



### カ 報告(全国フォーラムでの活動結果報告)

● 12月11日オンライン開催の全国フォーラムで「学び合いの場①②」「実践セミナー」の実施結果の報告を行った。



### 【企画協力及び登壇した分科会】

### 分科会③地域に根差した多様な SDGs 人材育成(13:30~15:30)

事例報告 伊藤 博隆さん(関東地方 ESD 活動支援センター) 事例報告 原 理史さん(中部地方 ESD 活動支援センター) 事例報告 宇賀神 幸恵さん(四国地方 ESD 活動支援センター) パネリスト 水上 聡子さん(アルマス・バイオコスモス研究所)



### (7) 教育現場の実態把握と連携強化

### ア 専門家への包括ヒアリング

### (ア) ヒアリングを実施した専門家

古澤礼太

中部大学中部高等学術研究所国際 ESD/SDGs センター 准教授/国連大学認定 RCE「中部 ESD 拠点協議会」(ESD 推進ネットワーク 地域 ESD 拠点登録)事務局長

### (イ) ヒアリングの実施概要

### 1)日時、場所

場所:中部大学中部高等学術研究所日時:2021年4月13日15:00~16:30

### ②ヒアリング項目

- ① 専門領域における現在の ESD/SDGs の取組について
- ② ESD2030 と「実施計画(第2期ESD国内実施計画)(案)」についてのお考え
- ③ ESD 全般についての現状の課題についてのお考え
- ④ 今後の ESD 推進に向けて重視していることとその展望

### (ウ) ヒアリング結果

### ①専門領域における現在の ESD/SDGs の取組について

- ヒヤリング対象の専門家(以下、専門家)は中部地域における ESD のネットワーク活動として、中部 ESD 拠点協議会における諸活動に従事している。近年では、ESD は知名度の低さがネックとなる場合があり、これと比較して広く社会に受け入れられつつある SDGs を活用し、地域の持続可能な発展に関わる活動およびネットワークの拡充を図る傾向が社会で見られ、本協議会もそのような取組を行っている。
- 具体的な活動としては、①中部サステナ政策塾、②中部 SDGs デザイン会議、③両者の協働による SDGs プロジェクトの創出、などについて取組が進められている。

### 【中部サステナ政策塾活動】

● 2020 年度で第5期を迎えた中部サステナ政策塾は、毎年30名程度の若者(20~30歳代) を募集し、分野横断型の塾生間交流を通して、持続可能な地域づくりに関する政策を学び、 実行するための知識が技術を身に着ける講座を開講している。

### 【中部 SDGs デザイン会議活動】

● 東海三県における SDGs の有識者ネットワークとしてメンバーを募集中である(正式発足時期は未定)。17 ゴールそれぞれに 100 人委員会を設置し、メーリングリストや対面による情報交換を行うこととしている。将来的には100名×17=1700名のネットワークとなる予定である。

### 【SDGs プロジェクトの創出】

- 2020年度には、中部サステナ政策塾塾生と中部 SDGs デザイン会議メンバーが協働し、「ポストコロナ時代の持続可能な社会づくりプロジェクト」と題して、ワークショップ等を通じて6プロジェクトを立ち上げた。各プロジェクトは以下のとおりである。
  - a. 多文化共生プロジェクト
  - b. エネルギープロジェクト
  - c. パートナーシッププロジェクト

- d. 環境プロジェクト
- e. まちづくりプロジェクト
- f. 農業プロジェクト
- 大学の取組としては、SDGs 指標を使った地域における諸活動の評価や助言を目的とした SDGs 推進手法の開発を行っている。また、国際的な大学ランキング(THE インパクトランキング)にも SDGs が取り入れられたものもあり、ランキングの登録をおこなうための調査を実施している。これにより、国際的に共有されている大学における SDGs 評価項目の知見を得ている。今後は、評価項目を大学教職員間で共有することによって具体的に大学の SDGs 活動を促進することとしている。

### ②ESD2030 と「実施計画(第2期ESD国内実施計画)(案)」についてのお考え

- 国内実施計画は、これまでの ESD 推進の経緯が整理され、それらを踏まえた行動計画として概ね適切な内容になっているが、下記の課題が残されているとのことであった。
- ESD の「あいち・なごや宣言」の成果への対応が不足しているのではないか。国内実施計画では、数か所に渡って「我が国が ESD を提唱」との記載があるが、一つの重要な成果としての「あいち・なごや宣言」に関する記載が無い(防災世界会議の「仙台宣言」などは国内公文書の随所に引用されている)。
- あいち・なごや宣言では、文化の多様性に配慮し、地域の伝統的な知恵を重視した ESD 推進の視点などを記載した重要な宣言であり、我が国が提唱した ESD のひとつの貴重な中間成果である。中部地域では、こうした国際的な宣言を根拠として、2015 年以降の活動方針を決定し、実施してきた経緯がある。あいち・なごや宣言では、SDGs と ESD の関連についても述べられており、その結果として SDG4.7 のターゲットに ESD が明記された経緯を鑑みても、我が国の国際的貢献の証として、広く国民に「あいち・なごや宣言」の存在を知らしめる必要があると考える。なお、ユネスコが 2019 年に発表した GAP の成果文書にも「あいち・なごや宣言」の名称は明記されている(コスタリカで開催された成果文書取り纏め会議において記載の必要性を指摘)。
- 優先行動分野 5 地域レベルの活動促進の中で、地域知や伝統知に関する記述を加えるべきであると考えられる。ESD ユネスコ世界会議本会議において、優先行動分野の 5 の「地域レベルでの活動促進」の座長を務めた中で、文化の多様性を尊重した地域レベルでの ESD の必要性を議論している。「あいち・なごや宣言」にもその重要性が指摘されている(宣言パラ⑩)。地域の知恵や伝統的な知恵は、地域の持続可能性を考え、学ぶ上で不可欠な要素であり、それらを尊重する指針を実施計画に明記すべきであると考えられる。
- 本実施計画案でもっとも検討すべき点は、ユネスコの評価にもある「優先行動分野間の連携の不足」という課題に対する対応である。ユネスコが設置した GAP のパートナーネットワーク会議における優先分野 5 のメンバーとしての立場から見て、優先分野間の連携の不足の原因は、優先分野に分けたことによって必然的に発生する分断に対して、ユネスコが連携を促進するための適切な方策を講じることができなかった点にあると考えられる。本実施計画案でも同様の失敗が繰り返される可能性がある。実施計画では、実施メカニズムで「分野を超えたステークホルダーの協力」体制が多くの具体的ネットワーク名を挙げて強調されている一方、優先行動分野間の連携促進に関する記述は読み取れない。実施計画内にユネスコのGAP評価として明記されている当該課題について、対応策が記載されていないという点は問題であり、検討すべきである。また、現段階で具体的な解決策が無い場合は、「各ステークホルダーが、優先行動分野間の連携を促進する方法を検討する」などの記載が必要だと考えられる。

### ③ESD 全般についての現状の課題についてのお考え

- 以下について現状の課題があるとのことであった。
- ESD は SDGs の基盤的な活動であり、かつ、SDGs のような時限的なものではない 21 世紀の主要な社会づくり手法である。しかし、ESD の考え方を社会に普及させる方法は多様であるため、ESD という名称にこだわった普及啓発活動を超えた方法論が必要であり、その開発が課題だと考える。(現状であれば、ESD=SDGs 教育と言い換えて ESD 活動を進めていくべきであると考える。)
- ESD の対象分野間の分断が課題だと考える。具体的には、学校教育における ESD と、地域 づくりの担い手教育としての ESD の分断である。これは、国であれば文科省と環境省の縦割り、地域でいえば教育委員会的 ESD と、NPO・大学的 ESD の乖離と呼べるかもしれない。 SDGs 時代にはいっても、この古くて難しい問題の解決の糸口は見えない。
- 古くからあって解決できないもうひとつの問題として、個別課題対策の ESD と、総合的な課題解決に向けた ESD の整理および両者をつなぐ体系的な ESD 推進手法の構築が課題であると考える。SDGs 教育としても同様であり、SD ゴール○○番のための活動のみを行うことが SDG や ESD 活動であるといった風潮がある。これは ESD がこれまでに重視してきた総合性、批判能力育成、関連性などを十分に考慮した活動とはなっていないため、問題である。そのような風潮を打破する方法の検討が課題である。

### ④今後の ESD 推進に向けて重視していることとその展望

### 【SDGs の総合性に着目した取組】

● SDGs の 17 ゴールすべてを排除することなく地域の持続可能性を検証し、課題解決するためには、さまざまな地域単位で SDGs 活動を展開する必要がある。中部 ESD 拠点では、東海地域 (3 県) の生態系を基盤とした地域単位としての「伊勢・三河湾流域圏」を SDGs の対象地として、ESD 活動を展開している。それにより、個別分野だけでなく総合的に地域の持続可能性を思考することができる人材育成を行っている。

### 【SDGs の相互関連に着目した ESD 活動】

● 分野横断型のESD活動を実施することで、相互関連に着目したSDGs活動を展開していく。 具体的には、「日本の祭りと生物多様性保全」プロジェクトを新年度から立ち上げて(ト ヨタ環境活動助成活動採択)、実施する。伊勢・三河湾流域圏における地域の祭りに用い られる自然素材(植物、動物、食物など)を調査し、祭り保存会や地域の子供たちととも に、それらの自然資源について学習するワークショップを実施する。これにより、まちづ くり(SDGs11 番)と自然環境保全(SDGs14、15 番)の同時理解を目的とした ESD モデル を検討する。

### 【SDGs の協働性に着目した ESD 活動】

● 中部サステナ政策塾および中部 SDGs デザイン会議において、今年度は「SDGs プロジェクトの実施」をテーマに掲げ、SDGs のターゲットおよび指標をより深く学び、地域の実情に合致した活動の検討と実施を行う。

### イ 教育部局、教育委員会、現場の教員等を対象にしたヒアリング《1》

### (ア) ヒアリングを実施した教育関係者

名古屋市立山田東中学校

生徒会を中心とした校内活動に SDGs 学習を取り入れた中学校の担当教諭

### (イ) ヒアリングの実施概要

### 1)日時、場所

● 場所:名古屋市立山田東中学校

● 日時:2022年2月22日16:00~17:30

### ②ヒアリング項目

- ① 現在の ESD/SDGs の取組について
- ② ESD/SDGs の取組の課題
- ③ ESD/SDGs の取組の支援
- ④ ESD/SDGs の取組の今後の期待

### (ウ) ヒアリング結果

### ①現在の ESD/SDGs の取組について

● 授業やその他校内活動などでESDやSDGsの取組についてどのようなことを行っているか? SDGs 職員研修1回

生徒会活動によるスクールランチから SDGs を考える動画づくり3回、校内放送3回

そのきっかけや理由

SDGs 達成の担い手づくり推進事業」に採択されたこと

● 取組でどんな変化や成果があったか 動画づくりを通じて生徒会役員が SDGs の勉強になった。校内放送で全生徒が SDGs を考える きっかけとなり、身近に感じられるようになった。

● 取組で今後期待されること スクールランチで SDGs を考えたことをきっかけに、自ら実践が広がるとよいと考える。

### ②ESD/SDGs の取組の課題

● 今の ESD や SDGs の取組を継続、発展するにあたっての課題 動画活動は一定の成果があったが、それで終わるのではなく、生徒が社会に出て実践する土 台を築くような活動がしたい。例えば生徒が地域の防災訓練に参加したが SDGs の一翼に なっているので、地域活動を増やして SDGs の理解を増やしたい。ただし何がどう SDGs とし て理解するべきか気がつかないところが課題。

● それ以外の課題

取組の実践が一部の先生にとどまっているので、全体的に巻き込んでいくことが重要な課題 と思われる。

### ③ESD/SDGs の取組の支援

● ESD や SDGs の取組を行っていくにあたってどんな支援があったらよいか

学習プログラムのような SDGs 活動や ESD パッケージがあるとよいが、先行事例を見てもピンとこない。効果が上がる活動をしたいが、目に見えにくく実感がわかないことが多いため具体的な SDGs との関連性についての確信を持ちたい。

今回取り上げたスクールランチのテーマは具体性があってわかりやすかったので、わかりやすいストーリーやパッケージがあることが重要。教育界全体の経験値が足らないかもしれないので担当教員が独善的になる恐れを感じた。

そのため、専門家の指導で SDGs のストーリーについて、お墨付きや客観的判断がもらえる とありがたい。

### ④ESD/SDGs の取組の今後の期待

● 今後、社会的に ESD や SDGs 取組が推進されていくにあたり期待されること SDGs の達成状況がどうなるのか知りたい。政府の発信を期待したい。そうした進展の状況は 興味がない人にも発信するべきではないか。

### 5その他

● その他に ESD や SDGs 取組にご意見など せっかくなので活動を継続させたい。

### ウ 教育部局、教育委員会、現場の教員等を対象にしたヒアリング《2》

### (ア) ヒアリングを実施した教育関係者

名古屋市立楠西小学校 授業に SDGs 学習を取り入れた小学校の担当教諭

### (イ) ヒアリングの実施概要

### ①日時、場所

● 場所:書面による聞取り/2022年2月25日メール依頼、2月28日メール回答

### ②ヒアリング項目

- ① 現在の ESD/SDGs の取組について
- ② ESD/SDGs の取組の課題
- ③ ESD/SDGs の取組の支援
- ④ ESD/SDGs の取組の今後の期待

### (ウ) ヒアリング結果

### ①現在の ESD/SDGs の取組について

- ESD の取組としては、社会科、家庭科、保健など、5年生の多くの教科を横断したテーマであったため、総合的な学習の時間で、探究学習や校内への SDGs の広報活動をしている。
- これらの取組で学習とSDGsの目標とのつながりを意識したり、日常生活と結びつけたりできるようになった。
- これらの取組で今後、様々な学習が、自分の生活に関わっていることを感じさせたい。

### ②ESD/SDGs の取組の課題

● 今の ESD や SDGs の取組を継続、発展するにあたって学年による内容や展開の仕方が課題と考えられる。

### ③ESD/SDGs の取組の支援

● ESD や SDGs の取組を行っていくにあたっては、各トピックスの内容について、詳しく話を聞く機会があるとよいと考えている。

### ④ESD/SDGs の取組の今後の期待

● 世界的な問題だと切り離すのではなく、身近な問題として、できることを少しずつ取り組むような姿勢が身に付くと良いと考えている。

# 6 地域循環共生圏の創造に資するための推進業務

### (1) 地域プラットフォームの環境整備支援等業務

### ア プラットフォーム団体への伴走支援等

● 各プラットフォーム採択団体への伴走支援として、次の協議・検討ほか、各種会合の企画・開催支援などを行った。

	催支援などを行った。 	11.50-1
実施日等	支援内容	協議事項等
	新規採択団体を対象にした	  ◆ 事務局打合せで、PFのこれまでの取組や現状、今後の展開につ
. =	ヒアリングの実施と事務局	いての概略報告、事務局確認(役割分担、事業のスケジュール、成
4月19日	打合せを実施(オンライン)	果物など)を確認。
	14.5 pc のしサン/5 m A r	● 事業展開ヒアリングを実施。
	対象:PFのと共栄信用金庫	
	継続団体との今年度初回  事務局打合せを実施(オン	
	争務向打合せを表施(オノ  ライン)	  ◆ 事務局体制 事業のスケジュール、成果物、PF側の取組の現状/
4月20日		一事務局体制 事業のスケラュール、成業物、FF側の取組の現状/   今年度の取組・展開、意見交換会の実施方法等について確認。
	  対象:PF 郡上市地域共生	/ 一及の水池 成所、志元人民公の天池万仏寺に 200 で曜記。
	圏協議会	
		● PF 事業の今後の方向性、及び DMO 観光連盟内設置の郡上市ア
6月7日	一継続団体 PF 郡上との事務	ウトドア事業者協議会との連携をその展望について確認。
	局打合せ(現地) 	● 意見交換会、勉強会の実施ニーズの確認。
	新規採択団体 PF のととの	● PF 事業の今後の方向性、スケジュール等についての確認。
6月18日	新規採択団体 PF のととの    事務局打合せ(現地)	● 意見交換会、勉強会の実施ニーズの確認。
	平仂内11口に(近地/	● 事業進捗、自治体との連携等についての状況確認。
	│ │継続団体 PF 郡上との事務	• アウトドアウィークイベントの進捗状況等についての確認。
7月26日	局打合せを実施(現地)	• 意見交換会の実施方法、実施内容について協議。
	(の) コロ こと (大)地(グルビ/	● PF 事業としての今後の進め方について協議。
	W. A	• アウトドアウィーク実行委員会の会議において、アウトドア事業者と
8月26日	継続団体 PF 郡上の地域会	PF が集まり、意見交換会実施について提案資料を EPO が作成し
	合に資料を提示	て提示(EPO は会議に出席できなかったため、提案資料を PF に送
		付)。
	新田板石田体 ローのよう	意見交換会について確認(実施方法・内容についての EPO 提案資料を担示)
9月21日	新規採択団体 PF のととの 事務局打合せ(オンライン)	料を提示)。   ◆ 11/17 能登 SDGs 大学・第2回講義の登壇について協議。
	〒イカ/PJ]   ロビ (カンプ1ン) 	● 1/1/ 能受 SDGS 大子・第2回講義の受壇に Jいて励識。   ● そのほか情報交換等を実施。
	↓   新規採択団体 PF のとの新	
10月16日	規コンソーシアムの設立式	スイッチ」の設立式・調印式に出席。
.,,,	に参加(現地)	● 後日、設立式の様子を EPO ウェブサイト、Facebook で紹介。
		<ul><li>11 月 10 日開催の意見交換会で実施するディスカッション(ワーキ)</li></ul>
10 8 10 5	継続団体 PF 郡上との事務	ング)の内容について EPO 案を提示、協議。
10月19日	局打合せを実施(オンライ  、、	● 開催案内の原稿を EPO が作成し、後日、PF 側から正式に PF メー
	ン)	リスで配信。
	継続団体 PF 郡上によるイ	● 11 月 6 日・7 日開催の郡上市アウトドアウィークの PF 出展ブース
11月6日		を訪問。
		● 後日、出展ブースの様子を EPO ウェブサイト、Facebook で紹介。
	新規採択団体 PF のとが主	
11月17日	催する市民大学に登壇(オ	中部地方環境事務所、及び EPO 中部が登壇し、「地域循環共生
	ンライン)	圏」についての概説、「ローカル SDGsと同時解決」について講義。
40 5 4 5	継続団体 PF 郡上との事務	
12月1日	局打合せを実施(オンライ	
	ン) 新担抗担用は DE のよしの	● その後もメール・電話連絡による打合せを実施。
10 日 04 日	新規採択団体 PF のととの	◆ 団体による年度内の取組予定、次年度の PF 事業への申請希望等   について情報共有。
12月24日	事務局打合せを実施(オンライン)	
	継続団体 PF 郡上とのメー	本省からの指摘事項等への対応についても協議。     1 月 27 日開催・EPO 主催会合の勉強会の題材、実施内容につい
1月~2月		
	//、电回11日にて大心	VMIRKo

実施日等	支援内容	協議事項等
1月~2月	新規採択団体 PF のととの メール、電話打合せを実施	• 2月23日開催・EPO主催フォーラムの運営方法等について協議。
1月27日	継続団体 PF 郡上の関係者を対象にした勉強会を開催 (オンライン)	
2月23日	新規採択団体 PF のとに協 カいただき、フォーラムを開 催(ハイブリッド)	

### イ 新規団体を対象にした事業着手時ヒアリングの実施

### 1)実施概要

活動団体名	実施日/方法	ヒアリング項目
のと共栄信用金庫 【新規】 (石川県七尾市)	4月19日 オンライン	Q.1:本事業を通じて、形成するプラットフォームのイメージとは? Q.2:地域循環共生圏を実現した地域の姿・イメージ(短期/長期)とは? Q.3:今年度の取り掛かり、何をどこまでやるか? Q.4:事業を進める上での資源や強みとは? Q.5:事業を進める上での課題とそれを解決するための方策などは? Q.6:事業を進めるにあたっての協力者・ステークホルダーは?

### ②出席者

	ご所属先	お名前
	のと共栄信用金庫	鈴木理事長
	のと共栄信用金庫 ふるさと創生部	小石部長
	のと共栄信用金庫 ふるさと創生部	入口部長代理
	七尾商工会議所	山田事務局長
	七尾商工会議所	小山地方創生ディレクター
PF団体	公益社団法人 七尾青年会議所	山口理事長
	公益社団法人 七尾青年会議所	平石専務
	金沢大学 融合研究域融合研究系	松島教授
	能登DMC合同会社	友田代表
	七尾市	
	環境省大臣官房 環境経済課 環境金融推進室 室長補佐	菊池 豊
	環境省中部地方環境事務所 環境対策課 課長	曽山 信雄
理+辛少	環境省中部地方環境事務所 環境対策課廃棄物対策等調査官	溝手 康人
環境省	中部環境パートナーシップオフィス(EPO中部) 統括	清本 三郎
	中部環境パートナーシップオフィス(EPO中部) ESD・SDGs担当	原 理史
	中部環境パートナーシップオフィス(EPO中部) EPO担当	富田夏子

### ③ヒアリングシートの作成

- ヒアリング実施後、所定のヒアリングシート(GEOC 提示のフォーマット)に聴取内容を 整理、記入し、中部地方環境事務所と共有のうえ、GEOC に提出した。
- ヒアリングシートの作成にあわせて、各プラットフォーム団体(継続団体も含む)の支援 計画シート(いずれも GEOC 提示のフォーマット)を作成し、中部地方環境事務所と共有 のうえ、GEOC に提出した。

### 【作成・提出したヒアリングシート】

令和3年度 環境で地方を元気にする地域循環共生圏づくりプラットフォーム 横巡事業

### ●本ヒアリングの獲得目標

②支援の方針を検討するための材料集め

### 本ヒアリングのボイント:

①本事業の目的やゴール、進め方、ステークホルダーとの関係性の確認 (民間団体の場合は自治体、行政の場合はバートナー祭籍の民間団体) ②今年度目標と達成するための手段の具体化 (5W2Hの把標) ③共生圏を構築する上での、現状認識している課題やボトルネックの整理 ①事務所・KPO による環境整備支援のポイント抽出、具体的支援ニーズの把握

地方	中部	配入者・記入日	2021年4月19日
活動地域	石川県七尾市		
活動団体名	のと共栄情用金庫		
活動テーマ	人口減少と地域経 を確立	済縮小を克服し、まち・ひと	・しごとの創生と好情環
湖壶相手	のと共栄信用金庫・入口氏ほか計10名		

のと共栄信用金庫	給木理事長	
のと共栄信用金庫 ふるさと創生部	小石部長	- 9
のと共栄信用金庫 ふるさと創生部	入口部長代理	
七尾衛工会議所	山田事務局長	
七尾商工会議所	小山地方創生ディレクター	
公益社団法人 七尾青年会議所	山口理事長	
公益社団法人 七尾青年会議所	平石專務	
金沢大学 融合研究城融合研究系	松陽教授	
能賽 DMC 合同会社	友田代表	- 8
七原市	立用任	

### Q.1 本事業を通じて、形成するプラットフォームのイメージはどのようなものか?

- 既存の会合構想案「産学官金による七尾 SDGs・ESG 金融推進拠点都市エコシステ コンソーシアム」を基にしてPFを設立する。メンバーもこのコンソーシアムの構 成員が基になっている。
- PFのメンバーは、木ヒアリングに同席の「のと共楽様用金庫」「七尾南丁会議所」「比 尾書年会議所」「全沢大学」「能登 DMC 合同会社(前有が 2019PF 事業採択団体)」、 「七尾市(自治体)」の6主体でスタートする。必募者・のと共業情用金庫が想定していた当初メンバーが既に指った決態となっている。
- このPP/コンソーシアムでは、各メンバーが既に実施している既存の地域展題解決 事業の支援プログラムを持ち寄り、活用し、地域の事業支援のあり力を確立していく 予定である。(PF自身が観別具体のプロジェクトに取り組むことは想定していない。)
- でというの。(FF自身の場所が共体がフロンコンドにない地位) ことは気化していない。 ・ 押内には多々の地域づくりのブレイヤー、コーディネーターが、それぞれに取締を原 開してきており(株式会社例説用;まちづくり会社、地域おこし協力等、地域協強会 など)、そういった主体への後押しもPFで行っていきたい。

### [888]

- メンバー同士は長に気心知れた開晒で、今後もディスカッションを積み重ねていく
- ことに問題はない。 一方で、地域の中や、市民の中にはSDGs等に対する意識の温度差があり、PFがい かに厚い支援メニューを準備できたとしても、地域のプレイヤーに受け容れてもら えるかどうかについては懸念があり、普及啓発等の対応も必要である。

### Q.2 地域循環共生圏を実現された地域の姿について、イメージできている範囲でビジョン を詳しく。(今年度、10年後など短期と長期スパンで)

- ※ 地域のビジョンについては、PPのメンバー全体で今後、繊細すべきと考えているとのことであったが(※本ヒアリングが PP/コンソとして集まる初会合の場となった。 た)、応募申請時点(実施計画書ペース)で、のと共保信用金庫が考えていた共生圏 実現後の地域ビジョンを説明いただいた。
- 地域循環共生圏が支現するまでの取組を七尾市以外の地域にも横展側し、共生圏コ リアを能発エリア (七尾市舎めた能登半鳥エリア) 全体に波及させたいと考えてい
- 地域課題については、課題解決に取り組むことによって、地域・市民・事業者、里山 里海が建っていくというイメージが地域の中に定着し、地域の有機的な人的才 ワークが最終的な地域資源である認識される将来を思い描いている。負の遺産であ

った地域課題をビジネスへ、認識の転換を図っていきたい

地域課題解決のマネタイズとなる事業の創業支援・伴走支援を行い、地域内の経済循 環が生み出されていく将来ビジョンを描いている。

### Q.3 上記の実理に向けて、今年度どこから取り掛かり、何をどこまでやるか(事業のタ

- 今年度はまず、PFの準備会を実施し、メンバー (関係組織) 間の考え方などをしっ
- かりと共作したうえて、「協議会」を設立したい。 今年度実施する事業については、実施計画書に記載した通りであるが、一部、スケジ ュールのずれ込み等があるため、調整を行っていきたい。
- 今後、SDGsの事業支援、教育支援等に取り組むうえで、どこから取り組むべきか、 何に重点を置くべきか等を検討していくためのエピデンスが必要とされている。そ のため現在、SDCs に対する市民意識調査の実施について市側に相談しているところである。もし顕直を実施できた場合には、PF 関係者にとって役立つデータの抽出に つなげられる設問設計等を行っていきたいと考えている

### 04 事業を進める上での資源や強み

※事業は、環境課題を解決する持続可能な取組であり、ビジネスや公益性のあるものの同

- 七尾市の最大の地域資源は、能登の里山里海である。自然、社会、文化など、人々の 生活模式そのものが単山単海である。そのほか、モノとしての資源には伝統工芸、祭 り、史跡などが多彩にある。そしてこれらの資源を守り、つないでいる地域の人々が 地域の最終的な資源である。
- この事業の終了時、及びローカル SDGs の取組を進めていった先では、地域の事業 者数が増え、SDGs プロジェクトが地域の中で多発していき、SDGs をテーマにした 検索を実験する学校が増えていくことを期待している。そのための支援にこの PF が 取り組んでいく必要があると考えている。
- PF/コンソとして、事業者が SDGs を推進しやすい環境整備、支援体制を整える必 要があると考えている。

### Q5 事業を進める上での課題とそれを解決するための方策

- 地域づくりのプレイヤーはたくさんいるが、それぞれにパラパラで取り組んでいる。 そのため、彼らが一堂に会し、誰が何に取り組んでいるか共有し、見える化し、重複 や無駄がないようマッチング、コーディネートすることが、各プレイヤーや事業者の 予算、経済資源の街においても重要となっている。
- 今後、そうした地域課題解決事業の支援を行っていく中で、PFの資金原資の確保が

環境省・EPO に期待する事項については、事業者等へのシステムの提供や、批域消 貨の実証実験・導入等に係るインフラ面の整備における資金確保に取り組むにあた り、助成制度の紹介や、事業申請の支援等を期待したい

Q6 事業を進めるにあたって協力素となるステークホルダーはいるか。または棚舎でき

- トフェームのメンバーとしては、本日のヒアリング国席者スタートとなる。事
- 務局機能はのと共栄信用金庫が担う まずは、現メンバーの既存の取組(支援システム)を持ち寄り、相互にサポートし合
- うための体制づくりについて検討を行っていきたい。 今後のステークホルダーの拡がりとして、「能登慮北商工会」(商工会議所と併存/な
- なお創業応援カルテット: 七尾商工会議所、のと共常信用金庫、日本政策金継公庫、 七尾市は、ななお創業支援業務道携・協力に関する協定書を締結…で連携済み) にも 参画をお願いしていく予定である。

### Q7 その他

特になし

### 活動団体と事務所/印0の信頼関係を築いて進めていく上での所感

- PFとして取り組もうとしていることを改めて確認し、課報りしていく必要があると
- 同時に、PFメンバー (組織) それぞれの考えも確認、もしくは提示・共有してもら う必要があると考えている。

活動団体が現時点で描いている地域プラットフォーム像や地域循環共生圏実現後のイメ ジに関する所感<q1と Q2 に対応>
・ 地域内では、事業支援プログラムがそれぞれの組織によって既に多参に原開されてお

り、これらの整理、連携・共有等を可能にするためのシステム(揚、体制、仕掛け) づくりに PF は取り組もうとしており、PF 自体が具体の事業(ビジネス)等を展開 することは想定していないと明言していた

地域版 PF を構築する事業となるため、事業内容が分散する秘念を感じた。このため、地域が膜本石膜素現後のイメージは、事業などに具外的な事業イメージを持ちつっ、それを支える仕継みでうかるを書きる。
 特に、地域通貨に関しては、開発・導入・運用の各段階における各メンバー間の役割分担と情報する必要があると考える。
 開展をのご開しては、開発・導入・運用の各段階における各メンバー間の役割分担と情報する必要があると考える。
 開展をのご開発を移局がよっちまった。計画的に進めることができれば、それほど関係なくシステムとしての帯づくり可能なのだろうという印象をうけた。大生間関係が計している「事業」に関する形象へのと地域の異形状の方策など)と活動部体が計している「事業」に対します。
 ヒアリンダでは、主に地域階越解決ビジネスの事業者・最適の増加による地域越済活性化について重点を当て活動をきれており、地域マラのの経験の外別が表したなるという印象を分けた。
 「事業のタネ」はある意味、既存で多々のネタを持つていると言えるが、PFの「成功等別」として集有するネタとして経験いように感じた。どれをPF事業としての「事業のタネ」とするいとついては、PFのと表に表して、とれるPF事業としての「事業のタネ」とするいとついては、PFのととつとアリンダであり、今後継続して接触していく中で、PFの方向性などを構造しているスケークボルターに関する所述へのに対応>
 ・ 上提出内には多くの有名な比較づくのフレイヤー、コーディネーターがいる上、核らの事業、及び支援の設治を参にある。
 ・ PFメンバーとして南て金属所、青年会議所、金沢大学、市が拍っておりも強いが、講話・学識者を認のアレイヤーたらが本事業やPFに対してどのように反応するか、或いは PFのいう「温度差」について、今後、詳細構造・状況構造を行っていきたい。
 ・ 七度市の間与水源くは感じており、庁内の顕像水況等の確認が必要と考える。

# (2) 地域循環共生圏プラットフォーム意見交換会等業務

- 活動団体(2団体)の意見交換会の企画立案について提案、協議等を重ね、次表の通り、 意見交換会を実施した。
- また、会合の中で抽出された意見等を整理し、各団体に提示した。

PF 採択団体	実施日·場所	実施内容
【新規】PF のと のと共栄信用金庫 (ななお SDGs プラットフォーム)		プラットフォーム設立に対する期待・課題の共有ディスカッション
【継続】PF 郡上 郡上市地域共生圏協議会 (郡上市アウトドア事業者協議会)	111 <b>=</b> 10 <b>H</b>	郡上市アウトドア事業者協議会、郡上市をまじえて、郡上のアウトドア観光の将来の"スガタ""カタチ"についてディスカッション

# ア PF のとの意見交換会

### 1日時

● 2021年9月29日(水)15:30~17:00

### ②主催

● のと共栄信用金庫

### ③開催場所·方法

● 会場:七尾商工会議所大ホール + ハイブリッド設営



### 4出席者

所属	名前	参加方法
七尾市役所企画財政課	亀山	リアル
金沢大学 教授	松島	オンライン
能登鹿北商工会 課長	澤井	オンライン
のと共栄信用金庫 部長	小石	リアル
のと共栄信用金庫 副部長	北村	オンライン
のと共栄信用金庫 部長代理	浜田	リアル
のと共栄信用金庫 アドバイザー	中里	オンライン
日本政策金融金庫 所長	棚橋	オンライン
日本政策金融金庫	山田	オンライン
中小企業基盤整備機構	氏家	オンライン
東京海上日動火災保険株式会社 課長	星野	リアル
公益社団法人七尾青年会議所 理事長	山口	リアル
公益社団法人七尾青年会議所 専務	平石	リアル
公益社団法人七尾青年会議所 次年度理事長	森山	リアル
公益社団法人七尾青年会議所 次年度専務	金松	リアル
七尾商工会議所 専務	小川	リアル
七尾商工会議所 事務局長	山田	リアル
七尾商工会議所 アドバイザー	中村	リアル
七尾商工会議所 SDGs プロジェクト推進室	入口	リアル
七尾商工会議所 SDGs プロジェクト推進室	小山	オンライン

# イ PF 郡上の意見交換会

### 1)日時

● 2021年 11月10日(水)13:30~17:30

### ②主催

● 郡上市地域共生圏協議会

### ③開催場所·方法

● 会場:HUB GUJO +ハイブリッド設営

### 4出席者

### 《会場参加》

所 属	氏 名
PF 郡上 郡上市地域共生圏協議会	小森 胤樹
PF 郡上 中部スノーアライアンス株式会社取締役 支配人	堀江 政志
PF 郡上 郡上市観光連盟職員	安藤 祐二
PF 郡上 有限会社イートアンドライブ社員	石田 巌根
PF 郡上 有限会社イートアンドライブ取締役	水口 晶
郡上市 市長公室政策推進課 課長補佐	三島 宏治
郡上市 市長公室政策推進課 地域戦略推進係長	岩井 彩乃
中部地方環境事務所 環境対策課 廃棄物対策等調査官	溝手 康人

所 属	氏 名
環境省 中部環境パートナーシップオフィス (EPO 中部)	清本 三郎
環境省 中部環境パートナーシップオフィス (EPO 中部)	原理史
環境省 中部環境パートナーシップオフィス (EPO 中部)	富田 夏子

### 《オンライン参加》

所属	氏 名
環境省 大臣官房環境計画課 企画調査室長	佐々木 真二郎
環境省 大臣官房環境計画課	北森 愛子
財務省 東海財務局岐阜財務事務所 財務課長	服田 直子
財務省 東海財務局岐阜財務事務所理財課 主任調査官	日比野 圭介
財務省 東海財務局岐阜財務事務所総務課 企画係長	木矢村 匡
PF 郡上 株式会社アール・エ北陸	藤森 純子
全国事務局 地球環境パートナーシッププラザ (GEOC)	高瀬 裕子

### ウ 全国事務局に提出した意見交換会開催結果報告

### ①PF のとの開催結果報告

### 意見交換会開催前の課題把握

### 1)協働

- プラットフォームの前身となる既存のコンソーシアムがあったため、内部の協力関係・体制は構築できている。
- 公的組織が集まったコンソーシアムであり、会合等が定期的に開かれており、会合の議事は、事務 局案を(事前の根回し、確認を行った上で)各構成員に承認してもらう形式となっている。ほぼ諮問 であり、どこまで「共有」がなされているかは不明である。
- コンソの事務局(EPO が見る限り実質担当者1名)の体制が現状のまま取組等を進めていくことにも 懸念がある。

### ②ありたい未来

- 採択時から事務局ベースで作成した「地域版マンダラ」のチャート図(関係組織・取組の将来的な相関図)が採択後早々に作成されている。
- コンソ構成員にも共有し、微修正を重ねつつも合意が取れた状態になっているが、上の「①協働」の 項と同じく、どこまで各員の認識を深められているかについては疑念がある。

### ③事業

- コンソの各メンバーが実施する既存の取組(地域課題解決ビジネスの支援、創業支援など)をもとに、コンソとしての地域ビジネス支援に取り組む予定である。また、新コンソ設立に併せ、コンソ主催事業として、SDGs 市民大学を開講するなど新たな人材育成事業も展開する。
- ◆ そのほかのコンソ設立以後の展開については、今後、コンソ内での検討・協議が必要となっている。

### 意見交換会の狙い(環境整備支援をする EPO・地方環境事務所としての狙い)

● コンソの設立や、その組織・事務局体制に対するコンソ構成員各々の本音、問題意識等を表出させ たいと考えている。

### 意見交換会の実施内容

開催日: 2021 年 9 月 29 日 開催場所: 七尾商工会議所(一部参加者は zoom で参加)

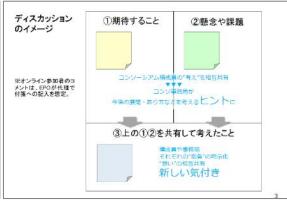
参加者:コンソーシアム構成員 20 名

### 意見交換会の目的

- プラットフォームとして産官学+金の 9 団体で構成されるコンソーシアム「ななお SDGs スイッチ」の 設立(10月16日設立式)を前にした9月29日に意見交換会を開催することになった。
- 開催にあたっては、構成 9 団体がコンソ設立や今後の取組に対し、どのような「期待」を抱いている か、どのような「懸念・課題」を感じているかを意見交換会の場で明示していただき、相互に共有する ことを会合の目的として示した。
- コンソ設立式に向けて関係者の連帯感・期待感をより高めるよう、意見交換会では全員に発意して もらい、参加者及び事務局に、場の中で意見・意向が共有される状態を実感してもらうことも目指し た。

### 意見交換会実施内容の概要

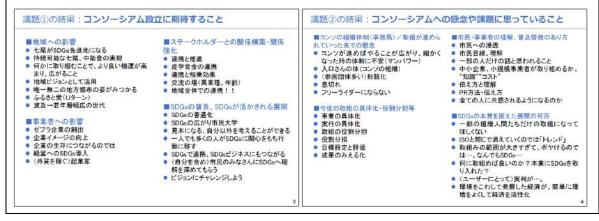
# 本日のディスカッションのお題 ① ななおSDGsコンソーシアムの設立で期待 することは? ② 一方で、懸念していること、課題に思ってい ることは? ③ ほかの方達の上の①・②のコメントを見聞き して思ったことは?

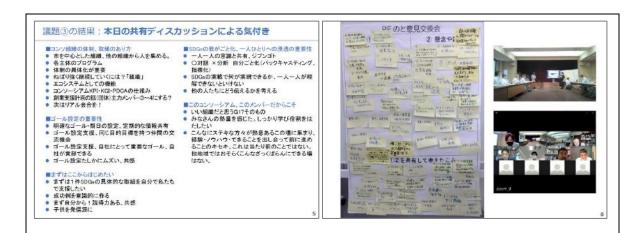




### 意見交換会を通して得られた成果

- 参加者(コンソ構成員)全員に、各議題に対する考えを発言していただき、新しく設立されるコンソー シアムの組織体制(特に事務局のあり方)に複数名が懸念を感じていることや、取組を進めていく先 で直面するであろう課題・問題点などの指摘もあった。
- ここで提示された意見、課題や懸念材料は、今後の事業展開のアイデア及び留意事項、体制づくり に向けたヒントになり得るものであり、後日、意見交換会のコメント集を事務局に提供した。





### 意見交換会を開催して感じた課題と改善方法

### 【課題】

- 「意見交換会」は、団体側にまず実施の必要性を認識してもらう必要があり、その前段部分が難しい。なぜ実施するかについて説明等を重ねるようにしているが、具体的に開催に向けた調整を進める段に入ると、再度必要性を問われ、EPOも再度の説明を繰り返すというパターンが多い。
- 特に、PF ななおのように、ワークショップ形式のディスカッションの経験・機会があまりなかった団体では抵抗感を抱かれることが多いように見受けられる。

### 【改善方法】

- 改善策ではないが、実際に「意見交換会」を実施(体験)すると、その意義を理解・実感していただけることも多い。そのため、採択された直後及び初接触以降は、都度、「意見交換会」について説明し、地道に団体側と調整・交渉を行うこととしている。
- ディスカッションによる意見・情報が共有された感覚や、外部者の視点が入ることで得られる新たな気付きもあることなどを団体側に実体験していただくことが、意見交換会実施の意義の一つになるものと捉え、開催後には特に事務局に、意見交換会を実施した印象、実施結果の感想などを確認するようにしている。

### ②PF 郡上の開催結果報告

### 意見交換会開催前の課題把握

### ①協働

- 昨年度の PF 事業を経て、団体側と協力・連携して地域循環共生圏づくりに取り組もうとする主体 や、団体に新たに構成員として加わる個人などは現れないまま一年目の事業は終了した。
- 今年度に入り、郡上市アウトドア事業者協議会(DMO 郡上市観光連盟内設置)の中心人物が団体に加わり、今後、連携・協力して地域循環共生圏づくりに取り組むことになった。
- しかし、その方向性や具体の取組などは全くの未定であり、改めて検討を要する状態にある。

### ②ありたい未来

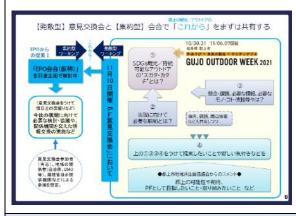
- 昨年度作成の地域版マンダラを基に、市の主要産業である観光(アウトドア)を軸にし、観光での再 エネ活用や EV 交通導入などを盛り込んだ新しい「なりたい地域の未来像」を作成し、11 月 5-6 日に 開催された郡上市アウトドア事業者協議会主催「GUJO OUTDOOR WEEK2021」で展示を行った。
- 絵(図)としてはまとまったものになっているが、地域循環共生圏の図としての第三者に説明すること が難しい図になっている点が懸念される。

### ③事業

● アウトドア事業者(個々の事業者/一部の事業者)が取り組みたいことは明確となっているが、地域 としてどのように取り組むか、どこから取り組むかなどは曖昧であり、それを先導・コーディネートす る人材もいない状況となっている。

#### 意見交換会の狙い(環境整備支援をする EPO・地方環境事務所としての狙い)

- 団体、アウトドア事業者協議会との協議を重ね、今後の方向性や具体の取組などについて「①PF 意見交換会」、「②EPO 主催 PS 基盤強化会合」の活用による二段階で議論等する展開を図ることになった。
- ①PF 意見交換会では、今後の方向性や必要な取組などについて発散型のディスカッションを行い、 そこで抽出された内容をもとに②EPO 会合で、岐阜財務事務所をはじめとする関係機関等を交えた 会合を実施し、次年度 PF 事業の事業化支援なども念頭におき、今後どのように展開すべきかを具 体的に地域側に検討してもらう展開を想定している。





#### 意見交換会の実施内容

開催日:2021年11月10日

開催場所: HUB GUJO(一部の参加者は Webex で参加)

参加者: 郡上市地域共生圏協議会、郡上市アウトドア事業者協議会、郡上市などから計 18 名

#### 意見交換会の目的

● 参加者であるアウトドア事業者、観光連盟、市(政策推進課)などを交えて、郡上で「何を目指したいか」「何に取り組みたいか」「取り組むための課題や不安」などを明示してもらうこと、さらにそれを互いに共有することを目的とするワークショップ方式のディスカッションを実施した。



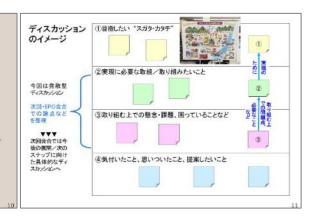


#### 意見交換会実施内容の概要

#### 本日のディスカッションのお題

~GUJO OUTDOOR WEEK 2021を終えて~

- ① 私たちが目指したい・実現したい、郡上のSDGs観光のスガタ、持続可能なアウトドアのカタチとは?
- ② スガタ・カタチづくりに向けて取り組んでみたいこと/必要な取組とは?
- ⑤ 上の①②で不安・懸念・課題に思っていることとは?> 取り組む上での懸念/困っていること・わからないこと、知りたい情報、必要に思っているモノ・コト・支援等々
- ④ 上の①~③を共有したことで気付いたこと、思いついたこと、提案したいこと



#### 意見交換会を通して得られた成果

- アウトドアイベント「GUJO OUTDOOR WEEK2021」(コンセプトは「100 年先も郡上に遊べる川と雪山を残す為に。」)を終えて、イベント参加者・関係者等からの反応や、イベント主催したアウトドア事業者自身がどのような考えを持つようになっているかなどを共有した。
- 参加者(関係者)それぞれが考えていること・やりたいこと、不安などを明示してもらい、各々が多種 多様な方向性・意向、課題・不安等を感じていることが明確になった。



#### 意見交換会を開催して感じた課題と改善方法

#### 【課題】

- コロナ対策や会場確保の関係などから会場に集まる人数を制限し、地域外参加者にはオンライン 出席をお願いしたため、『多様な主体が集まっての意見交換』には至らなかった。
- それでもアウトドア事業者等から巾広に意見が出てきた点は良かったが、一方で多種多様な意見 (想いだけの段階の意見)をもとに、次の②EPO 会合をどのように展開していくかについては、シナリオを再度練り直す必要があると感じた。

#### 【改善方法】

- 岐阜財務事務所の方が、当初接触していた窓口担当者お一人だけでなく3名の方が参加し、会合中に示唆をいただけたことは心強かった。PF 郡上の取組に関心を寄せている感があり、②EPO 会合に向けた好材料と捉えている。
- また、②EPO 会合の開催方法や PF 事業としての今後の展開については、中部地方環境事務所と協議・確認を行う。

## (3) 環境省、GEOC 主催会議等への参加

● 環境省、GEOC が主催する地域循環共生圏づくりプラットフォーム構築事業関連の会議・ 会合等について、下記の実施された会合すべてに出席した。

	明州口		中作中の体	
区分	開催日	開催方法	実施内容等	
成果報告会	3月8日	オンライン	● 各活動団体(計 36 団体)による取組内容の発表	
/×/*****	0 71 0 11	2ルーム制	• ネットワーキングイベント	
情報交換会	6月1日	オンライン	<ul><li>◆ 今年度選定団体(継続団体)の発表</li></ul>	
門和文揆云	~2 日		● 地方ブロック別コミュニケーションタイム など	
	10 0 0		● 事業化支援団体、環境整備団体(計 6 団体)によるプレゼンテーション	
	12月3日		● 意見交換会	
	10 0 0	1 4.	● 事業化支援団体、環境整備団体(計 11 団体)によるプレゼンテーション	
中間報告会	12月6日	オンライン	● 意見交換会	
			● 事業化支援団体、環境整備団体(計 11 団体)によるプレゼンテーション	
	12月7日		<ul><li>意見交換会</li></ul>	
			全国事務局の状況共有(GEOC のポジションと仮説)	
			● 3 つのブレイクアウトルームに分かれて意見交換("いけてる"案件)	
作業部会	9月10日	オンライン	◆ 3 つのブレイクアウトルームに分かれて意見交換("いまいち"案件)	
77 - 17 - 17			● グループ毎の意見交換を全体へフィードバック	
	12月8日	オンライン	● 事例研究:3EPO1グループで事例発表・説明+意見交換	
		1,7712	PF 事業について(PF 事業概要/令和3年度について/昨年度を経ての)	
	5月12日		現在地)	
			• 新規活動団体(20)へのヒアリング結果(全体の概観について)	
		オンライン	<ul><li>◆ 新規活動団体(20)へのヒアリング結果(各地方から共有)</li></ul>	
		77717	● 意見交換("動的プラットフォーム"を環境整備の出口イメージとすること	
			について/関係者間の情報共有と役割分担について)	
共有会			● 情報交換会(キックオフ)について	
7,174			● 環境整備支援状況の共有	
	12月8日	オンライン	● PF 事業全体の共有	
	/		<ul><li>◆ 来年度についての議論の共有</li></ul>	
			<ul><li>◆ R3 年度事業の振り返り</li></ul>	
	3月9日	オンライン	● 事業全体について共有・議論	
	2 77 2 LI	12712	● 令和 4 年度事業について共有	
ブロック別			1 1月11 1 1次 4 木に 20・( 八円	
共有会	9月9日	オンライン	● 環境整備活動団体ごとの情報共有	
(中部)	0 7 0 H	32712	- 水元正 帰石 羽口 仲 C C V 旧 大 八 円	
(THP)				

## (4) 支援チーム派遣の団体の活動の情報共有

● 事業化支援団体である PF 小布施 (スマート・テロワール協会) に関連する取組について、 下記に参加し、事業化支援事務局と情報共有等を行った。

実施内容	開催日	開催方法	実施内容
事業化支援			● 事業の進捗状況について
キックオフ	6月30日	オンライン	● 支援計画について
ミーティング			● 今後のスケジュールの確認
事業化支援			● 事業の進捗状況について
小布施地域	8月25日	オンライン	<ul><li>ソーラーシェアリング支援計画について</li></ul>
ミーティング			<ul><li>今後のスケジュール</li></ul>

## (5) 森川里海推進ネットワーク形成会合の開催

## ア 事前打合せ等の実施

- 4月15日に白山自然保護官事務所、信越自然環境事務所、4月20日に伊勢志摩国立公園事務所のそれぞれの担当官と、中部地方環境事務所担当者、EPO中部でオンライン打合せを実施し、本業務の前年度・2020年度実施例の説明と共に、今年度の実施に関わる協力依頼と、地域側のニーズなどについてヒアリングを実施した。
- 上記ヒアリングで紹介のあった団体の中から、5月17日に白川郷まるごと体験協議会(岐阜県白川村)と、5月21日に白山市ジオパーク・エコパーク推進課と打合せを行った。協議の結果、今年度は白山市ジオパーク・エコパーク推進課と連携・協力して「白山手取川ジオパーク&白山ユネスコエコパーク情報交換会」を開催することが決定した。
- 12月21日には、北陸財務局とオンライン打合せを実施し、本業務の趣旨説明と共に、情報交換会への登壇、協力依頼を行った。

## イ 白山手取川ジオパーク&白山ユネスコエコパーク情報交換会の開催

## (ア) 第1回情報交換会

#### 1)日時

● 2022年 3月2日 (水) 13:30~16:00

#### ②主催等

● 主催: EPO 中部

● 共催:白山手取川ジオパーク推進協議会、 白山ユネスコエコパーク協議会



## ③開催場所·方法

会場:白山市鶴来総合文化会館クレイン2階 研修室

● 登壇者の一部はオンラインで登壇

#### 4参加者

● 25名

#### ⑤プログラム

・あいさつ

環境省中部地方環境事務所 環境対策課 主査 佐藤 堅太 氏 (オンライン登壇)

- ・ 情報提供:「白山国立公園における取組について」 環境省白山自然保護官事務所 自然保護官 迫 裕樹 氏(オンライン登壇)
- インプット①

「地域が主役のユネスコ活動:白山手取川ジオパークと白山ユネスコエコパークの共有価値とは?」

筑波大学芸術系(世界遺産学学位プログラム・自然保護寄付講座) 准教授 飯田 義彦 氏

インプット②

地域の取組紹介:白山手取川ジオパーク推進協議会 専門員 日比野 剛 氏

ワークショップ

「白山ワイズユース(恵の保全・活用)による SDGs」その1 決したい地域課題の抽出・共有





## (イ) 第2回情報交換会

## 1)日時

● 2022年 3月3日 (木) 9:30~12:00

## ②主催等

● 主催: EPO 中部

● 共催:白山手取川ジオパーク推進協議会、白山ユネスコエコパーク協議会

#### ③開催場所·方法

● 会場:白山市鶴来総合文化会館クレイン2階 研修室

● 登壇者の一部はオンラインで登壇

## 4参加者

● 27名

## ⑤プログラム

あいさつ

財務省北陸財務局 総務課企画調整官 前田 雅城 氏 (オンライン登壇)

- 話題提供:地域の取組事例よりNPO法人白山しらみね自然学校事務局長 山口 隆 氏
- ・ ワークショップ 「白山ワイズユース (恵の保全・活用) による SDGs」その 2 これから皆さんが取り組みたい事業・地域課題解決ビジネス等のアイデア抽出と共有 終わりに・2日間のまとめ





## (ウ) 開催案内



	プログラム		
第1回		01	はじめに/森里川海プロジェクトについて 環境省中部地方環境事務所環境対策課 主査 佐藤 堅太 氏
情報交換会 日時:	02	「白山国立	6の情報提供 公園における取組について」 山自然保護官事務所 自然保護官 迫 裕樹 氏
3月2日(水) 13:30~16:00 会場:		03	インプット① 「地域が主役のユネスコ活動:白山手取川ジオパークと 白山ユネスコエコパークの共有価値とは?」 筑波大学芸術系(世界遺産学学位プログラム・ 自然保護寄附講座)准教授 飯田 義彦 氏
白山市鶴来総合 文化会館クレイン 2階・研修室	04		② 地域の取組紹介   ジオパーク推進協議会 専門員 日比野 剛 氏
A Company of the Comp		05	ワークショップ 「白山のワイズユース(恵みの保全・活用)による ローカールSDGs」 【その1】 — 決したい地域課題の抽出・共有
	プログラム		
第2回		01	はじめに/地域経済エコシステムと 北陸財務局における地域連携・貢献の取組 財務省北陸財務局総務課企画調整官 前田 雅城 氏
情報交換会 日時:	02		地域の取組事例より 白山しらみね自然学校事務局長 山口 隆 氏
3月3日(木) 9:30~12:00 会場:		03	ワークショップ 「白山のワイズユース(恵みの保全・活用)による ローカールSDGs」 【その2】
白山市鶴来総合 文化会館クレイン 2階・研修室	03-1 03-2	ー これから	ふりかえり》皆さんが解決したい地域課題について 皆さんが取り組みたい事業・地域課題解決ビジネス等の 抽出と共有
		03-3	一 終わりに/2日間のまとめ

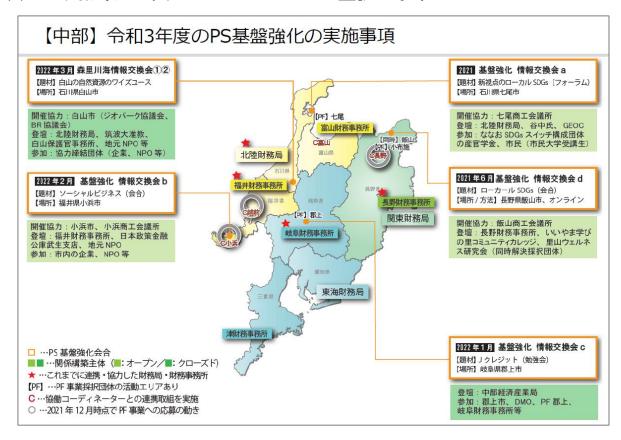
## ウ 「SDGs 共感ストーリー」ワークショッププログラムの整理

● 前年度・2020 年度に実施した「資金調達のための SDGs 共感ストーリー」づくりワークショップのプログラム及びツールを公開用コンテンツに整理し、EPO 中部ウェブサイトで公開した(https://www.epo-chubu.jp/tool/working-program)。

実施したワーキング 整理対象のワークショッププログラム
2021 年 1 月開催
森里川海推進ネットワーク形成会合
伊勢志摩国立公園エコツーリズム推進協議会 情報交換会



## (6) 地域循環共生圏パートナーシップ基盤強化事業



## ア 情報交換会①:ローカル SDGs×飯山ミーティングの実施

#### 1)日時

● 2021年6月26日(土)14:00~16:00

#### ②開催方法

● オンライン

#### ③参加者

● 一般公募 22 名 (zoom 接続数)

## 開催日時-2021年6月26日(土) 14-00~16-00 開催方法・オンライン (200m) 地域福央共生圏パートナーシップ基整法化等学 ローカルSDGs ※ 食反山 ミーティング 主産・環境省中部環境パートナーシップオフィス(EPO中部)

#### 4プログラム

- (1) はじめに/地域循環共生圏 (SDGs、地域課題の同時解決)等について 曽山信雄氏/環境省中部地方環境事務所環境対策課長
- (2) 妙高戸隠連山国立公園における協働型管理運営の取組について 岸秀蔵氏/環境省信越自然環境事務所国立公園課長
- (3) 地域経済エコシステムについて 矢島一郎氏/財務省関東財務局長野財務事務所長
- (4)「飯山林福連携事業」(環境省の SDGs を活用した同時解決事業採択の取組)の紹介 宮澤豊氏/里山ウェルネス研究会代表 大和田正勝氏/里山ウェルネス研究会事務局長
- (5) 奥信濃における内発的な SDGs とコミュニティカレッジの地域実践 小島聡氏/法政大学人間環境学部教授・いいやま学びの里コミュニティカレッジ学長
- (6) 質疑応答ディスカッションファシリテーター: EPO 中部

#### 5開催案内チラシ



開催日時: 2021年6月26日(土)14:00~16:00

開催方法: オンライン(zoom)

参加方法: 事前申込

※6月24日申込締切 ※定員:先着30名 申込された方へ前日25日にzoomの参加URLをお送りします。 申込フォーム: https://forms.gle/Y1SFotceaY6J6XKz8 —

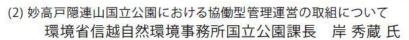
または、Eメール: info@epo-chubu. jp

必要事項:①名前、②ご所属先、③参加URL送付先のメールアドレス

※定員超過後に申込された方へはYouTubeの視聴URLをお送りします。

## プログラム

(1) はじめに/地域循環共生圏(SDGs、地域課題の同時解決)等について 環境省中部地方環境事務所環境対策課長 曽山 信雄 氏



(3) 地域経済エコシステムについて 財務省関東財務局長野財務事務所長 矢島 一郎 氏

(4)「飯山林福連携事業」(環境省のSDGsを活用した同時解決事業採択の取組) の紹介 里山ウェルネス研究会代表 宮澤豊氏 里山ウェルネス研究会事務局長 大和田正勝氏

(5) 奥信濃における内発的なSDGsとコミュニティカレッジの地域実践 法政大学人間環境学部教授 小島 聡氏(いいやま学びの里コミュニティカレッジ学長)

(6) 質疑応答ディスカッション ファシリテーター: EPO中部



## イ 情報交換会②:郡上ミーティングの実施

#### 1日時

● 2022年 1月27日(木)13:30~16:00

## ②開催方法

● オンライン

## ③出席者

● 関係者 15 名



所属	氏名
郡上市地域共生圏協議会	小森 胤樹
有限会社イートアンドライブ取締役	水口 晶
中部スノーアライアンス株式会社取締役支配人	堀江 政志
郡上市市民協働センター	大中 瞳
市長公室政策推進課課長補佐	三島 宏治
市長公室政策推進課地域戦略推進係長	岩井 彩乃
中部経済産業局資源エネルギー環境部エネルギー対策課係長	土屋 博義
東海財務局岐阜財務事務所理財課主任調査官	日比野 圭介
東海財務局岐阜財務事務所理財課調査官	佐田 一真
東海財務局岐阜財務事務所総務課企画係長	木矢村 匡
中部地方環境事務所環境対策課長	曽山 信雄
中部地方環境事務所環境対策課主査	佐藤 堅太
中部環境パートナーシップオフィス統括	清本 三郎
中部環境パートナーシップオフィス ESD 責任者	原 理史
中部環境パートナーシップオフィス EPO 責任者	富田 夏子

## 4議事次第

- ○はじめに/地域循環共生圏について 環境省中部地方環境事業所環境対策課主査 佐藤 堅太 氏
- ○Jクレジットの概論とメリット 中部経済産業局資源エネルギー環境部エネルギー対策課係長 土屋 博義 氏
- ○ディスカッション

「」クレジットについて」

ファシリテーター: EPO 中部

- ① Jクレジットを活用して郡上で取り組みたいこと
- ② メリット・デメリットの確認
- ③ 必要な仕組み、担い手の確認
- ④ 郡上の森や地域をどうしたいのか

#### 5 開催案内

地域循環共生圏パートナーシップ基盤強化事業

## 郡上ミーティングの開催について

主催:環境省中部環境パートナーシップオフィス (EPO中部) https://www.epo-chubu.fp

#### オンラインでの参加方法

● webexの参加URL:

| this://karlwoscicles/sucertarmweebuscom/karlwoscicles/sucertarm/a/tw/MID=mes/93/6143-81a-65-8248/58-64bac ミーティング番号:2517-882-9055 / パスワード:Bfi3wfGB5M8

- ディスカッションで使用するオンライン・ホワイトボード (Googleジャムボードを使用)
  - 1/27当日に使用するボードのURL(※当日まで操作不可です): https://amboardapode.com/d/Ind42F84rDEc/7A3 G44dvMVSrIPNixv/0xaLBONas/edif/ksp=sharin
  - テスト用ボード(※自由に操作をお試しいただけます: https://jamboard.google.com/d/IBPvAvt8.ed\_CD9k7ekZj1MG8Ohl.wvOfDo.x4lw2g/edt7ksp=sharing

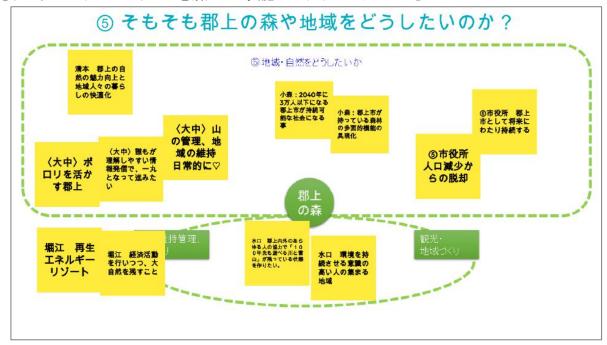
## 郡上ミーティング開催概要

- 開催日時:2022年1月27日(木)13:30~16:00(2.5時間予定)
- 開催方法:オンライン(webex使用)
- ◆ 参加URL: https://wrkyosozokerkyupertermywebexcom/karkyosozokerkyupertermy/iphp?MTD=mea7931c143a81ac67a2248758a5e9bac ミーティング番号: 2517 882 9055 / パスワード: Bfi3wfGB5M8
- 参加者:別紙リスト参照
- 実施内容:
- 1. ご挨拶/本会合(PS基盤強化事業)の趣旨/中部地方環境事務所(5分)
- 2. 講義:Jクレジットについて(30分+質疑5分) 【講師】中部経済産業局資源エネルギー環境部エネルギー対策課係長 土屋博義氏
- 3. ディスカッション/ファシリテーター: EPO中部(100分)
  - ◆ オンラインホワイトボードを使用(Googleジャムボード ※p3参照)
    - ① 進め方/オンラインホワイトボードの使い方
    - ② Jクレジットを活用して郡上で取り組みたいこと
    - ③ 上の①のメリット・デメリットの確認
    - ④ 必要な仕組み、担い手の確認
    - ⑤ 目指すべき地域ビジョン/今後の展開のあり方の確認
- 4. 終わりにあたり

ディスカッション 模 ⑤地域・自然をどうしたいか のイメージ案 造 紙 イメ 【お題】 郡上 ① Jクレジットを活用して郡上 の森 で取り組みたいこととは? ② 上の①のメリット・デメリット とは? 森の維持管理、 観光· 地域づくり ③ 必要な仕組みとは? ①取り組みたいこと ①取り組みたいこと ④ 誰が担う?誰が対象? ③必要な仕組み ⑤ 感想: (Jクレジット活用等で)郡上 ②担い手は? ④対象は? の地域・自然をどうしてい きたいか?(意義・ビジョン の確認) 何をする?どう活かせる? ①~⑤を色別の付箋に書いて、 右・模造紙に貼り付けながら クレジット活用 ディスカッション ※オンライン参加:チャットでコメント クレジット換算 クレジット購入 4)誰が? 誰が営業・宣伝?

2

#### 【オンラインホワイトボードを活用して実施したディスカッション】



## ウ 情報交換会③:小浜×ローカル SDGs×地域ビジネスミーティングの実施

#### 1)日時

● 2022 年 2月4日 (木) 13:30 ~16:00

#### 2開催方法

● オンライン

## ③出席者

● 関係者 22 名

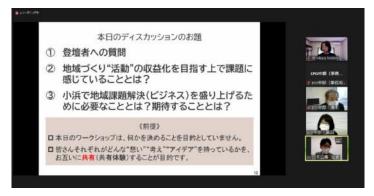
## 4プログラム

○はじめに/地域循環共生圏について 環境省中部地方環境事業所環境対策課主査 佐藤 堅太 氏

- ○地域側へのインプット①:地域経済エコシステムについて 財務省北陸財務局 福井財務事務所総務課長 吉村 邦男 氏
- ○地域側へのインプット②:日本政策金融公庫のソーシャルビジネス支援 日本政策金融公庫武生支店融資課長 佐藤 創 氏
- ○地域課題解決と経済性確保の両立を目指す地域活動 ケース①:厄介モノ「アブラギリ」を活用した取組 NPO 法人 WAC おばま理事 中嶌 阿児 氏 ケース②:海ごみを宝物に。アップサイクルへの挑戦 アノミアーナ代表 西野 ひかる 氏
- ○ディスカッション

「地域"活動"の"ソーシャル・ビジネス"移行によるローカル SDGs 実践を目指して ~小浜における地域課題解決の取組みを題材に~」

ファシリテーター: EPO 中部



## 5開催案内



「小浜×ローカルSDGs×地域ビジネス」 ミーティングについて 地域の経済団体・地域づくり団体とのパートナーシップ強化 を目的に、地域における地域循環共生圏づくりの普及啓発・ 推進を目指したEPO中部主催会合を開催します。 小浜会合においては、地域循環共生圏づくりを念頭に、地域の団体等による従来の地域活動を地域ビジネスヘシフトさせるために、今後、どのような展開・方向性を目指す必要があるかなどについて、関係機関や金融・経済団体を交えて情報交換を行います。

# プログラム

■環境省 中部地方環境事務所

## 地域側への

- 2. 地域経済エコシステムについて
  - ■財務省北陸財務局
- 日本政策金融公庫の
  - ■日本政策金融公庫武生支店
  - 融資課長 佐藤創氏

## 地域課題解決を 目指す取組の紹介

- 4 $_{
  m L}$  $_{
  m$ 
  - ■NPO法人WACおばま理事 中嶌阿児 氏
- 5. 海ごみを宝物に。
- ■アノミアーナ代表 西野ひかる 氏

## ご注意:完全オンライン 開催に変更しました

日時:2022年2月4日(金) 13:30~15:30

参加方法: zoomのみ ※zoomのURL等は、次ページ を参照してください。

## ディスカッション

- 6. 地域"活動"の"ソーシャル・ ビジネス"移行によるローカル SDGs実践を目指して
- ~小浜における地域課題解決の取組 を題材に~
- ■ファシリテーター:EPO中部

## エ 情報交換会④:地域循環共生圏パートナーシップ基盤強化フォーラム in 七尾の実施

## 1)日時

● 2022年 2月23日(水)13:30~15:45

#### ②主催等

● 主催: EPO 中部

● 後援:ななおSDGs スイッチ

## ③開催会場·方法

● 会場:七尾商工会議所 大ホール +ハイブリッド設営 (YouTube ライブ配信)

## 4参加者

● 一般公募 26 名 (うち YouTube 視聴 15)

#### ⑤プログラム

- ○環境省中部地方環境事業所環境対策課長 佐藤 堅太 氏
- ○地域経済エコシステムと北陸財務局における地域連携・貢献の取組 北陸財務局総務課企画係長 藤井啓太氏
- ○講演

「ローカル SDGs の超絶まちづくり~イノベーターの思考回路を突き抜ける~」 BBT 大学経営学部グローバル経営学科学科長・教授/ 地方創生イノベータープラットフォーム INSPIRE 代表理事 谷中 修吾 氏

- ○地域循環共生圏づくりの最前線 地球環境パートナーシッププラザ (GEOC) 江口 健介 氏
- ○終わりに 七尾商工会議所 SDGs プロジェクト推進室室長 入口 翔 氏



#### ⑥開催案内チラシ



シップ基盤強化フォーラム in七尾 環境省地域循環共生圏パートナー

## 盾環共生圏 ーカルSDGs実践で

開催日時:2022年2月23日(水・祝)13:30~15:45

参加方法:事前申込制/参加無料

①《会場参加》会場:七尾商工会議所・大ホール

②《オンライン視聴》YouTubeライブ配信を限定公開

② YouTubeで視聴

① 会場参加(定員30名) どちらも事前の 申込フォーム

申込が必要です。 はこちらから



WEB epo-chubu.jp

@EPOchubu 申込フォーム:https://forms.gle/U77Akv9sgHEUm3mZ6



※ 登壇者の皆さまが全員オンラインでの登壇となる可能性があります。

※ 会場参加を中止し、YouTubeライブ配信のみとさせていただく可能性があります。 新型コロナ感染症対策にご理解、ご協力のほどをよろしくお願いいたします。

## プログラム

- 1. はじめに 環境省中部地方環境事務所
- 2. 地域経済エコシステムについて 財務省北陸財務局
- 3. 講演 ※オンラインでのご登壇となります。

ローカルSDGsの超絶まちづくり ~イノベーターの思考回路で突き抜ける~

BBT大学経営学部グローバル経営学科学科長・教授/ 地方創生イノベータープラットフォームINSPIRE代表理事

谷中修吾氏

#### 【講師プロフィール】

谷中修吾氏(ビジネスプロデューサー/クリエイティブディレクター)

東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻卒。外資・戦略コンサルティングファーム Booz Allen Hamiltonにて、政府機関・民間企業の戦略立案・実行支援を経て現職。国内最大級の地方創生イ ノベーターブラットフォーム「INSPIRE」を立ち上げ、超絶まちづくりの集合知を社会にシェアする取組を展開。地方創生分野において、環境省、内閣府、総務省、農林水産省、文部科学省で有識者を務める。環境省の「グッドライフアワード」総合プロデューサー、「地域循環共生圏プラットフォームの在り方検討委員会」委員なども歴任。著書『最強の縄文型ビジネス』(日本経済新聞出版社) で、1万人のビジネスリーダーが選ぶ「TOPPOINT大賞」にてベストビジネス書受賞。

- 4. 地域循環共生圏づくりの最前線 地球環境パートナーシッププラザ(GEOC) 江口 健介 氏
- 5.終わりにあたり 七尾商工会議所 SDGsプロジェクト推進室室長 入口 翔氏

主催:環境省中部環境パートナーシップオフィス(EPO中部) 後援:ななおSDGsスイッチ





## オ 事業検討会議への参加

● GEOC が開催した下記の事業検討会議に出席した。

区分	開催日	開催方法	実施内容等	
事業検討会議	9月22日	オンライン	<ul> <li>各アドバイザーからの活動・事例紹介:①株式会社日本政策金融公庫、②草の根金融研究所「くさの一ね」、③環境・エネルギー部環境・エネルギー政策室事例共有</li> <li>各地方事務所の取組・課題への質問など不足情報へのアドバイス・質疑応答</li> </ul>	
	2月8日	オンライン	<ul><li>◆ 令和3年度PS基盤強化事業の進捗及び成果共有</li><li>◆ アドバイザーも交えて不足情報へのアドバイス・全体ディスカッション</li></ul>	

## カ 情報交換会への参加

● GEOC が開催する下記の情報交換会に出席した。

区分	開催日	開催方法		実施内容等		
	11月30日	オンライン	•	金融機関や企業に対して、SDGs や ESG についてどのようにコミュニケーションをとればよいか。		
情報交換会	11 7 30 1	77717	•	その時に必要となる知識は何か、どのように学べばよいか。		
1月 散义换云	1月26日	オンライン	•	講演「ESG 経営実践の現状とノウハウ・ツールについて」		
			•	講演「旧観光協会が地域商社機能を担うまでの過程と地域経済循		
				環について」		

## (7) 地域循環共生圏の担い手(団体等)との関係構築

- 地域循環共生圏づくりプラットフォーム構築事業に申請を予定している団体を対象に取組 状況についてヒアリングするとともに、情報交換を行った。
- 仕様書上では2団体程度を対象に実施となっていたが、次年度・令和4年度の地域循環共生圏づくりプラットフォーム構築事業の採択予定数が8団体(各地方1団体程度)と公表されたことをうけて、中部地方環境事務所の担当官と協議のうえ、プラットフォーム構築事業への応募を表明していた次の1団体を対象にヒアリングを実施した。

## ①ヒアリングの実施概要

取組	越前エリアにおける里山里海保全活動の収益化による地域循環共生圏づくり
対象	合同会社ローカル SD クリエーション社長 三田村佳政氏
実施日	2022 年 2 月 3 日・オンライン会議ヒアリング

## ②ヒアリング結果

①取組の概要	(1)取組・活動・ 事業の概要	<ul> <li>越前エリアでの里山里海保全活動をエコグリーンツーリズムによる収益化、 農産品のブランド化などをはかりつつ、多数の既存の活動が連携して広域 的、継続的、定期的な受け入れ体制を構築する。</li> <li>体制づくりでは、将来的な担い手不足にも対応できるよう、人材育成、少人 数での効率的な運営の仕組みづくりなどにも取り組む予定である。</li> </ul>
	(2)取組事例の 地域	・ 丹南エリアが活動エリアとなるが、まずは越前市・越前町での取組が中心となる予定である。
	(3)主な関係主 体/ステークホ ルダー 等	<ul><li>エコ・グリーンツーリズム水の里しらやま、さかのくち活性化協議会をはじめ とする地域活動団体や越前町のダイビングショップ、旅館業者などのほか、 市・県の協力も得られる予定である。</li><li>将来的に広域的なエリア展開を図ることを念頭に、特に県(環境部自然環</li></ul>

		境課)との連携関係を重視している。
		・ 越前市東部のホタル・郷土料理をテーマにしたツーリズムを展開している団
		体にも声がけを行っているところである。
<b>(2</b> )		・ 地域資源の見直しに取り組みつつ、エコグリーンツーリズムの収益化を図
2 地	(1)地域内に循	<b>వ</b> 。
域循	環するもの・こ	さらに農産品の新商品化・販売強化も展開し、個々の活動が連携させつつ
循環共生圏づく	٤	持続可能な活動へと転換させて、人材育成にも取り組む。
<del>共</del>   生		・ まずは自然資源があげられる。そのほか、郷土料理や農産品、溜池やダム
圏	(2)対象となる	などの水辺空間、廃道・廃トンネルなど、地域内の資源の洗い出しをプラッ
7	主な地域資源	トフォームで実施できればと考えている。
IJ		
) ) 例		・ 現在のグリーツーリズムの担い手は、自分達の取組を「地域活動」と認識し
اخ ا		ており、ビジネスへと意識変換させる必要がある。
して		- 行政による無料のツーリズムプログラムもあり、ビジネス化への転換過程で
事例としての「概要」(循環要素	(3)対象となる	は、プラットフォームが展開するツーリズムの差別化にも留意が必要となっ
	主な地域課題	ている。
	_	・ 人口減・高齢化が進んでいる地域であり、人材確保も課題となっている。外
循   環		部から移住等のみを募る方法は難しくなっており、少ない人手でできること
要		から取り組む体制づくり、効率的に地域内で支え合う仕組みづくりにも取り
素		組んでいく必要があると考えている。
	(4)地域の自立	・ エコグリーンツーリズムの収益化、農産品の新商品開発やブランドづくり、
	促進のための	人材育成と少ない担い手でも支え合う仕組みづくりにまずは着手していくこ
	取組	とになると考えている。
	(5)経済性の確	
	保(企業、金融	・ 企業との連携は重要と考えており、例えば事業者と農地の専属契約締結な
	機関等の巻き	どで、農地の活用を図っていくことが考えられる。
	込み)	・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・
	(a) 7 a (ii) a ii+	・ 越前市ではコウノトリ定着とコウノトリをシンボルとした地域活性化と環境保
	(6)その他の特	全の取組を行政・地域住民が一丸となって努力してきた実績がある。
	徴など 	・ この実績、ポリシー、つながりを活かして、地域循環共生圏づくりにも取り組
<u> </u>	- 44 6	んでいきたい。
_	テークホルダー 関係づくりの状	
この   況	対応 フィッの 1人	であるが、いずれも既につながりのあるステークホルダーばかりであり、協
		力・賛同を得られやすい。
_	ラットフォーム構	・ PF 事業への応募主体は合同会社ローカル SD クリエーションとなる。
築の可能性		・ もし採択された場合は、事務局をローカル SD クリエーションが担うことにな
		ると考えている。
⑤環境省・EPO 中部に対する支援ニーズ(連携イベント、勉強		・ 活動資金や支援制度などの情報提供を期待したい。
		・ 例えば、希少種・アベサンショウウオの保全活動に取り組んでいる団体があ
		るが、高齢化が進んでおり活動の継続が困難になりつつある。そうした地
会等に対するニー  ズ)		域・団体を応援する制度などを教えてほしい。
	年 度 プラット	
_	-ム構築事業へ	
	募の可能性(応	・ 応募予定であり、現在、各関係団体との調整を進めている。
募の	璋壁となるもの)	

## 7 ESD/EPO の行事を通じた行動変容の把握

## (1) 代表的な行事後の行動変容の把握

● EPO 業務、ESD 業務、及び地域循環共生圏業務で連携等した関係主体に簡易ヒアリングを 実施し、イベント業務等の各業務における成果として、関係者・登壇者等の行動変容について把握する調査を実施した。

	行事名		2021 年 6 月 26 日開催 地域循環共生圏 PS 基盤強化事業「ローカル SDGs×飯山」ミーティング			
		対象	(登壇者) 里山ウェルネス研究会代表 宮澤豊氏			
		方法	2021年12月9日・電話ヒアリングを実施			
			● 宮澤氏と同じく登壇者であった、いいやま学びの里コミュニティカレッジ学			
			長・小島氏を通じて、いいやま学びの里コミュニティカレッジとのつながり			
			ができた。			
			● 小島氏に招聘される形で、9 月 12 日開催「いいやま学びの里サマーカレッジ			
			2021 地域づくりフォーラム〜奥信濃ローカル SDGs メッセに向けて〜」の「地			
			域実践リレートーク」に里山ウェルネス研究会メンバー2名が登壇・参加			
			し、飯山林福連携プロジェクト(環境省同時解決事業 2018-2019 採択)の取			
			組紹介を行った。			
			● 6月の EPO 主催ミーティングでは小島氏と長野財務事務所長・矢島氏との間			
			で、続いて9月のフォーラムでも小島氏とフォーラム登壇者・中島恵理氏(元			
			長野県副知事)との間で情報交換やディスカッションが盛り上がり、今後、			
			地域づくり団体同士の交流や、地域及び地域活動の活性化を目的に、SDGs を			
			テーマにしたイベン			
			トを飯山市或いは北 いいやま学びの里サマーカレッジ 2021 地域づくりフォーラム			
1	ヒア	内容・結果	信エリアで協力・連 〜奥信濃ローカルSDGsメッセに向けて〜			
	アリ		携して開催していき 2020 年のいいやま学びのHサマーカレッジ 2020 で			
	ハリング		たいと話し合ってい は、2019 年の水青と 2020 年からの COVID-19 により、 奥信濃が地域の特続可能性の危機に直面したことをふま			
			る。 (残念ながらコ			
			ロナ等の関係により様子により場合のメッセージ」というタイトルの地域大公に向けた集合機からのメッセージ」というタイトルの地域オくりフォー			
			り、その後、具体的 SDGs セミナーを開催してきました。			
			な進展までには至っ 2021 年夏の第5 歳により、パンデミックの収束がいまた児通せない日々が続いていますが、アフターコロナ			
			ていない。) の時期に、東信濃でローカル SDGs メッセを開催することを視野にいれて、サマーカレッジ 2021 では、「奥信			
			濃ローカル SDGs メッセに向けて」というタイトルで地 域づくりフォーラムを企画しました。			
						このフォーラムでは、長野県副知事時代に SDGs 政策を推進された中島原理さんに基調講演をしていただき、その後、奥信濃で SDGs に関連した地域実践に取り組むみなさんのリレートークを行いますので、多くのみなさまのご参加をお待ちしております。
			日 時: 2021年9月12日(日)13:00~16:00			
			場 所: Zoom+パブリックビューイング(飯山商工会議所大会議室) ※Zoom 情報については前日 9/11 ホームページにてご案内いたします (いいやま学びの里コミュニティカレッジ IP QR コード →)			
			内 容:			
			①基淵講演: 13:00~14:15 講師: 中島恵理 (元長野県副知事)			
			「ローカル SDGs と一人多役のライフスタイル」 ②地域実践リレートーク:14:30~16:00			
			お問合せ先:いいやま学びの里コミュニティカレッジ事務局(飯山商工会議所内:内堀)			
			電話 0269-62-2162 Eメール iicci@iiyamacci.jp			

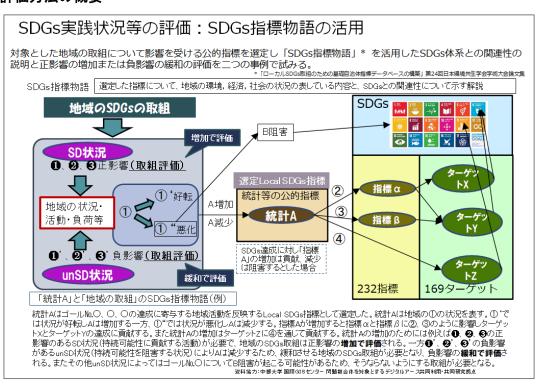
	行事名		2021 年 8 月 26 日、9 月 19 日、10 月 30 日 SDGs 社会教育 学び合いの場①②&実践セミナー
		対象	(登壇・協力者) 水上聡子氏 アルマス・バイオコスモス研究所代表
		V) 3V	(登壇・協力者) 堺勇人氏 一般社団法人環境市民プラットフォームとやま事務局長
		方法	2022 年 2 月 21 日・電話ヒアリングを実施【水上氏】   2022 年 2 月 22 日・電話ヒアリングを実施【堺氏】
2	ヒア	内· 結果	<ul> <li>8月26日のオンラインセミナーで登壇。事例として坂井市の地元のまちづくり活動を題材とした話題提供を行った結果、直後に視聴した多数の地元参加者から肯定的な感想などの連絡が入った。事例関係者の活動について大きな動機づけが得られたと考えられる。</li> <li>事例関係者は、自分たちが関与した活動が外部から論理的に説明され、客観的な評価が行われたことで、活動についての価値を新たに認識している。</li> <li>他にも要因はあるが、事例活動が活発化しており、朝市やカフェなどいくつます。</li> </ul>
	<b>リリング</b>		もの新しいアイデアが出ている。セミナーが一つのきっかけとなったことは 否定できない。  ● 活動のキーパーソンに対する評価が変わった。事例関係者の気づきにより変 人扱いされなくなり、いかに地域に貢献しているかが地元で評価されるよう になった。  【堺氏】
			<ul> <li>■ 富山市 SDGs 推進コミュニケーターとして活動している市民が 10 月 30 日実践セミナーに参加して現場を知ることが大きな刺激となった。これが一つのきっかけとなって SDGs ミーティングへの積極的な参加、富山市 SDGs 推進フォーラムでは活動発表者として登壇している。</li> <li>● 10 月 30 日実践セミナーに環境に関心のある高校生が参加しており、イベント後大きな刺激になったと感想をいただいた。当人は環境に携わりたいとのことで将来環境省に入りたいと希望している。</li> </ul>
			2021 年 11 月 13 日-14 日開催
	行	事名	自然資本を活かした人づくり・地域づくり 立山黒部ジオパーク ESD ダイアログ 2021
		対象	(共催者) 一般社団法人立山黒部ジオパーク協会 野田 一博
		方法	2022 年 3 月 4 日・オンライン会議ヒアリング
3	ヒアリング	内。 結果	<ul> <li>ダイアログをきっかけに ESD の意識が高まり、参加者やその関係者からの情報共有依頼やイベントの依頼などが舞い込むようになった。滑川市教育委員会からは、来年度ジオパーク現地での子どもたちの実験学習企画依頼があった。上市町教育委員会からも ESD の情報共有について相談があった。</li> <li>共催した一般社団としてはダイアログでの発言内容を整理し、内容を発言者に聞取りながら振り返る作業を行っている。これにより関係者の理解や認識が深まることが期待できる。その結果については順次 HP に公開していく予定である。</li> <li>ダイアログをきっかけに新たな企画として 1 月 22 日に大正大学の浦崎太郎教授を招き、ESD 講演会「持続可能な地域づくりの担い手を育む教育」をハイブリッドで開催した。ダイアログの基調講演からの展開として『学校教育と立山黒部ジオパークとの接続』〜新学習指導要領が描く世界(小学校から高校へ)のテーマで講演いただいた。リアル会場とオンライン合わせて 50 名以上の教育関係者、ジオガイド、一般市民が参加した。</li> <li>一般社団としては、これまで学校教育との連携を重視してきたが、SDGs 教育</li> </ul>

			という点で来年度からは社団会員などの企業教育にも傾注していく方針であ
			る。
	行事名		2021年11月20日開催
			越前の森里川海で取り組む地域循環共生圏フォーラム
		対象	(登壇者/開催協力)合同会社ローカル SD クリエーション社長 三田村佳政氏
		方法	2022年2月3日・オンライン会議ヒアリング
			● 地域内の取組状況・内容を共有したことにより、参加した地域活動者・団体
4	느		による地域循環共生圏づくりに取り組もうとするモチベーションが向上し
-	アリ	内容	た。これをうけて、次年度の地域循環共生圏づくりプラットフォーム構築事
	ング	•	業に応募しようとの機運も高まり、応募に向けた調整を進めている。フォー
		結果	ラム参加団体はとても協力的・意欲的に賛同してくれている。
			● ワークショップでは様々なアイデアが抽出されたが、そうしたアイデアや意
			見を参加者が所属団体に持ち帰り、各団体の次年度計画等へ反映しようとす
			る動きもみられている。
	行	事名	2021 年 7 月 13 日開催   ローカル SDGs スタートアップフォーラム(長野)
			(登壇者/開催協力)長野県 NPO センター 山室 秀俊氏
		方法	2022 年 3 月 1 日・オンライン会議ヒアリング
		737-	● 全7回のオンライン「地域循環共生圏コーディネーター育成講座」のキック
			オフという位置づけを兼ねていたこともあり、その後の講座に多数参加いた
			だきスタートダッシュ感が得られた。
	ヒアリング		<ul><li>◆ 先輩地域としての小布施事例の紹介は刺激的だったようで、例えば芋井地区</li></ul>
5			の住民自治協議会の職員の参加者はオンラインシリーズ皆勤賞となった上、
		内容	他の研修会にも自主的に、参加し地元の関係者に持ち帰って説明するなどの
		• 4± ==	行動変容が確認された。
		結果	<ul><li>● フォーラム内で紹介した芋井地区の地域循環共生圏将来ビジョン案を元に、</li></ul>
			上記住民を通じて長野県 NPO センターがアドバイスし、「芋井地区リビング
			ラボ」という内外の関係者交流事業が始まっている。様々なアイデアが出て
			いるなど、小さな実験的な活動の芽生えがある。今後の展開が将来ビジョン
			案につながっていくことが期待される。
	<b>/=</b>	事名	2021 年 9 月 11 日・12 月 17 日開催
	11	<b>争</b> 位	小浜市地域循環共生圏ワークショップ
		対象	(共催・協働コーディネーター) NPO 法人 WAC おばま理事 中嶌 阿児
	ヒアリング	方法	2022 年 2 月 3 日・オンライン会議ヒアリング
			● 第1回目のワークショップは、特に市役所職員にとって参考となったよう
6			で、開催後に全職員を対象に開催してほしいといった声が聞かれた。
		内容	● 小浜の地域づくり・まちづくりは、従来の地域活性化一辺倒から、中々脱却
		• 4± 田	できずにいたが、今回の勉強会で SDGs や地域循環共生圏などについて学び、
		結果	まちづくり協議会からの参加者などに、持続可能な地域づくりに向けた新し
			い流れ、変化を理解してもらうことができた。これからこのエリアでも、地
			域づくりの新しい潮流が生まれることが期待したい。

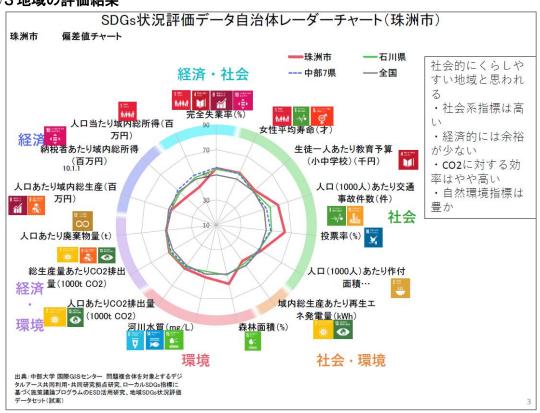
## (2) 地域循環共生圏及びローカル SDGs 実践状況等の評価

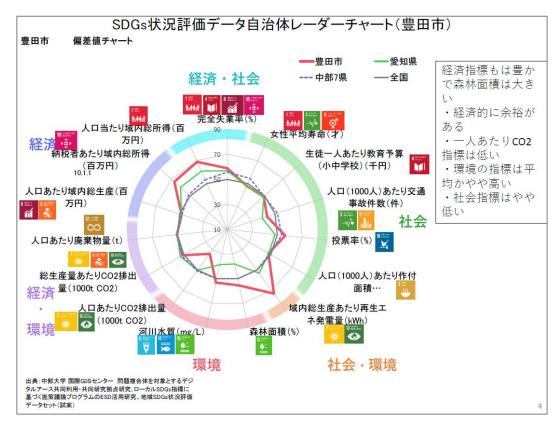
● 地域 SDGs 評価メニュー、プログラム等の情報収集を行い、3地域(珠洲市、豊田市、岐阜市)を対象に SDGs 評価を試行的に実施し、2月19日開催・SDGs/ESD ネットワークフォーラムにおいて活用した。

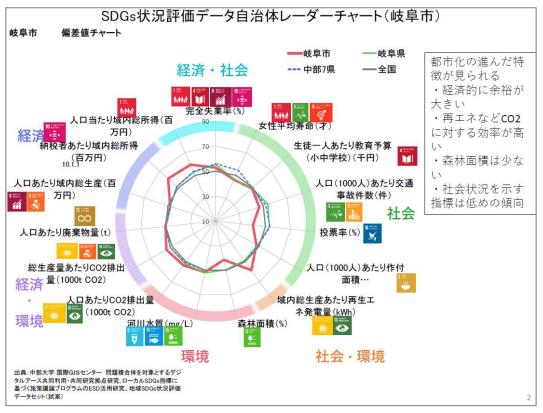
## ①評価方法の概要



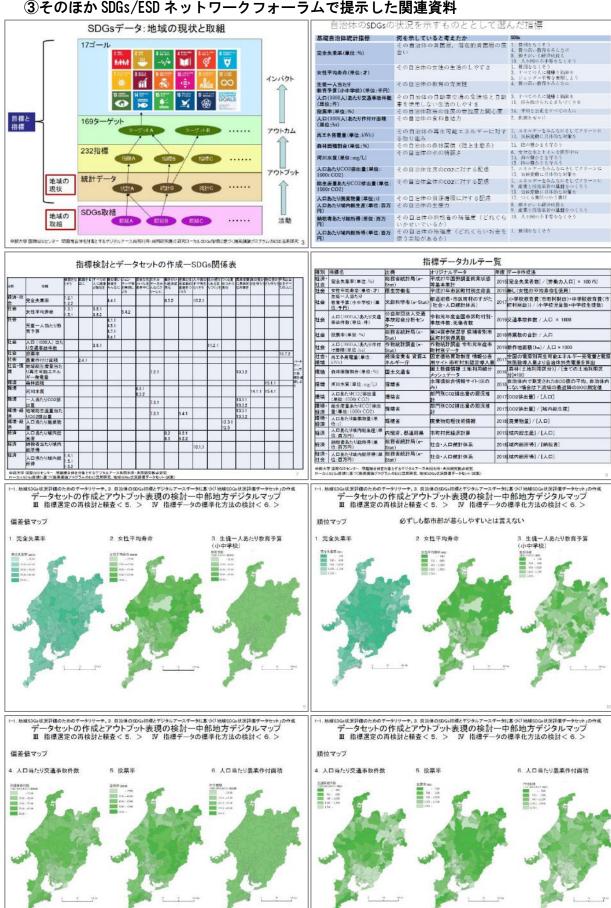
## ②3地域の評価結果

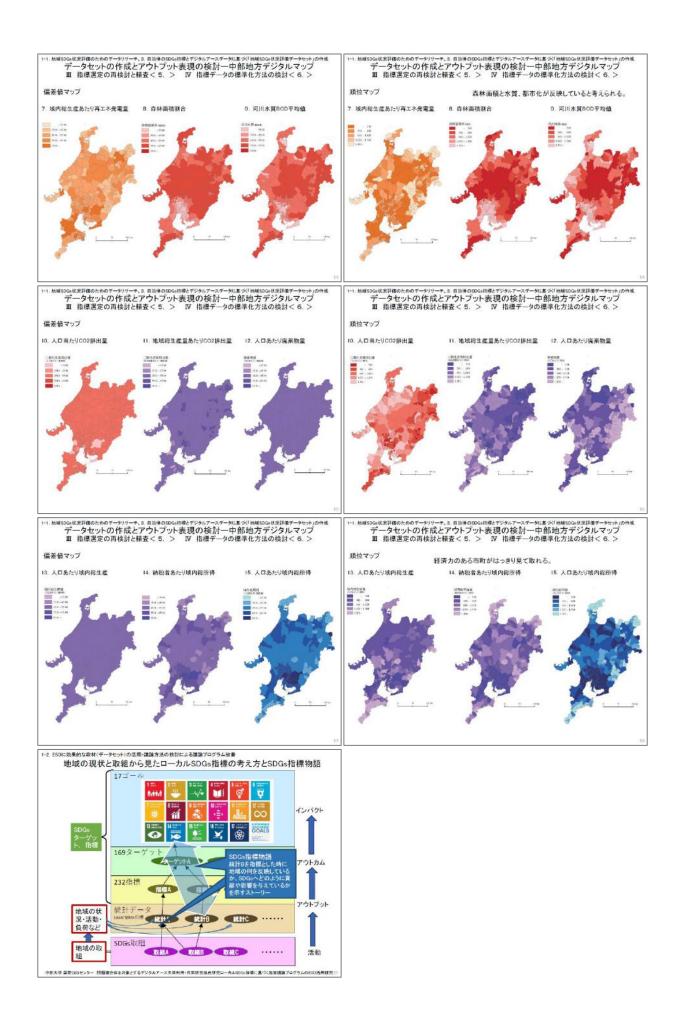






#### ③そのほか SDGs/ESD ネットワークフォーラムで提示した関連資料





## 8 関係主体との連携及び協働に関する業務

## (1) 中部地方環境事務所との情報共有及び意見交換

## ア 定期打合せと日々の業務報告の提出

## (ア) 定期打合せ

● 中部地方環境事務所の担当官との定期的な打合せを月1回以上実施し、業務の進捗状況、 方向性などについて協議を行った。

<i>)</i> .		こついく協議を行つた。
	実施日	主な打合せ協議事項
第		1.「第6期事業計画」「令和3年度業務実施計画」について
- <del>万</del>   1	4月9日	2. 関係者への連絡・調整が必要なイベント/会合等について 3. 運営会議について:委員への連絡(第1回会議の日時設定)等
		3. 連呂云巌に プバビ:安貞への建裕(第1回云巌の日時設定)寺   4. PF 事業採択団体ヒアリングの進め方について
回		5. その他
第		
2	4月27日	● PF事業について、PFのと共栄信用金庫のヒアリング実施結果、PF郡上市地域共生圏協議会との事
回		務局打合せをうけて、各団体に関する情報共有、今後の支援のあり方等について確認
		1. 業務全体について
第		2. ESD/EPO 運営委員会について
3	5月18日	3. 主催イベント/会合等について
回		4. PF 事業について
		5. その他
第		1. PF 事業について
4	6月22日	2. 主催イベント/会合等について 3. 活動主体へのフィードバックについて
回		3. 活動主体へのフィードハックについて
		1. (4/10
第		1. PF 事業について
5	7月12日	2. 主催イベント/会合等について
	, ,, ,, ,, ,,	3. 第1四半期報告書の確認
		4. その他
第		1. 業務全体の実施状況確認
<del>万</del> 6	8月19日	2. 主催イベント/会合等について
	одыр	3. PF事業
回		4. その他
		1. EPO 中部・第6期リーフレット原稿案について
		2. 名古屋市(なごや環境大学)の「錦 SDGsWEEK」への参加企画について
第		3. 主催イベント/会合等について 4. PF事業
7	9月15日	4. Fr 事未 5. その他
回		(1)次回打合せ
		(2)EPO 中部ウェブサイトのアクセス数のカウント方法について
		(3)その他
		1. EPO 中部・第6期リーフレットの修正原稿
第		2. 主催イベント/会合等について
8	10月12日	3. PF事業
回		4. 第2四半期報告書の確認 ※出力原稿を EPO が準備
		5. その他
44		1. PF ななお SDGs スイッチについて
第 9	11月18日	2. PF 郡上について
	пдюд	3. PF 応募団体へのヒアリングについて
回		4. その他
		1. 業務実施状況全体の確認
		2. EPO 中部・第6期リーフレット(印刷完成)
		3. 主催イベント/会合等について
第		4. PF事業について
10	11月22日	5. 第2回 ESD/EPO 運営委員会(2/28 開催)について
回		6. その他
		(1)次回打合せ
		(2)外部評価
		(3)その他

	実施日	主な打合せ協議事項					
第 11 回	<ol> <li>1. 業務実施状況全体の確認</li> <li>2. 主催イベント/会合等について</li> <li>3. PF事業について</li> <li>4. 第2回 ESD/EPO 運営委員会(2/28 開催)について</li> <li>5. イベントニーズ、行動変容ヒアリングの(一部)提出</li> <li>6. その他</li> </ol>						
第 12 回	1月20日	<ol> <li>1. 業務実施状況全体の確認</li> <li>2. 主催イベント/会合等について</li> <li>3. PF事業について</li> <li>4. 第2回 ESD/EPO 運営委員会について</li> <li>5. 外部評価委員会について</li> <li>6. 第3四半期報告書について</li> <li>7. その他         <ul> <li>次回打合せ</li> <li>EPO ウェブサイトのサーバー容量の拡張費用</li> <li>その他</li> </ul> </li> </ol>					
第 13 回	1. 業務実施状況全体の確認/未実施業務について 2. 主催イベント/会合等について 3. PF事業について 4. 第2回 ESD/EPO 運営委員会(2/28 実施)について 5. 年間報告書 6. その他						
第 14 回	3月15日	3月15日 ・年間報告書、及び概要版について					

## (イ) 日々の業務報告提出

● 日々の業務については、所定の様式による「月次報告書」を作成し、業務内容等を記入したものを毎月(月初めに)、中部地方環境事務所へ提出した。

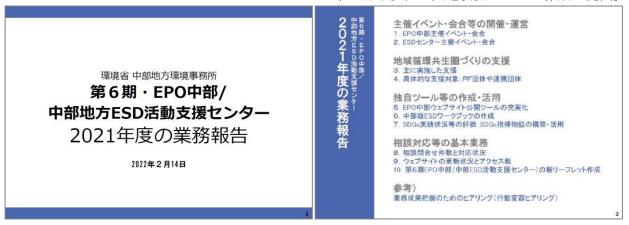
## イ 中部地方環境事務所が開催する外部評価委員会への対応等

中部地方環境事務所が実施した外部評価委員会に下記の通り対応、出席した。

行事等	実施日/実施方法		EPO 中部による対応	
		•	2021 年度 EPO 中部業務報告資料、及び自己評価シー	
以如莎压丢马人	2月14日		トを作成・記入。	
外部評価委員会	オンライン	•	EP0 中部スタッフ 3 名が同席し、上記資料の説明、	
			質疑対応などを行った。	

## 【外部評価委員会に提示した 2021 年度 EPO 中部業務の説明資料】

※2022年1月末現在の実施状況について作成・提出。



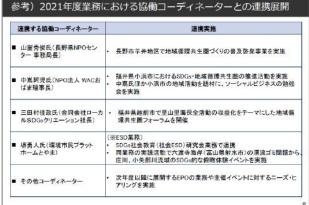








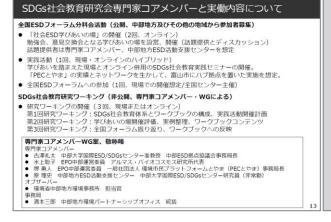






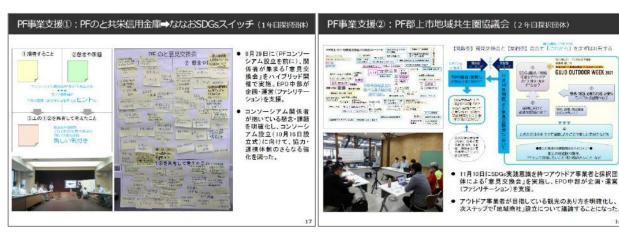




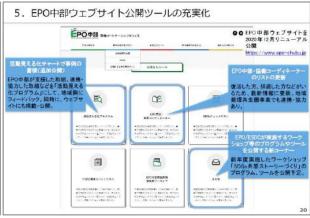


地域循環共生圏づくりの支援 (環境省事業プラットフォーム (PF) 採択団体への支援等)

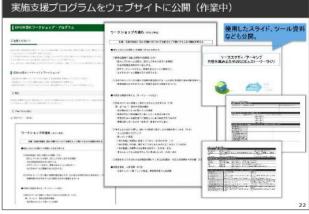


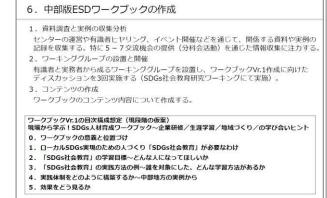


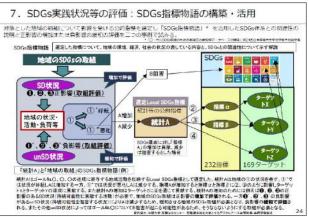


















## ウ 環境白書を読む会への協力

- 7月20開催の「環境白書を読む会」について、主催の中部地方環境事務所、なごや環境大学への企画協力、登壇者への謝金支払などを行ったほか、参加者募集の広報協力をウェブサイト、Facebookページで展開した。
- 当日は EPO 中部スタッフもオンライン参加し、なごや環境大学からは後日に参加者アンケート結果資料と、参加視聴者数(212名)の報告をうけた。

#### 【なごや環境大学が作成した開催案内チラシ】



## エ 全国ユース環境活動発表大会への参画

- ユース環境活動発表大会の中部大会の審査員として、EPO 中部からは、堺勇人氏(一般社団法人環境市民プラットフォームとやま・事務局長)を推薦した。
- ブロック別大会がオンライン開催に変更となったことをうけて、2022 年1月に公開された中部ブロック大会をオンライン(YouTube)で視聴し、EPO 中部ウェブサイトに紹介記事を掲載した。

## 第7回全国ユース環境活動発表大会《中部地方大会》が開催されました

2022 02 03

EPOレポ

第7回全国ユース環境活動発表大会中部地方大会が開催されました。

昨年度に続き新型コロナウイルス感染症の拡大を防ぐ為に、「Web発表大会」の形式で大会を実施しました。 中部地区からは7校が参加し、ユース世代が社会課題の解決に向けた実践活動の発表を行いました。

#### 中部地方大会 出場校(全7校)

長野県木曽青峰高等学校

里山部

長野県佐久平総合技術高等学校 食品加工部

岐阜県立岐山高等学校

team 太陽電池ひろめ隊

岐阜県立八百津高等学校

自然科学部

愛知県立佐屋高等学校

科学部

愛知県立安城農林高等学校

土壤研究研修班

三重県立四日市四郷高等学校

自然科学部



~EPOスタッフも視聴しました~

- ◆ 長野県木曽青峰高等学校里山部から「青峰里山プロジェクト」について発表がありました。 青峰から未来へつながる里山づくりを スローガンに、里山の整備と活用・農林業活性化に向けた新スタイルの提案・世代をこえた交流里山体験の場の創造にむけて活動した ものになりました。活動によって木曽地域の人口減少・高齢化・担い手不足を解消し、青峰を活性化させたいという内容でした。
- ◆ 長野県佐久平総合技術高等学校食品加工部から「佐久酒粕(サクサケ)プロジェクト」について発表がありました。酒粕をアップ サイクルし持続可能な地域を目指す!という目標に向けて活動し、酒粕の新たな活用方法を模束しているものでした。地元の企業やお 店と連携し商品開発した酒粕メロンパン・サクサケクッキーを高校の購買で販売し、さらには駅などで販売している実用化に向けた内 幸でした。
- ◆岐阜県立岐山高等学校自然科学部化学講座team太陽電池ひろめ隊から「色素増感太陽電池」について発表がありました。より性能のよい色素増感太陽電池の作成の為に実験を行い、実用に向け研究したものでした。今後は薬品を極力使わず、身近にある材料(廃野菜など)を利用した太陽電池を作り食品ロスの問題も解決していきたいという内容でした。
- ◆岐阜県立八百津高等学校自然科学部から「アメリカザリガニから学ぶSDGs」について発表がありました。アメリカザリガニの体内からマイクロプラスチックが見つかった事により、スーパーで販売している魚介の体内を調査したとこうマイクロプラスチックが発見されました。その事から人の体内にも吸収されている可能性があり、ゴミの正しい分別が環境・社会・経済に関わりSDGsにつながるという内容でした。

## オ 記者発表等のメディア対応

- 今年度実施したイベント等では、次の2イベントで共催・協力した地域側団体がメディア 対応・記者発表を行った。
- 10月30日開催・実践セミナー(六渡寺海岸/富山県射水市)では、協力団体:PECとやまによる呼びかけで、地元テレビ局職員が参加した。
- 11月13日・14日開催のESDダイアログにおいて、共催の(一社)立山黒部ジオパーク協会が、開催地である富山県富山市等の地元紙・テレビ局等への記者投げ込みを行い、地元ケーブルテレビ局からの取材参加があった。

## (2) 全国ネットワークの活用及び連携の確保・強化

● 全国の地方 EPO・GEOC・ESD 活動支援センター等から招請のあった会議・イベント等について、次の会合に出席・参加した。

	いて、次の会合に出席・参加した。					
No.	会議名等	開催日	場所/方法	概要/プログラム等		
1	PF 事業第 1 回共有 会	5月12日	オンライン	<ul><li>・PF 事業について</li><li>・新規活動団体(20)へのヒアリング結果</li><li>・意見交換</li><li>・情報交換会(キックオフ)について</li></ul>		
2	全国 ESD 連絡会	5月27日	オンライン	<ul><li>・ESD を巡る最近の動向について</li><li>・地域拠点アンケートについて</li><li>・全国フォーラムの日程・会場について(報告)</li><li>・「分科会」活動について</li></ul>		
3	PF 事業 キックオフ ミーティング(1日目)	6月1日	オンライン	・今年度選定団体(継続団体)の発表 ・地方ブロック別コミュニケーションタイム など		
4	PF 事業 キックオフ ミーティング(2日目)	6月2日	オンライン	・今年度選定団体(新規団体、事業化支援団体)の発表・地方ブロック別コミュニケーションタイム など		
5	第 1 回 ESD 活動支 援企画運営委員会	6月22日	オンライン	(1) ESD 活動支援センター2020 年度事業報告について (2) ESD 活動支援センター2021 年度事業について ・可視化タスクフォース ・「分科会」活動 ・全国フォーラムの日程・会場(ご案内) (3) その他		
6	全国 EPO 連絡会 (1日目)	6月28日	香川県 高松市	【議題 1】EPO ネットワーク事業について 【議題 2】外部連携について(令和3年度/今後3年程度)		
7	全国 EPO 連絡会 (2日目)	6月29日	香川県 高松市	事務所会議・EPO 受託者会議 エクスカーション: NPO 法人アーキペラゴ主宰の女木島ビーチクリーンアップ		
8	地域経済循環分析ツール勉強会	7月15日	オンライン	①地域経済循環分析の解説 ②地域経済循環分析ツールの解説 ③質疑		
9	第1回 アドバイザ リー委員会	7月29日	オンライン	・今年度の「地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業概要」について ・論点について:環境整備活動団体のカテゴライズについて(コアチームを 構成する主体別/主軸となる事業別)、コアチームを構成する主体別課 題について(①共通する課題、②地方公共団体、③営利組織、④非営利 組織) ・意見交換		
10	EPO 向け脱炭素レク チャー	8月19日	オンライン	脱炭素についての基礎的知識を獲得出来る機会として、JCCCA の方を 講師に迎えたセミナー		
11	寺子屋ローカル SDGs (第3回)~学び編~ 『エコツーリズムのスス メ~持続可能な地域創 造のツールとして~』	8月30日	オンライン	①講義等(エコツーリズムの基本的な考え方、地域におけるエコツーリズム推進のプロセス、SDGs との親和性と地域への広がり、企業連携による地域産業化への取組) ②質疑応答		
12	PF 構築に向けた有 識者会議(第1回)	9月1日	YouTube 視聴	(1)令和 3 年度プラットフォーム構築の進め方について ・令和 3 年度事業の進め方について ・環境整備団体への支援方針と課題について (2)地域循環共生圏に係るその他の事業の進捗状況について		

No.	会議名等	開催日	場所/方法	概要/プログラム等
13	寺子屋ローカル SDGs(第4回)~学 び編~『エネルギー の地産地消からはじ まる地方創生』	9月8日	オンライン	①講義等 ・環境省(脱炭素をめぐる世界と日本の動向) ・ローカルエナジー株式会社(エネルギーの地産地消の基本、事例紹介) ②質疑応答
14	PF 事業ブロック別共 有会(中部エリア)	9月9日	オンライン	<ul><li>・環境整備活動団体毎に情報共有</li><li>・その他確認</li></ul>
15	PF 事業 第 1 回作 業部会	9月10日	オンライン	・全国事務局の状況共有(GEOC のポジションと仮説) ・3 つのブレイクアウトルームに分かれて意見交換("いけてる"案件) ・3 つのブレイクアウトルームに分かれて意見交換("いまいち"案件) ・グループ毎の意見交換を全体へフィードバック
16	本省-EPO ネット情報 共有会(脱炭素・瀬 戸法関係)	9月10日	オンライン	<ul><li>・改正地球温暖化対策推進法について</li><li>・改正瀬戸内海環境保全特別措置法について</li></ul>
17	第1回プラットフォー ムのあり方に関する 検討 WG	9月14日	YouTube 視聴	議題 1:令和 3 年度ワーキンググループの進め方(全体方針) 議題 2:プラットフォーム事業全体の目標・ビジョンについて
18	外部資金 全国 EPO 会議	9月14日	オンライン	・地球環境基金説明会の開催概要等についての確認 ・グリーンギフトの今後の展開、各団体の状況等について確認
19	PF 事業ブロック別共 有会(他ブロック)	9月15日	オンライン	・環境整備活動団体毎に情報共有 ・その他確認
20	EPO ミーティング:基盤ネットワーク系	9月21日	オンライン	<ul><li>・EPO カタログ作成(案)について</li><li>・共生圏 PF 事業下半期予定について</li></ul>
21	地域循環共生圏パートナーシップ基盤強 化事業に係る第1回 事業検討会議	9月22日	オンライン	・各アドバイザーからの活動・事例紹介:①株式会社日本政策金融公庫、②草の根金融研究所「くさの一ね」、③環境・エネルギー部環境・エネルギー政策室・事例共有・各地方事務所の取組・課題 への質問など・不足情報へのアドバイス・質疑応答
22	ESD 全国・地方セン ター会議	9月24日	オンライン	・全国フォーラム(開催方法、目的、プログラム等)について ・識者ヒアリングについて ・センター事例集について
23	ESD 全国・地方セン ター会議	10月7日	オンライン	・識者ヒアリングについて:候補者・スケジュールの確定 ・全国フォーラムについて :全体テーマの決定、パネルディスカッションの登壇者(分野・候補者)の絞 り込み、分科会のグループ分け合意・進め方検討
24	地域循環共生圏 フォーラム 2021	10月27日	オンライン	<ul> <li>・オープニング「なぜ今こそ地域循環共生圏なのか」</li> <li>・分科会①~③</li> <li>・関係省庁による地域循環共生圏づくりに関連した事業・取組紹介①~③</li> <li>・Beyond ミーティング×地域循環共生圏フォーラム 2021</li> </ul>
25	基盤強化:情報交換会①	11月30日	オンライン	・金融機関や企業に対して、SDGs や ESG についてどのようにコミュニケーションをとればよいか。 ・その時に必要となる知識は何か、どのように学べばよいか。
26	PF 事業 中間報告 会(1日目)	12月3日	オンライン	・事業化支援団体、環境整備団体(計 6 団体)によるプレゼンテーション ・意見交換会
27	全国 ESD フォーラム 分科会打合せ	12月3日	オンライン	・関東 ESDC、四国 ESDC の登壇者を含め顔合わせ、ディスカッション方 法等について調整
28	PF 事業 中間報告 会(2日目)	12月6日	オンライン	・事業化支援団体、環境整備団体(計 11 団体)によるプレゼンテーション・意見交換会
29	PF 事業 中間報告 会(3日目)	12月7日	オンライン	・事業化支援団体、環境整備団体(計 11 団体)によるプレゼンテーション・意見交換会
30	PF 事業 第2回作業 部会・中間報告振り 返り会	12月8日	オンライン	・事例研究: 3EPO1グループで事例発表・説明+意見交換
31	PF 事業 第2回共有 会	12月8日	オンライン	・環境整備支援状況の共有 ・PF 事業全体の共有 ・来年度についての議論の共有
32	第 2 回プラットフォー ムのあり方に関する 検討 WG	12月9日	YouTube 視聴	・議題 1:プラットフォーム事業の全体像について ・議題 2:地域循環共生圏の全国への広がりを測定する指標について ・総括
33	全国 ESD フォーラム	12月11日	オンライン	・基調報告 国内外の ESD 推進の動向と ESD 推進ネットワークの役割・パネルディスカッション 脱炭素時代に求められる ESD 推進ネットワークの姿とは

No.	会議名等	開催日	場所/方法	概要/プログラム等
				・分科会ー「ESD for 2030 学び合いプロジェクト」の挑戦ー ①脱炭素社会づくりと ESD~気候変動教育と、拠点の学び合い~ ②SDGs を活用した教育×地域のチャレンジ ③地域に根ざした多様な SDGs 人材育成
34	全国ESDネット打合 せ	12月16日	オンライン	<ul><li>・全国 ESD フォーラム報告</li><li>・1 月開催連絡会について</li></ul>
35	PF 構築に向けた有 識者会議(第2回)	12月20日	YouTube 視聴	(1)環境整備の進捗に関する報告 (2)次年度の新規団体と継続団体の選定方針(案)について (3)地域循環共生圏づくりプラットフォーム全体像について
36	EPO 合宿(1日目)	1月7日	福岡県 北九州市	・EPO カタログについて:事例研究、情報交換
37	EPO 合宿(2日目)	1月8日	福岡県 北九州市	・EPO カタログについて:検討事例共有、ネットワーク全体の価値言語化
38	第2回 全国 EPO 連 絡会	1月11日	東京	・【議題1】令和3年度事業(主に EPO 基盤業務) 進捗及び成果の共有・【議題2】令和4年度事業の予定・【議題3】環境省本省からのトピックス・分科会(EPO 会議)
39	GEOC 打合せ	1月12日	東京	・ESD 業務について
40	全国ESDネット打合 せ	1月18日	オンライン	<ul><li>・全国センターウェブ構築について</li><li>・連絡会開催に向けて</li></ul>
41	第2回 全国 ESD 連 絡会	1月26日	オンライン	・【報告】2021 年度活動状況及び地方 ESD ネットワークの成果(地方センター) ・【報告】2021 年度の活動状況(全国センター) ・【報告】2022 年度環境省・文部科学省の施策の方向性 ・【報告】ESD 活動支援センターウェブサイトの今後の方針について ・【報告・協議】2021 年度「ESD for 2030 学び合いプロジェクト」総括(地方・全国センター) ・【協議】ESD 推進ネットワークの今後の方向性について
42	基盤強化:情報交換会②	1月26日	オンライン	・講演「ESG 経営実践の現状とノウハウ・ツールについて」 ・講演「旧観光協会が地域商社機能を担うまでの過程と地域経済循環に ついて」
43	地域循環共生圏パートナーシップ基盤強 化事業に係る第2回 事業検討会議	2月8日	オンライン	・令和 3 年度 PS 基盤強化事業の進捗及び成果共有 ・アドバイザーも交えて不足情報へのアドバイス・全体ディスカッション
44	第2回 アドバイザ リー委員会	2月15日	オンライン	・R3 地域循環共生圏 PF 事業進捗報告 ・R4 地域循環共生圏 PF 事業の予定
45	EPO と地球環境基金 の連絡会議	2月16日	オンライン	・助成金要望・交付決定等について ・全国及 び地方ユース環境活動発表大会について ・コロナ禍の環境市民活動の現状と支援について
46	第 2 回 ESD 活動支援企画運営委員会	2月17日	オンライン	1. ESD 活動支援センターの本年度主要事業について(報告)  •ESD 活動支援センター(全国・地方)活動状況  •ESD for 2030 学び合いプロジェクト  •ESD 推進ネットワーク全国フォーラム  ・ネットワーク可視化タスクフォース  2. ESD 推進ネットワークの今後の方向性について
47	成果報告会	3月8日	オンライン	・各活動団体(計 36 団体)による取組内容の発表 ・ネットワーキングイベント
48	PF 事業 第3回共有 会	3月9日	オンライン	<ul><li>・R3 年度事業の振り返り</li><li>・事業全体について共有・議論</li><li>・令和 4 年度事業について共有</li></ul>

※地域循環共生圏 PF 事業、ESD 業務関連会議については各該当章にも記載。

# 9 外部資金を活用した事業

# (1) グリーン・ギフト・地球元気プロジェクト

- 予算:545,000円
- 今年度は、新型コロナ感染症等の情勢・影響を鑑みた結果、福井、愛知、三重の各団体で、 下記の代替事業等が実施された。

福井	小原 ECO プロジェクト	● 第1回イベント:7月31日(土)実施。 ● 当初予定の8月28日第2回イベントは中止。代替事業として 勝山市内の赤兎山にて外来植物駆除活動を実施。
愛知	もりの学舎	● 昨年10月より、2回イベント実施予定(11・12月と8・9月) であったが、いずれも中止。代替事業として、『元気の森 「手作り生きもの図鑑」』を作成し、9月末時点で完成。
三重	Joint Plus	● 7月17日から延期となった8月21日第1回イベント、9月4日第2回イベントが中止。代替事業として「森林の紙芝居」を作成し、9月末時点で完成。

# (2) 地球環境基金

● 年間予算:300,000円

# (ア) 地球環境基金 EPO 連絡会への出席

- 第1回全国 EPO 連絡会(6月28日~29日)において、昨年度同様、①「全国ユース環境 活動発表大会」中部地方大会、②「令和4年度地球環境基金説明会」の開催支援を EPO が 行う旨の説明があった。
- 9月14日に実施されたGEOC及び全国EPOによるオンライン会議で、来期・2022年度地球環境基金の説明会の開催概要とEPOの協力事項についての確認を行った。
- 2月16日にEPOと地球環境基金の連絡会議がオンラインで実施され、「助成金要望・交付 決定等について」「全国及び地方ユース環境活動発表大会について」「コロナ禍の環境市 民活動の現状と支援について」の情報共有を行った。

# (イ) 地球環境基金の次年度募集に関わる説明会の開催

● 来期募集基金についての中部説明会を、主催:環境再生保全機構、協力: EPO 中部により、 10月26日に開催し、後日、実施報告書を作成して機構側へ提出した。

#### ①提出した 2022 年度地球環境基金説明会の実施報告書

別紙1

2022 年度 地球環境基金 助成金説明会 (中部地区)

#### 概要

【行事名】 地球環境基金助成金説明会 in 中部

【日 時】 2021年10月26日(火) 18:00~19:30

【実施方法】 オンライン開催

【参加者】 12名

【内 容】

挨 拶 小林 大 氏 (独立行政法人環境再生保全機構 地球環境基金部)

第一部 セミナーと活動事例紹介 [テーマ:地球温暖化防止・脱炭素]

講師:原理史氏(中部大学中部高等学術研究所)

(1) テーマ別セミナー「気候危機と SDGs~私たちのライフスタイルを考える~」 一気候危機・SDGs をキーワードに、私たちが個人や家庭でできる賢い選択 (COOL CHOICE) や環境配慮行動への働きかけにおける周囲の人との認識共有について話題 提供を行った。

(2) 中部地域における助成先団体の活動事例紹介

[2020年度・2019年度・平成30年度/ひろげる助成]

「COOL CHOICE」普及啓発に資する「ナッジ」の 応用手法の研究と適用

(助成先団体:一般社団法人環境創造研究センター)

一調査研究の概要及び3年間の研究で得られた成果と、地球環境基金の助成を受けた ことによる団体の変化や助成金の特徴(感じたこと)について話題提供を行った。

#### 第二部 2022年度地球環境基金助成金の説明

説明:福田 晃二郎 氏(独立行政法人環境再生保全機構 地球環境基金部)

- (1) 地球環境基金助成金について
- -2022 年度地球環境基金助成金について、「概要と助成メニュー」、「前年度からの変 更点 (採択に係る審査方針等の改定)」、「コロナ禍への対応」、「特別助成 (地域循環 共生圏)」、「企業協働プロジェクト〜LOVE BLUE 助成〜」、「要望時の留意事項」、 「応募スケジュール」、「助成の特徴」を中心に説明いただいた。
- (2) 2022 年度助成金の要望書の書き方講座
- 一要望書記入時の留意点や作成のポイント (「ロジックモデル」、「採択のポイント」
- 等) について、冊子「募集案内」や説明動画の案内を交えて説明いただいた。

※参加申込者には(1)(2)に関する説明動画を事前視聴し、参加いただくよう依頼した。

(3) 質疑応答…(1)(2)に関する質疑応答等

質問	回答
初めて応募するため応募条 件について詳しく伺いたい (滋賀県で野鳥保全を行う 団体/2年目)。	活動歴1年以上の団体が応募できる「はじめる助成」と「つづける助成」が条件にあうと思われる。 「ひろげる助成」は活動実績が3年以上となり、応募条件から外れる。
応募書類 (書式) につい て、エクセルのスペース内 に納めるべきか。	用意されているセル (スペース内) に納めていただくとポイントが伝わりやすい。地球環境基金では、特にロジックモデルの流れを重視している。要望書を書くことで活動計画が整理されると思われるため、工夫して作成していただきたい。
コロナ禍においては、予想 外の出費や緊急事態等によ	「大幅な変更を認めない」との記述はあるが、来年 度の活動を11月に計画することになるため、この2

「変更届」の提出が必要と なるのか。

る変更が生じ、計画通りに 年は、内定後 (6月頃) にあらためて活動計画を書い 活動ができず臨機応変に変 ていただく。4月から個別面談を実施し、やりとりを えていくこととなった。計 経て申請書を提出していただく。今年度について 画の変更については、随時 も、交付決定後にコロナの影響があったため、通常 は年1回であるが、随時計画変更を出していただく こととなる。

#### [その他補足事項]

- ・別日程の「個別相談会」については、日程調整のうえ事務局から連絡差し上げる。
- ・要望書の提出について、締切日は混み合うことでシステムがスムーズに動かない 時間帯があるため、早目のエントリーをお願いしたい。

#### 【説明会の様子】

▼テーマ別セミナー [地球温暖化防止・脱炭素] ▼中部地域の助成先団体の活動事例紹介





▼2022 年度地球環境基金助成金の説明(留意事項及び要望書の書き方について)





▼質疑応答



以上



地球環境基金助成金説明会 in 中部



2021年10月26日(火) 18:00~19:30



オンライン開催(zoom) 中部地域以外の方もご参加いただけます。

# プログラム

第一部 18:00~ セミナーと活動事例紹介

講師:原 理史氏(中部大学中部高等学術研究所)

① テーマ別セミナー

「気候危機とSDGs~私たちのライフスタイルを考える~」

② 中部地域における助成先団体の活動事例紹介 [2020年度・2019年度・平成30年度/ひろげる助成] 「COOL CHOICE」普及啓発に資する「ナッジ」の応用手法の研究と適用 (助成先団体:一般社団法人環境創造研究センター)

# 第二部 18:50~ 地球環境基金助成金要望の募集について

- ①地球環境基金助成金について
- ② 要望書の書き方講座

③ 質疑応答 …申込時に受け付けた質問にお答えします。

地球環境基金Webページ https://www.erca.go.jp/jfge/ から事前視聴のうえご参加ください。

由込締切

# 個別相談会

説明会参加者を対象に個別相談会を実施します



2021年11月8日(月)・11月9日(火)

各日10:00~12:00、15:00~17:00、18:30~19:30 地球環境基金の担当者がご相談を承ります(1団体15分以内)



申込 説明会の参加申込フォームからお申し込みいただけます。 実施日時は、オンライン個別相談会事務局より個別にご連絡 し、調整の上決定します。

#### オンライン個別相談会事務局

関東地方環境パートナーシップオフィス(関東EPO) TEL: 03-3406-5180 メール: kanto-epo@geoc.jp

#### 地球環境基金は…

地球環境基金は・・・

民間団体(NGO・NPO)に
よる環境保全活動を幅広く支援(資金の援助等)を
行うことを目的に、独立行政法人環境再生保全機構
によって運営されている基金です。来期・2022年度
の助成金交付先の募集を開始するにあたり、全国8
地域・テーマで説明会を開催します。説明会では、
テーマ別セミナーや各地域における助成先団体の活動事例を紹介するほか、要望書記入
についての留意点や作成のポイントを説明し、事前に受け付けた質問等
に地球環境基金の担当者が回答します。全国の説明会の日程やテーマは、
webページからご確認ください。

ページからご確認ください。



# 申込み& 問合せ

参加申込フォーム

参加申込フォームからお申し込みください。 開催日前日にzoomの参加URLをお送りします。



環境省 中部環境パートナーシップオフィス(EPO中部) TEL: 052-218-8605 4 電話による申込は受け付けておりません。

主催:独立行政法人 環境再生保全機構 地球環境基金部 協力:環境省 中部環境パートナーシップオフィス (EP0中部)



# (3) 愛知県コーディネート業務

● 年間予算:902,000円

● 環境学習に関する愛知県内の学校・企業等からの相談、照会依頼に対し、年間で相談業務 10件、コーディネート業務7件を実施した。

					相			 コーディネート業務
No.	受付日	依頼先 区分	分野	依頼内容	相談業務		実 施 日	講師等
1	5月25日	行政	水	豊川市生活排水クリーン推進員を対象 とした、親子で参加可能な生活排水学 習会のコーディネート(講師および内容 の提案)。	1		10月30日	小野 氏(公益財団法人河川財団 名古屋事務所 環境教育担当)
2	6月1日	行政	生態系·生物多様性	市制 50 周年記念事業の一環として行う 環境学習(市内に棲む生物にふれあう 授業)の講師の紹介および企画内容の 提案。	2			
3	6月9日	小学校	SDGs	総合的な学習の時間における SDGs の授業の講師の紹介。		4	1月20日	原理史氏(中部大学中部高等学 術研究所)
4	7月6日	小学校	SDGs(陸の環境)、 土・土壌、自然への 愛着	理科と総合学習の時間を合わせて行っている「山に棲む生物の生態について」 の授業の内容と講師の紹介。		1	10月5日	水谷央氏(もりの学舎 代表理 事)
5	7月9日	行政	プラスチックごみ問 題	海洋プラスチックごみ問題を学ぶ女性 団体(一般)向けの勉強会の講師の紹介。				
6	7月29日	民間	ごみ・資源循環、 3R、国際理解、生態 系・生物多様性	WTOC「教室から世界一周!」プロジェ クトの実施対象者の紹介。	4)			
7	7月28日	小学校	地球温暖化、SDGs	地球温暖化に関わる授業の講師の紹介。	(5)		(10月8日)	
8	7月28日	小学校	地球温暖化、SDGs	地球温暖化に関わる授業の講師の紹 介。		2	10月13日	村瀬政彦氏(地球温暖化防止活動推進員)
9	7月28日	小学校	地球温暖化、SDGs	地球温暖化に関わる授業の講師の紹 介。		3	10月20日	原理史氏(中部大学中部高等学 術研究所)
10	8月31日	民間	生態系・生物多様性、エネルギー、ごみ・資源循環、3R	自然・環境保護・エネルギー等「環境の保全」に繋がる講話の講師の紹介。	6		10月23日 (中止)	①原理史氏(中部大学中部高等学術研究所)②村瀬政彦氏(地球温暖化防止活動推進員)
11	8月31日	民間	生態系・生物多様性、エネルギー、ご み・資源循環、3R	自然・環境保護・エネルギー等「環境の保全」に繋がる講話の講師の紹介。	7		10月30日 (中止)	①長谷川明子氏(ビオトープ・ネットワーク中部会長)②淺野啓子氏 (専門学校非常勤講師)
12	8月31日	民間	生態系・生物多様性、エネルギー、ご み・資源循環、3R	自然・環境保護・エネルギー等「環境の保全」に繋がる講話の講師の紹介。	8		11月6日 (中止)	①原理史氏(中部大学中部高等学術研究所)②村瀬政彦氏(地球温暖化防止活動推進員)
13	10月6日	民間	生態系·生物多様性	環境学習イベンの学習内容案に対する アドバイザーの紹介。	9			
14	11月15日	行政	自然への愛着、生 態系・生物多様性、 生命	保育園・幼稚園で行う環境に関する講 義の講師の紹介。	10			
15	11月26日	行政	マイクロプラスチッ ク問題	市民向け環境講座の講師の紹介。	11)		3月12日 (中止)	児玉剛則氏(名古屋産業大学大学院非常勤講師)
16	12月16日	民間		ガスエネルギー館で実施する小学生と その家族を対象とする環境学習講座の 講師の紹介。		6	6 月ごろ	村瀬政彦氏(地球温暖化防止活動推進員)
17	12月20日	小学校	水、自然への愛着	小学校にあるビオトープや自然を知るための授業の講師の紹介。		⑤	2月17日	長谷川明子氏(ビオトープ・ネット ワーク中部会長)
18	2月25日	行政	地球温暖化、エネルギー、自然への愛着	緑のカーテン講座の講師の紹介。		7	5月	堀田英夫氏(地球温暖化防止活動推進員)
			合	計	10	7		

# 10 今後に向けて

# ア 基本業務

### (ア) EPO 施設の利用・相談対応について

#### ①現状・課題の整理

- EPO 中部/中部地方 ESD 活動支援センターへの相談件数、来館者数の伸び悩みと共に、新型コロナ感染症の感染拡大防止策等の影響を受けて、EPO 施設の利用促進をどのように図っていくかが課題となっている。
- 一方、EPO 施設へ来ていただく数等は多くないが、EPO スタッフが自治体、地域活動団体等の外部へ招聘される件数、業務等に関連して地域側へ打合せに出向く件数、及びオンラインでの打合せ件数などは増加しており、EPO 施設の利用のあり方、EPO 側による対応のあり方などが今後も変化していく過渡期、或いは転換期にあるとも考えられる。

#### ②今後の展開

- 外部評価委員会においても委員から、EPO 側が地域側へ出向いて実施する打合せ等も EPO 利用として捉えることができるとの指摘があり、EPO 施設外で対応した打合せや顔合せ、業務説明・調整等のための会合等も、EPO 利用と捉えた整理を行うと共に、今後も積極的に地域側へ出向いて行う対応、オンラインを活用した対応を展開していく必要がある。
- 今年度に企画参加した名古屋市の「NISHIKI2 SDGs WEEKs」で実施したミニ・ワークショップが好評だったこと、またこの企画をきっかけに EPO を認知した参加者もいたことから、新型コロナ感染防止対策にも留意した上で、自主企画による少人数のミニ・ワークショップ (及び SDGs チェックリストの活用)による EPO の利用促進策も考えられる。

# (イ) ウェブサイト等による情報発信について

#### ①現状・課題の整理

- 2020 年 12 月にリニューアルを行った EPO 中部ウェブサイトでは、ローカル SDGs、地域循環共生圏づくりに取り組む地域を支援するサイトと位置づけ、SDGs チェックリストなどの独自ツールの公開、活動見える化プログラムを活用した事例の紹介・蓄積を行うサイトとして位置づけ、コンテンツの充実化を進めている。
- 今年度、第6期(2021年度~2023年度)の開始に伴い、EPO中部/中部地方ESD活動支援 センターのリーフレットを新規に作成し、イベント等での配布を行っている。
- Facebook ページでは即時的な拡散を目的とした情報の投稿を行っており、これまでのところ、「いいね」「フォロー」数の増加による広報効果はあまり高くなく、関係者等が記事を「シェア」した際にはリーチ数(ビュー数)が大きく伸びる傾向がみられる。

#### ②今後の展開

- EPO 中部ウェブサイトのリニューアルからは1年が経過し、コンテンツは徐々に増えているが、引き続き、SDGs チェックリストなどの独自ツール、活動見える化プラグラムを活用した事例チャートなどを公開・更新し、サイト内への蓄積を図っていく必要がある。
- サイトの新たなコンテンツとして、主催イベントや会合等で実施しているワークショップ等のプログラム及びツールを今年度に公開しており、ローカル SDGs 実践・地域循環共生圏づくりに取り組む地域/団体が活用可能なツールとして、今後も実施したワークショップ等についてはプログラム等を公開していくことが考えられる。
- リーフレットについても、引き続きイベント等で参加者に配布する。また、第1回 ESD/EPO 運営委員会で委員から提示があった、EPO による地域づくり・ESD による人づくりで一体的に地域を支援することを図化した見開き図を、主催イベント、講師招聘等の再に

- EPO/ESD センターを紹介・説明で活用していくことが可能となっている。
- SNS については今後もできるだけ「シェア」される記事投稿を目指すと共に、イベント等の協力団体や EPO 中部・協働コーディネーターと相互に記事の「シェア」を行い、SNS の特性である拡散性を活かした広報展開を図る。

# イ EPO 業務

# (ア) 協働コーディネーターなどの地域活動主体との連携について

#### ①現状・課題の整理

- EPO 中部・協働コーディネーターと連携して開催したイベント・会合では、地域側の関係者等が多数集まり、地域ニーズに即したイベント開催が可能になっている。
- 協働コーディネーター側の事情等により、リスト掲載のコーディネーターの数は年々減少しており、またリストに掲載されているコーディネーターについても、本業等で活躍されている多忙な方ばかりであるため、実際に EPO と連携・協力して取組等を行っているコーディネーター(連携・協力を呼びかけて応答してくれるコーディネーター)は限定的となってきている。
- 今年度実施した主催イベントのうち、地域の関係機関と連携・協力して開催するイベント については、地域側の意向を重視し、地域の関係者との調整に時間がかかったことにより、 当初予定より後ろ倒しのスケジュールでの開催となったイベントが複数あった。

#### ②今後の展開

- 今年度に実施した行動変容ヒアリングでは、EPO 主催イベント開催に対する地域側にとっての意義を知ることができた。また、それが EPO 業務としての明文化された成果把握になっていると共に、地域側の地域づくりに対するニーズ・課題把握にもつながっていることから、行動変容ヒアリングを今後も実施することが有効と考えられる。
- 協働コーディネーターは地域での実践的な取組に欠かせない協力者であり、引き続き、連携・協力してローカル SDGs 実践・地域循環共生圏づくりの取組を展開することで、地域ごとのニーズに即したイベント展開が可能である。
- 一方で、連携可能なコーディネーターが限定的となってきていることから、地域循環共生圏 PF 構築事業や PS 基盤強化会合等で連携・協力している、各地域活動で中心的な役割果たしている主体等との新しいネットワークづくりを図っていく必要がある。
- 主催イベントについては、EPO 主導で開催すべきイベント・会合と、地域側の意向を重視 すべきイベント・会合とがあり、どちらを重視すべきか各業務の目的・性質上から見定め たうえで、イベント業務の企画立案、及び地域側との調整を進めていく必要がある。

# (イ) 主催イベントについて

#### ①現状・課題の整理

- 今年度のイベントはいずれも「地域循環共生圏」「ローカル SDGs」をテーマに開催しており、当面は引き続き、これらが中心テーマになるものと考えられる。
- 開催時期、イベントの内容によって、オンライン、ハイブリッド、リアル会場のいずれの 方法で開催するかを決定しているが、特定エリアのみを対象にしたイベント・会合は、特 に地方ではオンライン・ツールに慣れていない年配の活動者が多く、リアル会場にならざ る得ないことが多い。
- EPO 業務では地域案件ベースでの取組が多く、主催イベント・会合も特定エリアを対象に したイベント・会合(「フォーラム in○○」など)が殆どであるが、オンライン、リアル に関わらず、参加者が地域限定となるため、参加者数が少なくなりがちである。

#### ②今後の展開

- 次年度の EPO イベントも「地域循環共生圏」「SDGs (ローカル SDGs)」「脱炭素」及び経済 団体・金融機関との連携が重要テーマとなることが予想される。また、引き続き、地域的 なイベント・会合開催が多くなるものと考えられる。
- 第2回 EPO/ESD 運営委員会で委員から指摘があったように、「地域内の調整を目的とした」 イベント・会合については、少人数のリアル開催で実施するなど、参加者数にこだわることなく、開催目的の達成を優先・重視すべきと考える。
- 今後もコロナ対応等を要することが考えられるため、リアル会場→ハイブリッド/オンライン開催への変更など、あらかじめ事務局が柔軟に対応できるよう準備しておくことが求められる。
- エリアが特定されないイベントや、一般的なテーマ・内容のイベントは幅広に参加を募る ことができ、EPO 中部そのもののPRにもつながるため、戦略的広報の一環としてのイベ ント開催も必要と考えられる。
- 一方で、一般的なテーマ・内容によるイベントは、本省・中部地方環境事務所、GEOC・ほかの地方 EPO もオンライン開催する可能性が高く、EPO 中部が開催する意義についての留意も必要と考えられる。

# (ウ) 地域循環共生圏づくりへの支援について

#### ①現状・課題の整理

- 地域循環共生圏づくり PF 構築事業については、全国的な支援の枠組み等もあり、業務としての対応、団体側への支援に追われがちで、地域循環共生圏の本質に触れる支援が充分にできていなかった部分もある。
- 地域循環共生圏づくりで経済・金融分野の巻き込み、関係構築が重要となっていることを うけて、PS 基盤強化業務において EPO と経済・金融関係者との関係構築を進めているが、 案件としての成立や、地域団体と経済・金融関係機関との新たな関係構築などの成果にま ではつながっていない。

### ②今後の展開

- 地域循環共生圏づくり PF 事業については、今後も各団体/地域ごとに支援の見立てを行い、細やかに対応していく必要がある。
- 経済・金融機関の巻き込み、関係構築については、地域・取組内容によって関係を構築すべき対象が異なってくることを念頭に、これまでに EPO が関係構築を行ってきた財務局・財務事務所、そのほか金融機関・経済団体等とも連携・協力して、地域活動者等と経済・金融機関とがつながる場を引き続き設営していく必要がある。

#### (エ) SDGs 実践評価について

#### ①現状・課題の整理

- 連携先からの情報収集等により SDGs の評価に関わる様々な知見を収集した結果、SDGs のゴール、ターゲット、インデクスに対して、地域の SDGs 取組評価には乖離があり、橋渡しをする必要があることが明らかになった。
- 連携した研究機関の情報から基礎自治体の統計値をもとにした SDGs 評価データベースを 入手し、岐阜市、珠洲市、豊田市について 15 の指標に基づく統計レーダーチャートを作 成した。ただしこれらの評価指標は必ずしもすべての SDGs 状況を説明するものではなく、 また基礎自治体レベルの評価にとどまり、個々の活動の評価とどのように関連づけるかが 課題となる。

#### 【参考) 2020-2021 年度に実施した PS 基盤強化事業による会合】

#### 2022年3月 森里川海情報交換会(1)(2)

【題材】白山の自然資源のワイズユース

【場所】石川県白山市

開催協力:白山市(ジオパーク協議会、 BR協議会)

登壇:北陸財務局、筑波大准教、 白山保護官事務所、地元 NPO 等 参加:協力締結団体(企業、NPO等)

#### 2022年2月 基盤強化 情報交換会 b

【題材】ソーシャルビジネス (会合)

【場所】福井県小浜市

開催協力:小浜市、小浜商工会議所 登壇:福井財務事務所、日本政策金融

公庫武生支店、地元 NPO 参加:市内の企業、NPO等

#### 2020 基盤強化 情報交換会 /WS

【題材】地域経済循環、インフラ整備効果

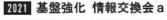
【方法】オンライン

【関係】PF越前、市、地元企業·金融機関、 北陸財務局等

- □ ···PS 基盤強化会合
- ■■ …関係構築主体 (■: オープン/■: クローズド)
- ★ …これまでに連携・協力した財務局・財務事務所

【PF】…PF 事業採択団体の活動エリアあり

- ○…協働コーディネーターとの連携取組を実施
- ···2021 年 12 月時点で PF 事業への応募の動き



【題材】新視点のローカル SDGs(フォーラム) 【場所】石川県七尾市

開催協力:七尾商工会議所

登壇:北陸財務局、谷中氏、GEOC 参加:ななお SDGs スイッチ構成団体 の産官学金、市民(市民大学受講生)

#### 2021 年6月 基盤強化 情報交換会 d

【題材】ローカール SDGs(会合) 【場所 / 方法】長野県飯山市、オンライン

開催協力:飯山商工会議所 登壇:長野財務事務所、いいやま学び の里コミュニティカレッジ、里山ウェルネ ス研究会(同時解決採択団体)

#### 2020 基盤強化 情報交換会/WS

【題材】地域ビジネス創発

【場所】岐阜県郡上市、及びオンライン

【関係】PF郡上、市、地元企業・金融機関、

東海財務局等

#### 2022年1月 基盤強化 情報交換会 c

【題材】 Jクレジット (勉強会) 【場所】岐阜県郡上市

登壇:中部経済産業局

参加:郡上市、DMO、PF郡上、

岐阜財務事務所等



関わる情報共有

【方法】 オンライン

進協議会、三重県等

【関係】伊勢志摩国立公園エコツーリズム推

#### ②今後の展開

● 基礎自治体の統計値をもとにした SDGs 評価データベースでは、指標について評価の意味を SDGs に対して説明するストーリー「SDGs 指標物語」が試作されている。この考え方を活用し、個々の地域の SDGs 活動評価を SDGs 体系への関連付けを行うことが考えられる。そこで「活動見える化プログラム」の分析結果を基に例として抽出した指標について「SDGs 指標物語」作成し、基礎自治体で試作された内容との比較や関連付けを検討することを試みることが考えられる。

# ウ ESD 業務

# (ア) 交流機会提供(学び合いプロジェクト)について

#### ①現状・課題の整理

- 地方センターが独自にテーマを決めて特色ある活動を行う学び合いプロジェクトでは、当センターはテーマを「ローカル SDGs のための ESD の社会実装~SDGs 社会教育を考える」とした。この中で、社会の ESD 推進を検討するため「SDGs 社会教育研究」ワーキンググループを立ち上げ、専門家の議論とともに、3回の研究会、2回のオンラインセミナー、1回の実践セミナーを通じ、ESD実践とともに SDGs 社会教育の枠組みを検討した。また議論の内容を「現場から学ぶ!SDGs 人材育成ワークブック」プロトタイプ版の案としてとりまとめた。
- ESD 実践では 2 回のオンラインセミナーの ESD 理念や事例紹介について参加者が地域の見直しをきっかけとなったり、実践セミナーでは参加者自身の活動の動機付け向上につながるなど具体的な成果事例が見られた。
- ただし取扱いテーマが社会教育という広範な対象であるため、ワークブックのプロトタイプは必ずしも具体的なヒントまで焦点化できているとは言えず、使いやすいものにバージョンアップすることが課題となる。

#### ②今後の展開

● 今年度、他の地方センターとの交流を通じて、気候変動教育が重要なテーマであることが 議論されている。そこで SDGs 社会教育の対象として「気候変動教育」をテーマ候補とし、 WG 専門家を交えて議論するとともに、セミナー等の開催を実践することで具体的な事例 を集積することが考えられる。それらの実績を基にワークブックに具体性を持たせヒント 集として活用できるようにバージョンアップすることが必要となる。

#### (イ) ESD ダイアログについて

#### ①現状・課題の整理

- 第5期まで実施してきたユネスコエコパークからユネスコジオパークにフィールドを変更 し立山黒部ジオパークで ESD ダイアログを実施した。これにより中部地方のジオパークの 関係者や関係教育機関・教育者の交流が進み新たなネットワークが構築された。
- 中部地方のジオパークのネットワーク交流を進めるとともに、エコパークや自然公園とも 連携しつつ ESD 事例や知見の交流を進め、自然資産を ESD の重要なパーツとして活用する 枠組みを充実発展させることが課題となる。

#### ②今後の展開

- 中部地方のジオパーク交流をエコパークや自然公園を含めて推進するため、他のジオパークをフィールドとした ESD ダイアログを開催することを検討する。
- また中部地方以外のエコパークやジオパークとの ESD ダイアログでの交流や、それを通じ

た自然資産の ESD における意義の発信を検討するなどにより、全体の枠組みを充実させることが考えられる。

● 特に今後、ジオパークなどに登録を目指している地域は ESD に関心があると考えられこう したニーズの発掘を検討することも考えられる。

# (ウ) SDGs フォーラム (学生サミット) について

#### ①現状・課題の整理

- SDGs 活動を行っている学生が社会で将来活躍することを踏まえ、基礎自治体の取組を認識してもらうために SDGs 未来都市の取組発表を組み込んだ。岐阜市と岐阜大のサークルがその後連携を模索するなどの成果も見られたが、学生側と自治体側の優先順位の違いも見られ、議論をよりよく進めることができるようにすることが課題である。
- 学生グループの取組発表は参加学生に大きな刺激となり、ESD 実践の成果は大きかったと考えられる。ただ、オンライン形式であったこともあり、参加者相互の交流の枠組みが十分とは言えなかった。
- また YouTube 視聴の一般参加者は必ずしも多くはなく、個々の取組事例やディスカッションの成果を発信し他の一般の若者と共有することが課題となる。
- 参加学生グループは8団体となり、参加者は拡大した。ただし開催現場としてはボリュームとして限界に近く、より多くのユースへの参加を求めるには工夫が必要である。

#### ②今後の展開

- 参加方法については広域の中部地方全体から遠隔地を含めてのアクセスを考えると今後も オンラインをベースにイベント設計をするのが現実的である。ただリアリティ感を考えて ハブの参加者の増加やサテライトの設置などで臨場感を出すことが考えられる。
- 参加学生相互の交流を促すために、許可を得てメールアドレスを共有し、ウェブ上での振り返りを行う掲示板の設置等も考えられる。
- ディスカッションは ESD/EPO 運営委員にファシリテーターをお願いしたが、より充実させるために、事前に方法論を検討する場を設けることも考えられる。

#### (エ) その他の ESD 支援や関連の取組について

#### ①現状・課題の整理

- 1) 全国センターをハブとし地方センター中核を構成している ESD 活動推進ネットワーク では、ESD 推進のための戦略的方針の検討が進められている。当センターもそれに対応していくことが課題となる。
- 2) 行政、企業、教育機関などからの SDGs の取組普及についての相談が増加しており、人材紹介、講師派遣、企画提案などを実施している。今後効率化のためある程度パッケージ化やプログラム化を進めることが必要と考えられる。

#### ②今後の展開

- 1)検討されているESD推進のための戦略的方針「ESD推進ネットワーク成果と課題及び今後の取り組みの方向性(提言)骨子案」ではESD推進を様々な分野で位置づけるとともに、優先重要テーマとして「気候変動教育」が取り上げられ、地球温暖化防止活動推進センター(温セと略)ネットワークとの連携が提案されている。請負団体が温セに指定されている利点を活かすと共に作成中のワークブックに事例を反映させることが考えられる。
- 2) ESD・SDGs 取組を普及させるために、現在公開されている SDGs チェックリストをはじめとするツール類を充実し、他の公開パッケージと連携させていくとともに、ワークブックの体系に位置づけ活用しやすくすることが考えられる。また事例を動画化し公開することも検討の余地がある。

# エ イベント参加者アンケート結果より

- EPO業務、ESD業務の全てのイベントにおいて参加者アンケートを実施している。
- オンライン開催、ハイブリッド開催によるイベントでは、オンライン参加者のアンケート 回答数が少なく、集計結果を参考値として整理を行った。
- 特に YouTube での視聴による参加者はアンケートの回収が難しく、工夫が必要と考えらえる。
- 回答を得られた参加者アンケートの集計結果をみると、全体的にどのイベントに対する評価も高く、役立つ情報・事例があったか否かの設問でも「あった」の回答が比較的多い。

		●今回	]の{	生事に				(5段階評価	<b>i</b> )		
		5/5段階		4/5	段階	3/5段階		2/5段階	1/5段階	無回答	
EPO 業務	211120越前フォーラム (n=11)		6		3		2	0	0	0	
	220119共生圏セミナー (n=9)		1		5		3	0	0	0	
	210823学び合い① (n=16)		7		7		1	1	0	0	
	210916学び合い② (n=12)		6		2		2	1	1	0	
ESD 業務	211030実践セミナー (n=25)		15		9		1	0	0	0	
	211113ESDダイアログ (n=18)		13		2		1	0	0	2	
	220219SDGs学生サミット (n=1)		0		1		0	0	0	0	
基盤強			4		2		0	0	0	0	
化業務	220223ななお会合 (n=8)		6		1		1	0	0	0	
EPO業務·計(n=20)			7		8		5	0	0	0	
ESD業務·計(n=72)			41		21		5	2	1	2	
基盤強化業務・計(n=14)			10		3		1	0	0	0	
全体(n=	106)		58		32		11	2	1	2	

			あなたの活動 などがありま		役立つ情
		あった	なかった	どちらともい えない	無回答
EPO	211120越前フォ <del>ーラム</del> (n=11)	8	0	3	0
業務	220119共生圏セミナー (n=9)	8	0	1	0
	210823学び合い① (n=16)	11	1	4	0
	210916学び合い② (n=12)	9	0	3	0
LOD	211030実践セミナー (n=25)	22	0	3	0
	211113ESDダイアログ (n=18)	15	0	1	2
	220219SDGs学生サミット (n=1)	1	0	0	0
基盤強	210626飯山ミ <del>ー</del> ティング (n=6)	5	1	0	0
	220223ななお会合 (n=8)	8	0	0	0
EPO業務・計(n=20)		16	0	4	0
ESD業務·計(n=72)		58	1	11	2
基盤強化業務·計(n=14)		13	1	0	0
全体(n=	106)	87	2	15	2

【具体的に	役立つ情報・事例の内容とは】
	どじょうれすとらんに参加したいと思った
	義務で保全するのではなく、保全活動者もその協力者(観光客)も楽しく、お金をおとしてもらえるような仕組
	づくりが大事なのではと思いました。
211120 越前	交付金だけに頼らない自立した活動を考えて行かなくてはならないとの思いを深めました。
フォーラム	自分の山を少しずつ整備しようと思いました。
	取り組み事例
	発表の中での里山の荒発表!!
	遊び7分で収益をあげて自律した組織づくり、補助金にたよらない
	EPO 中部様との共同事業を検討してみたいと思いました。
220119 共生	SDGs を計画に反映していくにあたっての考え方
圏セミナー	温対法実行計画の見直しにあたっての参考になった。
	取り組みの評価の見える化の方法
	地域課題の把握と解決方法についての考え方
	SDGsのロゴマークのスパイラルアップの図。ストンと意味が落ちました。 SDGs を進めていくにあたって、リーダーの考え方が変わりました。つなぎ役というか周りの人の話をよく聴き
	SDGs を進めていくにあたって、リーダーの考え方が変わりました。 フなさ伎というが周りの人の話をよく聴き 皆さんから内発の力を引き出していくことができる人だと感じました。
	学校と地域が一緒になって取り組んでいる事例
	私は行政の職員です。行政からの環境教育や普及啓発はどうしても押しつけのようになりがちですが、内発
	的動機づけ3要素の受容性、また、子供たちの知る権利、言う権利、決める権利というエッセンスは今後の
	施策を考える上でも心に留めたいと、非常に参考になりました。
0.4.00.00 24.7.5	また、パネルディスカッションで議論されていた「場を作るキーパーソンとそれを支える組織」という関係性
210823 学び	は、正に昨今重要視されている民間と行政との協働であると再認識し、地域の力の大切さを実感しました。
合い①	自身がこれまで進めてきた取り組みに関して、方向性としては間違っていなかったことが再確認できたと同
	時に、学びによる「人の変容」にもう少しフォーカスできれば(=参加者本人に変容に自覚してもらうこと)がで
	きればよかったと反省した。今後、実践していこうと思う。
	水上さんの「まち作りの取り組み」
	水上先生の論理的な裏付けに基づいた地域活動。進化していく様子に刺激を受けました。
	大関地区での取り組みと、子どもたちの関わり方
	大関地区の取り組み福井県坂井市の取り組み
	<ul><li>★「発信する」という取組みが、大きな成果を生み出すことに繋がると改めて感じた。</li></ul>
	・「環境>社会>経済」は改めてハッとさせられた。
	SDGs 活動 3 つのポイントについて理解が深まりました
	なぜローカル SDGs かということや、富山の例
	各地域の動きが見えて大きな刺激になりました
210916 学び	共生、担い手、グローバル⇔ローカル
合い②	古澤さん
	古澤さん 流域圏という考え方がとても参考になりました。
	都道府県・市町村区切りをすると地域特性が異なり共通テーマ等の見い出しに大変苦労していましたが、地
	形に沿ったエリア設定をすることで自然とグルーピングができるというヒントをいただきました。
	市町村という行政区域ではなく、河川流域による地域区分が有効ということ
	SDGs のあり方 一つ一つの線で SDGs を捉えるということ
	SDGs はひとつひとつでなない それぞれのつながりを考えて目標を達成する。そうそれぞれのたちばでどう
	つながって解決するか SDGsは個人、組織、行政、自治体、企業、学校、NPOなどみんなが関わりあっていかねば達成が困難であ
	SDGSは個人、組織、行政、自治体、企業、学校、NPOなどみんなが関わりのつていかねは達成が困難での ることを再認識しました。
	SDGs は線形的問題解決ではなく、統合的問題解決が重要であるという情報
	SNSで呼びかける
211030 実践	グループワークでの考え方、他グループ含め
セミナー	ごみをポイすてしない
	どんなごみが落ちているか
	河川にゴミが集まる原因を理解し、原因がそこに住む地域でなかったとしても 取り組むべき課題であり、そ
	の解決方法を一緒に考えていく必要があること。を参加していた若い世代が理解していた点が素晴らしかっ
	た。そこまで導くためのインプットがとてもよかったです。
	課題が SDGs の何番とつながるか色んな考えだあり可能性があると思った
	海洋プラゴミの現実、実態、等

個人の協働へ、組織自治会・企業が参加する 午前しか見れませんでしたが、ハングル文字とか無く国内ゴミだと言う事に、驚きとショックを覚えました。私 の地域でもイベントにてゴミの持ち帰りを呼びかけてます。と言う実行委員、会場からはゴミを持って出ても、 ゴミを持って満員電車に乗れ無いと、その辺に置いて帰る。意識改革が最大の問題 佐藤先生の話 地元がどのような現象にあるか分かることができたこと 多くの人の意見や考えを知れたこと 幅広い知識や考えを頂いた 様々なデータを基に私たちが知らなかった現実を知ることができた

流れつくゴミは県内からのものがほとんど

六渡寺海岸での取り組み アジェンダ作り SDGs のしくみ

六渡寺自治会の役割を知った

ジオツーリズムに参加したいと思った

ジオパークは理科や道徳、特活、総合的な学習の中で、よてもよい題材教材となると思っていましたが、本日参加をして社会科でも活用できるのではないかと感じました。社会科では自然環境を社会生活や文化の形成、観光等に生かしていることを学ぶ単元があるのでジオパークがとてもよい教材になると思います。

ジオパークを学校教育に生かす手法や例をたくさん聞かせていただき自分もどのようにしていけばよいか参考になった。SDGs を進めるには教育(幼、小、中、高)が大切、ESD の必要性を改めて感じた。

すべてとの報告も参考となるものがたくさんあった

それぞれの発表の中で学べる点は多々ありましたが、特に南アルプスジオパークさんのガイドに関する活動 は参考になりました。

各地の特色を生かして、教育に生かしていることがわかった。本市でも伝えていきたい。

#### 211113ESD

学校との連携の具体的内容が多く示されたこと。

#### ダイアログ

#### 学校の取り組み体制

具体的な事例を基に発表いただいた、総合的な学習で採用されているのは知っていたが、行政側の協力がかかせないと思った。各市町村に温度差があるのは仕方無いにしても学校のカリキュラムにもっと取り入れてくれるようになれば有難い

高遠高校の取り組み 滑川市の取り組み

高校生に向けての教育実施の優越感

自然との共生・水とのかかわりを順を追って理解することが出来た

地域に根差した子供たちと一緒に地域の宝を考えているところ

白山手取川ジオパーク-ふぐの子ぬか漬-実際にその土地で食べられている食べ物をジオと関連付けて子供たちに伝えることは学びが多く興味が持ちやすくいいなと思いました。

様々な学習のやり方、ターゲットを説明していただきためになった。

他大学学生の様々な取り組み事例自体を知れたことが何よりも参考になりました。

210626 飯山ミーティング

それぞれの多様な取り組みを知ること自体が大変参考になりました。

#### 220219SDGs 学生サミット

地域循環共生圏について、まちづくり協議会での活動事例を紹介します。花いっぱい運動に取り組んんだ時に、地域の高校で生産された花苗を 400 ポット(1 ポット 50 円)購入しました。活動時の参加者には地元の個人商店で買ったお茶を提供しています。グラウンドゴルフ大会で 50 気のコースでホールインワンしたときには、地元の海産物生産会社の生ワカメ 2 袋提供が恒例となっています。広報誌も地元の印刷業者に発注しています。これからも地域の企業に協力できるものはないかと考えながら取り組んでいきたいと考えています。

地域循環共生圏の考え方、国立公園協働型管理運営の実例、飯山林福連携事業の具体的内容、学びの里コミュニティカレッジの理念や活動など、多々参考になりました。

様々なステークホルダーが進化され、多くの視点で大変参考となる話が聞けたこと

里山ウェルネス研究会の活動・取り組みを知ることができてよかった。

ワクワク感を忘れない!みんなと繋がりたいなど閃きたいです。

活動事例の紹介があり、参考になった。

谷中さんの思想哲学とアプローチ手法

谷中先生のお話での SDGs、ワクワクしながら行動する

#### 220223 なな お会合

#### 谷中先生の内容

#### なる 谷中元王の

谷中先生を知れたこと。ローカル SDGs 創設のプロセス

地域経済エコシステムが相互補完関係であること

価値創造型事例とても参考になりました

実際の体制づくりの難しさ、共有いただけて参考になりました

皆さん全国でご活躍されている方でどの事例も参考になりました

● 今後の活動への積極性が喚起されたか否かの設問でも、ほとんどが肯定的な回答となっている。

		●協働/SDGs等に今後も積極的に取り組む必要があると感じさせる内容でしたか								
	もっと協働に 積極的に取り 組んでいきた いと感じられ る内容だった		こ組いと	れまでの取  方を続けて  けば充分だ  思える内容	協働に取り組 む必要性・重 要性をあまり	よくわからない	無回答			
	211120越前フォ <del>ーラ</del> ム (n=11)		8		2	0	1	0		
業務	220119共生圏セミナー (n=9)		6		1	1	1	0		
	210823学び合い① (n=16)		8		2	0	1	0		
	210916学び合い② (n=12)		9		2	0	1	0		
ESD 業務	211030実践セミナー (n=25)		23		1	0	0	1		
	211113ESDダイアログ (n=18)		14		2	0	0	2		
	220219SDGs学生サミット (n=1)		1		0	0	0	0		
基盤強			6		0	0	0	0		
化業務	220223ななお会合 (n=8)		8		0	0	0	0		
EPO業務·計(n=20)			14		3	1	2	0		
ESD業務·計(n=72)			60		7	0	2	3		
基盤強化業務・計(n=14)			14		0	0	0	0		
全体(n=	106)		88		10	1	4	3		

- 今後、参加してみたいセミナー、フォーラム等のイベントのテーマ、内容等についてたず ねた設問では、次の通り、個別具体的な内容を含めた様々な回答がみられた。
- ESD イベントでは、学校現場、教育・人材育成等に関わる取組事例が知りたいといった回答が多く、事例に対するニーズの高さがうかがえる。

# 【今後参加してみたいイベント】

ドジョウ養食に関するもの、おいしい米づくりに関するもの
ローカル SDGs 地域循環共生圏につながる事例(保全-体験-お金をおとしてもらうしくみ)
昔のくらしを聞いたり、体験したり、少し不便な暮しの良さを知ってほしい
米の栽培研究会
ゼロカーボン社会へのロードマップと現状の立ち位置を検討する会
経済的な側面をお話いただける方のお話を伺ってみたい。
SDGsと建築の関係について。SDGsと障がい者の関係について
ローカル SDGs と会社の取り組みについての事例や、世界的・日本全国的に見た SDGs の必要性など
学校現場における SDGsの実践と課題。
環境問題
今回のようなセミナーを月ーで開催してくださるとうれしいです。
市民ボランティアと行政と地域企業と学術専門家との協労(パートナーシップ)の芽吹き、開花、結実、そして
しっかり根を張る。サスティナブル活動事例の紹介
ESD を考えるフォーラム
SDGsの いろんな団体の取組み
企業の人材育成にて、どうSDGsを普及できるか?事例も交えて解説いただきたい。

	<b>全切したマルム まむ羊女子(ウルエ挙) オーツサイ 00.0 ともしのと ニーマルケッチのこり 郷 パリフレン</b>
	参加されていた、清水義彦氏(富山大学)で 学校で SDGs を取り組むことで生徒の進路に影響が出るという お話に興味を持ちました。「探究」の時間を持て余してしまう学校教員の方々に「SDGs を実践することが生徒 の進路選択のステップとなりうる」として、ESD を探究学習に採用していただける可能性を感じたので、関連し
	たお話をきかせていただきたいと感じました。
	社会貢献と SDGs
	障がい者への SDGs 対応について
	地域創生と SDGs
	13. 気候変動 SDGs と人権
	SDGs セミナーに参加したい
	いろいろなテーマでSDGsの取り組みについて知ってみたいです。
	その地域住民とのワーク
	もっと若者が興味をもつイベントを開催してみたい
0.4.000 <del> </del>	海ゴミもひとつだが気候変動のセミナー・フォーラムに参加したい
211030 実践	学校等で話しをしてほしい
セミナー	環境問題など(プラスチックやごみ)
	自然の大切さをかんじられるもの、日常生活と結びつける
	実戦の場を増やしてほしい
	多くの人に SDGs について知ってもらいたい
	年齢層をユースから少しだけ上げたオンライン ESD 政経塾。(私が 40 代でユースに入れないが中部さんの
	政経塾に入りたいためです。)
	ESD が何なのかを解かるセミナーがあれば広がるかなと 教員向けに
	コーディネーターが適切に問題・課題。パネリストを指名されたのは非常に分かり易くなった。限られた時間で
	まとめていただきありがとうございました。
	各地の取組みを聞くことが出来た、今後のガイドの取組の参考にできるよう構築を考えてみたい。ディスカッ
211113ESD	ションは、指導者としての内容があった、まだ難しい問題が多いことがうかがえた
ダイアログ	学生と現場実践の対話の場
	今回の内容をもっと広く募集 参加者増えればよい
	他の学校とジオツアーをくむ
	南アルプスのことを全然知らなかったので、何かしら参加してみたいと思いました。
	本日最後のパネルディスカッションがとても興味深い内容で、もとたくさんお話しを聞きたかったです
220219SDGs 学生サミット	同じような SDGs活動をしている人達を集めた課題共有発展型のセミナーがあれば良いなと思いました。
040000 ÅF.I.	今回のような身近な地域での活動事例の紹介
210626 飯山	飯山ミーティングを重ねて頂きたいです。今回広範な内容で全体像をぼんやり掴めたと思うので、飯山の地
ミーティング	に落としていく、具体的なアイデアについて話し合うフォーラムに期待します。
	SDGs 大学の参加、できればしたい
220223 なな	やってみる!がテーマの伴走型セミナー(複数回でフォローする塾形式)
お会合	三重県の SDGs、SDGs 先導者の育て方
	地域の多様な主体集まる機会となるセミナー
L	

# 【末尾・自由記入欄の感想など】

	1人1人の心かけが大切
011100 ## ***	これからもなかなか続けにくい取り組みがあると思うが、友達をさそい合っての参加者をふやしていきたいと
211120 越前	思う。
フォーラム	経営が重要であることが理解できました。ビジネス最優先でゆくべきだ!
	地域の今後の取組みについて再考していきたい。
	リモート参加としては興味ありますが、意見(チャットや付箋)の操作方法が分からず時間が過ぎてしまったの
	が残念でした。
220119 共生	本日の講演の中では、皆様が SDGs や環境問題を経済的な有利性に繋げるお話をされてみえたと思いま
圏セミナー	す。企業として、必要と考えるから取り組むのか、儲かるから取り組むのか、取り組まなければ置いていかれ
	るから取り組むのか、そのあたりの率直なご意見を伺いたい。また、取り組んだことで業績に変化があったの
	か、取り組まなければどうなっていたと予想されるかといったお話も伺えるとありがたい。
	SDGs の概要から地域の取り組みまで、詳しく教えてくださりありがとうございました。自分自身も SDGs 達成
	に向けた社会の当事者としての意識が改めて生まれました。
210823 学び	SDGsは、大きな学術的課題ではなく、一人一人のできることの集合であると感じました。
合い①	会社の上層部で少しずつ認知されてきました。自分自身は2019年学生時代に活動して、広めてそこで終
	わってしまいました。社会人になった今、自分の身の回りでも SDGs を耳にしますし、広告もたくさんありま
	す。会社の中で広めるとしたらどういう名目で、広めるのが良いのか気になりました。

各県からの参加があって面白かった。もっと、チャットでいろいろな意見を書き込んでくれるとよかった。

学術的な話が速くてついていけなかった。秋田県の実践も、素晴らしいなと感じながらやはり速くてレジュメについて行けない。資料がほしいです。

刺激的で興奮し、自らの啓発の種になりました。

視聴中に佐藤氏の資料をダウンロード出来なかったため、ぜひメールで資料もしくはダウンロード先を添付していただきたいです。

素直にチャットに意見を書かれていた方の声が大事だと思った反面 まだこの段階かとの進んでいない地域 (大人)と学校(生徒、教員)の関わりにショックを覚えた 登壇された水上さんたち大関の取り組みのような事が どんどん行われて行く事を願います。

恥ずかしながら、知らないことがたくさんあって、難しい内容もありました。MDGsのお話も今日初めて知りました。私が学校の社会科で取り組んでいる新聞づくりなどは、ローカルSDGsに該当すると思いました。

非常に参考になりました。とても興味深いお話であっという間に時間が過ぎました。皆さんの発表、パネルディスカッションともに、もう少し長い時間をとっていただいても良かったかなと思います。また、YouTube等で再度視聴することができると大変ありがたいです。

SDGs 未来都市を目指していたころから、セミナーに参加しております。サボテンと障がい者、CO2 を活用した農業ビジネスなどをやりたいと考えています。

あっという間に終了でした。これから・・・というところで終わるのがいいのかもしれません、次回につながりますね。ぼーーとしていたところに最後に堺さんから話をふられて汗をかきました、苦笑

始めて参加しましたがかなり高度な内容ですね。

#### 210916 学び 合い②

前回に引き続き、理論的なお話の他、具体的な実践のお話もうかがえました。参考になりました。学校教育での ESD の話題が増えると、教員の参考になると思います。

全セミナーのレジュメまとめなどが Googlef フォームにまとめられていたらなおありがたいなと思いました。 大変よかったです。

当たり前なことを再確認できた気がする。

非常におもしろく聞かせていただき、勉強になりました。「テーマの関連」を強く意識する回となりました。SDGs の追い風の時期だからこそできることが増えており、その機会をつかみ取って上手く活用されている実践例を見せていただきました。真似をさせていただきます。ありがとうございました。

SDGs、そして社会を考えていく重要性を再認識できた

SDGs について学ぶことが多かった。

SDGs への捉え方が非常に勉強になった。会社にいるだけではわからないことだったので参加できて良かったと思う

いろいろ勉強になりました

スタッフ皆様お疲れ様でした。現場と配信のハイフレックスに加えて、海岸から中継ライブとのことで、ご準備等大変だったと思います。一緒にドキドキしながら youtube から拝見させていただきました。お見事でした!すばらしい内容でした ありがとうございました

もっと多くの人に知ってもらいたい内容でした。ありがとうございました

海洋ごみの問題は、海岸沿いの人々より、内陸の人にこそ知ってほしい問題だと思いました。

開催ありがとうございました。

気軽に、失敗などを気にせずに話せる。空気づくりが大切。お互いを尊重する。

漁業が有名な射水市の海の現状を知れてよかったです。貴重な体験を多くの人にも受けてもらいたい。

高校生と何年ぶりに話したか?いいしげきになる

今日、実際に参加してみて海岸のゴミの多さにおどろいた。それでも綺麗な方だと言っていたので、もっと真 剣にこの問題に取り込まなければいけないと思った。

#### 211030 実践 セミナー

今日で初めて知ったことで気づいたことをこの会を通して自分でできることは何かと考えさせられました。

今日は海岸でゴミ拾いなどはできませんでしたが、ズームの中継で実際にしているような臨場感があり、現地にいるような気分になれました。ずっと撮影してくださってありがとうございました。午後の部も、参加されてる方たちの意見を見たり聞いたりできて、一緒に問題解決に取り組んでいるような気がして、とてもよかったです。

今日は別の用があり午後が見れなかった、帰宅後に再生出来ず残念だった

自分のかよっている高校の近くにある海岸が県内で一番ゴミが流れつくところだということを知っておどろきました。たくさんのことを知れてよかったです。

実際にこのようようなことをしてみて、ごみは環境にとても悪いことがわかった。

進行がグダグダだった

大学院の先生や環境省の方など普段交流できない方と広く関わることができてよかったです。また進路の相談などにものっていただいて嬉しかったし、SDGs について深く知れて楽しかったです。

大人しかいないグループでしたがとてもフレンドリーに話しかけてくださってとても助かったし、有意義な時間を過ごさせていただき、考えも深まったので感謝したい

地元の環境の話から知識を得ることができてよかった。この学んだことを多くの人に広めていきたいと思う 非常にためになるセミナーでした、ありがとうございます。

話題提供の講演2件は資料もしっかりしていて、お話はよく分かりました。

ESD もよく分からず参加しましたが、とてもよく理解できました。郷土学習が大切であることは感じていました が、ジオを結び付けるとより効果的であることを再確認できました。学校教育のめざすべき姿の変化を感じる 会であった。 ありがとうございました。 ジオパークを教育に活用することで「地域から社会が見える」「地域から地球が見える」効果を高めることがで きると感じました。教科書の中にある「どこかの世界」を学ぶよりも社会や地球のつくりを実感を伴って学ぶこ とができると思います。 211113ESD どれも大変興味深い内容であっただけに、もう少しそれぞれの話を聴く事ができればなお良かった。 ダイアログ -生懸命取り組んでいらっしゃる方の発表に感動、刺激をいただきました 教育現場に参入するのはとてもむずかしいと感じます。 長時間だがメリハリのある進行でよかった 富山のおいては環境教育を普及しやすい地域。SDGs に積極的でもあるため、実際に当方でも各地からの教 育旅行(高校生)の受入が活発となっている 様々な活動を行っている中で、やはり広告(アピール)力が課題に挙げられてると思いました。自分も参加し てみたい、もっと知りたいと思える活動がたくさんありました。こちら側の発信そして人々のアンテナ共に活発 になるよう学生として努めていきたいです。 220219SDGs 大学関係なくコラボできるようになると、より発展的なものが生まれると感じました。 学生サミット オンラインで運営する事務局の方の対応が素晴らしかったです。 皆様の貴重なお話を伺う機会をいただきましてありがとうございました。 みなさんが共通して話していらした、「あるものに目を向ける」「皆が役割を果たしつつ自分の問題だと理解す る」「自分の人生の中に SDGs の文脈が見えてくること」という言葉が非常に印象的でした。 こうやって共有していくことの大切さを痛感しました。 210626 飯山 大変参考になりました。 ミーティング 大変重要なテーマであり、かつ各省庁や地元の方、学識経験者の話題提供がそろっていたので、地元の方 の参加がもっとたくさんあれば良いのになと思いました。こうした催しに地元の方を巻き込む工夫についても、 またフォーラム等で議論できたらと思います。EPO の皆さまには多少枠外になるかもしれませんが、EPO の コンセプトが広範に影響を及ぼしうるので、ぜひイニシアティブを取っていただきたいです。本日はどうもあり がとうございました。 「地域課題&フレームワーク」ばかりだと似たような結論に帰着するので、「価値創造アイデア&ワクワク感」 で突き抜ける取組に魅力を感じました。その意味でいうと、型にはまった補助金・助成金を活用すると、小さく 縮こまってしまう印象を受けたので、取組成果を後付けで申請(または発見してもらい)し補助する制度があっ ても良いと思います。 SDGs という言葉はよく聞きながらも理解があまりされていなく、周りはそういう人達がいるためこのような機 会があれば参加をすすめていきたいと思います どの講演も非常に興味深かったですが、特に谷中様のプレゼンは具体事例も多くて分かりやすく、惹き付け られる内容でした。 220223 なな 今日の谷中先生のセミナーはドキドキしながら聞かせて頂きました。 お会合 本日は貴重なセミナーを開催していだだきありがとうございます。私は三重県の地方銀行で SDGs を広める ための活動をしておりますが、まだまだ初心者で勉強中の身であります。今後、地域の企業の皆様に本質的 に SDGs を理解し、取り組みし、事業に活かしていただけるような活動をしたいと思っております。知識はまだ まだですが、熱い思いだけはまけません!是非力をお貸しください!特に谷中先生!一度お話しをお聞きし たいです! 私も楽しみながら SDGs ハッスルしていきたいです! 本日は有難うございました。本日入り口でしたがわかりやすくとても勉強になりました。欲望へのブレーキは 楽しみながら実践出来る環境にどんどんなればと感じました。今、仕事で目標をたてなければいけないところ だったので参考にさせていただきます。

# 《参考》回答者の属性の集計結果

		●年齢							
		10代以下	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	不明
EPO	211120越前フォーラム (n=11)	0	1	1	2	1	3	1	2
	220119共生圏セミナー (n=9)	0	2	2	1	1	2	1	0
	210823学び合い① (n=16)	0	2	1	7	2	2	2	0
	210916学び合い② (n=12)	0	2	0	2	4	2	2	0
業務	211030実践セミナー (n=25)	10	2	0	3	7	2	1	0
	211113ESDダイアログ (n=18)	0	2	3	2	2	3	6	0
	220219SDGs学生サミット (n=1)	0	0	1	0	0	0	0	0
基盤強	210626飯山ミーティング (n=6)	0	0	1	3	0	0	2	0
	220223ななお会合 (n=8)	0	0	4	1	2	0	1	0
EPO業務·計(n=20)		0	3	3	3	2	5	2	2
ESD業務·計(n=72)		10	8	5	14	15	9	11	0
基盤強化業務·計(n=14)		0	0	5	4	2	0	3	0
全体(n=	106)	10	11	13	21	19	14	16	2

			所属先									
		NP	O-NGO-	企者	:業•事業 ·	行	政機関	单校∙教育 関係	学生	その	の他	不明
EPO 業務	211120越前フォーラム (n=11)		2		2		2	 0	0		4	1
	220119共生圏セミナー (n=9)		2		1		5	0	0	l	1	0
	210823学び合い① (n=16)		3		5		3	3	0		2	0
	210916学び合い② (n=12)		3		4		1	2	0		2	0
ESD 業務	211030実践セミナー (n=25)		2		7		1	3	8		3	1
	211113ESDダイアログ (n=18)		6		0		4	3	1		4	0
	220219SDGs学生サミット (n=1)		0		0		0	0	0		0	1
基盤強			2		0		1	3	0		0	0
化業務	220223ななお会合 (n=8)		1		3		1	0	0		3	0
EPO業剂	务•計(n=20)		4		3		7	0	0		5	1
ESD業務	务• 計(n=72)		14		16		9	11	9		11	2
基盤強化	化業務・計(n=14)		3		3		2	3	0		3	0
全体(n=	106)		21		22		18	14	9		19	3

		●活動分野	のSDGs								
		1. 貧困をなく そう	2. 飢餓をゼ ロに	3. すべての 人に健康と 福祉を		みん		6. 安全な水 とトイレを世 界中に	7. エネル ギーをみん なに、そして クリーンに	8. 働きが いも経済 成長も	9. 産業と技 術革新の基 礎をつくろう
EPO	211120越前フォーラム (n=11)	0	0		2	1	0	1	2	1	2
業務	220119共生圏セミナー (n=9)	1	1		2	2	1	3	6	1	2
	210823学び合い① (n=16)	4	0		5	9	4	3	3	2	1
	210916学び合い② (n=12)	2	3		3	8	1	3	7	6	4
ESD 業務	211030実践セミナー (n=25)	3	1		4	9	5	2	1	2	2
	211113ESDダイアログ (n=18)	2	1		2	13	4	2	4	4	3
	220219SDGs学生サミット (n=1)	1	0		1	0	0	0	1	0	0
基盤強	210626飯山ミ <del>ーテ</del> ィング (n=6)	1	0		2	2	2	0	3	2	1
化業務	220223ななお会合 (n=8)	1	1		3	3	1	0	0	4	2
EPO業務	务•計(n=20)	1	1		4	3	1	4	8	2	4
ESD業務・計(n=72)		12	5	1	5	39	14	10	16	14	10
基盤強化業務·計(n=14)		2	1		5	5	3	0	3	6	3
全体(n=106)		15	7	2	4	47	18	14	27	22	17

			れるまち	つくる責 , つかう責	動(		海の豊きを守ろう		16. 平和を 公正をす べての人 に	17. パート ナーシップで 目標を達成 しよう	無回答
EPO	211120越前フォーラム (n=11)	0	4	1		1	2	3	0	1	7
業務	220119共生圏セミナー (n=9)	0	6	4		6	5	6	0	4	1
	210823学び合い① (n=16)	2	9	4		5	6	6	3	7	1
	210916学び合い② (n=12)	3	8	6		7	3	5	1	8	0
ESD 業務	211030実践セミナー (n=25)	1	4	6		4	7	6	3	9	6
	211113ESDダイアログ (n=18)	2	8	5		6	10	12	3	9	3
	220219SDGs学生サミット (n=1)	1	1	1		0	0	0	1	0	0
基盤強		1	4	3		3	1	2	2	4	0
化業務	220223ななお会合 (n=8)	0	4	2		2	4	4	1	5	1
EPO業利	务•計(n=20)	0	10	5		7	7	9	0	5	8
ESD業務	务・計(n=72)	9	30	22		22	26	29	11	33	10
基盤強化	化業務・計(n=14)	1	8	5		5	5	6	3	9	1
全体(n=	:106)	10	48	32		34	38	44	14	47	19

# 令和3 (2021) 年度 中部環境パートナーシップオフィス運営業務 年間報告書

2022年3月

発行:環境省中部地方環境事務所

〒460-0001 名古屋市中区三の丸 2-5-2 TEL: 052-955-2134/FAX: 052-951-8889

URL: http://chubu.env.go.jp

作成:中部環境パートナーシップオフィス

(運営受託:一般社団法人環境創造研究センター) 〒460-0003 名古屋市中区錦 2-4-3 錦パークビル 4 階

TEL: 052-218-8605/FAX: 052-218-8606

URL: http://www.epo-chubu.jp

この印刷物は、グリーン購入法に基づく基本方針における「印刷」に係る判断の基準に従い、印刷用の紙へのリサイクルに適した材料 [Aランク] のみを用いて作製しています。